

基本計画書

基 本 計 画									
事 項		記 入 欄						備 考	
計 画 の 区 分		学部・学科の設置							
フ リ ガ ナ 設 置 者		カッコウホクジン タマカワカクエン 学校法人 玉川学園							
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		タマカワダイク 玉川大学 (Tamagawa University)							
大 学 本 部 の 位 置		東京都町田市玉川学園六丁目1番1号							
大 学 の 目 的		本大学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、更にキリストの教えに従い、玉川学園建学の理想にかんがみ、「全人教育」をもって教育精神とし、広い教養と深い専門の学術の理論及び応用を教授する。宗教、芸術教育を重んじ魂を醇化し、浄らかな情操を養成し、厳粛な道義心を涵養することをもちて人格を陶冶し、併せて人類の幸福と世界の文化の進展に寄与するものとする。							
新設学部等の目的		音楽学科は、音楽の体系的理解に基づき、現代社会における「上演芸術」及び音楽教育の役割を学修し、音楽における総合的実践力、コミュニケーション力及びマネジメント力を有して社会に貢献できる人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所 在 地	
	芸術学部 [College of Arts]	年	人	年次 人	人	学士 (芸術学) 【Bachelor of Arts】	年 月 第 年次	東京都町田市 玉川学園六丁目1番1号	
	音楽学科 [Department of Music]	4	80	-	320		令和3年4月 第1年次		
	計	4	80		320				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)		○学部・学科の設置 芸術学部 アート・デザイン学科 (100)(令和2年 5月届出) 演劇・舞踊学科 (90)(令和2年 5月届出) ○学生募集の停止 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科(廃止) (△130) メディア・デザイン学科(廃止) (△ 90) 芸術教育学科(廃止) (△ 50) ※ 令和3年4月学生募集停止 ○入学定員の変更 農学部 生産農学科 [定員減] (△ 10)(令和3年4月) 教育学部 教育学科 [定員減] (△ 20)(令和3年4月) 観光学部 観光学科 [定員増] (30)(令和3年4月)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	芸術学部音楽学科	145 科目	101 科目	51 科目	297 科目	124 単位			

教員組織の概要	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼 任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人	人	
新 設 分	芸術学部 音楽学科		5	2	0	0	7	1	186	令和2年5月届出
			(5)	(2)	(0)	(0)	(7)	(1)	(139)	
		アート・デザイン学科	7	2	0	1	10	1	157	
	演劇・舞踊学科		(7)	(2)	(0)	(1)	(10)	(1)	(99)	
			4	2	0	1	7	3	129	
			(4)	(2)	(0)	(1)	(7)	(3)	(92)	令和2年5月届出
	計		16	6	0	2	24	5	—	
			(16)	(6)	(0)	(2)	(24)	(5)	(—)	
既 設 分	文学部 国語教育学科		5	3	0	0	8	0	132	
			(5)	(3)	(0)	(1)	(9)	(0)	(132)	
	英語教育学科		9	2	0	0	11	0	136	
			(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	(0)	(138)	
	農学部 生産農学科		9	9	0	0	18	5	136	
			(11)	(9)	(0)	(0)	(20)	(5)	(137)	
	環境農学科		4	4	0	1	9	2	110	
			(4)	(4)	(0)	(1)	(9)	(2)	(111)	
	先端食農学科		6	2	0	1	9	2	107	
			(7)	(0)	(0)	(2)	(9)	(2)	(107)	
	工学部 情報通信工学科		4	4	0	0	8	1	133	
			(5)	(2)	(0)	(1)	(8)	(1)	(137)	
	ソフトウェアサイエンス学科		5	3	0	0	8	1	132	
			(5)	(2)	(0)	(1)	(8)	(1)	(134)	
	マネジメントサイエンス学科		5	2	0	1	8	0	138	
			(5)	(2)	(0)	(1)	(8)	(0)	(139)	
	エンジニアリングデザイン学科		5	3	0	0	8	2	134	
			(5)	(3)	(0)	(0)	(8)	(2)	(135)	
	経営学部 国際経営学科		7	7	0	0	14	0	121	
			(9)	(4)	(0)	(1)	(14)	(0)	(124)	
	教育学部 教育学科		32	11	0	1	44	0	191	
		教育学科(通信教育課程)	(32)	(11)	(0)	(1)	(44)	(0)	(209)	
	乳幼児発達学科		8	2	0	0	10	0	128	
			(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)	(131)	
	リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科		12	6	0	4	22	0	127	
			(14)	(6)	(0)	(4)	(24)	(0)	(130)	
	観光学部 観光学科		7	7	0	0	14	0	105	
			(7)	(7)	(0)	(0)	(14)	(0)	(106)	
	教育博物館		2	1	1	0	4	0	0	
			(2)	(1)	(1)	(0)	(4)	(0)	(0)	
	学術研究所		4	1	1	4	10	0	2	
			(5)	(0)	(1)	(5)	(11)	(1)	(2)	
	脳科学研究所		5	2	0	0	7	0	0	
			(5)	(2)	(0)	(0)	(7)	(0)	(0)	
	量子情報科学研究所		4	1	0	0	5	0	0	
			(4)	(1)	(0)	(0)	(5)	(0)	(0)	
	教師教育リサーチセンター		0	0	0	0	0	0	24	
			(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(35)	
	ELFセンター		0	6	0	2	8	0	39	
			(0)	(6)	(0)	(3)	(9)	(0)	(42)	
	TAPセンター		0	2	0	0	2	0	0	
			(0)	(2)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)	
	計		133	78	2	14	227	13	—	
			(144)	(69)	(2)	(21)	(236)	(14)	(—)	
	合 計		149	84	2	16	251	18	—	
			(160)	(75)	(2)	(23)	(260)	(19)	(—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計					
	事 務 職 員		230 (233)		290 (290)		520 (523)					
	技 術 職 員		14 (14)		1 (1)		15 (15)					
	図 書 館 専 門 職 員		10 (10)		3 (3)		13 (13)					
	そ の 他 の 職 員		4 (4)		0 (0)		4 (4)					
	計		258 (261)		294 (294)		552 (555)					
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計	<共有する他の学校の名称・収容定員・校地面積基準> 玉川学園高等部 795人 13,020㎡ 玉川学園中学部 705人 12,390㎡ 玉川学園小学部 840人 10,980㎡ 玉川学園幼稚園 140人 1,000㎡		
	校 舎 敷 地		0.00 ㎡		345,867.43 ㎡		0.00 ㎡		345,867.43 ㎡			
	運 動 場 用 地		0.00 ㎡		58,264.56 ㎡		0.00 ㎡		58,264.56 ㎡			
	小 計		0.00 ㎡		404,131.99 ㎡		0.00 ㎡		404,131.99 ㎡			
	そ の 他		0.00 ㎡		204,923.58 ㎡		0.00 ㎡		204,923.58 ㎡			
	合 計		0.00 ㎡		609,055.57 ㎡		0.00 ㎡		609,055.57 ㎡			
校 舎			専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計			
			108,048.53 ㎡ (108,048.53 ㎡)		0.00 ㎡ (0.00 ㎡)		0.00 ㎡ (0.00 ㎡)		108,048.53 ㎡ (108,048.53 ㎡)			
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設	大学全体 全学生にノートPCの所有・持参を義務付けているため、専用の教室は設置していない	
		78 室		57 室		216 室		0 室 (補助職員 0 人)		0 室 (補助職員 0 人)		
専 任 教 員 研 究 室				新設学部等の名称				室 数				
				芸術学部 音楽学科				7 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部・学科単位での特定不能なため、大学全体の数の数
	音楽学科		1,007,000 [310,000] (977,000 [305,000])		9,020 [2,360] (8,920 [2,300])		9,350 [9,300] (9,350 [9,300])		32,200 (32,000)	6,424 (6,424)	8 (8)	
	計		1,007,000 [310,000] (977,000 [305,000])		9,020 [2,360] (8,920 [2,300])		9,350 [9,300] (9,350 [9,300])		32,200 (32,000)	6,424 (6,424)	8 (8)	
図 書 館			面積		閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学全体	
			9,022.42 ㎡		1,040 席			1,301,220 冊				
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
			4,226.96 ㎡		屋内プール 弓道場 洋弓場 ゴルフ場	東京都町田市 玉川学園 六丁目 1 番 1 号	昭和47年8月 昭和41年9月 昭和59年3月 昭和38年7月	2,766.30 ㎡ 1,314.00 ㎡ 2,053.00 ㎡ 4,862.00 ㎡				
経 費 の 見 積 り 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	共同研究費、図書、設備購入費は芸術学部全体の予算を記載。図書は他に大学として毎年度17,000千円を計画		
		教員 1 人当り研究費等		400 千円	400 千円	400 千円	400 千円	— 千円	— 千円			
		共 同 研 究 費 等		2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	— 千円	— 千円			
		図 書 購 入 費	1,493 千円	1,500 千円	1,500 千円	1,500 千円	1,500 千円	— 千円	— 千円			
		設 備 購 入 費	82,297 千円	3,000 千円	3,000 千円	3,000 千円	3,000 千円	— 千円	— 千円			
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次					
		1,986 千円	1,746 千円	1,756 千円	1,766 千円	— 千円	— 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等								

	大 学 の 名 称	玉 川 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員 年次 人	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
既 設 大 学 等 の 状 況	文学部						1.08			
	国語教育学科	4	60	-	240	学士（文学）	1.12	平成29年度		※平成29年度より 学生募集停止（人 間学科）
	英語教育学科	4	80	-	320	学士（文学）	1.05	平成27年度		
	人間学科	4	-	-	-	学士（文学）	-	平成14年度		
	農学部						0.96			
	生産農学科	4	165	-	660	学士（農学）	0.97	平成29年度		※平成29年度より 学生募集停止（生 物資源学科）
	環境農学科	4	70	-	280	学士（農学）	0.86	平成29年度		
	先端食農学科	4	70	-	280	学士（農学）	1.04	平成29年度		※平成29年度より 学生募集停止（生 物環境システム学科）
	生物資源学科	4	-	-	-	学士（農学）	-	昭和24年度		
	生物環境システム学科	4	-	-	-	学士（農学）	-	平成17年度		※平成29年度より 学生募集停止（生 命化学科）
	生命化学科	4	-	-	-	学士（農学）	-	平成17年度		
	工学部						1.10			
	情報通信工学科	4	60	-	240	学士（工学）	1.05	平成29年度		※平成29年度より 学生募集停止（機 械情報システム学科）
	ソフトウェアサイエンス学科	4	60	-	240	学士（工学）	1.30	平成20年度		
	マネジメントサイエンス学科	4	60	-	240	学士（工学）	1.24	平成16年度		
	エンジニアリングデザイン学科	4	60	-	240	学士（工学）	0.85	平成27年度		
	機械情報システム学科	4	-	-	-	学士（工学）	-	平成20年度		
	経営学部						1.18			
	国際経営学科	4	130	-	520	学士（経営学）	1.18	平成13年度		
	教育学部						1.14			
	教育学科	4	240	-	960	学士（教育学）	1.15	平成14年度		
	乳幼児発達学科	4	75	-	300	学士（教育学）	1.14	平成15年度		
	芸術学部						1.06			
	パフォーマンス・アート学科	4	130	-	520	学士（芸術学）	1.03	平成14年度		
	メディア・デザイン学科	4	90	-	360	学士（芸術学）	1.19	平成26年度		
	芸術教育学科	4	50	-	200	学士（芸術学）	0.96	平成26年度		
	リハビリテーション学部						1.17			
	リハビリテーション学科	4	160	-	640	学士（リハビリテーション）	1.17	平成19年度		
	観光学部						1.28			
	観光学科	4	90	-	360	学士（観光学）	1.28	平成25年度		
	通信教育部						0.04			
	教育学部教育学科	4	1,500	-	6,000	学士（教育学）	0.04	平成14年度		

既設大学等の状況	大学院								
	文学研究科								
	人間学専攻 (修士課程)	2	5	-	10	修士(文学)	0.10	平成22年度	
	英語教育専攻 (修士課程)	2	7	-	14	修士(文学)	0.42	平成22年度	
	農学研究科								
	資源生物学専攻 (修士課程)	2	12	-	24	修士(農学)	0.95	昭和52年度	
	資源生物学専攻 (博士課程後期)	3	4	-	12	博士(農学)	0.16	昭和54年度	
	工学研究科								
	機械工学専攻 (修士課程)	2	16	-	32	修士(工学)	0.18	昭和42年度	
	電子情報工学専攻 (修士課程)	2	16	-	32	修士(工学)	0.34	昭和42年度	
	システム科学専攻 (博士課程後期)	3	3	-	9	博士(工学)	0.44	平成19年度	
	マネジメント研究科								
	マネジメント専攻 (修士課程)	2	7	-	14	修士(マネジメント)	0.49	平成17年度	
	教育学研究科								
	教育学専攻 (修士課程)	2	10	-	20	修士(教育学)	1.05	平成18年度	
	教職専攻 (専門職学位課程)	2	20	-	40	教職修士(専門職)	0.72	平成20年度	
	脳科学研究科								
	心の科学専攻 (修士課程)	2	5	-	10	修士(工学) 修士(学術)	0.10	平成26年度	
	脳科学専攻 (博士課程後期)	3	3	-	9	博士(工学) 博士(学術)	0.55	平成26年度	
東京都町田市 玉川学園 六丁目1番1号									

附属施設の概要	学術研究所	
	①目的	文系、理系の諸領域にわたる専門的・学際的な研究活動を展開し、広く学術・文化の発展に貢献することを目的としている。現在、K-16一貫教育研究センター、ミツバチ科学研究センター、生物機能開発研究センター、菌学応用研究センター、人文科学研究センター、高等教育開発センター、先端知能・ロボット研究センター（AIBot研究センター）の7つの研究センターで構成されている。
	②所在地	東京都町田市玉川学園六丁目1番1号
	③設置年月	昭和54年11月
	④規模等	研究センター棟 建物3018.55㎡（脳科学研究所・量子情報科学研究所と共用） Future Sci Tech Lab 建物1646.45㎡（量子情報科学研究所と共用）
	脳科学研究所	
	①目的	「こころ」のはたらきの基盤となる判断や意思決定と行動、喜怒哀楽の感情や情動、そして知能発達やコミュニケーションについて研究し、その成果を広く世界に発信することを目的としている。基礎脳科学研究センターと応用脳科学研究センターの2つのセンターで構成されている。
	②所在地	東京都町田市玉川学園六丁目1番1号
	③設置年月	平成19年4月
	④規模等	研究センター棟 建物3018.55㎡（学術研究所・量子情報科学研究所と共用） G B I 棟 建物320.82㎡
	量子情報科学研究所	
	①目的	量子情報・量子通信の基礎理論の研究を実施し、さらなる量子力学の原理の発見を目指し、その原理を産業界に役立てることを目的としている。特に、新量子暗号として脚光を浴びている光通信量子信号Y-00の実用化研究を実施している。量子情報数値研究センターと超高速量子通信研究センターの2つのセンターで構成されている。
	②所在地	東京都町田市玉川学園六丁目1番1号
	③設置年月	平成23年3月
	④規模等	研究センター棟 建物3018.55㎡（学術研究所・脳科学研究所と共用） Future Sci Tech Lab 建物1646.45㎡（学術研究所と共用）

（注）

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(芸術学部 音楽学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ユニバーシティ・スタンダード科目群 (全学共通科目群)	玉川教育・FYE科目群	一年次セミナー101	1前	2			○		1	2				
		一年次セミナー102	1後	2			○		1	2				
		玉川の教育	1後	0.3		○			1					※演習
		健康教育	1前	1				○						兼 2 ※講義
		音楽I	1前	0.7				○	1					兼 1
		音楽II	1後	1				○	1					兼 1
		全人教育論	2前・後		2	○								兼 1
		二年次セミナー201	2前		2		○							兼 1
		二年次セミナー202	2後		2		○							兼 1
		三年次セミナー301	3前		2		○							兼 1
		三年次セミナー302	3後		2		○							兼 1
		ピアリーダー	2前・後		2		○							兼 1
		小計(12 科目)	—	7	12	0	—		2	2	0	0	0	兼 7 —
	人文科学科目群	文化人類学	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		民俗学入門	1・2・3・4後		2	○								兼 1
		美術史	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		ことばと文化	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		比較文化論	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		日本文学	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		外国文学	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		歴史(世界)	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		歴史(日本)	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		音楽史	1・2・3・4前・後		2	○			1					
		哲学	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		倫理学	1・2・3・4後		2	○								兼 1
		ロジック	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		科学史	2・3・4後		2	○								兼 1
		宗教学	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		世界の宗教と文化	1・2・3・4後		2	○								兼 1
		演劇史	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		キリスト教学	2・3・4前		2	○								兼 1
		英語学	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		日本語学	1・2・3・4前・後		2	○								兼 1
		日本学入門	1・2・3・4前		2	○								兼 1
		Japanology	3・4前		2	○								兼 1
		Japanese Pop Culture	3・4後		2	○								兼 1
		Modern Japanese History	3・4前		2	○								兼 1
		East Asian History	4前		2	○								兼 1
		Issues in Japanese Studies A	4前		2	○								兼 1
		Issues in Japanese Studies B	4後		2	○								兼 1
		人文科学アカデミックスキルズ(リーディング)	1・2・3・4前・後		1		○							兼 1
		人文科学アカデミックスキルズ(ライティング)	1・2・3・4前・後		1		○							兼 1
		名著講読(人文科学)	2・3・4前・後		1		○							兼 1
		小計(30 科目)	—	0	57	0	—		1	0	0	0	0	兼 24 —

教育課程等の概要

(芸術学部 音楽学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ユニバーシティ・スタンダード科目群（全学共通科目）	社会学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	コミュニケーション論	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	Academic Communication	2・3・4前		2		○								兼 1
	経済学(国際経済を含む。)	1・2・3・4前		2		○								兼 1
	国際関係論	2・3・4前・後		2		○								兼 1
	市民社会と法	1・2・3・4後		2		○								兼 1
	経営学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	マーケティング	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	政治学(国際政治を含む。)	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	心理学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	社会学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	ボランティア概論	1・2・3・4後		2		○								兼 1
	現代社会の教育課題	3・4前・後		2		○								兼 1
	科学技術社会論	2・3・4後		2		○								兼 1
	観光学入門	1・2・3・4前		2		○								兼 1
	社会科学アカデミックスキズ(リーディング)	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1
	社会科学アカデミックスキズ(ライティング)	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1
	名著講読(社会科学)	2・3・4前・後		1			○							兼 1
	小計(18 科目)	—	0	33	0	—			0	0	0	0	0	兼 16
	情報科学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
自然科学科目群	ネットワーク入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	データ処理	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	マルチメディア表現	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	化学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	生物学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	環境科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	数学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	解析学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	代数学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	統計学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	物理学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	実践の物理学	2・3・4前		2		○								兼 1
	科学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	地球科学	2・3・4前・後		2		○								兼 1
	エネルギー科学	2・3・4前		2		○								兼 1
	宇宙科学	2・3・4前・後		2		○								兼 1
	STEM入門(科学と社会)	1・2・3・4後		2		○								兼 1
	人工知能と社会	2・3・4後		2		○								兼 1
	自然科学アカデミックスキズ(リーディング)	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1
	自然科学アカデミックスキズ(ライティング)	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1
	名著講読(自然科学)	2・3・4前・後		1			○							兼 1
	小計(22 科目)	—	0	41	0	—			0	0	0	0	0	兼 14

教育課程等の概要

(芸術学部 音楽学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
ユニバーシティ・スタンダード科目群（全学共通科目）	ミクロ脳科学	1後・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	マクロ脳科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	健康スポーツ理論	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	生涯スポーツ演習	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	環境教育	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	スポーツ史	2・3・4後		2		○								兼 1
	オリンピック文化論	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	栄養学	3・4前		2		○								兼 1
	病理学	3・4後		2		○								兼 1
	マスメディアと社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	現代文化論	2・3・4前		2		○								兼 1
	プレゼンテーションスキル	1・2・3・4後		2		○								兼 1
	Presentation Skills in English	2・3・4後		2		○								兼 1
	複合領域研究 201～299	2・3・4前・後		2		○								兼 2
	情報倫理と社会	1・2・3・4前		2		○								兼 1
	野外教育	2・3・4後		2		○								兼 1
	TAPファシリテーションI	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	TAPファシリテーションII	1・2・3・4後		2		○								兼 1
	環境教育ワークショップI	1・2・3・4後		2			○							兼 1
	環境教育ワークショップII	2・3・4前		2			○							兼 1
	コアオブ・プログラム	2・3・4前・後		2				○						兼 1
	キャリア・マネジメント	3・4前・後		2		○								兼 1
	海外留学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1
	インターンシップA	1・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	インターンシップB	1・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	インターンシップC	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1
	インターンシップD	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1
	国際研究A	1後・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	国際研究B	1後・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	国際研究C	1後・2・3・4前・後		2				○						兼 1
	国際研究D	1後・2・3・4前・後		3				○						兼 1
	国際研究E	1後・2・3・4前・後		4				○						兼 1
	国際研究F	1後・2・3・4前・後		5				○						兼 1
	Japan Studies Overseas A	3・4後		2				○						兼 1
	Japan Studies Overseas B	3・4後		2				○						兼 1
	Japan Studies Overseas C	3・4後		2				○						兼 1
	フィールドワークA	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	フィールドワークB	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	フィールドワークC	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	地域創生プロジェクトA	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1
	地域創生プロジェクトB	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1
	地域創生プロジェクトC	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	地域創生プロジェクトD	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1
	地域創生プロジェクトE	1・2・3・4前・後		3			○							兼 1
	地域創生プロジェクトF	1・2・3・4前・後		3			○							兼 1
	小計（ 45 科目）	—	0	94	0	—			0	0	0	0	0	兼 23

教育課程等の概要

(芸術学部 音楽学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
言語表現科目群	ELF 101	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
	ELF 102	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
	ELF 201	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
	ELF 202	1後・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
	ELF 301	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
	ELF 302	1後・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
	ELF 401	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
	ELF 402	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
	日本語表現 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
	日本語表現 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1	
	フランス語 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
	フランス語 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1	
	ドイツ語 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
	ドイツ語 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1	
	スペイン語 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
	スペイン語 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1	
	中国語 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
	中国語 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1	
	小計(18 科目)		—	0	52	0	—			0	0	0	0	0	兼 10
ユニバーシティ・スタンダード科目群（全学共通科目）	資格関連科目群														
	学校経営と学校図書館	1・2前		2		○								兼 1	
	学校図書館メディアの構成	1・2前		2		○								兼 1	
	学習指導と学校図書館	3・4前		2		○								兼 1	
	読書と豊かな人間性	2・3後		2		○								兼 1	
	情報メディアの活用	1・2前・後		2		○								兼 1	
	生涯学習概論	1・2前		2		○								兼 1	
	図書館概論	1・2前		2		○								兼 1	
	図書館情報技術論	1・2後		2		○								兼 1	
	図書館制度・経営論	1・2前		2		○								兼 1	
	図書館サービス概論	1・2後		2		○								兼 1	
	情報サービス論	1・2後		2		○								兼 1	
	児童サービス論	1・2後		2		○								兼 1	
	情報サービス演習A	3・4前		1			○							兼 1	
	情報サービス演習B	3・4前		1			○							兼 1	
	図書館情報資源概論	1・2後		2		○								兼 1	
	情報資源組織論	2・3前		2		○								兼 1	
	情報資源組織演習A	2・3後		1			○							兼 1	
	情報資源組織演習B	2・3後		1			○							兼 1	
	図書館情報資源特論	1・2前		1		○								兼 1	
	図書・図書館史	1・2前		1		○								兼 1	
	図書館施設論	1・2後		1		○								兼 1	
	生涯学習と生涯教育	1・2後		2		○								兼 1	
	生涯学習支援論A	2・3後		2		○								兼 1	
	生涯学習支援論B	2・3前		2		○								兼 1	
	社会教育経営論A	2・3後		2		○								兼 1	
	社会教育経営論B	2・3前		2		○								兼 1	
	社会教育実習	2・3後		2				○						兼 1	
	社会教育課題研究	2・3前		2		○								兼 1	
	社会体育論	2・3前		2		○								兼 1	
	博物館概論	2・3前		2		○								兼 1	
	博物館経営論	2・3後		2		○								兼 1	
	博物館資料論	2・3後		2		○								兼 1	
	博物館資料保存論	2・3前		2		○								兼 1	
	博物館展示論	2・3前		2		○								兼 1	
	博物館教育論	2・3後		2		○								兼 1	
	博物館情報・メディア論	2・3後		2		○								兼 1	
博物館実習	3・4前・後		3				○						兼 1		
小計(37 科目)		—	0	68	0	—			0	0	0	0	0	兼 19	—

教育課程等の概要

(芸術学部 音楽学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目群	芸術概論	1前	2			○			4	1				兼 2	オムニバス
	音楽理論	1前・後	2			○			1					兼 1	※演習
	ソルフェージュI	1・2前	2				○		1	1				兼 3	
	ソルフェージュII	1・2後		2			○		1	1				兼 3	
	アンサンブルI	1前		2			○		2	2				兼 18	
	アンサンブルII	1後		2			○		2	2				兼 18	
	音楽専門実技I	1前		2				○	2	2				兼 22	
	音楽専門実技II	1後		2				○	2	2				兼 22	
	器楽基礎A	1・2前		2				○	1					兼 18	
	器楽基礎B	1・2後		2				○	1					兼 18	
	声楽基礎A	1・2前		2				○	1	1				兼 6	※講義
	声楽基礎B	1・2後		2				○	1	1				兼 6	※講義
	演技・舞踊入門	1前		2			○							兼 8	オムニバス
	演技・舞踊基礎演習	1後		2			○							兼 8	
	舞台技術基礎演習	1前・後		2			○							兼 5	オムニバス・ 共同(一部)
	上演基礎実習	1後		4				○						兼 15	共同・オムニバス (一部)※講義
	鍵盤楽器基礎	1前		2			○		1	1				兼 3	
	和楽器指導法(管・絃・打)	1前		2			○		1						
	小計(18 科目)	—	6	32	0	—			5	2	0	0	0	兼 55	—
	音楽文化論	2前		2		○			1					兼 1	
	和声学I	2前		2			○							兼 1	※講義
	和声学II	2後		2			○							兼 1	※講義
	アンサンブルIII	2前		2			○		1					兼 16	
	アンサンブルIV	2後		2			○		1					兼 16	
	第九演奏表現A	2後		2			○		2	2				兼 1	共同(一部)
	音楽専門実技III	2前		2				○	2	2				兼 22	
	音楽専門実技IV	2後		2				○	2	2				兼 22	
	器楽基礎C	2・3前		2				○	1					兼 18	
	器楽基礎D	2・3後		2				○	1					兼 18	
	声楽基礎C	2前		2				○	1	1				兼 6	
	声楽基礎D	2後		2				○	1	1				兼 6	
	ミュージカル表現I	2前		4			○		1					兼 6	共同
	ミュージカル表現II	2後		4			○		1					兼 6	共同
	演劇理論	2前・後		2		○								兼 1	
	芸術と社会	2・3前・後		2		○								兼 1	
	音楽科指導法I	2前		2			○		1					兼 1	※講義
	音楽科指導法II	2後		2			○		1					兼 1	※講義
	創作教育法	2後		1			○		1					兼 1	オムニバス ※講義
	器楽教育法I(管・打・合奏)	2後		2			○		1					兼 1	オムニバス・ 共同(一部)
	日本音楽史	2後		2		○			1						
	小計(21 科目)	—	0	45	0	—			5	2	0	0	0	兼 38	—

教育課程等の概要

(芸術学部 音楽学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
300 番 台 科 目	民族音楽概説	3・4前		2		○			1					※演習
	作家理解と作品講読	3前		2		○			1					
	歌唱教育法(合唱)	3前		2			○			1				兼 1
	指揮法	3前		2			○		1					
	対位法	3前		2			○							兼 1
	楽式論	3後		2		○								兼 1
	西洋音楽史	3後		2		○			1					※演習
	現代音楽史	3・4前		2		○								兼 1
	第九演奏表現B	3後		2			○							兼 4
	アンサンブルV	3前		2			○							共同(一部)
	アンサンブルVI	3後		2			○							兼 15
	演奏・創作I	3前		2			○		2	2				兼 15
	演奏・創作II	3後		2			○		2	2				兼 25
	文献資料講読	3後		2		○			2					
	器楽I	3前		2				○	1	1				兼 18
	器楽II	3後		2				○	1	1				兼 18
	声楽I	3前		2				○	2	1				兼 6
	声楽II	3後		2				○	2	1				兼 6
	世界演劇・舞踊史I	3・4前		2		○								兼 1
	世界演劇・舞踊史II	3・4後		2		○								兼 1
	オーディション演習	3前・後		2			○							兼 4
	上演実習A	3前		4				○	1					オムニバス・共同(一部)※講義
	上演実習B	3後		4				○	1					兼 5
	劇場接遇演習(ゲストリレーション)	3前・後		2			○							共同
	音楽科指導法III	3前		2			○		1					兼 1
	音楽科指導法IV	3後		2			○		1					兼 1
	器楽教育法II(リコーダー・弦楽器)	3・4前		2			○		1					兼 2
	鑑賞教育理論(音楽)	3・4後		2		○			1					オムニバス・共同(一部)
	伴奏法	3・4前		2			○							兼 1
	歌曲伴奏法	3・4前		2			○			1				
	小計(30 科目)	—	0	64	0	—			5	2	0	0	0	兼 44
400 番 台 科 目	作曲法I	4前		2			○							兼 1
	作曲法II	4後		2			○							兼 1
	器楽III	4前		2				○	1	1				兼 18
	器楽IV	4後		2				○	1	1				兼 18
	声楽III	4前		2				○	2	1				兼 6
	声楽IV	4後		2				○	2	1				兼 6
	アンサンブルVII	4前		2			○							兼 15
	アンサンブルVIII	4後		2			○							兼 15
	第九演奏表現C	4後		2			○							兼 4
	音楽教育実践法	4前		2			○		1					共同(一部)
	演奏・創作III	4前		2			○		2	2				兼 25
	卒業演奏・卒業創作	4後		2			○		2	2				兼 25
	卒業創作・研究A	4前		4				○	1					兼 5
	卒業創作・研究B	4後		4				○	1					共同
	卒業論文執筆法	4前		2			○		2					兼 5
	卒業論文	4後		2			○		2					共同
	小計(16 科目)	—	0	36	0	—			5	2	0	0	0	兼 33

教育課程等の概要

(芸術学部 音楽学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職 関連 科目 群	日本国憲法	1前・後		2		○								兼 1	
	体育	1・2後		1				○						兼 1	集中
	教育原理	1前・後		2		○								兼 2	
	教職概論	1前・後		2		○								兼 2	
	教育の制度と経営	1・2前・後		2		○								兼 2	
	学習・発達論	1・2前・後		2		○								兼 2	
	特別支援教育	2・3前・後		1		○								兼 2	
	教育課程編成論(中・高)	3前・後		2		○								兼 2	
	道德教育の理論と方法(中)	3前・後		2		○								兼 2	
	総合的な学習の時間の理論と方法(中・高)	2・3前・後		1		○								兼 1	
	特別活動の理論と方法(中・高)	2・3前・後		1		○								兼 2	
	教育の方法と技術(中・高)	1・2前・後		2		○								兼 1	
	生徒・進路指導の理論と方法(中・高)	3前・後		2		○								兼 2	
	教育相談の理論と方法(中・高)	3前		2		○								兼 2	
	教育実習(中学校)	3後～4前		5				○	1						集中
	教育実習(高等学校)	3後～4前		3				○	1						集中
	教職実践演習(中・高)	4後		2				○	1					兼 1	
	教育インターンシップA	1・2・3・4前・後		2				○	1						
	教育インターンシップB	1・2・3・4前・後		2				○						兼 1	
	教育インターンシップC	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1	
	教育インターンシップD	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1	
	教育哲学	1・2・3後		2			○							兼 2	
	発達心理学	1・2・3後		2			○							兼 2	
	教育心理学	1・2・3後		2			○							兼 1	
	教育社会学	1・2・3後		2			○							兼 2	
	教職演習A	3後・4前		1				○						兼 1	※講義
	教職演習B	4後		1				○						兼 1	※講義
	精神保健	2・3・4前		2			○							兼 1	
	生命と性の教育	2・3・4後		2			○							兼 2	
	異文化理解と教育	2・3・4前		2			○							兼 2	
小計(30 科目)		—	0	56	0	—			1	0	0	0	0	兼 30	—
合計(297 科目)		—	13	590	0	—			5	2	0	0	0	兼 186	—
学位又は称号		学士(芸術学)			学位又は学科の分野				音楽関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
①修業年限を満たすこと。 ②全科目の修得単位の合計が124単位以上であること。 ③累積GPAが2.00以上であること。 ④ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、玉川教育・FYE科目群から必修科目をすべて含み7単位以上を修得していること。 ⑤ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群から4単位以上、社会科学科目群・自然科学科目群・学際科目群からそれぞれ2単位以上、言語表現科目群から「ELF」科目を含み4単位以上、合計14単位以上を修得していること。 ⑥音楽学科専門科目群の必修科目6単位を修得していること。 ⑦音楽学科専門科目群の100番台科目から必修科目を除き6単位以上、200番台科目から12単位以上、300番台科目から4単位以上、400番台科目から4単位以上を修得していること。 (履修科目の登録の上限:16単位(1学期))								1学年の学期区分				2 学期			
								1学期の授業期間				15 週			
								1時限の授業時間				50 分			

※本学では1時限の授業時間を50分とし、時間割上の時限を第1時限から第10時限まで設定している。

授 業 科 目 の 概 要				
(芸術学部 音楽学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群	一年次セミナー101	秋学期に開講される『一年次セミナー102』と併せて、新しく大学に入学した者を対象に、大学生活を成功させるための戦略と戦術を提供する。この科目を通して学生は玉川大学における教育への積極的適応と同化をはかり、学修に対するモチベーションを向上させることが求められる。なお、授業では、①なぜ大学で学ぶのか、②時間管理の技術、③ノートをとる、④試験を受ける、⑤効果的な学修方法、⑥学問とは何か、⑦読書の方法、⑧文章作成の方法、⑨大学の支援資源の活用方法を集中的に学ぶ。	
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群	一年次セミナー102	春学期に開講された『一年次セミナー101』と併せて、新しく大学に入学した者を対象に、大学生活を成功させるための戦略と戦術を提供する。この科目を通して学生は玉川大学における大学教育への積極的適応と同化をはかり、学修に対するモチベーションを向上させることが求められる。なお、授業では、①社会生活とメディア、②社会貢献について考える、③コミュニケーションのあり方、④情報の活用と倫理、⑤個人情報保護と関わり方、⑥セルフマネジメント、⑦ライフデザインとキャリアデザインを集中的に学ぶ。	
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群	玉川の教育	大学一年生が玉川大学の教育についての理解を深めるために用意されている。具体的には、「全人教育入門」と題された講座のなかで玉川大学の教育理念である全人教育と玉川大学の歴史を学ぶ。また、「礼拝」と「宗教講義」を通して宗教および宗教を学ぶ意義についてキリスト教の立場から考察する。加えて、この科目では、各学部が独自に計画、設定した「労作」を実施することで、玉川教育の実践的側面を体験してもらう。	講義3時間 演習2時間
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群	健康教育	体育の目的は、健全なる身体の育成とそれに必要な知識を得ることである。一方、教養、文化さらに娯楽志向から、体育・スポーツは生活の一部としても不可欠であり、生涯を通じて関わりを持つものである。講義では、身体構造、ヒトの特異性、健康観、精神衛生、スポーツの功罪などについて理解を深める。実技では、これらの理論に基づいた運動・スポーツを実践する。	講義7時間 実技24時間
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群	音楽I	全人教育の理念に基づいて、音楽を理解し、広く親しみ愛好し、生活の中に取り組むことを目的とする。以下に示す内容を通して、音楽する喜び、音楽に参加する喜びを獲得する。歌曲やカノン等、混声合唱曲、讃美歌を合唱する。 愛吟集に掲載されている歌曲・国内外の合唱曲・讃美歌等がきちんと歌えるようになること。加えて、混声合唱に向けてパート練習を重ねることにより、混声合唱の響きの中で自分のパートをしっかりと歌えるようになること。そして、歌唱を通して合唱への理解も深まり、さらに音楽全般への理解を深めることを目標とする。	
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群	音楽II	『音楽I』の講義の概要に示した内容を基礎として、音楽性、芸術性のある、より崇高な音楽を求めようとする心と技を養う。ベートーヴェン作曲の第九交響曲終楽章の合唱を管弦楽とともにステージで行う。 ベートーヴェン作曲の交響曲第九番「合唱付き」第4楽章の担当パート(ドイツ語歌詞)を、伴奏に合わせて暗譜で歌えるようになること。また、「第九」の作品についての理解が深まり、合唱の歌い方など説明ができるようになることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	玉川教育・FYE科目群	全人教育論	本学の掲げる「全人教育」とは、真(学問)、善(道徳)、美(芸術)、聖(宗教)、健(身体)、富(生活)の六つの文化価値の調和的形成を目指すものである。本講義においては、たえず全人とは何か、という問いかけを根底に置き、小原國芳の提唱した「全人教育」とは具体的にどのような教育思想にもとづくものであったのかを明らかにしていく。それとともに全人教育論のもつ現代的意義について考察する。	
	玉川教育・FYE科目群	二年次セミナー201	昨今、社会に出ることを拒否する若者が問題視されている。これは、学生から社会人への転換が円滑にできない若者が、社会的にさまざまな影響を及ぼすようになったためと考えられる。また、就職しても行動・思考などが「大人」とは思えない社会人がいることも確かである。本科目では、社会人とは何か、社会人になるためにはどのような知識とマナーが必要であるか、それらを身に付けるためにどのようなノウハウが必要であるのか、また、その奥に存在する「社会人」としてのあるべき姿と理念はどのようなものなのかを検討する。	
	玉川教育・FYE科目群	二年次セミナー202	高等教育への進学率が50%を越え、もはや大学卒は普通のこととなりつつある。そのため、大学、大学生の意義やその役割について、社会全体、また教育制度全体の中で再検討が求められている。大学卒がエリートを意味し、生涯の生活が保障される時代はすでに遠い昔のこととなり、社会の大学への期待度が低下するにつれて社会と大学生の関わりも変化した。そのような時代にあつて、大学は何をするべきなのか、大学生はどうあるべきなのか。本科目では、大学生活を有意義なものにするために大学生がもつべき価値観、認識などを考察する。	
	玉川教育・FYE科目群	三年次セミナー301	大学生活の後半期にある学生がやがて社会に出るにあたり、支援する科目として『三年次セミナー301・302』は用意されている。『三年次セミナー301』は、学生がこれまで学んできたユニバーシティ・スタンダード科目と所属学部の特設科目で得た知見をもとに、人類を豊かにしてきた古典と向かい合う科目である。古典は、時代を超えて人間の生にかかわってきた書物であり、多くの先人が、古典から生き続けていくための知と力を獲得してきた。この科目を通して、古典との向かい合い方を学ぶことで、生涯学び続ける意義を体得する。	
	玉川教育・FYE科目群	三年次セミナー302	大学生活の後半期にある学生がやがて社会に出るにあたり、支援する科目として『三年次セミナー301・302』は用意されている。『三年次セミナー302』では、まもなく社会に出る学生を対象に、社会を形成するうえで欠かすことのできない「市民としての権利と義務」について学ぶ。具体的には、日本における政治と選挙制度の仕組み、税金制度の仕組み、年金制度の仕組み、各種保険制度の仕組み、地域社会で生きていくことの意味と生きていくうえでの役割等について、メソッド・スタディおよびケース・スタディの形式で学んでいく。	
	玉川教育・FYE科目群	ピアリーダー	ピアリーダーとは学生による学生の支援を指す。海外の大学においては、ピアリーダーの取り組みが、支援を受ける学生と支援する学生の双方に、多大の教育的効果を上げていることが報告されている。ここで展開される科目では、履修学生に対してピアリーダーは、既に修得済みの知識(あるいは経験)をベースに、「如何にして支援するのか」を考え、計画を立て支援し、改善することを通して実践的な知識を修得することを目指す。	
	人文科学科目群	文化人類学	文化人類学は、世界の様々な民族の持つ文化や社会について比較研究する学問である。ここでは文化の進化と伝播、人間の生活と歴史、宗教と儀礼、言語、家族、婚姻などのテーマを扱い、世界の民族が持つ文化と生活の関連性を考察する。受講者は、この授業を通して、民族の価値観の多様性と個別文化の意義を知り、日本文化の位置づけや自己のアイデンティティの確立に対して一定の手がかりを得ることが期待される。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	民俗学入門	人間の日常生活文化の成り立ちや伝統的な思考方法のあり方を、古くから民間で伝承されてきた様々な有形、無形の資料の採取と検証を通して明らかにし、私たちの「今、ここ」で営まれる生き方を問い直すのが民俗学である。本講義では、我が国の様々な生活の基層文化に触れつつ、柳田邦男、折口信夫、宮本常一、谷川健一といった日本民俗学の成立に関わった主要人物の業績を通して、こうした民俗学の学問としての視点と方法を学ぶことを目的とする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	美術史	過去美術作品を「研究」の対象とする、それはいったいどのようなことか。いったいどのようにすれば、その作品を研究、または理解したことになるのか。そもそも美術史を学ぶとはいかなることか。この講義では、西洋・日本・東洋の美術史を学ぶ上での重要なキーワードを学びつつ、いくつかの具体的な作品について考察し、それについての理解を深めると同時に、たとえば「様式」や「図像学」など、作品を分析するそのしかたについても触れる。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	ことばと文化	「ことば」のない文化はないし、文化のない「ことば」も人造言語以外はない。従って、ことばは文化と一体のものである。ことばを使う人間は、それぞれのことばを通して文化や社会を構築していく。ここでは、ことばを介した相互理解の問題、ことばにかかわるさまざまな事象(イメージ、認知、解説、など)、ことばの担い手としての個人差、などについて、言語が成立した文化的背景を理解しながら、時代とともに変化することばの多面性および創造性を考察する。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	比較文化論	「外国語を知ることによって、初めて母国語の何たるかを知る」と言われるが、それは文化についても同じことである。他国の文化を知ることにより、日本の文化を知ることが出来る。本科目では、世界の文化を比較することによって、文化の何たるかを考えていく。ヨーロッパを始めとする世界の様々な文化の中から、風景、都市、庭園、映像などの文化を取り上げ、それぞれの文化相を通して見えてくるものを日本の文化と比較し、文化を解釈することを試みる。文化の解釈の仕方を学ぶことにより、文化の意義を考察することを学ぶ。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	日本文学	日本文学を学ぶということは、自分とは切り離された過去を学ぶことではなく、過去に書かれた文学作品を一つの手段として現代、さらには現代に生きる自らを考えるということに他ならない。文学に接するとき、文学の向こう側には私たちが何者かを教えてくれる他者が存在する。その他者と対話する技術を学ぶことが、日本文学を学ぶ目的である。本科目では、小説、詩歌、神話などさまざまな作品を取り上げ、読み手の想像力を重視した自由な読み方で内容を理解し、作品が書かれた時代背景の中で考察していく。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	外国文学	人が一生に経験できることは限られているが、文学を通して想像力を広げること、経験をより豊かにすることができる。今日の国際社会においては、異文化を理解することが重要である。「ことば」は、人の生活と思考に深く根ざし、文化の枠組みの中で育まれたものだが、「ことば」が創り出した文学は、世界を、日本を、さらには私たち自身を知る手掛かりを提供してくれる。本科目では、文学の技法にも関心を持ちながら、さまざまな作品の時代と文化的背景を探ることで異文化理解を図り、「人間とは何か」という普遍的な課題を探究する。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	歴史(世界)	歴史は過去と現在の対話だと言われる。私達は現代社会をよりよく理解するために、過去の歴史に学ぶのである。本科目では、他国の歴史を政治・経済・社会・文化・芸術など多方面から捉え、各時代の流れや特色を考えながら、歴史の面白さを味わい、歴史を見る眼を養うことを目標とする。さまざまな歴史的な重要事項についての基礎知識を得て、それらを現代の社会と結び付けて考える力を養う。また、現在の国際社会を作り出した歴史の諸相を知り、世界、また日本にとっての近現代の価値観を客観的に捉え、今後の日本についての考え方の基礎を作る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	歴史(日本)	国際化が進み異文化交流が盛んな時代だからこそ、広い視野に立って日本の歴史を確認し、自らの発信情報の礎を築かねばならない。過去を知ることは、現在を把握し未来を見定める方途でもある。本科目では、日本の歴史について世界との関係をふまえ、その歴史的諸側面を、文字・絵画・遺物・口碑伝承・民間信仰などの史料から読み取っていく。同時に、歴史学的思考とはどのようなものかを習得し、歴史学は解釈学であることを理解することを目標とする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	音楽史	音楽史とは何か、音楽の歴史を学ぶことの意義は何かといった問題意識を持ちつつ、音楽を学ぶ上で知らねばならない重要なキーワードを取り上げ解説する。その際、洋の東西を問わない音楽の歴史を念頭におくよう努める。すなわち、西洋音楽史に限らず日本音楽史、それ以外の民族の音楽史を含め、更に、いわゆるクラシックの音楽史にとらわれることなくポピュラー音楽の歴史も見据えた観点から、広い意味での音楽の歴史に関わる講義を行う。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	哲学	哲学とは、自分の生きる世界(自然・社会・歴史等)や、世界の中で起こる様々な出来事、あるいはそうした世界に身を置いて生きる自分自身の姿(意識・思考・感覚・行動等)を反省的につかまえ、自分自身の未来形成に役立てていく学問である。ここで取り上げることは特別なことではなく、普段は当たり前になっているが、どんな人にも関わる重要な問である。そうした諸問題を日常から取り上げて考える。哲学の基本的問題について考察し、哲学的思考方法を身に付けること、さらに、自分で考えるようにできることを本科目の目標とする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	倫理学	人間は、必ずある一定の歴史的・社会的環境の中に産み落とされ、その環境が醸し出すモードを身にまといながら生き、感じ、考え、行動する存在である。しかし、自分たちのモードは、決して完全なものでも絶対のものでもない。なぜなら、自分たちと異なる環境に育った人間もまた、多数存在するからである。このことについて考究し、また、なぜ倫理学を学ぶかの意味についても言及する。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	ロジック	昨今、討論や論文、またそもそも一般的思考において、学生の論理・推論力の低下が目立つ。しかしながら、実際に日々行なう行動は思考の結果であり、そうした思考は「論理」に基づいて行なわれている。本科目では、「論理」が持つ特長や力を伝統的思想の中で検討しながら、論理的思考に注目し、実践的に鍛えることにより、言語や思考といったさまざまな論理的側面に対し、正確な分析と効果的な対処の仕方を学ぶことを目標とし、簡単な記号化を通して、ロジカルな推理ができるようにする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	科学史	人類の歴史における科学の誕生は、技術の誕生に遅れること約2000年と言われるが、これは何を意味するのだろうか。科学が、それに加え、科学技術とも呼ばれるようになったのは何故なのだろうか。本科目では諸分野における科学と技術の比較考察から始め、その成立・発展経緯と、その後の融合と分離の在り方および将来に向かっての科学と科学技術のイメージについてまでを歴史、特に、社会史と文化史とのかかわりを通して、広い視点から考察する。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	宗教学	人類の歴史と共に長い歴史を持つ宗教を理解することを通して、人間存在の特質に対する深い認識を獲得することができる。宗教学は、宗教現象を客観的に研究し、宗教一般の本質や構造を問題とする。そのためには、宗教といわれるものについての知識が当然必要とされる。それゆえ、ここでは、諸宗教の歴史的・思想的特質についても考察する。「宗教とは何か」を考えることを通して「人間とは何か」という難問を探究すると同時に、グローバルな時代に必要な宗教についての知識を学ぶ。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	世界の宗教と文化	現代のグローバル化した世界では、異なる宗教的背景を持つ他者と出会い、関わり、共に生きる力が必要とされる。本講では、世界三大宗教であるキリスト教、イスラム教、仏教をはじめ、世界の諸々の宗教を、歴史や思想の観点からだけでなく、現代世界の宗教に関わる諸問題や議論も視野に入れて考察する。この科目では200番台以上で展開される宗教学関連科目で必要とされる、世界の宗教文化の基本的な事実と一定の知識を獲得することができる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	演劇史	演劇や舞踊という舞台芸術を学ぶ上で、この芸術の先輩達によって築かれ、後世に残された智恵に触れること、つまり演劇史の知識は、演劇や舞踊というライブな芸術の素晴らしさを改めて認識する上でも、また、これから新しい舞台芸術を創造していくに際して、その過程における無駄な試行錯誤を避けるためにも、非常に大切である。この授業では、蓄積された膨大な演劇史の豊かな智恵の海を効率よく渡るために必要な、最も基礎的な演劇史の理解を助けるキーワードについて学ぶことを目的としている。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	キリスト教学	玉川大学は「キリストの教えに従う」ことを教育精神として掲げている。この教えに基づいて成立したキリスト教は世界宗教の一つであり、2000年近くにわたり、世界の多くの地域・分野に影響を及ぼしている。本講義では、キリスト教に関する基礎的知識を修得し、その理解を深めることを目的とする。また、聖書に語られた、世界観、人間観、歴史観、さらには、歴史の中で展開されたキリスト教の様々な思想や文化的な営みを考察し、各自の生き方や自分が生きている社会のあり方について、より深く考察できるようにすることを目的とする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	英語学	英語の歴史的発達(社会文化的側面と言語発達)、言語的諸相および分析方法について学びながら、英語の一般的特徴とはたらきについて記述することができる基礎的な知識の習得と分析能力の養成を目的とする。講義では、英語を分析するために発達した主要研究分野(英語史研究、音声・音韻、文法、意味、語法、辞書学、会話分析、文学と文体論、談話分析、語用論、コンピュータによる言語分析など)を取り上げ、英語の言語的特徴を体系的に理解し、客観的に分析するための知識の習得をはかる。また、英語学の知識と分析アプローチを理解し、応用しながら、英語の生きた姿をとらえるための基礎的な言語分析能力の養成をはかる。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	日本語学	日本語を世界にある言語の一つとして客観的に認識し、音声、文法、語彙、意味、待遇表現といったさまざまな分野について、その特徴や体系をとらえていく。また、日常生活において無意識に使用している日本語に関する基礎的知識を身に付けるとともに、言語を客観的に分析する方法について学び、日本語の構造や法則について自ら分析できるようになることも目的とする。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	日本学入門	日本学(Japanology)とはそもそも諸外国において日本を対象とする研究に対して命名されたものであるが、本講座では、過去から現在に至るまで日本という国に生きた人々が、所与の時代の現実の中でどのような問題に直面し、それらを解決せんとしてどのように生きたのかを、諸学問の領域を横断しながら、あるいは領域という枠組みに硬直せず検討する。と同時に、日本の歴史・文化・思想を脱伝統の文脈からも読み直し、異文化との交流や摩擦なども視野に入れ理解していくための基礎的な研究方法や思考方法について学ぶ。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	Japanology	『日本学入門』の内容を引き継ぎながら、海外における日本学(Japanology)の過去から現在に至るまでの状況を視野に入れて、学際的に探究していく。海外から日本を眺める客観的な視野が、日本人であることにより逆に見失われがちな点をどのように相対化しうる可能性をはらんでいるのか、という点に留意しながら、現代における日本学の必要性について認識することを目的とする。授業は英語で行う。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	Japanese Pop Culture	日本のアニメ、マンガ、ポップスをはじめとするポップカルチャーは、近年海外においても注目され、今後その注目度は益々高くなることが予想される。この授業ではそれらを取り上げて、社会的、歴史的、芸術的、様々な角度から分析・評価していく方法論について、具体的にいくつかの材料を取り上げながら学んで身に付けていくことを目的とする。授業は英語で行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	Modern Japanese History	近世から近現代にかけての日本史を概観するとともに、歴史学的方法論を用いて近世以来の日本の諸分野を考察して再構成することで、現代日本の諸事象を把握することができる。特に近世江戸時代の社会制度および構造と文化思想が近代明治期以降の西洋化の中でどのように西洋文化や思想を受容しつつ現代にいたるかの過程を確認することで近代および現代日本の特性と意義を明らかにする。授業は英語で行う。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	East Asian History	東アジア地域の様々な歴史を理解するのが目的である。時代区分に基づいての考察や、政治、経済、宗教、思想、文化、芸術など諸分野のうち特定のジャンルを中心に論述する。ただし、全ての時代区分、地域、ジャンルにわたって1セメスターで完結することはできないので、時代を特定し、地域の諸特徴を考慮しつつ、幾つかのジャンルに分けることによって、科目の目的を実現する。授業は英語で行う。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	Issues in Japanese Studies A	日本学で扱われる諸学問の領域の中から対象を絞り込み、その領域に関して深く探求していく。その一方で、探求の結果として得られた成果を、学際的な視点から改めて再評価し、相対化していくことを常に心がけて、日本学の研究方法を明確に意識化できるレベルで身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Issues in Japanese Studies B』とはプログラム、開講時期が異なる。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	Issues in Japanese Studies B	本講座では日本学で扱われる諸学問の領域の中から対象を絞り込み、その領域に関して深く探求していく。その一方で、探求の結果として得られた成果を、学際的な視点から改めて再評価し、相対化していくことを常に心がけて、日本学の研究方法を明確に意識化できるレベルで身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Issues in Japanese Studies A』とはプログラム、開講時期が異なる。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	人文科学アカデミックスキルズ(リーディング)	人文科学領域に属する学問(文学、哲学、歴史学、芸術学、他)の基本的な文献を読む訓練を行う。文献に書かれている内容をたんに理解するだけでなく、著者や編者の意図をくみとるためにはどのような読み方(読み方の技術)が必要になるかを学ぶ。リーディングにおいては、テキストの枠組みと方向性を示唆する先行オーガナイザーの設定が重要な役割を果たす。この科目では、そうしたことに十分に着目して授業を展開する。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	人文科学アカデミックスキルズ(ライティング)	人文科学領域に属する学問(文学、哲学、歴史学、芸術学、他)におけるレポート執筆および発表原稿執筆の基本的な訓練を行う。大学で求められるレポートや発表は自分の自由な思いを綴った作文や感想文ではない。学生に期待されるのは、学問的客観性と普遍性が保たれたうえで、書き手の独自性が論理的に展開されている文章を書くことである。	
U S 科 目 群	人 文 科 学 科 目 群	名著講読(人文科学)	人文科学(文学、哲学、歴史学、芸術学、他)における古典や名著といわれるいくつかの文献の講読を通して、読解、解釈、内容把握、要約、議論を行っていく。こうした取り組みを通じて、過去の人類の叡知を学び、現代における意義を考え直し、またその限界も含めて検討していく。これにより、履修者自身の視野の拡大、思考力の醸成を図ることを目的とする。また当該学問領域において基礎的な知見や技術を習得することも目的とする。	
U S 科 目 群	社 会 科 学 科 目 群	会計学	会計学入門として複式簿記の基本原則を学習する。会計とは、取引を複式簿記の原理により測定し、財務諸表に集約することにより利用者に伝達する、計算制度である。そこで会計学を学ぶためにはまずこの複式簿記の原理を理解することから始めなければならない。この講義では、複式簿記の基本原則を、簿記一巡の手続き、決算整理、財務諸表の作成等を通じて習得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	社会科学科目群	コミュニケーション論	コミュニケーションは、人間が社会の中で生きていく上で不可欠なものである。異なる文化を背景にもつ人々が行なうコミュニケーションの問題点についてさまざまな角度から探り、より効果的なコミュニケーションについて理解を深める。生活のあらゆる場面がコミュニケーションの場であることを踏まえ、日常的話題を提示して理解へと結び付けることで、物事を考える力を養っていく。コミュニケーション理論の理解と日常生活への応用を目標とする。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	Academic Communication	本科目の主な目的は、効果的な学術的意見交換や意思疎通を図るために必要となる英語のコミュニケーションスキルを涵養することである。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能の習熟を通して、批判的思考力(クリティカルシンキング)を培い、言語意識を発達させることに焦点を当てる。到達目標として、幅広い分野を網羅する学術的な会話に参画したり、専門的かつ確信を持って口頭、書面でそれらの概念を表現する方法を修得する。授業は英語で行う。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	経済学(国際経済を含む。)	日常よく使われる経済学の基本的な諸概念を解説し、経済についての基本的な知識を養うことを目標としている。それと同時に、現代経済学の主要な議論・論争と、「福祉破綻」や「環境破壊」など現実の経済問題とのつながりを探ることで、問題の本当の在り方を見つけ出していく。その他、なぜ経済学を学ぶかの意味といったプロフェッショナル性にも言及する。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	国際関係論	21世紀をむかえた現在、宗教対立や民族対立から始まる幾多のテロ活動や戦争、自然災害や人間の倫理的対応の欠如によってもたらされる環境破壊、世界規模といわれる金融危機等、人類は地球的規模での諸問題に直面し、国際関係・協力が必須のものになっている。本科目では、悠久の宇宙・人類史の流れの中での現在という立場から、具体的な国際情勢を取り上げながら、新しい学問といわれる国際関係論の歴史と理論と学問的課題を考究する。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	市民社会と法	市民社会とは、自由と平等を重視し市民の基本的人権の保障を目指す社会であるが、そこにおいて私達市民と法は密接な関わりがあると言える。本講義では、私達市民が法とどのように関わり、また法からどのような影響を与えられているのか、市民的な教養として基本知識を得、理解を深めることを目的とする。具体的には、契約法、不法行為法、親族・相続法、刑法、民事・刑事訴訟法など、私達が身近に関わる法規範を中心に学ぶ。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	経営学	経営学は社会科学の分野に分類される学問である。まだ100年程度の歴史しかない新しい科学分野であるが、常に経済活動とともに発展を遂げてきた。目的は企業をはじめとする組織的活動から生まれる問題の解決である。問題解決のために基礎学問分野(経済学、法学、数学、物理学、情報工学等)の研究成果を利用し、時代に応じて多くの経営上の問題について多様な解決方法を生み出すことで発展してきた。そのため経営学は基礎学問ではなく、それを利用する応用の学問と言われる。つまり経営学は唯一の方法や理論があるのではなく、科学としての側面を持つ一方で、特定の優れた個人の技能という面を強く持つ学問と言える。授業は、新聞・雑誌の経営関係の記事や企業のホームページなどを積極的に活用しながら、今日の企業の具体的な事例を取り上げ、経営学の思考方法や基礎的な用語を理解する。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	マーケティング	マーケティングは顧客および社会全体にとって価値のある商品やサービスを創造、コミュニケート、提供し続けるための活動の全てを表す概念であり、その目的は市場創造である。顧客心理や市場環境・競争のリサーチ・分析から始まり、マーケティング戦略の策定と実行、ブランディングや顧客との関係性の構築にいたるマーケティングの体系、理論と思考(顧客志向)について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	社会科学科目群	政治学(国際政治を含む。)	政治についての学問である政治学は、理論、哲学、歴史、思想史、制度論、課程論、政策論、行政学など他分野にわたる。その中から、いくつかの分野を選び、政治を解明する。その際、政治に関する近年の理論・哲学を紹介・分析し、身近なところにも認められる政治を通してまず政治に対する目を養う。そして、政治家、政党、選挙、国会、官僚等に焦点を当てながら、日本の国内政治の仕組みを、さらに国際政治の現実や特徴、安全保障や国際政治経済の考え方を考察・分析し、現在の政治の基本的あり方を学修する。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	心理学	心理学は人間の心の働きや行動の法則性を科学的に解明しようとする学問である。この科目では、認知、感情、欲求、思考、学習、パーソナリティ、発達、社会的行動等の基礎領域の学習を通して、心理学ではどのような方法を用いて研究が行われ、どのような研究成果が得られているのかを、私たちの日常生活や身近な現象と関連づけながら学び、心理学的視点を養うことを目的とする。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	社会学	社会学の研究領域には、家族、農村、都市、産業、社会病理などがある。これらのうちから、社会病理をとりあげて、講義を進めていく。周知のとおり、現代の社会は社会問題に満ちている。今こそ社会学者が手腕を振るい社会学の実用的価値を世に問えるのかもしれない。近代社会の発展を遂げてきた社会学を現代社会の諸問題の解決と接点を模索しながら、社会学という学問を学び、かつ教える立場での社会学的視点の理解について学習する。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	ボランティア概論	ボランティア活動の理念・歴史から始め、ボランティア活動の実際、またボランティア活動を支える機能や役割について考察し、現代社会におけるボランティアの意義と課題についての洞察を深める。ボランティアの理念や意義について、歴史や事例等を踏まえて、自らの考えを述べられること、ボランティア活動を支える制度や行政の役割について、その歴史や課題も踏まえた説明ができること、ボランティア活動を支えるコーディネーションや協働の在り方について、実践的に語るができること、異なる価値観の人とも対話をし、省察的に協働することができることを目標とする。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	現代社会の教育課題	各教育段階における多様性を認め合う仲間作りを中心とした学級経営や保護者対応の課題、IT化に伴う情報リテラシー教育(AIの正しい理解と活用課題を含む)、ICT利活用の授業実践、など、現代の日本が抱える教育課題を理解しつつ、次世代を担う人材を育成する教育のあるべき姿について考察する。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	科学技術社会論	科学技術と社会は決して分離しているわけではないことは論を待たない。科学技術は、現代の我々が直面している様々な問題に対処しようと努力してきたし、社会に及ぼす影響は非常に大きい。しかし科学技術が深く大きくなるにしたがって社会における利便性と共にリスクが表面化し、我々はそれらのトレードオフに直面している。だからこそ科学技術を専門家のみに任せるのではなく、市民が主体となって科学技術をコントロールしていく必要がある。この授業では、科学技術に関する事件を例示しながら、科学技術を自らの問題として議論し、市民が科学技術にコミットする方法について考察することを目的とする。	
U S 科 目 群	社会科学科目群	観光学入門	2000年以降の日本では、観光立国にむけて様々な取り組みがなされており、21世紀のリーディング産業としても注目されている。本講義では、初学者を対象として、「観光」の現状や最新動向、ならびに社会現象のひとつとして分析していくうえでの多様な視点を提示する。講義では、観光とtourismの概念を検討したうえで、観光需要の動向を国内、インバウンド、アウトバウンドの3つにわけて分析する。さらに、観光による経済効果と社会文化効果、観光のネガティブな影響、観光政策と行政の役割、旅行業や交通業、宿泊業など観光に関連する諸産業の現状と特質、観光まちづくり、観光による地域活性化のあり方について、概要を学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	社会科学 科目群	社会科学アカデミックスキルズ(リーディング)	社会科学領域に属する学問(政治学、経済学、経営学、社会学、他)の基本的な文献を読む訓練を行う。文献に書かれている内容をたんに理解するだけでなく、著者や編者の意図をくみとるためにはどのような読み方(読み方の技術)が必要になるかを学ぶ。リーディングにおいては、テキストの枠組みと方向性を示唆する先行オーガナイザーの設定が重要な役割を果たす。この科目では、そうしたことに十分に着目して授業を展開する。	
U S 科 目 群	社会科学 科目群	社会科学アカデミックスキルズ(ライティング)	社会科学領域に属する学問(政治学、経済学、経営学、社会学、他)におけるレポート執筆および発表原稿執筆の基本的な訓練を行う。大学で求められるレポートや発表は自分の自由な思いを綴った作文や感想文ではない。学生に期待されるのは、学問的客観性と普遍性が保たれたうえで、書き手の独自性が論理的に展開されている文章を書くことである。	
U S 科 目 群	社会科学 科目群	名著講読(社会科学)	社会科学領域に属する学問(政治学、経済学、経営学、社会学、教育学、観光学他)の古典や名著といわれる文献の講読を通して、文献の読解力、概略的な内容の把握、概略的理解、解釈的な意味の認識等についての能力を養成する。名著に触れることによって、視野の拡大、自己の思考力の活用力、主題設定に対する重要性の理解を図っていく。該当領域において広く有用であると認められる知見・技術・考え方を開拓するものとなるように、知識の蓄積を増やすことを目的とする。	
U S 科 目 群	自然科学 科目群	情報科学入門	現代社会においては、コンピュータは不可欠な存在となり、さまざまな場面で必要とされている。しかしながら、その原理・構造を知った上で活用できている人は稀である。そこで本科目では、コンピュータの原理や構造について、情報の表現方法やハードウェア、ソフトウェアの観点から詳しく学ぶ。また、コンピュータの動作とプログラムの動き、あるいは処理対象となるデータやファイルの管理など、情報処理の基礎となる考え方を学ぶ。さらに応用として、情報システムの原理やサービスについてもコンピュータとネットワークの観点から取り上げる。	
U S 科 目 群	自然科学 科目群	ネットワーク入門	現代は、コンピュータを通して情報を発信することもまた情報を収集することも容易になっている。では、情報とは何か、そしてそれはどのように利用されるのか、本科目では、情報の持つ特異な性質、便利な利用方法や正しい扱い方について考える。授業では情報のデジタル表現と通信の原理、またこれらを活用した情報システムとネットワークについて学ぶ。また、インターネットの仕組みや正しい使用方法、その応用についても詳しく学ぶ。	
U S 科 目 群	自然科学 科目群	データ処理	コンピュータを用いて論文やレポートを作成したりプレゼンテーションを行う時に、必要となるデータや情報の表現方法と処理方法の基本について学ぶ。また、情報処理の基本となるデータや処理手順のモデル化や各種チャートによる表現について学び、これらの図表を他の人たちの共同作業時の意思疎通のための手段・媒介として活用する方法について学ぶ。さらに、このことにより、コンピュータ上のデータを生かし、社会の発展へとつなげていく意義を学ぶ。	
U S 科 目 群	自然科学 科目群	マルチメディア表現	自己の考えをわかりやすく伝え、他者に理解を求めることは、社会で生きる上において、不可欠なことである。そのためにはさまざまな方法、手段が用いられるが、コンピュータもその手段の一つである。現代のコンピュータは、文章だけではなく、マルチメディアを用いた表現を可能にしている。本科目は、コンピュータを用いた、写真、イラスト、動画などの初歩的な表現技術を学ぶ。	
U S 科 目 群	自然科学 科目群	化学入門	自然界にはいろいろな物質が存在している。海、空気、地殻も物質でできおり、生物も物質から成り立っている。そもそも物質とはなんだろうか。そして、なぜ物質がこのような複雑な環境や生命活動を担えるのだろうか。このような問いに答える学問が化学である。物質の示す様々な性質を原子、分子といったレベルで理解し、さらに物質間の相互作用によって起きる化学反応を理解することにより上記の答えが少しずつ解明されてきている。本講義では化学の歴史と基本的概念を学んだあと、自然界あるいは日常身近に起きる様々な現象を化学的に理解できるようにすることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	生物学入門	地球上に生命が誕生したのは30億年以上前といわれている。不思議なことに、生命体＝生物はそれぞれの種により、同じ形や動きをしていたり、物質やエネルギーの代謝系をもっている。生物には恒常性と調節機能があるのも特徴といえる。生物は、時間の流れの中で環境に適応するように変化＝進化し、人間はそのメカニズムを解明し医学や農業などに利用している。本科目は、生命誕生からの流れの中で、生物がどのように進化してきたのか、それに地球環境がどのように影響したのかを学ぶ。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	環境科学	我々の生活は膨大なエネルギー消費によって快適なものとなっているが、それは地球環境に負荷を負わせることに他ならない。地球規模での環境悪化の問題は常に論じられているが、我々はどこまでその本質を理解しているだろうか。環境問題の本質に迫るには、人間の活動と環境への影響の両面を考える必要がある。本科目では、学際的な学問である「環境科学」をさまざまな角度から検討し、地球環境をひとつのシステムとして理解する。未来の地球に向けて我々がどのような行動をとるべきか、個々人の見解を形成することを目標とする。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	数学入門	数学は論理的思考の基礎となるものである。その基礎的知識と問題解決能力は、文系・理系を問わず、大学での学習において不可欠な知識・能力といえよう。本科目では、数学の基本的な問題を解くことによって、問題や課題の解決能力と数学的思考能力を養う。その結果、数学における基本的な概念の理解を深め、数学に対して興味・関心をもち、数学的活動を通して創造性を培い、数学的な見方・考え方を獲得して、積極的に活用できるようにする。数学の楽しさ、面白さ、有用性を理解することを目標とする。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	解析学入門	一変数関数に関する、より高度な微分法の応用と積分法について理解し、その計算力を身に付けることを目標として講義する。まず、テイラー、マクローリンの定理を理解し、級数の形で初等関数がどのような関係にあるかを学ぶ。次に、定積分の数学的定義を通して現実の面積・体積が数学のなかでどのように表現され計算されるかを学習する。また、微分の逆演算としての原始関数(不定積分)が定積分とどのように関係するかを理解しながら、その計算方法を多くの問題を解きながら身に付ける。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	代数学入門	代数学は数学の基礎として重要な科目である。本科目では、連立一次方程式を中心に上げ、数ベクトルと行列の定義、行列の基本計算、正則行列と逆行列の定義、連立方程式の行列表現、行列の基本変形と基本行列、連立方程式の解法、逆行列の求め方、ベクトル空間の定義と線形写像、ベクトルの独立性、基底、時限と階数といった内容から、ベクトル、行列の基本的取り扱いを習得し、線形構造の基本を理解することを目標とする。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	統計学入門	現代の情報化社会において、あふれている情報をいかに効率よく、正確に獲得するかは重要な課題となっている。人は個人によって情報の種類、情報の高さが異なる。したがって、個人個人が必要な情報を取得し、分析し、判断していかなければならない。統計学は、一人一人の知的活動が求められる高度知識社会に必要な分析力・判断力の基となるものといえる。本科目では、情報やデータを分析・判断し活用するための統計処理の基礎を身に付けることを目標とする。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	物理学入門	物理学のなかでも身近な事例(力学・電気)について講義する。社会人になったときに、科学的な内容の話に積極的に参加できる程度の基礎知識を身に付けられるようにし、簡単な計算ができるようにする。合理的な考え方、新しいものの開発や発想は物理的なものの見方が不可欠であるので、順序よくものごとを見て考え方を組み立てることを学ぶ。さらに原子の世界について簡単に学び、エネルギー問題について考察する。最終的には、運動の法則や力学的エネルギーを中心とするニュートン力学、初歩の電磁気学、そして原子の世界などの理解を目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	自然 科学 科目 群	実践の物理学	物理法則には、簡単な式で表わすことができ実際の現象とよく一致するものや、多くの補正を加えなければ一致しないものがある。物理法則とよく一致する現象について、講義および自らが行う簡単な実習により、物理法則と測定結果を比較検討し、その原理を説明できるようになることを目的とする。テーマは、力学、電気、熱、光波、音波など広い範囲の物理学について学ぶことが出来るように選んである。これらを修得することにより、様々な物理現象の原理の簡単な説明および簡単な機器操作の実行をすることができる。	
U S 科 目 群	自然 科学 科目 群	科学入門	普段は意識することはないが、現代の生活は様々な科学の成果で成り立っている。この授業では我々自身の生活のなかの科学を基礎的な実験で学ぶ。基礎的な科学実験によって科学に対して興味や関心を持つことができるようになったり、生活と科学の関連性について意見を述べるができるようになったりすることを目的とする。さらに科学の様々な現象の原理の簡単な説明をすることができるようになることを目指す。	
U S 科 目 群	自然 科学 科目 群	地球科学	1960年代から70年代にかけて誕生し成長したプレートテクトニクスの枠組みによって、人類の地球観は大きく変貌した。ほぼ同時期から発展した宇宙技術によって宇宙から地球を観測したり他の惑星を直接観測したりすることも可能となった。その後も新たな知見をもたらしながら、地球科学は発展を続けている。本科目ではプレートテクトニクスをもとにして、固体地球の大規模な変動や地震・火山などの地学現象を体系的に理解することを一つの目標とする。また、地球以外の惑星にも視点を広げ、地球と惑星を関連させながら理解を深めることも目指す。	
U S 科 目 群	自然 科学 科目 群	エネルギー科学	我々はエネルギーを使用することによって、現代の様々な利便性を享受していることは明らかである。エネルギーは、機械エネルギー、熱エネルギー、電気エネルギー、原子力エネルギー、等様々な形態をとり、それぞれ変換可能である。しかしながら、我々が使用できる形態のエネルギーを得るには多くのコストとリスクを伴う。さりとて低コスト小リスクでは現代の文明を維持することは困難である。この授業では、エネルギーの種類や生成法などの基礎知識を簡単に学び、そのコストとリスクをメリットと比較考量し、これからのエネルギー問題に対処する自分自身の考えをまとめられるようにすることが目標である。	
U S 科 目 群	自然 科学 科目 群	宇宙科学	近年、望遠鏡等の観測装置やロケット等の宇宙機技術の進歩によって、宇宙についての認識が大きく変化してきている。本講義では、現在までに得られた最新の宇宙像に基づいて、宇宙の誕生から現在までの進化や、現時点で把握されている宇宙の構造や様々な天体について理解することを目的とする。また、宇宙を解明するための技術の基本についても理解する。同時に、人類がこれまでどのように宇宙に接してきたのかについても学び、人類と宇宙との様々な関わりについて考えを深める。	
U S 科 目 群	自然 科学 科目 群	STEM入門(科学と社会)	普段は意識することはないが、現代の生活は様々な科学(STEM)の成果で成り立っている。STEMとは何かを様々な視点から理解を深め、STEMが重要視される歴史と背景を概観し、Science, Technology, Engineering, Mathematicsの各分野における先端的研究を取り上げ、現代社会の関わりと課題、未来の展開について主体的に調査・探究し考察する。	
U S 科 目 群	自然 科学 科目 群	人工知能と社会	人工知能の歴史を学ぶと共に様々な分野に応用されている応用例を元に人工知能の基本的な手法や、様々なトピックスを理解することで、現代社会で利用されている人工知能の実態を学習し、現代社会や私たちの生活に与える影響について学ぶ。人工知能が人間に与えるかもしれない将来の影響について、自分自身で説明でき、他人とディスカッションできること、また、人工知能も含め、人間にとって技術がどんな意味をもつか、歴史的観点から説明できることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	自然科学アカデミックス（リーディング）	自然科学領域に属する学問（生物学、化学、物理学、数学、他）の基本的な文献を読む訓練を行う。文献に書かれている内容を理解するだけでなく、著者や編者の意図をくみとるためにどのような読み方（読み方の技術）が必要になるかを学ぶ。リーディングにおいては、テキストの枠組みと方向性を示唆する先行オーガナイザーの設定が重要な役割を果たす。この科目では、そうしたことに十分に着目して授業を展開する。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	自然科学アカデミックス（ライティング）	自然科学領域に属する学問（生物学、化学、物理学、数学、他）におけるレポート執筆および発表原稿執筆の基本的な訓練を行う。大学で求められるレポートや発表は自分の自由な思いを綴った作文や感想文ではない。学生に期待されるのは、学問的客観性と普遍性が保たれたうえで、書き手の独自性が論理的に展開されている文章を書くことである。	
U S 科 目 群	自然 科学 科 目 群	名著講読（自然科学）	自然科学領域に属する学問（生物学、化学、物理学、数学、他）の古典や名著といわれる文献の講読を通して、文献の読解力、概略的な内容の把握、概略の理解、解釈的な意味の認識等についての能力を養成する。名著に触れることによって、視野の拡大、自己の思考力の活用力、主題設定に対する重要性の理解を図っていく。該当領域において広く有用であると認められる知見・技術・考え方を開拓するものとなるように、知識の蓄積を増やすことを目的とする。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	ミクロ脳科学	『ミクロ脳科学』では人間の心のはたらきを司る脳と神経の基礎的なはたらきの詳細についてミクロレベルで理解することを目的とする。まず、脳と神経系の成り立ち、出来上がる仕組み（発生・発達）、脳神経回路での信号と伝達を概説する。その上で、知覚、情動、記憶、動機づけ、意思決定、運動、および行動制御のミクロレベルでの脳内メカニズムについて言及する。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	マクロ脳科学	『マクロ脳科学』では人間の心のはたらきを司る脳の基礎的なはたらきとその成果の展開についてマクロレベルで理解する。まず、脳と神経系の成り立ち、出来上がる仕組み（発生・発達）、脳神経回路での信号と伝達、および脳について、マクロレベルで概説する。我々の知覚、思考、行動はすべて脳の電気的活動によって制御されていることを学び、神経科学上の成果が人間理解や社会生活に大きな影響を及ぼし始めていることを理解することを目標とする。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	健康スポーツ理論	WHO（World Health Organization）によると、健康とは「肉体的・精神的及び社会的に最良の状態をいい、万人の享有する基本的人権のひとつ」である。しかし、現代の生活は、「健康」といえるものになっているだろうか。一方、スポーツは健康のためには欠かせないものではあるが、一部のスポーツへの取り組みは健康を脅かすものとなっていないだろうか。本科目では、健康に対する理解を深めると同時に、健康とスポーツの関わり、スポーツの功罪などについて考察する。健康を尊重し、その維持、増進に積極的に取り組む姿勢を養うことを目指す。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	生涯スポーツ演習	体を動かすということは、人間にとって最も根源的な欲求である。生活の中で適度にスポーツを取り入れることは、心身両面の健康体を築くためには不可欠である。本科目では、多様なプログラムを用意し、それぞれの種目を通して、健康に対する基礎的知識、また、生涯にわたりスポーツを楽しむ生活習慣を身に付けることを目標とする。さらに、種目のルール、マナーを学ぶことによって、社会性の育成、健全な競技精神、安全管理についての習慣・態度を育成する。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	環境教育	我々の生活は膨大なエネルギー消費によって快適なものとなっているが、それは地球環境に負荷を負わせることに他ならない。地球規模での環境悪化の問題は常に論じられているが、我々はどこまでその本質を理解しているのか。環境教育の現状と課題を理解し、環境問題と環境教育の専門的知識を習得し、未来の地球に向けて我々がどのような行動をとるべきか、個々人の見解を形成することを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	スポーツ史	スポーツは人類の文化である。その原初の形は戦い、狩猟、踊り、祈りなど生活の中から生まれてきた。しかし現代では一国の政治・経済とも関わる存在となってきた。我が国においても1961年に制定された「スポーツ振興法」では、国民の明るく豊かな心身の健全な発達を図る目的と個々人の権利を保障する内容であった。2011年に制定された「スポーツ基本法」では、スポーツ立国の実現を目指し、国家戦略として推進するとまでスポーツの価値が変化している。本講義では、スポーツの発生から、古代オリンピック、近代スポーツ、さらには、ニュースポーツ、アダプテッドスポーツなどの歴史を探る中でスポーツの文化を学習する。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	オリンピック文化論	オリンピックの諸問題を分析的・総合的に考え、「幅広くかつ深く知る力」を身に付ける。① オリンピック・リテラシー：心身ともに調和のとれた若者を育てるという「教育運動」及び平和な世界の構築を目指す「平和運動」としてのオリンピックのもつ文化性を理解する。② テキスト・クリティーク：新聞やwebsiteなど物語展開や映像を批判的に読み解く能力を養うとともに、近代オリンピックの光と影の両面について批判的に考える。また、自分の考えを適切に表現する。③ メディア・リテラシー：オリンピックを別次元のことと見なさないで、メディアの問題も視野に入れ、自分の現実の生活と関連づけながら、メディア情報を適切に読み解く。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	栄養学	栄養学的素養は子どもたちの健全な発育を促すのに不可欠である。健康づくりの柱として栄養・運動・休養があるが、運動と栄養の関係は密接である。授業では、栄養素の基本的働きなどをふまえ、運動と栄養の関係について、様々な角度から検討する。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	病理学	形態学的に、「病気の原因」、「仕組み」、それに「経過」を学ぶ。顕微鏡や電子顕微鏡を用いて、肉体的あるいは精神的な病(やまい)の基礎をなす“構造上の変化(組織学的変化)”が明らかにされた疾患について理解を深める。それは、今後とも病気知らずで過ごしていくことに役立つばかりではなく、なおいっそう健康を増進させていくことにも結びつく。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	マスメディアと社会	人が現代社会で生きるために、切っても切り離せない情報とは何かということ学ぶ。情報といっても、それだけで成り立っているわけではない。多種多様な情報があり、新聞や雑誌、インターネットやメールなどの電子情報のメディアがある。場合に応じて、さまざまな現れ方、使われ方をされている。しかも、その情報によって、人の生き方や政治、経済、生活が変わってしまうほどの価値がある。公的にも私的にも情報はさまざまな役割を担っている。教科書をそのまま学習するのではなく、教科書で得たものを身に付けたいうえで、個人がメディアとして機能しうる表現力を身に付けることを目指す。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	現代文化論	世界が身近になり、「文明の衝突」に象徴されるように多様な価値間の摩擦が顕著になっている。こうした衝突は21世紀においては一層激化されることが懸念されている。私たちを取り巻く現代の文明の位置関係や構造と融和について学ぶ。現代社会における文化の諸相についてふれながら、文化研究と社会学の基礎的な概念および研究視角について修得し、自らが関係する文化のあり方、さらに自己が関係する文化のあり方を理解し、自らその意味を問うことを目標とする。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	プレゼンテーションスキル	現代社会において、必要な情報活用能力のうち他者と協力してコミュニケーションを図る力や自分の考えやイメージを的確に伝える力は、不可欠である。本授業では、こうしたコミュニケーションに不可欠な力を育成するために、コミュニケーションに欠かせないデジタル資料を使ったプレゼンテーション技術や口頭によるプレゼンテーション技術の基礎を学ぶとともに、その実践を通してプレゼンテーションに必要な力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	Presentation Skills in English	英語による研究発表を首尾よく計画し実行するのに不可欠な英語コミュニケーション、プレゼンテーションスキルや研究手法、コンピュータスキルを育成する。個人で、グループで、また正式、また略式(公式、準公式)的にプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。聴衆からの質問への対応の仕方等発表の過程のあらゆる段階で丁寧に(詳細に、細かく)指導する。本質的で根本にある目標は、学生が英語で効果的な発表を行うのに必要な自信を養うことにある。授業は英語で行う。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	複合領域研究 201～299	知識基盤社会の本格的な到来をむかえ、高度化、グローバル化、複雑化する現代社会において、多角的な視点で物事を捉え、新たな未来を構築できる人材が求められている。そのため、学問においても、既存の学問領域の枠組みでは捉えきれない事象について、様々な学問の知見を援用しながら学ぶことが必要になってきている。この科目では、現代社会での諸問題を取り上げ、多様な観点から考察する。特に、その時々々の社会的な課題の中から複数のテーマを設定し、人文科学、社会科学、自然科学といった個々の枠組みではなく、それらを複合した領域の視点から、その諸課題に対する総合的な検討に取り組んでいく。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	情報倫理と社会	情報化とグローバル化が加速する現代社会における技術者の倫理について、さまざまな事例を参照しながら学び考察する。デジタル社会の一員としてのふさわしさを考え、コンピュータとネットワークの急速な進歩とともに課題となっている知的所有権に関わる問題、不正アクセス、セキュリティなどの問題に特に重点を置く。また、それ以外にも企業倫理、内部告発、PL法と品質管理、工場所有権、グローバル活動に伴う倫理、喫緊の要事である環境倫理、新たな技術に伴う課題を抱える生命倫理についても講義する。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	野外教育	総合的な野外活動としてキャンプを捉え、その基礎的な理論(特性・歴史・計画・運営・マネジメント・危機管理・評価など)を通し、野外での教育活動(自然体験・冒険活動・環境保護活動)を理解し、自然と人が共生していく必要性について学ぶ。また、体験学習法であるTAP(Tamagawa Adventure Program)の基礎的な考え方を通し、他者との関わり方やコミュニケーションのとり方などについて理解し、対人的に安全な環境作りの手法や人と自然を尊重する心について学ぶ。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	TAPファシリテーションI	学校教育、企業、地域等の様々な場面において、TAP(Tamagawa Adventure Program)を活用し、ファシリテートできるようになるための、具体的なスキルを習得することを目的とする。授業では、学内に常設されているチャレンジコースも使用しながら、まずはTAPを実際に体験していく。その中で、グループ内におけるリーダーシップのあり方について学んだり、グループの発達を実際に体験したりすると共に、TAPをファシリテートしていく上で必要となる、基礎的なスキルを習得する。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	TAPファシリテーションII	学校教育、企業、地域等の様々な場面において、TAP(Tamagawa Adventure Program)を活用し、ファシリテートできるようになるための、知識の習得を目的とする。授業では、これまでに実際に体験してきたTAPの体験をベースとして、TAPの歴史的背景や基礎理論、またファシリテーターとして求められる基礎知識を学んでいく。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	環境教育ワークショップI	環境への関心や理解を深めるため、環境教育を推進することができる態度・知識を身に付けることを目的としている。授業では、環境教育概説・体験学習の理論・プログラムデザイン・プレゼンテーションスキルなどの基礎を学び、「子ども環境講座プログラム」の模擬授業に応用できる力を養う。また、玉川大学環境エデュケーター資格を取得するために必要な条件である、学生環境保全委員会活動に参画し、活動する上で必要な基礎的スキルを身に付ける。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	環境教育ワークショップII	環境への関心や理解を深めるため、環境教育を推進することができる実践力を身に付けることを目的としている。授業では、ファシリテーションスキル・コミュニケーションスキルの基礎知識を学び、「子ども環境講座プログラム」の模擬授業を通し実践力を養う。また、玉川大学環境エデュケーター資格を取得するために必要な条件である学生環境保全委員会活動に参画し、活動する上で必要な基礎的スキルを身に付ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	コーオプ・プログラム	高等教育における創造的人材育成の一環として、企業・大学の産学連携により行われる、インターンシップなどのプログラム。学生は、在学中に自らの専攻、将来のキャリア形成に関連した業種、職種の企業内でインターンシップ(就業体験)をすることで、大学で学ぶ理論の知識と仕事の現場での実践による学び(智)を結び付けること、および学生自身の将来のキャリアビジョンをより明確化することを目的とする。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	キャリア・マネジメント	21世紀初頭は、終身雇用制度、年功序列による賃金制度といった日本の従来の人的資源管理は崩壊の一途をたどり、雇用情勢は変化している。ビジネスパーソンは、高いエンployアビリティ(雇用される能力、雇用可能性、転職能力、自分の市場価値)を身に付けることにより、このような雇用不安を払拭し、キャリアを確立することができるといえる。そこで、社会の現状を把握し、雇用形態の多様化や自立的キャリア形成等の観点から、これからのキャリアマネジメントを学ぶ。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	海外留学入門	海外留学のシステム・意味・学修成果から留学計画・準備の進め方まで包括的かつ体系的に学ぶものである。具体的には、日本と留学先国(主に欧米・オセアニアなど)の国際教育交流に関する政策・制度、そして海外留学プログラムの種類や特徴を比較し、海外留学の意義、学修方法や成果、キャリアに与えるメリット等について学ぶ。更に、ディスカッションをしながら、各自の「なりたい自分」に向けた具体的な留学計画や今すべきことを明らかにしていく。 グローバル人材・市民像、及びそれらに必要な資質・能力の修得に向け、海外留学の重要性を認識し、留学に対する具体的な計画・準備を進めることができる。また、海外留学の意義、学修経験・成果、キャリアにおける留学のメリットを確認し、自身にとっての留学意義や目的を見出し、それらを日本語もしくは英語で発表できることを目標とする。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	インターンシップA	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップB』とは実習先が異なる。『インターンシップC』『インターンシップD』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	インターンシップB	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップA』とは実習先が異なる。『インターンシップC』『インターンシップD』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	インターンシップC	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップD』とは実習先が異なる。『インターンシップA』『インターンシップB』とは、実習先、期間、時間が異なる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	インターンシップD	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップC』とは実習先が異なる。『インターンシップA』『インターンシップB』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究A	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究B』『国際研究C』とは訪問先が異なる。『国際研究D』『国際研究E』『国際研究F』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究B	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究A』『国際研究C』とは訪問先が異なる。『国際研究D』『国際研究E』『国際研究F』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究C	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究A』『国際研究B』とは訪問先が異なる。『国際研究D』『国際研究E』『国際研究F』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究D	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究A』『国際研究B』『国際研究C』『国際研究E』『国際研究F』とは、訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究E	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究A』『国際研究B』『国際研究C』『国際研究D』『国際研究F』とは、訪問先、期間、時間が異なる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	国際研究F	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究A』『国際研究B』『国際研究C』『国際研究D』『国際研究E』とは、訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	Japan Studies Overseas A	海外での様々な体験は、日本における「標準」が絶対的なものではないことを、いやが上でも日本に暮らす我々に意識化させる。本講では受講者各自が問題意識を持って調査対象と目的を設定し、それを実現する具体的な方法を決定して実際に海外で調査を行い、研究報告書としてまとめ上げていく過程を通じて、様々な文化や社会の価値観を相対化していく視野を身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Japan Studies Overseas B』『Japan Studies Overseas C』とはプログラムが異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	Japan Studies Overseas B	海外での様々な体験は、日本における「標準」が絶対的なものではないことを、いやが上でも日本に暮らす我々に意識化させる。本講では受講者各自が問題意識を持って調査対象と目的を設定し、それを実現する具体的な方法を決定して実際に海外で調査を行い、研究報告書としてまとめ上げていく過程を通じて、様々な文化や社会の価値観を相対化していく視野を身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Japan Studies Overseas A』『Japan Studies Overseas C』とはプログラムが異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	Japan Studies Overseas C	海外での様々な体験は、日本における「標準」が絶対的なものではないことを、いやが上でも日本に暮らす我々に意識化させる。本講では受講者各自が問題意識を持って調査対象と目的を設定し、それを実現する具体的な方法を決定して実際に海外で調査を行い、研究報告書としてまとめ上げていく過程を通じて、様々な文化や社会の価値観を相対化していく視野を身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Japan Studies Overseas A』『Japan Studies Overseas B』とはプログラムが異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	フィールドワークA	国内におけるさまざまな規模のコミュニティ(小集団、群衆、社会等)に入り込み、協働や交流をして観察および分析を行うことで、動的性質や構造の理解を深めることを目的とする。学生が対象コミュニティに飛び込み、そのコミュニティの構成メンバーと連携し、さまざまな実践的活動を行う点の特徴とする。具体的には、指導教員のもと学生が自身の学修課題ないし計画を設定し、それらに沿った観察、分析、意見交換、そして計画の再構成などを繰り返しながら、最終的に成果発表を行う。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	フィールドワークB	国内におけるさまざまな規模のコミュニティ(市町村、都市、地方、自治体等)に入り込み、協働や交流をして観察および分析を行うことで、動的性質や構造の理解を深めることを目的とする。学生が対象コミュニティに飛び込み、そのコミュニティの構成メンバーと連携し、さまざまな実践的活動を行う点の特徴とする。具体的には、指導教員のもと学生が自身の学修課題ないし計画を設定し、それらに沿った観察、分析、意見交換、そして計画の再構成などを繰り返しながら、最終的に成果発表を行う。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	フィールドワークC	国内におけるさまざまな規模のコミュニティ(劇場、協会、企業、学校等)に入り込み、協働や交流をして観察および分析を行うことで、動的性質や構造の理解を深めることを目的とする。学生が対象コミュニティに飛び込み、そのコミュニティの構成メンバーと連携し、さまざまな実践的活動を行う点の特徴とする。具体的には、指導教員のもと学生が自身の学修課題ないし計画を設定し、それらに沿った観察、分析、意見交換、そして計画の再構成などを繰り返しながら、最終的に成果発表を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクトA	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトB』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトC』『地域創生プロジェクトD』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクトB	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトA』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトC』『地域創生プロジェクトD』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクトC	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトD』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクトD	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトC』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクトE	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトF』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトC』『地域創生プロジェクトD』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
U S 科 目 群	学 際 科 目 群	地域創生プロジェクトF	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトE』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトC』『地域創生プロジェクトD』とは訪問先、期間、時間が異なる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF 101	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。『ELF 101』では、高等学校までの英語学習をもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能において、それぞれの弱点を理解し、克服しながら、得意な領域についてはさらに伸ばしながら確実に運用ができるようにするため、日常生活に関わるいくつかのトピックを設定し、特にリーディング、リスニングを中心に授業を展開し、英語の基礎的理解力を確実なものとする。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF 102	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 101』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能において、それぞれの弱点を理解し、克服しながら、得意な領域についてはさらに伸ばしながら確実に運用ができるようにするため、日常生活に関わるいくつかのトピックを設定し、特にリーディング、リスニングを中心に授業を展開し、英語の基礎的理解力を確実なものとする。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF 201	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能において、それぞれの弱点を理解し、克服しながら、得意な領域についてはさらに伸ばしながら確実に運用ができるようにするため、日常生活に関わるいくつかのトピックを設定し、リーディング、リスニングはもとより、段階的にスピーキング、ライティングなど発信に重点を移行しながら授業を展開し、英語の4技能の基礎を確実なものとする。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF 202	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 201』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能において、それぞれの弱点を理解し、克服しながら、得意な領域についてはさらに伸ばしながら確実に運用ができるようにするため、日常生活に関わるいくつかのトピックを設定し、スピーキング、ライティングなど発信に重点をおいた授業を展開し、英語の4技能の基礎を確実なものとする。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF 301	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 202』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能のバランスをとりながら運用ができるようにするため、現代社会における様々な事象をトピックとして設定し、特にスピーキング、ライティングにおいては状況に応じて柔軟に発信ができるように授業を展開していく。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF 302	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 301』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能のバランスをとりながら運用ができるようにするため、現代社会における様々な事象をトピックとして設定し、特にスピーキング、ライティングにおいては状況に応じて柔軟にかつ自信をもって発信ができるように授業を展開していく。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF 401	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 302』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能のバランスをとりながら運用ができるようにするため、現代社会における様々な事象をトピックとして設定し、特に英語による情報収集とそれらを利用した問題解決を中心に授業を展開していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	言語表現科目群	ELF 402	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 401』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能のバランスをとりながら運用ができるようにするため、現代社会における様々な事象をトピックとして設定し、引き続き、より高度な英語による情報収集とそれらを利用した問題解決を中心に授業を展開していく。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	日本語表現 101	日本語による表現力を身に付けることを目標とする。句読点の使い方や文章の構成法を学ぶことから始まり、最終的には読み手を想定して論理的で説得力のある文章が書けるようになることを目指す。はじめに、表現をするために必要なモノ・コトを理解する。その上で、調査方法、考察のしかた、引用上の注意、他者の批評などを学ぶ。さらに、これらをプレゼンテーションする際の方法についても学習する。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	日本語表現 102	『日本語表現101』を発展させた授業である。日本語による表現力を身に付けることを目標とし、現代の社会で想定されるさまざまな場面、手紙、レポート、討論などの擬似体験を通して日本語の運用技術をみがく。具体的にはブレイン・ストーミング、データの整理、下書き、推敲、といった文章作法のプロセス、手紙、レポート作成上の留意点などについて学ぶ。今後さまざまな場面で要求されるであろうテーマに対して自己表現を行いながら、表現の幅を広げ、質の向上を目指す。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	フランス語 101	「話す」「聞く」「書く」「読む」の4つの運用能力の初級レベルの習得を目指す。言葉はまず音としてある。このことから、本科目では、仏語の初歩のうち発音や綴りから始める。そして、基本的な語彙や表現を用いて自分の言いたい事や必要な事を相手に伝えられるようになるための練習を行い、コミュニケーションのためのフランス語の力を身に付けることを目標とする。また、フランスと日本の文化の違いを学び、両国の異文化理解を深めることも目標とする。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	フランス語 102	『フランス語101』の履修者を対象とした授業。どこの国の言語にも、言葉の使い方に一定の決まりがある。いくら語彙が豊富で単語を並べても、その単語を正しい順序やつながりで表現しなければ意味のある文にはならない。本科目では、言葉を使う上での基本的な枠付けを段階的に修得し、コミュニケーションのためのフランス語の力を身に付ける。また、フランスと日本の文化の違いを学び、両国の異文化理解を深めることも目標としている。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ドイツ語 101	ドイツ語初学習者を対象とした授業。母音、子音の発音からはじめてドイツ語の基礎を学ぶ。挨拶、自己紹介などの平易なコミュニケーションを通してドイツ語の特徴を理解し、読解・聴解などの練習を含めた総合的な表現能力を養うことを目標とする。ドイツ語を使って発信するために必要な能力の養成に重点を置く。文法・作文などの練習を通して基本文型を修得する。さらに、ドイツ語圏、ヨーロッパ圏の文化に触れることで、異文化理解を進める。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	ドイツ語 102	『ドイツ語101』の履修者を対象とした授業。『ドイツ語101』で修得した文法（動詞の人称変化、名詞の格など）の知識を確かなものにしなが、初級文法で必要とされる事項（数詞、序数詞、分離動詞など）を学ぶ。発音、音読を中心に置くが、文法についても基本文型も充実させながら、日常生活の中で最低限必要とされる事柄を表現できることを目標とする。また、辞書の活用方法にも習熟する。さらに、ドイツ語圏、ヨーロッパ圏の文化に触れることで、異文化理解を進める。	
U S 科 目 群	言語表現科目群	スペイン語 101	文字と発音および簡単なあいさつなどから始めて、スペイン語の初級文法の最も基礎的な部分と最重要の語彙を学ぶ。習った文法知識が単に知識のままで終わらないように、口頭練習を数多くおこなう。練習は、教師が学生ひとりひとりにスペイン語で質問し、それに対して学生がスペイン語で答えるという形式のものが中心になる。学期終了時には、あいさつ、自己紹介、身のまわりの簡単なことについての口頭表現がスペイン語でできるようになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科目群	言語表現科目群	スペイン語 102	『スペイン語101』の単位をすでに取得している学生を対象に、『スペイン語101』の続きとして文法と重要語彙を学習し、スペイン語運用能力を育成するための口頭練習を繰り返しおこない、スペイン語音発音に慣れる。ここで扱う事項は動詞の活用など多少複雑な項目を含むが、本科目終了時にはスペイン語の初級会話に必要な文法、語彙、表現の基本を習得したことになる(命令形、比較級・最上級、直接法現在完了、過去法点過去・線過去、未来形、現在完了など)。	
U S 科目群	言語表現科目群	中国語 101	実用的な日常言語の基礎を習得することを目標とする。本科目は入門クラスで、発音(声調、単母音、複合母音、子音、鼻音を伴う母音など)の練習から始め、最も基本となる語彙、文法(“是”構文、疑問文、代名詞、助詞、動詞述語文、反復疑問文、形容詞述語文、選択疑問文、比較文など)、簡単な日常会話などをビデオ教材を使って、日常生活の表現の中で学んでいく。また、言語の背景となる中国の社会的文化的背景についても紹介していく。	
U S 科目群	言語表現科目群	中国語 102	『中国語101』に引き続き、基礎中国語の運用能力の向上を目指す。日常的なコミュニケーションに必要な基本的表現(数をたずねる、年齢・月日・時刻の言い方、進行の表し方、電話のかけ方など)および基礎文法(結果補語、可能表現、可能補語、常用副詞、使役動詞など)を学習する。また、リスニングや繰り返しの発音練習により、中国語の正しい発音を習得する。『中国語101』と同様にビデオ教材を使用する。簡単な翻訳までを目標とする。	
U S 科目群	資格関連科目群	学校経営と学校図書館	学校図書館の理念と教育的意義について、生涯学習社会、情報社会における学校教育を支援する学校図書館の在り方を中心に取り上げる。また、学校図書館の経営については、組織、予算の面から論じるとともに、学校図書館メディアの選択・管理の方法、学校図書館と地域社会との連携協力の重要性について解説する。その他、図書館司書のプロフェッショナル性についても言及する。	
U S 科目群	資格関連科目群	学校図書館メディアの構成	学校図書館サービスの資源となる情報源について、その種類と特性を教育課程との関連から取り上げる。また、利用者の情報資料への要求に対して、的確な情報資料が検索できるための、メディア組織化の技法について解説する。さらに、多様な学習環境に応じた学校図書館メディアの構成、学習情報センターとしての学校図書館の在り方について論じる。その他図書館司書のプロフェッショナル性についても言及する。	
U S 科目群	資格関連科目群	学習指導と学校図書館	教育課程と学校図書館について、教育課程の基本方針・編成の側面から取り上げ、教育課程の展開に寄与する学校図書館の在り方を論じる。また、情報活用能力の育成においては、学校図書館メディアの活用能力が不可欠であることを示したうえで、メディア活用の事例を取り上げる。さらに、学習過程における学校図書館メディア活用の重要性、学習指導における学校図書館メディアの検索・活用、情報サービスの利用について解説する。	
U S 科目群	資格関連科目群	読書と豊かな人間性	読書の今日的意義、心の教育に果たす読書の役割について論じる。さらに、発達段階に応じた読書の指導・計画について、読書能力や読書興味との関連から解説する。次いで、児童生徒向けの読書資料について、その種類と活用の実際を取り上げ、さらに読書の種々の指導方法の特性を論じ、指導方法の評価、改善について解説する。その他図書館司書のプロフェッショナル性についても言及する。	
U S 科目群	資格関連科目群	情報メディアの活用	高度情報社会での学校教育における、各種の情報メディア活用の意義、重要性を論じる。そのうえで、情報メディアの種類と特性、視聴覚メディアの活用について具体的に取り上げる。また、学校教育へのコンピュータの活用については、インターネットによる情報発信、学習支援ソフトウェア等について取り上げ、その活用事例を紹介し、その意義、コンピュータ活用がもたらす新たな学習観について論じる。最後に、学校図書館メディアと著作権の問題を解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	生涯学習概論	現代社会での個人または集団、社会の向上のために、生涯を通じて人間的、社会的、職業的な発達をはかることは今日的な重要課題である。こうした生涯教育という関心は歴史的に新しいけれども、その理念は近代公教育以前から見られる。この理念に遡りその原型から今日の生涯学習の支援状況を分析していく。また、今日の成人・高齢者の発達や学習要求を明らかにする。この分析に従い、最近の新しい動向、「学習ボランティア」や「学社融合」やマルチメディアなどに言及する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	図書館概論	現代社会における図書館の意義について、特に、生涯学習社会における図書館の役割、情報社会における図書館の位置付けと機能を中心に解説する。さらに、公共図書館の機能、図書館法、図書館の自由について解説し、公共図書館の制度や課題を論じる。また、大学図書館、学校図書館、国立図書館について、それぞれの機能と関連する図書館法律を取り上げる。図書館司書の取得を目指す学生の履修を想定した科目である。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	図書館情報技術論	情報技術が進展し、資料のデジタル化など印刷から電子的な情報形態への移行が増加するにつれて、図書館の機能やサービスも変化してきている。本講義では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	図書館制度・経営論	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。図書館制度を支える法制度について体系的に説明できること、また、図書館経営の基礎知識を理解し説明できることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	図書館サービス概論	利用者に提供される図書館サービスについて、閲覧、資料提供、情報提供、集会・文化活動に大別し、その意義、内容、機能を解説する。次いで、利用対象別のサービスとして、児童サービス、高齢者サービス、障害者サービス、さらには多文化サービスを取り上げその内容と特質を解説する。また、図書館サービスとボランティアの関係についても取り上げる。その他図書館司書のプロフェッショナル性についても言及する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	情報サービス論	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、利用者の情報ニーズの把握から情報(源)の入手に至るレファレンスプロセスを概観する。次いで、レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス、情報検索サービス、発信型情報サービス、図書館利用教育等のサービス方法について学ぶ。参考図書・データベース等の各種の情報源についても基礎知識を得る。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	児童サービス論	児童サービスの意義、児童資料の特色と選択、児童コレクションの形成と管理について解説する。次いで、ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトークなど、児童サービスの方法・技術を取り上げる。また、児童サービスの運営について解説し、学校、学校図書館との連携、幼稚園、保育園、児童館、子ども文庫との連携協力の諸問題を取り上げる。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	情報サービス演習A	利用者の情報要求の把握から回答の提供にいたるプロセス、および各種情報源の特性について解説する。その上で、各種のレファレンス質問について、実際に図書館において情報源を探索し、回答の入手、提供に至るプロセスについて学習する。なお『情報サービス演習A』では主として冊子体の情報源を中心としつつ、必要に応じて電子媒体も使用する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	情報サービス演習B	データベース、論理演算子、トランケーション、シソーラス、検索戦略、再現率と精度など、情報検索に必要な理論と技法を学ぶ。その上で、CD-ROM、商用オンラインデータベース、検索エンジンといった各種の情報検索システムを用いて、検索戦略の構築、検索作業の実践について演習を行い、実践的な検索能力を身に付ける。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	図書館情報資源概論	図書館が提供する情報資源(印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源)について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存など、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を学ぶ。また、生産される莫大な情報資源のなかから図書館資料として選択、収集し、コレクションを形成していく過程について取り上げる。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	情報資源組織論	現在の図書館は、印刷資料から多種多様なメディアへとサービスの対象を拡げている。したがって、それぞれのメディアの特性に合わせた組織化が求められている。本講義では、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	情報資源組織演習A	現在の図書館は印刷資料から多種多様なメディアへとサービスの対象を拡げている。したがって、それぞれのメディアの特性に合わせた組織化が求められている。本講義では、情報資源の組織化のうち、目録法の演習を行う。多様な情報源に関して、目録規則を適用して書誌データを作成する技法について、演習を通して習得し、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	情報資源組織演習B	現在の図書館は印刷資料から多種多様なメディアへとサービスの対象を拡げている。したがって、それぞれのメディアの特性に合わせた組織化が求められている。本講義では、情報資源の組織化のうち分類法と件名目録法の演習を行う。多様な情報源に関する主題分析、分類作業、統制語彙の適用等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	図書館情報資源特論	図書館が提供する情報資源である印刷資料・非印刷資料、電子資料、ネットワーク情報資源について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存や図書館情報資源の組織化の理論と技術など各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、授業を行う。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	図書・図書館史	人間の知的活動の所産である図書館の記録メディアの変遷、発展過程について解説し、人間のコミュニケーションと記録メディアとの関係について明らかにする。また、社会制度としての図書館の歴史について取り上げ、現代の図書館を成立させている歴史的基盤を解明する。古代から近世にいたる各時代において登場したメディアと図書館の特徴について、近・現代社会のメディアと図書館の特徴と対比させながら、説明できるようになることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	図書館施設論	図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を解説する。具体的には、公共図書館に限らず、学習に特化した新しい図書館デザインモデルである「ラーニング・コモンズ」が提唱されている大学図書館や、先進的な学校図書館の事例を取り上げ、図書館における学びの空間デザインに焦点化して展開する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	生涯学習と生涯教育	一人ひとりの生涯にわたる学習を出発点に位置づけ、組織や社会の持続可能な発展を展望する「学習社会」を志向する意義や課題について学ぶ。具体的には、個人の学びと組織や社会の発展、おとなの学習者理解と学習支援の方法、学びあうコミュニティの意義や社会とつながる学びの在り方、学習社会の課題と展望について、考察をする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群 生涯学習支援論A	学習者の多様な特性を尊重し生かした学習支援に関する知識及び技能の習得を目的としている。具体的には、現代社会における生涯学習支援の考え方、教育理論（ベダゴジー・アンドラゴジー・ジェロゴジーなど）を踏まえた効果的な学習支援、参加型学習プログラムや支援者の在り方について、理論と実践を往還しながら学ぶ。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群 生涯学習支援論B	学習者の多様性を尊重し、主体的な参加を促す学習支援に関する知識や技能の実践的な力量を培う。具体的には、現代社会の状況や学習プログラムに基づき、主体性を育む参加型学習のプログラムやその支援の在り方について考察するとともに、演習で学び合うプロセスを通して、ファシリテーション能力について実践的に学ぶ。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群 社会教育経営論A	「多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図る」を基にしながら社会教育経営論の概要を学修する。また、社会教育全般を網羅しつつ、「地域」、「コミュニティ」を多面的に捉えながら「課題解決」、「連携・協働」していくために必要な情報を習得し、その方法などについて考察する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群 社会教育経営論B	農村型社会から都市型社会への変貌のもとで、また市民や企業によるボランティアな活動が進展する中で、社会教育や社会教育行政はどのように変わるべきか、地域のガバナンスはいかにあるべきかについて多角的に考えるとともに、地域での社会教育実践や学習者支援に際して求められる基礎的な知識等を身につける。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群 社会教育実習	社会教育主事等、社会教育関係の職員を目指す者、あるいは社会教育に関心がある者を対象とし、社会教育の現場での実践的な能力（学習課題の把握、企画力、組織化、コーディネートなど）を養成することを目的とする。講義・実習を折りまぜながら実施していく。更に本実習を通して、いかなる職業についても必要なチームワークや、自らの言動によって個人・組織・社会のイノベーションを図れるようなリーダーシップ力を培う。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群 社会教育課題研究	社会教育が果たしてきた役割をふまえたうえで、今日の社会教育や社会教育関係職員の役割や課題について考察する。生涯学習の中での社会教育の意義と課題を考察しながら、関係法規、社会教育行政の組織と運営・職員や指導者の在り方や社会教育計画と実施方法・施設について論ずる。さらに青少年教育、成人教育、高齢者教育、女性教育をとりあげ、企業内教育やマス・コミと生涯学習の関係、ボランティアの役割についてもふれながら課題研究を行う。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群 社会体育論	余暇開発が言われるようになって久しい。長寿社会の到来とともに、人生を設計し、いかに豊かに送るかといった人生観が登場した。真に、現代は、クオリティー・オブ・ライフが問われる時代である。人々は、物質的な豊かさだけでなく、各自の健康や体力の維持増進について意識し始めるようになった。本講では、生涯体育、生涯スポーツの考えを基本に、社会体育のあり方やその活動の現状などについて学習する。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群 博物館概論	博物館の始まりから現代の課題までの歴史を通観する。博物館学の入門として、博物館の起源と各国での展開について基礎知識を得る。特に、博物館の概念が輸入された近代日本における特性を海外との比較のもと理解することを目指す。日本における博物館の概念と制度の基礎的な知識を踏まえ、これからの博物館の可能性について事例とディスカッションを通して学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	博物館経営論	博物館経営の問題を理解し、その適切な管理・運営を考え、博物館経営の基礎的な能力を身に付ける。博物館の形態面と活動面における管理・運営を理解し、博物館経営(ミュージアムマネジメント)の基本的要素やシステムの内容を適切に説明できることを目標とする。同時に、現代の博物館の問題点や課題をもとに、これからの博物館のあり方を考察できることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	博物館資料論	博物館の役割や責任を理解し、博物館資料の概念と、その収集・保管・活用の知識と技術を身に付ける。博物館資料の収集、整理、保存管理や提供に関する基礎的知識ならびに博物館資料を提供する方法と注意点を説明することが出来ることを、また、資料を用いた研究の意義と実例を解説することが出来ることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	博物館資料保存論	博物館資料は社会の文化財であることを理解し、その劣化を防ぐ適切な保存法を、具体的に知る。資料保存に関連する各種用語を正確に理解し、その意味を説明できること、博物館資料を保存する責任を自覚し、その意義・目的について説明できることを目標とする。また、博物館資料の各劣化要因とそれらの結果及び各要因間の相互関係、博物館資料を良好な状態で保存するための諸条件を科学的に説明でき、必要な対策をとることができることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	博物館展示論	博物館・美術館における展示の意味と役割を、歴史・理論・実践例等をふまえて概説する。また展示に不可欠な「もの」や「こと」を解説する技術を、具体例の分析と方法の教授、そして講義内での実践を通じて学修してもらう。以上を通じて博物館・美術館での展示に必要な知識と技術を修得することを目指す。 具体的には、博物館・美術館における展示の意義を理解し、歴史・理論・実践例をふまえて説明すること、展示解説の基礎力として、物事を的確に観察・調査し、文章で端的に説明することができるようになることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	博物館教育論	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。博物館教育に関する法規資料を確認したり、歴史や現在のあり方について取り上げたりする。また、博物館教育やアートプログラムに携わっているプロから実施の要点や工夫を直に聞く機会を設ける。博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を説明でき、博物館教育の現状を捉え、今後の博物館教育についての考えを述べることを目標とする。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	博物館情報・メディア論	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。社会メディアとしての博物館の社会的役割を理解する。それ自体がメディアでありまた多くのメディアを利用する博物館が生成し、保有する情報資源をどのように社会の文化資本として生かしていくか、理論や実践例などから学習し、理解を深める。博物館にはたらく人材または博物館の利用者としてのリテラシーを身に付ける。	
U S 科 目 群	資格 関 連 科 目 群	博物館実習	博物館と美術館の学芸員の業務遂行に必要な基礎知識と実践力を培うために、小人数編成のグループに別れてさまざまな博物館業務の実習を行う。学芸員業務を体得し、その基礎的活動ができるようになること、また、展覧会の企画書の作成を通して、企画力、チームワーク、プレゼンテーション力を向上することを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	芸術概論	(概要) 芸術学部で学ぶ学生として様々な価値観とアートに触れ、自らの指針を定める芸術学部の基礎科目である。前半は学科で学ぶことのできる専門分野について具体事例から概要を学び、4年間を通じて学ぶ分野の理論や実技の基盤を作ること为目标とする。後半は芸術学部の専門分野を切り口に、日本の芸術文化を概観する。さらに、芸術の世界で第一線で活躍するゲストを招聘し、芸術の世界の最前線に触れる機会を設ける。 (オムニバス方式／全15回) (1 長裕二／3回) 芸術経営の視座から、ミュージカル公演を世界と日本の実例をもとに議論、考察する。 最終回には、芸術の世界で第一線で活躍するゲストを招聘し、芸術学部で学ぶ学生として必要となる素地を養う。 (2 清水宏美／2回) 日本の音楽について多岐にわたる唄、楽器、芸能の紹介、日本音楽の歴史と音楽の特徴について述べ、我が国や郷土の伝統音楽の基礎的な知識を身に付ける。 (3 中村岩城／2回) 演奏する立場で楽譜を読むということについてオルガニストの立場から具体的事例を示しつつ詳述する。音楽の3要素を把握する事が演奏上いかに必要かについて考察する。 (5 馬場眞二／2回) 歌劇〔オペラ〕の世界をいくつかの作品を紐解きながらその魅力を声楽家の立場から述べて行く。 (6 松川儒／2回) 現代の日本と諸外国における音楽制作(演奏会企画)や音楽会についての実情を学び、アーティストとして地域コミュニティへの関わり方の事例やアーティスト・イン・レジデンスなどの芸術支援のあり方などをピアノの立場から概観する。 (33 椿敏幸／2回) 造形史から現代生活を考える。 (71 多和田真太良／2回) 上演芸術(パフォーミング・アーツ)および日本伝統芸能について概観する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	音楽理論	音楽という抽象的で感覚的な現象を理知的にとらえる学問である。音楽理論を学ぶ上で楽譜との交渉が重要であるため、前半は、西洋音楽、特に楽譜に関する基礎的な知識と決まりごとについて、後半はその知識を踏まえながら、ベーシックな音楽理論を学ぶ。更に、ポピュラー音楽やジャズ音楽には欠かすことの出来ないコード理論も学ぶ。単に音楽理論を講義するだけではなく、ジャンルを問わず楽曲分析も適宜、実施・実践する。	講義20時間 演習10時間
	1 0 0 番 台 科 目	ソルフェージュI	聴音の書き取りや視唱の練習を数多くこなすことで、音楽の3要素(リズム、メロディー、ハーモニー)を理解し、基本的な読譜力及び楽曲創作における基礎力を身に付けさせる。聴音においては、旋律聴音・リズム聴音を中心に繰り返し新規の課題を行う。また視唱においてはソルミゼーションを応用して高音部記号の読譜を行う他、3連符に代表される通常の分割法では無いリズムや、シンコペーションのリズムまで徹底的に理解する。音楽の総合的基礎能力を身に付ける授業である。	
	1 0 0 番 台 科 目	ソルフェージュII	『ソルフェージュI』の内容を踏まえ、更に進んだ音楽の総合的能力を身に付ける授業である。聴音の書き取りや視唱の練習を数多くこなすことで、音楽の3要素(リズム、メロディー、ハーモニー)を理解し、読譜力及び楽曲創作における力を身に付けさせる。聴音においては、旋律聴音・2声聴音・4声体ハーモニー聴音までを行う。また視唱においてはソルミゼーションを応用して高音部記号、ハ音記号の読譜を行う他、5連符等通常の分割法では無いリズムや、シンコペーションのリズムまで徹底的に理解する。音楽の総合的基礎能力を身に付ける授業である。	
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	アンサンブルI	(概要) 器楽アンサンブル・声楽アンサンブル・コンサートマネジメントのいずれかを選択し、知識・実技を修得する。器楽アンサンブル・声楽アンサンブルを希望する学生は、それぞれの習熟度に合わせた演奏技術と表現力を修得する。またコンサートマネジメントを学ぶ学生はクラシックコンサート企画の基礎を修得する。 [担当教員のテーマ] (1 長裕二) ミュージカル作品の重唱・合唱を含む抜粋上演 (5 馬場眞二) オペラ作品の重唱、合唱を含む抜粋上演(男声パート) (6 松川儒) ピアノアンサンブル (7 渡辺明子) オペラ作品の重唱、合唱を含む抜粋上演(女声パート) (91 飯野なみ) 弦楽アンサンブル (93 石野寛子) ミュージカル (96 伊藤あみか) クラシックコンサートの企画・運営 (99 遠藤柊一郎) 弦楽アンサンブル (105 太田聡) 吹奏楽 (107 小口浩司) 混声合唱 (108 小倉達夫) 弦楽アンサンブル (112 香月圭佑) 弦楽アンサンブル (119 菊地智子) ピアノアンサンブル (123 木村美音子) 弦楽アンサンブル (127 久保田彩佳) ミュージカル (134 齊藤智子) ミュージカル (152 津島圭佑) ピアノアンサンブル (156 永井崇多宏) ミュージカル (159 中田知宏) 吹奏楽 (161 西久保友広) 打楽器アンサンブル (167 林京平) ピアノアンサンブル (188 横山清崇) ミュージカル	
	1 0 0 番 台 科 目			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	アンサンブルII	(概要) 器楽アンサンブル・声楽アンサンブル・コンサートマネジメントのいずれか を選択し、知識・実技を修得する。器楽アンサンブル・声楽アンサンブルを 希望する学生は『アンサンブルI』で修得した力を基にそれぞれが演奏技 術と表現力の向上を目指す練習方法を習得することができる。また、コン サートマネジメントを学ぶ学生は『アンサンブルI』で培ったクラシックコン サート企画の基礎力を確認し自ら計画することのできる基礎を修得すること ができる。	
			[担当教員のテーマ] (1 長裕二)ミュージカル作品の重唱・合唱を含む抜粋上演 (5 馬場眞二)オペラ作品の重唱、合唱を含む抜粋上演 (男声パート) (6 松川儒)ピアノアンサンブル (7 渡辺明子)オペラ作品の重唱、合唱を含む抜粋上演 (女声パート) (91 飯野なみ)弦楽アンサンブル (93 石野寛子)ミュージカル (96 伊藤あみか)クラシックコンサートの企画・運営 (99 遠藤柊一郎)弦楽アンサンブル (105 太田聡)吹奏楽 (107 小口浩司)混声合唱 (108 小倉達夫)弦楽アンサンブル (112 香月圭佑)弦楽アンサンブル (119 菊地智子)ピアノアンサンブル (123 木村美音子)弦楽アンサンブル (127 久保田彩佳)ミュージカル (134 齊藤智子)ミュージカル (152 津島圭佑)ピアノアンサンブル (156 永井崇多宏)ミュージカル (159 中田知宏)吹奏楽 (161 西久保友広)打楽器アンサンブル (167 林京平)ピアノアンサンブル (188 横山清崇)ミュージカル	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	100番台科目	音楽専門実技I	(概要) 音楽専門実技の各テーマを学生各人の個性と長所を尊重しながら、音楽的内容と演奏技術の両面から体系的に学修する。楽譜に忠実に演奏するための読譜力を身に付け、各時代様式を理解した基礎的な奏法と解釈を習得する。また「聴く力を付けること」を重視した授業を行う。人前で演奏することを常に、想定した学修をするために、実技試験を実施する。担当教員は学生のレベルに応じた曲を選曲する。作曲については、編曲を含む創作技術を学ぶ。 〔担当教員のテーマ〕 (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (5 馬場眞二) 声楽 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (7 渡辺明子) 声楽 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (110 加形裕子) 声楽 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (116 金子宏) 声楽 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (134 齊藤智子) 声楽 (147 谷川マユコ) 作曲 (151 辻裕久) 声楽 (152 津島圭佑) 鍵盤楽器 (159 中田知宏) 金管楽器 (160 中村裕美) 声楽 (161 西久保友広) 打楽器 (162 西由起子) 声楽 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	(概要) 『音楽専門実技I』の内容を踏まえ、学生各人の個性と長所を尊重しながら、音楽的内容と演奏技術の両面から更に進んだ技術を体系的に学修する。楽譜に忠実に演奏するための読譜力を身に付け、各時代様式を理解した基礎的な奏法と解釈を習得する。また「聴く力を付けること」を重視した授業を行う。人前で演奏することを常に、想定した学修をするために、実技試験を実施する。担当教員は学生のレベルに応じた曲を選曲する。作曲については、編曲を含む創作技術を学ぶ。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (5 馬場眞二) 声楽 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (7 渡辺明子) 声楽 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (110 加形裕子) 声楽 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (116 金子宏) 声楽 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (134 齊藤智子) 声楽 (147 谷川マユコ) 作曲 (151 辻裕久) 声楽 (152 津島圭佑) 鍵盤楽器 (159 中田知宏) 金管楽器 (160 中村裕美) 声楽 (161 西久保友広) 打楽器 (162 西由起子) 声楽 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	器楽基礎A	(概要) 音楽実技の基礎学習の修得を目指す。学生は作曲や鍵盤楽器、管・打楽器、弦楽器の中から1つを選択して履修する。作曲においては和声の修得を一番の目的に行う。それ以外の楽器においてはそれぞれ学生のレベルに合わせて指導する。はじめて楽器に触れる学生には初歩から指導して生涯学習継続の基礎を身に付けさせる。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (147 谷川マユコ) 作曲 (159 中田知宏) 金管楽器 (161 西久保友広) 打楽器 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	
	1 0 0 番 台 科 目	器楽基礎B	(概要) 音楽実技の基礎学習の修得を目指す。学生は作曲や鍵盤楽器、管・打楽器、弦楽器の中から1つを選択して履修する。作曲においては和声の修得を一番の目的に行う。それ以外の楽器においてはそれぞれ学生のレベルに合わせて指導する。『器楽基礎A』からの継続履修者には更に進んだ技術を身に付けさせる。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (147 谷川マユコ) 作曲 (159 中田知宏) 金管楽器 (161 西久保友広) 打楽器 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	声楽基礎A	発声の基礎を、その仕組みから具体的に学ぶため、講義において、人間の発声器官の仕組みについて図解から知識を修得する。また、声楽における呼吸法、基本姿勢、発声法を具体的に学び、それらを総合した技術を声楽の技術として体感する。さらに体得した声楽の響きに言葉を乗せることを主題に、日本歌曲、イタリア古典歌曲、ドイツ唱歌などの教材を使って実践を進めてゆく。声の出る仕組みや、声楽における呼吸法、基本姿勢、発声法を身に付けたうえで、ベルカント発声、邦楽の発声など、様々な声の種類、テクニックについても、その知見を広げる。	講義4時間 実技78時間
		声楽基礎B	声楽における呼吸法、基本姿勢、発声法を具体的に学び、それらを総合した技術を声楽の技術として体感する。さらに体得した声楽の響きに言葉を乗せることを主題に、日本歌曲（日本の伝統的な歌唱含む）、イタリア古典歌曲、ドイツ唱歌などの教材を使って実践を進めてゆく。声の出る仕組みや、声楽における呼吸法、基本姿勢、発声法を身に付けたうえで、ベルカント発声、邦楽の発声など、様々な声の種類、テクニックについても、その知見を広げる。『声楽基礎A』からの継続履修者には更に進んだ技術を身に付けさせる。『声楽基礎B』から履修する学生は、人間の発声器官の仕組みに関する知識を修得させる。	講義4時間 実技78時間
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	演技・舞踊入門	(概要) 心身ともに演劇や演技、舞踊の基礎や考え方を理解するための力を養う。 演技・日本舞踊(歌舞伎舞踊)・バレエ・ジャズダンス・コンテンポラリーダンスなどを中心に、柔軟で遊び心のある身体表現力、自分から出発する言葉、共創的な態度、創造力を生かした創作技術を高めるためのトレーニングをワークショップ形式で行う。柔軟で遊び心のある身体表現ができるようになる。 (オムニバス方式／全15回) (9 青山典靖／3回) 日本舞踊の基礎的な動きを基に、身体の作りを理解し、舞踊の実践研究を行う。 (80 田中圭介／3回) 自分を見つめ、心からの発話ができるようになる。創造力を生かした集団創作(ディバイジング)を行い、発表することで、表現者としての自分の可能性を探る。 (90 栗田麗／1回) ジャズダンスの基礎的な動きに触れ、身体の使い方を理解する。 (97 浦弘毅／2回) 基礎となる演技方法に触れ、身体の使い方を理解する。 (103 大嶋里衣子／1回) 日本舞踊(歌舞伎舞踊)の基礎的な動きに触れ、身体の使い方を理解する。 (140 島田啓司／2回) 基礎となる演技方法に触れ、身体の使い方を理解する。 (143 杉崎泉／2回) バレエの基礎的な動きに触れ、身体の使い方を理解する。 (149 玉川さやか／1回) コンテンポラリーダンスの基礎的な動きに触れ、身体の使い方を理解する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	演技・舞踊基礎演習	(概要) 『演技・舞踊入門』で触れた様々な演技・舞踊の形態から専門的に学びたいものを選び、より深く学ぶことを目的とする。 合わせて該当する上演芸術に必要な身体表現の基礎を学ぶ。身体を表現体として自由で豊かに機能させるために人体の構造とメカニズムについての理解を深め、クリエイティブな表現力と感性、創作における積極性を養う。また、即興性や集団創作の中で身に付けた技術を自覚的に使用する能力を育成する。 [担当教員のテーマ] (9 青山典靖) 日本舞踊の基礎的な動きを基に、身体の作りを理解し、舞踊の実践研究を行う。 (10 アーカリ, ジェイスン) ヨーロッパの俳優トレーニングを行い、戯曲に命を吹き込むための役作りへのアプローチや演技スキルを学ぶ。 (80 田中圭介) 自分を見つめ、心からの発話ができるようになる。創造力を生かした集団創作(ディバイジング)を行い、発表することで、表現者としての自分の可能性を探る。 (90 栗田麗) ジャズダンスの基礎的な動きをもとに身体表現の可能性を理解する。 (122 絹川友梨) インプロヴィゼーションをもとに身体表現の可能性を理解する。 (125 楠原竜也) コンテンポラリーダンスの基礎的な動きをもとに身体表現の可能性を理解する。 (140 島田啓司) 俳優としての基礎的な身体の使い方をもとに身体表現の可能性を理解する。 (143 杉崎泉) バレエの基礎的な動きをもとに身体表現の可能性を理解する。	
			(概要) 舞台美術、舞台技術、舞台監督の仕事を中心に、舞台創造に携わる者に必要な劇場技術の基礎知識、作業の基本的なルール、マナーや安全の心得などを学ぶ。 パフォーミング・アーツにおける各スタッフの役割を理解し、説明できるようになる。プロダクション・ワークにおけるチームの一員として、同チーム内でのコミュニケーションをとるための言語的かつ非言語的方策を理解し、説明できるようになる。パフォーミング・アーツの創造過程の体系を言語化できるようになることを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (41 二村周作)／1回) 舞台創造における基礎知識 (94 石橋舞／3回) 衣裳 (97 浦弘毅)／3回) 舞台監督 (148 谷口綾)／3回) 舞台美術 (174 二見英幸)／3回) 音響 (94 石橋舞 97 浦弘毅 148 谷口綾 174 二見英幸)／2回) (共同) 舞台美術、舞台技術、舞台監督	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	上演基礎実習	(概要) 2年次からの分野の選択を視野に入れながら、自らの上演芸術との関係性を見出すために、作品創作に携わるあらゆる仕事を体験的に学修し、自らの適性を見出すことを目的とする。出演者とスタッフの両面から作品創作に関わることで、総合的に作品創作の過程を学ぶことができる。最終的に、上演実習の形で発表する。 (オムニバス方式／全3回) (41 二村周作／1回) クリエイティブな創作環境とは (52 ヲザキ浩実／1回) 舞台制作の基本理念 (71 多和田真太良／1回) イントロダクション 授業の運営方法 [担当教員のテーマ] (共同／全12回) (9 青山典靖) 舞踊監修(日舞) (10 アーカリ, ジェイスン) 演出監修(フィジカル) (41 二村周作) 舞台空間 (52 ヲザキ浩実) 公演制作 (71 多和田真太良) 演出監修(日本戯曲) (72 新沼智之) 戯曲分析 (80 田中圭介) 演出監修(海外戯曲) (94 石橋舞) 衣裳監修 (125 楠原竜也) 舞踊監修(ダンス) (138 篠田薫) 化粧監修(メイク・ヘアメイク) (143 杉崎泉) 舞踊監修(バレエ) (146 武田知也) 公演制作 (148 谷口綾) 舞台美術 (171 藤井さゆり) 公演制作 (174 二見英幸) 音響監修	共同 オムニバス方式 (一部) 講義12時間 実習144時間
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	鍵盤楽器基礎	音楽教員に必要な鍵盤楽器の基礎的な演奏技術及び表現能力を身に付ける授業である。演奏する上で身に付けなければならない読譜力・運指法また表現方法を常に考え、段階的に技術力また表現力の向上を目指す。経験者には現段階での能力に合った楽曲を与える。また初心者には教壇に立つ上でいかに鍵盤楽器の演奏技術が必要かを考えさせた上で、学期末の目標を明確にさせた授業を展開する。また学ぶ楽曲の作曲者についても知識を深めるとともに伴奏についても学習する。	
専門 科目 群	1 0 0 番 台 科 目	和楽器指導法(管・絃・打)	音楽科授業における和楽器(雅楽で用いられる楽器、箏、三味線、尺八、篠笛、太鼓、鼓など)に関わる知識や技能を習得し、表現活動を通して、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わう過程を大切にしながら、和楽器の指導力を実践的に習得することをねらいとする。 和楽器指導の意義について考え、口唱歌、息づかいや身体の構えなどの指導法について理解する。雅楽で用いられる楽器(三管:箏、龍笛、笙、両絃:楽箏、楽琵琶、三鼓:鞆鼓、楽太鼓、鉦鼓)、箏、三味線、尺八、篠笛、鼓などの音色や響き、奏法の特徴、表現力の豊かさと繊細さなどを理解し、楽器固有の演奏方法、身体の使い方(姿勢や楽器の構え方、身体の動かし方など)などを体験し、他者と合わせて演奏する技能を習得する。	
専門 科目 群	2 0 0 番 台 科 目	音楽文化論	今日の音楽文化のあり方について、その諸相を多角的な視点からとらえ、その全体像を各学生が描けるようになるとともに、これからの音楽文化の創造者としての自己の位置を確認し、音楽文化の創造に果たす責任や役割を自覚することを目的とする。音楽文化の諸相を取り扱う中で、どのように音楽文化が過去の遺産としての意味をもち、そこから新たな音楽文化が生成され再創造されていくかについて明らかにしていく。いろいろな音楽に接して聴き親しみ、「音楽とは何か」について考える方向性を身に付けることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	2 0 0 番 台 科 目	和声学I	調性音楽の基盤である機能と和声を中心に、和声の成り立ち、主要三和音と副三和音の基本形から転回形、ドミナント諸和音、サブドミナント諸和音のそれぞれの機能と扱い、進行について学ぶ。授業は、講義による和声理論の理解と、四声体と和声の課題による書法の演習に加え、受講者の習熟度に応じて、既存の楽曲の和声分析、鍵盤上でのメロディーへの伴奏づけなどを組み合わせる。知識の習得にとどまらず、実際の音と結びつけた和声感覚を身に付けることを目指す。	講義15時間 演習15時間
	2 0 0 番 台 科 目	和声楽II	属七の和音の基本形から第一転回形、第二転回形、第三転回形について、四声体による和音連結を主体に講義と演習の反復によって展開する。特に協和音(協和音程)と不協和音(不協和音程)の扱いと、その存在における不協和音の音楽的な意味について学習する。後半では属九の和音に続き副属和音や調性音楽の最大の特長である転調手法へと範囲を広げ、終止形をさらに展開して和音の機能性と役割を追究し調性音楽の理解を深めていく。	講義15時間 演習15時間
専門 科目 群	2 0 0 番 台 科 目	アンサンブルIII	(概要) 器楽アンサンブル・声楽アンサンブル・コンサートマネジメントのいずれかを選択し、知識・実技を修得する。器楽アンサンブル・声楽アンサンブルを希望する学生は『アンサンブルII』で修得した力を基に更に進んだ演奏技術と表現力の向上を目指す練習方法を習得し実践することができる。またコンサートマネジメントを学ぶ学生は『アンサンブルII』で培ったクラシックコンサート企画運営の基礎力を確認し自ら計画し実行できる力を修得することができる。社会に通用する高度な演奏技術と表現力について考え修得することを目指す。 [担当教員のテーマ] (1 長裕二)ミュージカル作品の重唱・合唱を含む抜粋上演 (91 飯野なみ) 弦楽アンサンブル (93 石野寛子) ミュージカル (96 伊藤あみか) クラシックコンサートの企画・運営 (99 遠藤柊一郎) 弦楽アンサンブル (105 太田聡) 吹奏楽 (107 小口浩司) 混声合唱 (108 小倉達夫) 弦楽アンサンブル (112 香月圭佑) 弦楽アンサンブル (119 菊地智子) ピアノアンサンブル (123 木村美音子) 弦楽アンサンブル (127 久保田彩佳) ミュージカル (134 齊藤智子) ミュージカル (152 津島圭佑) ピアノアンサンブル (156 永井崇多宏) ミュージカル (161 西久保友広) 打楽器アンサンブル (188 横山清崇) ミュージカル	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	200番 台 科目	アンサンブルⅣ	(概要) 器楽アンサンブル・声楽アンサンブル・コンサートマネジメントのいずれかを選択し、知識・実技を修得する。器楽アンサンブル・声楽アンサンブルを希望する学生は、『アンサンブルⅢ』で修得した力を基に更に進んだ演奏技術と表現力の向上を目指し練習方法を工夫し実践することができる。またコンサートマネジメントを学ぶ学生は、『アンサンブルⅢ』で培ったクラシックコンサート企画の基礎力を確認し自ら計画し実行できる力を修得すると共に、運営に携わりその基礎力を身に付けることができる。社会に通用する高度な演奏技術と表現力について考え修得することを目指す。 [担当教員のテーマ] (1 長裕二) ミュージカル作品の重唱・合唱を含む抜粋上演 (91 飯野なみ) 弦楽アンサンブル (93 石野寛子) ミュージカル (96 伊藤あみか) クラシックコンサートの企画・運営 (99 遠藤柊一郎) 弦楽アンサンブル (105 太田聡) 吹奏楽 (107 小口浩司) 混声合唱 (108 小倉達夫) 弦楽アンサンブル (112 香月圭佑) 弦楽アンサンブル (119 菊地智子) ピアノアンサンブル (123 木村美音子) 弦楽アンサンブル (127 久保田彩佳) ミュージカル (134 齊藤智子) ミュージカル (152 津島圭佑) ピアノアンサンブル (156 永井崇多宏) ミュージカル (161 西久保友広) 打楽器アンサンブル (188 横山清崇) ミュージカル	
			(概要) ベートーヴェン作曲「交響曲 第9番 ニ短調 作品125」の全楽章演奏に取り組む授業である。授業は管弦楽領域と合唱領域に分かれて行う。管弦楽領域は体系化されたカリキュラムにより高度な演奏技術と合奏ソルフェージュ、楽曲分析の訓練を行う。授業はパート練習、分奏練習、合奏練習を組み合わせて行う。楽譜は「新ブライトコプフ版」を用いる。合唱領域は発声法、呼吸法及び楽曲分析、ドイツ語の発音等高め質の高いアンサンブルを目指し授業を展開する。成果の発表の場として最終的には音楽ホールにて全楽章の演奏会を行うことを目標とする。 [担当教員のテーマ] (4 野本由紀夫) 楽曲分析 (5 馬場眞二) 男声パート (6 松川儒) 合唱ピアノ伴奏 (7 渡辺明子) 女声パート (159 中田知宏) 管弦楽演奏指導、合奏ソルフェージュ	共同(一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	200 番 台 科 目	音楽専門実技Ⅲ	(概要) 『音楽専門実技Ⅱ』の内容を踏まえ、学生各人の個性と長所を尊重しながら、音楽的内容と演奏技術の両面から高度な技術と音楽性を体系的に学修する。楽譜に忠実に演奏するための読譜力を身に付け、各時代様式を理解した奏法と解釈を習得する。また、人前で演奏することを常に、想定した学修をするために、実技試験を実施する。担当教員は学生のレベルに応じた曲を選曲しセメスター内で数曲の楽曲を仕上げて行く。作曲については、編曲を含む創作技術を学ぶ。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (5 馬場眞二) 声楽 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (7 渡辺明子) 声楽 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (110 加形裕子) 声楽 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (116 金子宏) 声楽 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (134 齊藤智子) 声楽 (147 谷川マユコ) 作曲 (151 辻裕久) 声楽 (152 津島圭佑) 鍵盤楽器 (159 中田知宏) 金管楽器 (160 中村裕美) 声楽 (161 西久保友広) 打楽器 (162 西由起子) 声楽 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	200番台 科目	音楽専門実技IV	(概要) 『音楽専門実技III』の内容を踏まえ、学生各人の個性と長所を尊重しながら、音楽的内容と演奏技術の両面から更に高度な技術と音楽性を体系的に学修する。楽譜に忠実に演奏するための読譜力を身に付け、各時代様式を理解した奏法と解釈を習得する。また、人前で演奏することを常に、想定した学修をするために、実技試験を実施する。担当教員は学生のレベルに応じた曲を選曲しセメスター内で数曲の楽曲を仕上げて行く。作曲については、編曲を含む創作技術を学ぶ。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (5 馬場眞二) 声楽 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (7 渡辺明子) 声楽 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (110 加形裕子) 声楽 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (116 金子宏) 声楽 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (134 齊藤智子) 声楽 (147 谷川マユコ) 作曲 (151 辻裕久) 声楽 (152 津島圭佑) 鍵盤楽器 (159 中田知宏) 金管楽器 (160 中村裕美) 声楽 (161 西久保友広) 打楽器 (162 西由起子) 声楽 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 目群	200番台科目	器楽基礎C	(概要) 音楽実技の基礎学習の修得を目指す。学生は作曲や鍵盤楽器、管・打楽器、弦楽器の中から1つを選択して履修する。作曲においては和声の修得を一番の目的に行う。それ以外の楽器においてはそれぞれ学生のレベルに合わせて指導する。『器楽基礎A』及び『器楽基礎B』からの継続履修者には更に進んだ技術を身に付けさせる。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (147 谷川マユコ) 作曲 (159 中田知宏) 金管楽器 (161 西久保友広) 打楽器 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	
	200番台科目	器楽基礎D	(概要) 音楽実技の基礎学習の修得を目指す。学生は作曲や鍵盤楽器、管・打楽器、弦楽器の中から1つを選択して履修する。作曲においては和声の修得を一番の目的に行う。それ以外の楽器においてはそれぞれ学生のレベルに合わせて指導する。『器楽基礎A』、『器楽基礎B』及び『器楽基礎C』からの継続履修者には更に進んだ技術を身に付けさせる。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (147 谷川マユコ) 作曲 (159 中田知宏) 金管楽器 (161 西久保友広) 打楽器 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	2 0 0 番 台 科 目	声楽基礎C	声楽における呼吸法、基本姿勢、発声法を具体的に学び、それらを総合した技術を声楽の技術として体感する。さらに体得した声楽の響きに言葉を乗せることを主題に、日本歌曲、イタリア古典歌曲、ドイツ唱曲などの教材を使って実践を進めてゆく。声の出る仕組みや、声楽における呼吸法、基本姿勢、発声法を身に付けたうえで、ベルカント発声、邦楽の発声など、様々な声の種類、テクニックについても、その知見を広げる。『声楽基礎A』及び『声楽基礎B』からの継続履修者には更に進んだ技術を身に付けさせる。	
	2 0 0 番 台 科 目	声楽基礎D	声楽における呼吸法、基本姿勢、発声法を具体的に学び、それらを総合した技術を声楽の技術として体感する。さらに体得した声楽の響きに言葉を乗せることを主題に、日本歌曲、イタリア古典歌曲、ドイツ唱曲などの教材を使って実践を進めてゆく。声の出る仕組みや、声楽における呼吸法、基本姿勢、発声法を身に付けたうえで、ベルカント発声、邦楽の発声など、様々な声の種類、テクニックについても、その知見を広げる。『声楽基礎A』、『声楽基礎B』及び『声楽基礎C』からの継続履修者には初心者への指導が出来るスキルを身に付けさせる。	
専門 科目 群	2 0 0 番 台 科 目	ミュージカル表現I	アメリカ、イギリス、ドイツなどの代表的なミュージカル作品を用い、ミュージカルの基礎知識を音楽の面から学ぶ授業である。正しい発声・発語法を学び実際にソロ、アンサンブルナンバーを歌い、音楽の3要素であるメロディー・リズム・ハーモニーの精度を高めることで演奏技術を向上させ、歌唱力を向上させることを目指す。また、ミュージカル作品の幾つかのシーンをとりあげ演じることで、表現力・コミュニケーション力の向上を目指す。	共同
専門 科目 群	2 0 0 番 台 科 目	ミュージカル表現II	『ミュージカル表現I』で身に付けた演奏技術、表現力、及びコミュニケーション力を更に向上させる授業である。アメリカ、イギリス、ドイツなどの代表的なミュージカル作品を用い、ミュージカルの基礎知識を音楽の面から学ぶ授業である。正しい発声・発語法を学び実際にソロ、アンサンブルナンバーを歌い、音楽の3要素であるメロディー・リズム・ハーモニーの精度を高めることで演奏技術を向上させ、歌唱力を向上させることを目指す。また、ミュージカル作品の幾つかのシーンをとりあげ演じることで、表現力・コミュニケーション力の向上を目指す。	共同
専門 科目 群	2 0 0 番 台 科 目	演劇理論	演劇研究の基本である戯曲読解を中心に演劇史における基本的な理論を学ぶ。戯曲を通じ、劇作家が念頭におく劇場・演技・演出など様々な要素を考察し、それらの関係を成り立たせている理論を学ぶ。同時に、それらの古典戯曲がどのようなテクニックで書かれているのかという劇作上の理論についても取り上げる。その他、演劇史の中でとりわけ重要ないくつかの演劇理論（市民劇理論、総合芸術作品としての演劇という理論、そして今日まで影響力を持つブレヒトやアルトーラの演劇理論）を紹介しつつ、それらの理論で現在の演劇をどのように捉えることが可能かを考える。	
専門 科目 群	2 0 0 番 台 科 目	芸術と社会	代表的な上演芸術を社会的見地から研究する。また、近年話題になった芸術作品を取り上げて、その芸術作品の創造における社会的・経済的背景を考察する。一方で劇場法を含めた国の文化政策について、成り立ちや歴史的変遷や国と地方自治体、あるいは世界の国々との比較から特徴を理解し、芸術の社会における役割を多面的な視点で考える。	
専門 科目 群	2 0 0 番 台 科 目	音楽科指導法I	音楽科教員に必要とされる知識や技能（授業力・指導力）の基礎を身に付けることをねらいとする。具体的には、1) 音楽科教育を学ぶ意義や必要性について考えをもつ、2) 学習指導要領音楽科の目標及び指導内容、指導計画の作成と内容の取扱いなどについて理解する、3) 音楽科の学びの視点である「音楽的な見方・考え方」について理解する、4) 【表現：歌唱・器楽・創作】【鑑賞】の指導内容を、実践的な学習活動と関連付けて授業展開する、5) 音楽科指導法の授業に主体的、協働的に取り組み、音楽によって生活を豊かなものにする態度や心の情操を養う、である。特に、講義で学んだ理論と実際の音楽授業（模範授業）における学習活動とを関連付け、生徒にとってよい授業とは何かを追求し、具体的な指導法を実践的に習得する授業を行う。	講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	200番台科目	音楽科指導法II	音楽科教員に必要とされる知識や技能(授業力・指導力)を身に付けることをねらいとする。目標は、1)音楽を現在や未来の生活において実践的に活用できる力を、生徒にどのように獲得させたらよいのかを考える、2)音楽科の指導計画や題材構成、学習指導案の作成、指導と評価の一体化をとらえた授業構築ができる、3)課題に沿った学習指導案を作成し、グループによる実践的な模擬授業演習をすることができる、4)実践した模擬授業やワークシートを共有し、指導と評価について研究協議を行い、授業改善ができる、5)授業に、主体的、協働的に取り組み、音楽的に深まっていく学習を積み重ねる、である。また、評価方法、教材選択とその研究方法などについて理解する。グループによる模擬授業では、問題解決的な学習や子供が考える場面と授業者が教える場面をどのように組み立てるかなど具体的な指導法を学ぶ授業を行う。	講義15時間 演習15時間
	200番台科目	創作教育法	(概要) 音楽科授業における創作表現に関わる知識や技能を習得し、表したいイメージと関わらせて理解することやまとまりのある創作表現を創意工夫する演習から創作教育を実践する授業力や指導力を習得することをねらいとする。この講義では、実際の創作授業(模範授業)における学習活動と関連付け、具体的な指導法を実践的に習得する授業を行う。 (オムニバス方式／全15回) (2 清水宏美／9回) 創作教育を学ぶ意義や必要性について考える。箏や尺八などを活用して、日本の音階の特徴を理解して旋律や音楽をつくるために必要な技能や作品を記録する技能を習得する。反復・変化・対照などの構成上の特徴を理解して、試行錯誤しながら音を音楽へと構成できることを目指す。総括として創作発表会を行う。 (85 味府美香)／6回) 即興的に音を出し、試行錯誤しながら音を音楽へと構成する体験をし、音素材、音の重なり方、反復・変化・対照などの構成上の特徴、音のつながり方、音階や言葉などの特徴を理解して旋律をつくる。	オムニバス方式 講義7時間 演習8時間
	200番台科目	器楽教育法I(管・打・合奏)	(概要) 音楽科授業における器楽表現や吹奏楽に関わる知識や技能を習得し、様々な演奏形態で他者と共に一つの音楽表現をつくる過程を大切にしながら、器楽合奏の授業力や吹奏楽の指導力を実践的に習得することをねらいとする。 (共同・オムニバス方式／全15回) (2 清水宏美・85 味府美香)／2回(共同) 器楽表現の創意工夫をする合奏演奏発表を行うとともに、教育現場で発表会を運営する実践力を習得する。 (85 味府美香)／13回) 器楽合奏や吹奏楽指導の意義について考え、編成、スコアリーディング、指導法について理解する。木管楽器(Fl, Cl, Sax, Ob/Fg)、金管楽器(Tp, Hr, Tb, Eu, Tu)、打楽器(SD, BD, Timp, Dm)、鍵盤楽器類、小物類、ラテン楽器類)の音色や響きと奏法との関わりを理解し、楽器固有の演奏方法、身体を使い方(姿勢や楽器の構え方、身体の動かし方など)などの技能を習得する。器楽アンサンブル、吹奏楽、合奏など、他者と合わせて演奏する技能を習得する。	オムニバス方式・共同(一部)
	200番台科目	日本音楽史	音楽科教員に必要とされる「日本音楽史や日本音楽に関する基礎的知識や能力」を養うことをねらいとする。目標は、1)日本音楽の主な種目の歴史と音楽的な特徴について理解する、2)日本音楽の中から、具体的な種目を取り上げて、音楽と人間と生活の関係について説明する、3)日本音楽の授業を、実践的な学習活動として関連付け、授業演習する、4)日本にある多様な音楽に興味・関心をもち、授業に主体的、協働的に取り組み、音楽的に深まる学習を積み重ねる、5)自分の郷土の音楽(民謡・民俗芸能)をほりおこし、発信する、である。特に、現在伝承されている主な日本音楽種目全般を歴史的に概観しながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考える力を養い、自己の価値観をもてるようにする。また、本物の和楽器にも触れ、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを味わい、愛着をもつことができるような授業を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	3 0 0 番 台 科 目	民族音楽概説	音楽科教員に必要とされる「民族音楽に関する基礎的知識や能力」を養うことをねらいとする。目標は、1) 世界に多様な音楽が存在することを知り、その多様性の様態や社会的文化背景などを概観する、2) 様々な民族音楽を理解するための基礎的・基本的な知識を修得する、3) 民族音楽を把握するための多角的な視点をもつことができ、音楽と人間と生活や社会について自分なりの考えをもつ、4) 世界の諸民族の音楽の中から、具体的な音楽文化圏区分の民族音楽を取り上げ、その民族と音楽の関係について、他者に説明したり、発表したりする、である。講義形式の授業に加え、主体的・対話的・深い学びの視点にたった演習を行い、学校現場ですぐに生かすことのできる実践的指導力を習得できるような授業を行う。	講義15時間 演習15時間
	3 0 0 番 台 科 目	作家理解と作品講読	音楽史上重要な作(曲)家や作品について学び、幅広い視野と論理的思考をもって、その人物・作品が歴史的にどのような位置を占めているのかを、総合的複合的に理解できるようになることがこの授業の目的となる。作家の生涯や、手がけた作品の詳細な調査研究、あるいは個々の作品の徹底的な分析を行うことはもちろんであるが、作家や作品が登場した時代の社会的、文化的状況を知ることでもある。その上で、受講者が作品・作家の意義について、自らの見解をもつようになることが最終的な到達点である。	
専門 科目 群	3 0 0 番 台 科 目	歌唱教育法(合唱)	合唱表現の要素としてまず挙げられるのは発声である。発声を整えずして美しいハーモニーを作ることはできない。また、発声の整った声で表現された合唱はそれだけでも聴き手にアプローチする強い力をもつ。本講義では、特に声楽の発声に言葉を乗せること、そのスキルによって表現することを実践し、合唱表現を考え、楽しむこと、またその指導法について総合的に学ぶ。学生主体による合唱活動(指揮、指導)を実践し、集団の中での役割を理解し、コミュニケーション能力、リーダーシップなどを身に付ける。	
専門 科目 群	3 0 0 番 台 科 目	指揮法	指揮法の基本となる基礎図形と棒の扱いについて学び、実際の音楽表現に結び付けていく。2台ピアノ、小アンサンブル、合唱などの実演を交代で指揮し、ビデオ録画なども用いながら、意図した音楽表現と、それを演奏者に伝える工夫についてクラスで話し合いを重ねる。まず、楽譜を読み込むこと、音楽の隅々まで表現意図を明確にすること、それを演奏者に伝える技術を工夫すること、リハーサルにおいての演奏者とのコミュニケーション、発表の場での必要な手順やステージ上での指揮者の役割等を学んでいくことによって、棒テクニックのみではなく、指揮をするということについての総体を確立する。	
専門 科目 群	3 0 0 番 台 科 目	対位法	「対位法」とは、ポリフォニーの書法を学ぶ学問である。また、「ポリフォニー」とは、複数の声部の独自性を維持しつつ、緻密に組み合わせていく様式のことである。楽器の習得と同じように、対位法も、実習を通して少しずつ身に付ける技術となる。本授業では、基礎となる2声の対位法を軸としながら定旋律に対旋律を作成する。個々の能力に応じた課題への取り組みと教員の添削指導の繰り返しにより、着実に対位法を身に付けることを目標とする。	
専門 科目 群	3 0 0 番 台 科 目	楽式論	「楽式論」とは、音楽形式、すなわちある楽曲から抽出される類型や構成原理を学ぶ学問である。重要な音楽形式に「リット形式」、「変奏曲形式」、「ロンド形式」、「ソナタ形式」、「フーガ形式」などがある。本講義では、こうした西洋音楽に典型的な音楽形式を、実際に楽曲分析を行いながら段階的に学ぶ。更に、ポピュラー音楽やロックの作品も取り上げて、複合的に理解を深めていく。講義を主体とするが、楽曲分析やプレゼンテーションに取り組みながら、作品の構造を理解する力を培うことをねらいとする。	講義15時間 演習15時間
専門 科目 群	3 0 0 番 台 科 目	西洋音楽史	西洋の音楽の歴史を、音楽を聴くことを中心にしなが、古代・中世から近代・現代への時系列に沿って学ぶ。各時代や様式の特徴を聴き取り、キーワードを用いて簡単に説明できるようになることをねらいとする。さらに、各時代・様式における音楽の在り様(形態、形式など)について、簡単に説明することができるようになることを目的とする。本講義を通して、いわゆるクラシック音楽に親しみ、楽曲を聴いてその時代や様式を指摘できるようになることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	現代音楽史	現代音楽の歴史は、広義には第一次世界大戦後の芸術音楽を指すが、鋭い時代批判や体制批判を投げかけながら、他方では音楽の可能性を多方面から追求してきた運動の歴史である。政治体制と経済体制の変化、科学とテクノロジーの進化、及び美学や哲学的な時代精神などの社会的な要素が現代音楽に与えた影響について考察する。ここではその前史に当たる20世紀初頭から話題をはじめ、代表的な作曲家と作品に触れながら21世紀までの芸術音楽史を概観する。	
	300番台科目	第九演奏表現B	(概要) ベートーヴェン作曲「交響曲 第9番 ニ短調 作品125」の全楽章演奏に取り組む授業である。授業は管弦楽領域と合唱領域に分かれて行う。管弦楽領域は体系化されたカリキュラムにより高度な演奏技術と合奏ソルフェージュ、楽曲分析の訓練を行う。授業はパート練習、分奏練習、合奏練習を組み合わせで行う。楽譜は「新ブライトコプフ版」を用いる。合唱領域は発声法、呼吸法及び楽曲分析、ドイツ語の発音等含め質の高いアンサンブルを目指し授業を展開する。成果の発表の場として最終的には音楽ホールにて全楽章の演奏会を行うことを目標とする。『第九演奏表現A』からの継続履修者は声楽領域においてはベルカント唱法の発声を明確に意識出来ることを到達目標とする。管弦楽領域においては第4楽章の楽曲分析を他者に説明することが出来ることを到達目標とする。 [担当教員のテーマ] (110 加形裕子) 女声パート (116 金子宏) 男声パート (159 中田知宏) 管弦楽演奏指導、合奏ソルフェージュ (160 中村裕美) 女声パート	共同(一部)
	300番台科目	アンサンブルV	(概要) 器楽アンサンブル・声楽アンサンブル・コンサートマネジメントのいずれかを選択し、知識・実技を修得する。器楽アンサンブル・声楽アンサンブルを希望する学生は、『アンサンブルIV』で修得した力を基に更に進んだ演奏技術と表現力の向上を目指し練習方法を工夫し実践する他、全体を纏め調和のあるアンサンブルを纏める基礎を身に付ける。またコンサートマネジメントを学ぶ学生は、『アンサンブルIV』で培ったクラシックコンサート企画を率先して企画し実行できる力を修得すると共に、運営に携わりその応用力を身に付けることができる。社会に通用する高度な演奏技術と表現力について考え修得することを目指す。 [担当教員のテーマ] (91 飯野なみ) 弦楽アンサンブル (93 石野寛子) ミュージカル (96 伊藤あみか) クラシックコンサートの企画・運営 (99 遠藤終一郎) 弦楽アンサンブル (105 太田聡) 吹奏楽 (107 小口浩司) 混声合唱 (108 小倉達夫) 弦楽アンサンブル (112 香月圭佑) 弦楽アンサンブル (119 菊地智子) ピアノアンサンブル (123 木村美音子) 弦楽アンサンブル (127 久保田彩佳) ミュージカル (134 齊藤智子) ミュージカル (156 永井崇多宏) ミュージカル (161 西久保友広) 打楽器アンサンブル (188 横山清崇) ミュージカル	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	3 0 0 番 台 科 目	アンサンブルVI	(概要) 器楽アンサンブル・声楽アンサンブル・コンサートマネジメントのいずれかを選択し、知識・実技を修得する。器楽アンサンブル・声楽アンサンブルを希望する学生は、『アンサンブルV』で修得した力を基に更に進んだ演奏技術と表現力の向上を目指し練習方法を工夫し実践する他、全体を纏め調和のあるアンサンブルを纏める応用力を身に付けることが出来る。コンサートマネジメントを学ぶ学生は、『アンサンブルV』で培ったクラシックコンサート企画を率先して企画し実行できる力を修得すると共に、運営に携わりその実践力を身に付け自ら実行することができる。社会に通用する高度な演奏技術と表現力について考え修得することを目指す。	
			[担当教員のテーマ] (91 飯野なみ) 弦楽アンサンブル (96 伊藤あみか) クラシックコンサートの企画・運営 (93 石野寛子) ミュージカル (99 遠藤柊一郎) 弦楽アンサンブル (105 太田聡) 吹奏楽 (107 小口浩司) 混声合唱 (108 小倉達夫) 弦楽アンサンブル (112 香月圭佑) 弦楽アンサンブル (119 菊地智子) ピアノアンサンブル (123 木村美音子) 弦楽アンサンブル (127 久保田彩佳) ミュージカル (134 齊藤智子) ミュージカル (156 永井崇多宏) ミュージカル (161 西久保友広) 打楽器アンサンブル (188 横山清崇) ミュージカル	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	3 0 0 番 台 科 目	演奏・創作I	(概要) 『音楽専門実技IV』修得レベルの履修者が、更にその専門実技を極めていく授業である。学生各人の個性と長所を尊重しながら、音楽的内容と演奏技術の両面から更に高度な演奏技術と音楽性を体系的に学修する。楽譜に忠実に演奏するための読譜力を身に付け、各時代様式を理解した奏法と解釈を習得する。また、人前で演奏すること、また音楽の指導者として必要なスキルとは何かを常に想定して学修をする。担当教員は学生のレベルに応じた曲を選曲しセメスター内で数曲の楽曲を仕上げていく。作曲については、編曲を含む創作技術を学ぶ。 〔担当教員のテーマ〕 (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (5 馬場眞二) 声楽 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (7 渡辺明子) 声楽 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (110 加形裕子) 声楽 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (116 金子宏) 声楽 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (134 齊藤智子) 声楽 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (147 谷川マユコ) 作曲 (151 辻裕久) 声楽 (152 津島圭佑) 鍵盤楽器 (159 中田知宏) 金管楽器 (160 中村裕美) 声楽 (161 西久保友広) 打楽器 (162 西由起子) 声楽 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	3 0 0 番 台 科 目	演奏・創作II	(概要) 『演奏・創作I』修得者が更にその専門実技を極めていく授業である。学生各人の個性と長所を尊重しながら、音楽的内容と演奏技術の両面から更に高度な演奏技術と音楽性を体系的に学修する。楽譜に忠実に演奏するための読譜力を身に付け、各時代様式を理解した奏法と解釈を習得する。また、人前で演奏すること、また音楽の指導者として必要なスキルとは何かを常に想定して学修をする。担当教員は学生のレベルに応じた曲を選曲しセメスター内で数曲の楽曲を仕上げていく。作曲については、編曲を含む創作技術を学ぶ。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (5 馬場眞二) 声楽 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (7 渡辺明子) 声楽 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (110 加形裕子) 声楽 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (116 金子宏) 声楽 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (134 齊藤智子) 声楽 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (147 谷川マユコ) 作曲 (151 辻裕久) 声楽 (152 津島圭佑) 鍵盤楽器 (159 中田知宏) 金管楽器 (160 中村裕美) 声楽 (161 西久保友広) 打楽器 (162 西由起子) 声楽 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	
			音楽について学んだり、演奏したりする上で、必要となる基本的な学術文献を探索し、読み解く授業である。文献は、理論的・歴史的なものから実践的なものまで、幅広い視点で集められる。視聴覚資料もそこには含まれる。また、そもそもなぜそのような文献が必要なのか、という原則論や、いかにして必要な文献を選ぶか、どのようにその文献に到達するかというような方法論についても、受講者自ら試行錯誤し考察しなくてはならない。資料を読み解くのに要求される歴史の知識や社会学的観点も重要である。最終的には、文献の理解を通して、音楽とより深くかかわりあう能力を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	(概要) 『器楽I』は『器楽基礎A～D』で身に付けた演奏技術及び表現能力を更に向上させる授業である。演奏する上で身に付けなければならない読譜力・運指法・ボーイングまた表現方法を常に学生に考えさせ、段階的に技術力また表現力の向上を目指す。学ぶ楽曲は『器楽基礎A～D』で学んだレベルより一歩進んだレベルの作品に挑戦する。また「音楽と身振り」についても考えさせ、人前で演奏する上で体を上手く使うことの必要性も考えさせる。『器楽I』では学ぶ楽曲の作曲者についての知識を深めさせるとともに学ぶ楽曲の作曲された時代背景を調べ、歴史についても知識を習得させる。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (147 谷川マユコ) 作曲 (159 中田知宏) 金管楽器 (161 西久保友広) 打楽器 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	器楽II	(概要) 『器楽I』で身に付けた演奏技術及び表現能力を更に向上させる授業である。演奏する上で身に付けなければならない読譜力・運指法・ボーイングまた表現方法を常に学生に考えさせ、段階的に技術力また表現力の向上を目指す。学ぶ楽曲は『器楽I』で学んだレベルより更に進んだレベルの作品に挑戦する。『器楽II』でも「音楽と身振り」についても考えさせ、人前で演奏する上で体を上手く使うことの必要性和重要性について考えさせる。また学ぶ楽曲の作曲者についての知識を深めさせるとともに学ぶ楽曲の作曲された時代背景を調べ、歴史についても知識を習得させる。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (147 谷川マユコ) 作曲 (159 中田知宏) 金管楽器 (161 西久保友広) 打楽器 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	
専門科目群	300番台科目	声楽I	『声楽基礎A～D』を履修したものが、さらに発声法と呼吸法の精度を高められるようトレーニングを積む授業である。会得した声楽の響きやテクニックを、音楽表現に生かせるよう、その方法を様々に模索する。また、そうした模索する段階を、言葉に、或いは文章に表すことで、具体的に記憶に刻み込み、反復練習によってそれを体に覚え込ませていく。テクニックの修得の他、指導者として具体的に言葉で言い表し、また、具体的に発声を行って示すことが出来るようになるための指導法の習得も目指す。教材には日本歌曲、イタリア歌曲、オペラアリアより、個々のレベルに合わせて選択。言葉の扱い、特に子音と母音の処理に関しては、細かく、根気よく訓練を重ねる授業である。	
専門科目群	300番台科目	声楽II	『声楽I』を履修したものが、さらに発声法と呼吸法の精度を高められるようトレーニングを積む授業であり、担当教員は、履修者が『声楽I』で取り組んだ課題よりも難易度の高い課題を提示する。会得した声楽の響きやテクニックを、音楽表現に生かせるよう、その方法を様々に模索する。また、そうした模索する段階を、言葉に、或いは文章に表すことで、具体的に記憶に刻み込み、反復練習によってそれを体に覚え込ませていく。テクニックの修得の他、指導者として具体的に言葉で言い表し、また、具体的に発声を行って示すことが出来るようになるための指導法の習得も目指す。教材には日本歌曲、イタリア歌曲、オペラアリアより、個々のレベルに合わせて選択。言葉の扱い、特に子音と母音の処理に関しては、細かく、根気よく訓練を重ねる授業である。	
専門科目群	300番台科目	世界演劇・舞踊史I	古代ギリシャにおける演劇の発生からキリスト教下の中世、近世までの西洋(欧米)演劇・舞踊に関する基礎知識を歴史に沿って解説し、時代ごとに代表的な作品を取り上げる。またアジアやアフリカなど、世界の様々な地域の演劇についてもその概要を学ぶ。リアリズムやアヴァンギャルドの潮流が生まれる以前の演劇の特徴と理論を明確に捉え、近代以降の「芸術」との相違点を探る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	世界演劇・舞踊史II	19世紀以降のヨーロッパを中心とした舞台芸術の新しい潮流がどのように世界を席卷し、新しい芸術としてのパフォーマンスが生まれ、現在に至っているのかを歴史に沿って解説し、時代ごとに代表的な作品を取り上げる。またアジアやアフリカなど、世界の様々な地域が演劇理論家たちにどのような影響を与えてきたのかを理解する。リアリズムやアヴァンギャルドの特徴と理論を明確に捉え、現代の舞台芸術を形成している諸要素について理解を深める。	
	300番台科目	オーディション演習	(概要) オーディション(選考試験)を表現者にとっての「就職活動」と位置づけ、キャリア学修の一環として、必要とされる知識、思考力および技術を修得し、自己実現に向けたステップアップに結びつけることができる。自分という人間をいかに相手のニーズに応えて最大限に伝えることができるか。その読解力と理解力、および表現力を身に付ける。講義と合わせ、実際に必要なポートフォリオやサンプルなど効果的な資料作りを通し、キャリアについて考える。 (オムニバス方式／全15回) (10 アーカリ, ジェイスン／2回) イントロダクション、様々なオーディション形式、ポートフォリオ・ヴォイスサンプル・自己アピール(動画含む)の作成方法について (97 浦弘毅／3回) 様々なオーディションの形式について(身体能力) (125 楠原竜也／4回) 様々なオーディションの形式について(ダンス創作) (140 島田啓司／4回) 様々なオーディションの形式について(シーン創作) (97 浦弘毅 125 楠原竜也 140 島田啓司／2回)(共同) 模擬オーディションの実施とフィードバック	オムニバス方式 共同(一部) 講義6時間 演習24時間
	300番台科目	上演実習A	(概要) 上演に向けた創造過程を体系的且つ実践的に把握し、それらの企画運営を行いながら、表現者としては熟練度の高い表現力を、スタッフとしては的確な技術力を身に付けることを目指す。具体的には、劇場という『場』の機能を理解し、その有効な利用法を見出すことができ、プロダクション運営においてはチーム内、チーム間でコミュニケーションをはかり、プロダクションを円滑に運営することができるようになることを目指す。 『上演実習B』とは異なる演目を創作する。 〔担当教員のテーマ〕 (1 長裕二)ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (93 石野寛子)舞踊作品の上演に向けた創作と研究 (127 久保田彩佳)ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (152 津島圭佑)ミュージカル作品の上演に向けたピアノ伴奏の研究 (156 永井崇多宏)ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (188 横山清崇)演劇作品の上演に向けた創作と研究、作品の上演意義についての研究と検証、テクニカルスタッフの上演に向けた創作と研究、デザイナースタッフの上演に向けた創作と研究、企画制作者の上演に向けた運営と研究	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	3 0 0 番 台 科 目	上演実習B	(概要) 上演に向けた創造過程を体系的且つ実践的に把握し、それらの企画運営を行いながら、表現者としては熟練度の高い表現力を、スタッフとしては的確な技術力を身に付けることを目指す。具体的には、劇場という「場」の機能を理解し、その有効な利用法を見出すことができ、プロダクション運営においてはチーム内、チーム間でコミュニケーションをはかり、プロダクションを円滑に運営することができるようになることを目指す。 『上演実習A』とは異なる演目を創作する。 [担当教員のテーマ] (1 長裕二)ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (93 石野寛子) 舞踊作品の上演に向けた創作と研究 (127 久保田彩佳)ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (152 津島圭佑)ミュージカル作品の上演に向けたピアノ伴奏の研究 (156 永井崇多宏)ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (188 横山清崇)演劇作品の上演に向けた創作と研究、作品の上演意義についての研究と検証、テクニカルスタッフの上演に向けた創作と研究、デザイナースタッフの上演に向けた創作と研究、企画制作者の上演に向けた運営と研究	共同
			(概要) 上演芸術において欠かせない観客・聴衆を「もてなす」立場から考える。前半では、劇場における観客・聴衆の思考や行動について考察し、後半で、チケット代、アナウンス等、接遇における基礎を演習で学ぶことで、最終的に、個々の「観客論」をまとめることを目指す。 (オムニバス方式／全15回) (52 ヲザキ浩実／7回) 「劇場(必ずしも建築物のことではない)」における観客・聴衆の思考や行動について劇場運営、芸術祭などのプロデューサーの視点から考察する。 (71 多和田真太良／8回) チケット代、アナウンス、オペレーション、案内などの劇場における接遇の基礎的な概念と方法を学ぶ。上演実習、および上演基礎実習において実際の「もてなし」(ゲストリレーション)を体験し、観客のニーズや動線からパフォーマンスを支える役割を理解する。	
			音楽科教員の目指す資質や能力を養成し、教育実習に必要な知識及び技能を習得することをねらいとする。目標は、1) 子供が「何を理解しているのか、何ができるのか」を思考し、自らの授業力を高める、2) 地域における音楽活動の実態をふまえた学習指導案やワークシートを作成し、学習評価の方法を工夫した模擬授業ができる、3) 他者と協働し、音楽表現や鑑賞活動の充実を図った模擬授業をすることができる、4) 課題意識をもって参加し、研究協議では、振り返りを行い、授業指導の改善の視点をもつ、5) 音楽の特性に応じた情報機器や教材の効果的な活用法を身に付ける、である。本授業を通し、確かな授業力(指導技術:授業展開、教材解釈、指導計画と評価の作成、統率力、児童・生徒理解、使命感・熱意・感性など)を養い、教師に求められる予想不可能な事態にも対応できる指導力や子供とまっすぐに向かい合える人間性の向上を目指す授業を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	音楽科指導法Ⅳ	音楽科教員の目指す資質や能力を獲得し、我が国や郷土の伝統音楽学習の教材化や実践に必要な知識及び技能を習得することをねらいとする。目標は、1) 子供たちが生活や社会の中にある音楽や音楽文化と豊かにかわる資質・能力を獲得するための視点や指導力を身に付ける、2) 教育実習での実践授業体験を生かし、知識・理解の質を高め、生徒に確かな学力を育成するための授業構築力を身に付ける、3) 我が国や郷土の伝統音楽に関する指導に必要な知識や技能を習得し、【表現：歌唱・器楽・創作】【鑑賞】の各分野において、教材化や実践的な模擬授業ができる、4) 「口唱歌(くちしょうが)」を用い、縦方向に書かれた楽譜の使用など、伝統的に用いられた学びの方法を生かした和楽器指導法を学ぶ、5) 生涯にわたって能動的に学び続ける教師を目指す、である。本授業では、地域の人材や実演家を活用し、社会に開かれた教育課程を意識した実践授業演習も行う。	
	300番台科目	器楽教育法Ⅱ(リコーダー・弦楽器)	(概要) 音楽科授業におけるリコーダーや弦楽器(ヴァイオリン、コントラバスなど)による器楽表現に関わる知識や技能を習得し、表現活動を通して、リコーダーの独奏やアンサンブルの演奏技能能力、弦楽器に関する鑑賞指導力を実践的に習得することをねらいとする。 (オムニバス方式／全15回) (2 清水宏美、83 浅井愛 91 飯野なみ／1回)(共同) リコーダーや弦楽器指導の意義について考え、器楽や鑑賞授業との関連について理解する。 (83 浅井愛／7回) リコーダー(Sop.Altoを中心とした)の音色や響きと奏法との関わりを理解し、楽器固有の演奏方法、身体の使い方(姿勢や楽器の構え方など)、リコーダーの独奏やリコーダーアンサンブルなど他者と合わせて演奏する技能を習得する。 (91 飯野なみ／7回) 弦楽器(ヴァイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスなど)の音色や響きと奏法との関わりを理解し、楽器固有の演奏方法、身体の使い方、弦楽器の独奏や弦楽アンサンブルなど他者と合わせて演奏する技能を習得する。	オムニバス方式・共同(一部)
	300番台科目	鑑賞教育理論(音楽)	中学校及び高等学校において鑑賞教育の指導にあたって必要とされる楽曲に関する知識を習得するとともに、教材解釈の基礎となる楽曲分析の能力や、指導方法について習得することを目的とする。鑑賞は、決して受身的なものではなく、批評する、すなわち書くという積極的な表現行為によって成立するものである。このことは、言語活動の重要性は平成29年告示の中学校学習指導要領に示されている通りである。したがって、書くという批評行為を中心に講義を展開する。	
	300番台科目	伴奏法	学校の音楽教育現場や、その他の音楽活動場面において楽譜に頼らない伴奏、つまりメロディーとコードのみの楽譜でも自発的に和音を工夫して弾く事が出来るようになることを目的とする。コードネームを理解し、コード進行を見ながら両手伴奏が出来るようになることを基礎とする。また基本的なリズムから発展したリズム型(ジャズ風、ラテン風等)に発展させ、各課題において簡単なセッションを行いながら、実際の教育現場で活用出来る伴奏力を身に付ける。あわせて教員採用試験に向けての伴奏法(弾き歌い等)の技術を習得する。	
	300番台科目	歌曲伴奏法	歌曲のピアノパートについて、より高度な演奏技術と音楽表現の習得と正確な音楽解釈の習得により、卒業後にプロのアンサンブルピアニストを目指す学生がその基礎を学ぶための授業である。イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲を中心に、アンサンブルピアニストに求められる様々なスキルを学ぶ。授業は歌詞の正確な内容の把握、外国語の発音、楽曲分析を行い、必要な演奏技術の習得を目指す。歌曲の他、オペラアリアの伴奏法、宗教曲の伴奏法も学ぶ。授業終了時には伴唱者を伴い演奏会形式で試験を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	400番台科目	作曲法I	対位法の基本を学び、2声対位法による楽曲、3声対位法による楽曲を作曲し、鍵盤楽器上で実際に音を奏で演奏を試みる。その後、自由な形式による3分～5分程度の楽曲創作を行う。自由作曲には、複数の楽器を組み合わせた室内楽や歌曲も含む。各楽器の特性、歌曲の場合は音域の扱いと詞の表現についても研究し、音楽作品を創作することについての考えを確立することを目指す。作品は、学期末に公開演奏会を開催することで、作品を創作して上演し、聴衆に届けるまでの一連の流れを学ぶ。また、編曲法についても学ぶ。	
	400番台科目	作曲法II	『作曲法I』で学んだ対位法知識を基に4声のフーガを作曲する。鍵盤上で音にすると同時に、各声部に楽器を割りあてて実演し複数の楽器の音の組合せも学ぶ。その後、自由な形式による5分以上の楽曲創作を行う。自由作曲には、複数の楽器を組み合わせた室内楽や、歌曲も含む。各楽器の特性、歌曲の場合は音域の扱いと詞の表現についても研究し、音楽作品を創作することについての考えを確立することを目指す。作品は、学期末に公開演奏会を開催することで、作品を創作して上演し、聴衆に届けるまでの一連の流れを検証する。また、編曲法についても学ぶ。	
専門科目群	400番台科目	器楽III	(概要) 『器楽II』で身に付けた演奏技術及び表現能力を更に向上させる授業である。演奏する上で身に付けなければならない読譜力・運指法・ボーイングまた表現方法を常に学生に考えさせ、段階的に技術力また表現力の向上を目指す。学ぶ楽曲は『器楽II』で学んだレベルより更に進んだレベルの作品に挑戦しなければならない。『器楽III』でも「音楽と身振り」についても考えさせ、人前で演奏する上で体を上手く使うことの必要性和重要性について考えさせる。また学ぶ楽曲の作曲者についての知識を深めさせるとともに学ぶ楽曲の作曲された時代背景を調べ、歴史についても知識を習得させる。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (147 谷川マユコ) 作曲 (159 中田知宏) 金管楽器 (161 西久保友広) 打楽器 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	4 0 0 番 台 科 目	器楽Ⅳ	(概要) 『器楽Ⅲ』で身に付けた演奏技術及び表現能力を更に向上させる授業である。演奏する上で身に付けなければならない読譜力・運指法・ボーイングまたは表現方法を常に学生に考えさせ、段階的に技術力また表現力の向上を目指す。学ぶ楽曲は『器楽Ⅲ』で学んだレベルより更に進んだレベルの作品に挑戦しなければならない。『器楽Ⅳ』でも「音楽と身振り」についても考えさせ、人前で演奏する上で体を上手く使うことの必要性和重要性について考えさせる。また学ぶ楽曲の作曲者についての知識を深めさせるとともに学ぶ楽曲の作曲された時代背景を調べ、歴史についても知識を習得させる。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (147 谷川マユコ) 作曲 (159 中田知宏) 金管楽器 (161 西久保友広) 打楽器 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	
			『声楽Ⅱ』を履修したものが、さらに発声法と呼吸法、及び音楽表現力を高められるようトレーニングを積む授業であり、担当教員は、履修者が『声楽Ⅱ』で取り組んだ課題よりも難易度の高い課題を提示する。会得した声楽の響きやテクニックを、音楽表現に生かせるよう、その方法を様々に模索する。また、そうした模索する段階を、言葉に、或いは文章に表すことで、具体的に記憶に刻み込み、反復練習によってそれを体に覚え込ませてゆく。テクニックの修得の他、指導者として具体的に言葉で言い表し、また、具体的に発声を行って示すことが出来るようになるための指導法を習得する。教材には日本歌曲、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、オペラアリアより、個々のレベルに合わせて選択。言葉の扱い、特に子音と母音の処理に関しては、細かく、根気よく訓練を重ねる授業である。	
			『声楽Ⅲ』を履修したものが、さらに発声法と呼吸法、及び音楽表現力を高められるようトレーニングを積む授業であり、担当教員は、履修者が『声楽Ⅲ』で取り組んだ課題よりも難易度の高い課題を提示する。会得した声楽の響きやテクニックを、音楽表現に生かせるよう、その方法を様々に模索する。また、そうした模索する段階を、言葉に、或いは文章に表すことで、具体的に記憶に刻み込み、反復練習によってそれを体に覚え込ませてゆく。テクニックの修得の他、指導者として具体的に言葉で言い表し、また、具体的に発声を行って示すことが出来るようになるための指導法を習得し授業内で実践する。教材には日本歌曲、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、オペラアリア、宗教曲より、個々のレベルに合わせて選択。言葉の扱い、特に子音と母音の処理に関しては、細かく、根気よく訓練を重ねる授業である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	4 0 0 番 台 科 目	アンサンブルVII	(概要) 器楽アンサンブル・声楽アンサンブル・コンサートマネジメントのいずれかを選択し、知識・実技を修得する。器楽アンサンブル・声楽アンサンブルを希望する学生は、『アンサンブルVI』で修得した力を基に更に進んだ演奏技術と表現力の向上を目指し練習方法を工夫し実践する他、最高学年の学生として教員と連携を取り、率先して全体を纏め調和のあるアンサンブルを纏める総合力を身に付け、実施する。またコンサートマネジメントを学ぶ学生は『アンサンブルVI』で培ったクラシックコンサート企画を率先して教員と相談し、詳細な計画を立て実行できる力を修得すると共に、演奏会運営に携わり、実際に日本に於けるクラシック音楽会の企画・運営に携わることのできるスキルの基礎を身に付ける。 [担当教員のテーマ] (91 飯野なみ) 弦楽アンサンブル (96 伊藤あみか) クラシックコンサートの企画・運営 (93 石野寛子) ミュージカル (99 遠藤柊一郎) 弦楽アンサンブル (105 太田聡) 吹奏楽 (107 小口浩司) 混声合唱 (108 小倉達夫) 弦楽アンサンブル (112 香月圭佑) 弦楽アンサンブル (119 菊地智子) ピアノアンサンブル (123 木村美音子) 弦楽アンサンブル (127 久保田彩佳) ミュージカル (134 齊藤智子) ミュージカル (156 永井崇多宏) ミュージカル (161 西久保友広) 打楽器アンサンブル (188 横山清崇) ミュージカル	
			(概要) 器楽アンサンブル・声楽アンサンブル・コンサートマネジメントのいずれかを選択し、知識・実技を修得する。器楽アンサンブル・声楽アンサンブルを希望する学生は、『アンサンブルVII』で修得した力を基に4年間の集大成として最高レベルの演奏技術と表現力を目指し練習方法を工夫し実践する他、最高学年の学生として教員と連携を取り、率先して身に付けた全体を纏め調和のあるアンサンブルを纏める総合力を授業で実施する。またコンサートマネジメントを学ぶ学生も4年間の集大成として『アンサンブルVII』で培ったクラシックコンサート企画の方法を率先して計画し教員と相談し、実際に実行する。演奏会運営に於いては、日本に於けるクラシック音楽会の運営に携わることのできるスキル力を総合的に身に付ける。 [担当教員のテーマ] (91 飯野なみ) 弦楽アンサンブル (96 伊藤あみか) クラシックコンサートの企画・運営 (93 石野寛子) ミュージカル (99 遠藤柊一郎) 弦楽アンサンブル (105 太田聡) 吹奏楽 (107 小口浩司) 混声合唱 (108 小倉達夫) 弦楽アンサンブル (112 香月圭佑) 弦楽アンサンブル (119 菊地智子) ピアノアンサンブル (123 木村美音子) 弦楽アンサンブル (127 久保田彩佳) ミュージカル (134 齊藤智子) ミュージカル (156 永井崇多宏) ミュージカル (161 西久保友広) 打楽器アンサンブル (188 横山清崇) ミュージカル	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	4 0 0 番 台 科 目	第九演奏表現C	(概要) ベートーヴェン作曲「交響曲 第9番 ニ短調 作品125」の全楽章演奏に取り組む授業である。授業は管弦楽講座領域と合唱講座領域に分かれて行う。管弦楽講座領域は体系化されたカリキュラムにより高度な演奏技術と合奏ソルフェージュ、楽曲分析の訓練を行う。授業はパート練習、分奏練習、合奏練習を組み合わせて行う。楽譜は「新ブライトコプフ版」を用いる。合唱講座領域は発声法、呼吸法及び楽曲分析、ドイツ語の発音等含め質の高いアンサンブルを目指し授業を展開する。成果の発表の場として最終的には都内の音楽ホールにて全楽章の演奏会を行うことを目標とする。本番の演奏会参加が単位認定の必須条件となる。『第九演奏表現B』からの継続履修者は合唱領域履修者においてはベルカント唱法の発声を明確に意識するとともにドイツ語の発音について他者に教えることの出来るレベルを到達目標とする。また管弦楽履修者においては全楽章の楽曲分析を他者に説明できることを到達目標とする。 [担当教員のテーマ] (110 加形裕子) 女声パート (116 金子宏) 男声パート (160 中村裕美) 女声パート (159 中田知宏) 管弦楽演奏指導、合奏ソルフェージュ	共同(一部)
	4 0 0 番 台 科 目	音楽教育実践法	『音楽科指導法I～IV』で習得した音楽科教師に必要とされる知識・技能や目指す資質・能力を活用しながら、授業研究と実践演習を探究する。具体的には、1) 学習指導案作成と中心発問を踏まえた実践模擬授業、2) 生徒の学びが見えるワークシート作成と評価方法の研究、3) ポートフォリオと評価方法の研究、4) ICTを活用した授業展開と掲示物研究、5) 共通歌唱教材の弾き歌いと教材研究、6) 我が国と郷土の伝統音楽と諸外国の音楽研究、7) 題材の関連を図った実践授業、8) 小・中・高等学校の系統的な指導法など、である。平成29年度告示の学習指導要領で求められている内容や趣旨、理論的な背景を捉えながら、実践的指導力を修得できるような授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目 群	4 0 0 番 台 科 目 演奏・創作Ⅲ	(概要) 『演奏・創作Ⅱ』修得者が『卒業演奏・卒業創作』に向けて準備をする授業である。学生各人の個性と長所を尊重しながら、音楽的内容と演奏技術の両面から高度な演奏技術と音楽性を体系的に学修する。楽譜に忠実に演奏するための読譜力を身に付け、各時代様式を理解した奏法と解釈を習得する。また、人前で演奏すること、また音楽の指導者として必要なスキルとは何かを常に想定して学修をする。担当教員は学生のレベルに応じた曲を選曲しセメスター内で数曲の楽曲を仕上げて行く。作曲については、編曲を含む創作技術を学ぶ。 〔担当教員のテーマ〕 (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (5 馬場眞二) 声楽 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (7 渡辺明子) 声楽 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (110 加形裕子) 声楽 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (116 金子宏) 声楽 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (134 齊藤智子) 声楽 (147 谷川マユコ) 作曲 (151 辻裕久) 声楽 (152 津島圭佑) 鍵盤楽器 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器 (159 中田知宏) 金管楽器 (160 中村裕美) 声楽 (161 西久保友広) 打楽器 (162 西由起子) 声楽 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	400番台科目	卒業演奏・卒業創作	(概要) 『演奏・創作Ⅲ』修得者が履修する授業であり、4年間の音楽専門実技の集大成を学ぶ授業である。学生各人の個性と長所を尊重しながら、音楽的内容と演奏技術の両面から高度な演奏技術と音楽性を体系的に学修し演奏会で発表する。今まで培ってきた楽譜に忠実に演奏するための読譜力、各時代様式を理解した奏法と解釈を考えて演奏することを目的とする。演奏会では15分程度の楽曲の演奏を課す。担当教員は学生のレベルに応じた曲を選曲しセメスター内で数曲の楽曲を仕上げて行く。作曲については、編曲を含む創作技術を学ぶ。 [担当教員のテーマ] (3 中村岩城) 鍵盤楽器 (5 馬場眞二) 声楽 (6 松川儒) 鍵盤楽器 (7 渡辺明子) 声楽 (88 荒木玉緒) 金管楽器 (91 飯野なみ) 弦楽器 (99 遠藤柊一郎) 弦楽器 (105 太田聡) 金管楽器 (108 小倉達夫) 弦楽器 (109 小佐野実穂) 鍵盤楽器 (110 加形裕子) 声楽 (111 風間克彌) 金管楽器 (112 香月圭佑) 弦楽器 (116 金子宏) 声楽 (119 菊地智子) 鍵盤楽器 (132 小峰松太郎) 木管楽器 (137 佐藤雄紀) 鍵盤楽器 (134 齊藤智子) 声楽 (147 谷川マユコ) 作曲 (151 辻裕久) 声楽 (152 津島圭佑) 鍵盤楽器 (165 畑中真理) 木管楽器 (167 林京平) 鍵盤楽器 (172 藤田真頼) 木管楽器 (159 中田知宏) 金管楽器 (160 中村裕美) 声楽 (161 西久保友広) 打楽器 (162 西由起子) 声楽 (183 森永美穂子) 鍵盤楽器	
	400番台科目	卒業創作・研究A	(概要) 各自の領域に合わせた卒業創作(上演・出演・作品制作など)を行い、ミュージカル作品を抜粋上演する。これまでの専門科目で各自が得た音楽、演劇、舞踊の知識と技術を総合的に活用するだけでなく、スタッフ、演者それぞれの役割を理解し、協調、協力してミュージカル作品を作り上げる足がかりとする。 [担当教員のテーマ] (1 長裕二) ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (93 石野寛子) ミュージカル作品の上演に向けた舞踊の研究 (127 久保田彩佳) ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (152 津島圭佑) ミュージカル作品の上演に向けたピアノ伴奏の研究 (156 永井崇多宏) ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (188 横山清崇) ミュージカル作品の上演に向けた演劇・演出の研究	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	400番台科目	卒業創作・研究B	(概要) 各自の領域に合わせた卒業創作(上演・出演・作品制作など)を行い、ミュージカル作品を完全上演する。これまでの専門科目で各自が得た音楽、演劇、舞踊の知識と技術を総合的に活用するだけでなく、スタッフ、演者それぞれの役割を理解し、協調、協力して一つのミュージカル作品を作り上げることを目標とする。 [担当教員のテーマ] (1 長裕二)ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (93 石野寛子)ミュージカル作品の上演に向けた舞踊の研究 (127 久保田彩佳)ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (152 津島圭佑)ミュージカル作品の上演に向けたピアノ伴奏の研究 (156 永井崇多宏)ミュージカル作品の上演に向けた発声の研究 (188 横山清崇)ミュージカル作品の上演に向けた演劇・演出の研究	共同
	400番台科目	卒業論文執筆法	(概要) 『卒業論文執筆法』は、これまで音楽について学んできたことを総合し、それぞれが研究テーマを決め、文献・資料の収集・分析を行ったうえで、それらに基づいた自らの考察を卒業論文にまとめる授業である。『卒業論文執筆法』では論文にまとめる基礎的な知識や方法を身に付ける。テーマの立て方、関係資料・文献の集め方や読み解き方、それらを用いて結論へ導く立論の立て方、論文の構成や論文作成上のルール、などを修得することが、目標となる。 [担当教員のテーマ] (2 清水宏美)音楽教育 (4 野本由紀夫)音楽学	
専門科目群	400番台科目	卒業論文	(概要) 『卒業論文』では『卒業論文執筆法』で修得した基本的な論文作成の技術を基に、実際に、自分の観点からテーマを選び、資料を収集・探求し、論理的な考察を通して結論を導出し、論文にまとめる作業を行う。論文完成までの計画的なスケジュール配分と、担当教官と密なコミュニケーションが不可欠である。 [担当教員のテーマ] (2 清水宏美)音楽教育 (4 野本由紀夫)音楽学	
教職関連科目群		日本国憲法	我が国の教育職はもちろん、社会サービスに深く関わる専門職にとって日本国憲法の理解は不可欠である。国民生活は、憲法を頂点とする法体系の下で営まれている。本授業においては、日本国憲法の制定史・基本原理を概観した上で、特に平和主義並びに基本的人権に関する諸問題について、実社会における具体的な事件・判例等をも交え、わかりやすく解説する。	
教職関連科目群		体育	秋 semester 開始時の特別教育期間中に授業を開始し、K-12(幼・小・中・高)と合同で行う体育祭にマスゲーム発表するまでの教職希望学生必修の集中授業である。男女ともにデンマーク体操を基本とした徒手体操の基本を習得し、グループ練習を経て、全員での体操発表を行い、マスゲームの基本と応用力及び指導力を養うことを最終的な目的とする。	
教職関連科目群		教育原理	教育は現代社会が考慮すべき最重要課題である。教育問題を単に学校教育の問題としてではなく、教育の原理に立ちかえって次のような問題を検討することが大切である。本講では、教育という関心から見て統合的な人間観・子ども観とはなにか、教育問題を解いていく望ましい原理とはなにか、学校教育にはどのようなメカニズムが働いているか、カリキュラムの構成と教育方法にはどのようなモデルがあるか、など教育に関する総合的理解を導くことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職関連科目群	教職概論	教師の有り様が問題とされている。プロフェッショナルとしていかに優れた教授者であるか、人としていかに良き先達であるか。古代ギリシャ以来の優れた教師像に範を求めながらも、新たな世紀に求められる教師とは何であるか、いかに生きるか、いかなる資質を有するかに目を向ける。教育専門職としての教師の今日的、将来的有り様を検討し、これから教育者を志す若者たちのキャリア意識の確認と高揚を図る。	
教職関連科目群	教育の制度と経営	現代の教育は、学校教育制度の中に位置付けられ、教育行政という枠組みの中で展開されている。本講では、学校制度と社会との関係を、主に、(1)学校教育拡大の要因、(2)学校教育の社会機能、(3)学校制度、(4)学校教育の性格、(5)社会変化と学校教育の関係、(6)学校制度の問題、の諸点から取り上げる。教職を目指す受講生が、学校制度とどのような関わりをもち、それがどのような意味をもちうるのかを考えることを重視する。	
教職関連科目群	学習・発達論	教育専門職にとって、子どもたちの心身の発達状況と学習との関連を知ることが極めて重要である。本講では、幼児期および児童期の発達と学習について、就学前教育および学校教育との関連を中心に考察する。幼児期に始まる幼稚園・保育園での集団生活の中での仲間関係とそれを土台とする発達、さらに、就学に伴う学校教育経験は学級集団・教師・生徒関係などを通して児童の発達にどのような影響を与えるのかを検討する。学校のもつ社会・文化的環境としての意味についても考える。	
教職関連科目群	特別支援教育	特別支援教育とは一人ひとりのニーズに応じた特別な支援であり、学校を中心としながら空間的にも時間的にも、医療、福祉、労働といった関係分野が協力し合って進めるものである。授業では、まず障害とは何か、自立とは何かという基本的な概念から入る。ついで、障害児を支え教育してきたこれまでの歴史と近年の国際的流れを学ぶ。そして、それぞれの障害について正確な知識と教育課程、教育方法の実際を事例を交え習得する。障害は異なっても底には共通の教育の原理がある。近年の発達障害をめぐる知見や課題、また障害児を抱えた家族の問題にも触れ教育や福祉に携わるものに必要な知識を提供しともに考える授業とする。	
教職関連科目群	教育課程編成論(中・高)	崇高な教育理念も、具体的な内容を伴ってはじめてその実現への途につくことができる。ことに教育目的・目標の実現を組織的・体系的に企図すべく設置されている学校教育においては、効果的な教育課程(カリキュラム)の編成こそがその成否を左右していると言っても過言ではない。本講においては、教育課程の意義とその編成原理、過去の理論研究や実践の結果生まれた諸類型それぞれの功罪、教育課程行政の仕組みから各教科等における単元構成に至る教育課程編成の実際等について理解を深めることを目的とする。理論的な知識の習得はもとより、可能な限り事例の紹介を通して、学校教育における実践者としてのセンスを養っていく。	
教職関連科目群	道德教育の理論と方法(中)	学校は生徒の豊かな人格を形成することを目指す全人教育の場である。なかでも道德教育は、学校教育の基盤をなすもので、全教育活動を通して培っていくものである。変化の激しい社会において道德教育の必要性はさまざまな場で強調されている。学校教育における道德教育のあり方を学校教育全体と道德の時間の両面から考察していく。	
教職関連科目群	総合的な学習の時間の理論と方法(中・高)	教員を目指している履修生が「教師として」総合的な学習をデザイン・実施・評価していくために必要な基礎的な知識や授業方法、授業技術を獲得していくことを目的とする。自分自身の問題意識を持って、具体的なテーマに取り組むことから始め、最終的には、計画→準備→実行→評価という教師の日々の実践を丁寧に取り組み、授業力を身に付ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職関連 科目群	特別活動の理論と 方法(中・高)	共生を尊ぶ現在の社会においては、人々が相互依存をしながら協力して生活していることを理解し、そうした社会の一員として身に付けるべき資質について獲得することが望まれている。特別活動は、望ましい集団活動の特質とするものであり、各学校において児童の実態に応じた弾力的な指導が求められている。そこで、特別活動の目標や各内容の特質、指導のポイントなどを把握する。具体的には、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事等についてそれぞれの特質と内容、指導計画や指導について追求する。	
教職関連 科目群	教育の方法と技術 (中・高)	教育の熱意は優れて適切な教授技術によって支えられねばならない。良き教育活動にはそうした2側面のシナジー効果が重要であることは疑う余地のないところである。本講では、こうした教育方法を技術としてとらえる視点から、これまでの教育工学の開発した技術をふりかえり、それをもとに、現在の開発の方向を解説する。近年、情報化の進展とともに、教育技術の革新はめざましく、教育方法と技術は毎年何かしらの社会変化を組み込みながら発展している。	
教職関連 科目群	生徒・進路指導の理 論と方法(中・高)	生徒をいかに理解するか。また、生徒や親の相談事にいかに対応するか。高校からの中退者が増え、集団での学校生活に不適応を起こす生徒が増加しつつある。本講義では、中学・高校の事例検討を通して、中学・高等学校期にある青少年の心身の発達に関する理論を踏まえて生徒指導、進路指導を学ぶことを目的とする。	
教職関連 科目群	教育相談の理論と 方法(中・高)	生徒や親の相談事にいかに対応するか。高校からの中退者が増え、集団での学校生活に不適応を起こす生徒が増加しつつある。本講義では、中学・高校の事例検討を通して、教育相談における教員の役割と職務内容、他の専門職との連携、保護者との接し方、コミュニティーネットワークの活用について、中学・高等学校期にある青少年の心身の発達に関する理論を踏まえて学ぶことを目的とする。	
教職関連 科目群	教育実習(中学校)	実際の学校において教育活動を参観し、また主体的に学習指導、生徒指導にたずさわる過程で、教職課程にて習得した教育学の理論を実践の場で応用し、中学校教員としての力量の基礎を育成する。同時に、自らの教職適性を再確認させ、教員としての使命感をはぐくむものとする。教育実習事前指導においては、本学が目指す教師像を前提とした上で、実習における到達目標を明確にするとともに、実習の一連の流れや心構え、学習指導案の作成、実習日誌の記録等、必要な基本事項を確認する。また事後指導では、事前に設定した目標に対する達成度をを目指す教師像に照らし合わせて自己評価し、その反省から今後身に付けるべき力量を明確にさせる。	
教職関連 科目群	教育実習(高等学校)	実際の学校において教育活動を参観し、また主体的に学習指導、生徒指導にたずさわる過程で、教職課程にて習得した教育学の理論を実践の場で応用し、高等学校教員としての力量の基礎を育成する。同時に、自らの教職適性を再確認させ、教員としての使命感をはぐくむものとする。教育実習事前指導においては、本学が目指す教師像を前提とした上で、実習における到達目標を明確にするとともに、実習の一連の流れや心構え、学習指導案の作成、実習日誌の記録等、必要な基本事項を確認する。また事後指導では、事前に設定した目標に対する達成度をを目指す教師像に照らし合わせて自己評価し、その反省から今後身に付けるべき力量を明確にさせる。	
教職関連 科目群	教職実践演習(中・高)	教育に係わる今日的課題に対して的確に対応できる教師となるための第一歩を着実に踏み出すため、自らが取り組むべき課題を明らかにするとともに、これまでの学習生活を通して獲得された資質能力を、より実践的な観点において深化・統合あるいは補完することによって、その改善を図る。これにより、「子どもに慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛され、校長に信ぜられよ」という「玉川教師訓」に示された教師像の実現を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職関連科目群	教育インターンシップA	教育の現場に入り教育の実際を経験することにより児童・生徒との関わりを通じて教職への動機づけを明確にする。また、教育に係わる今日的課題に対して的確に対応するための第一歩を着実に踏み出すため、自らが取り組むべき課題を明らかにし、実践的な観点において深化・統合あるいは補完することによって、その改善を図る。『教育インターンシップB』とは実習先が異なる。『教育インターンシップC』『インターンシップD』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
教職関連科目群	教育インターンシップB	教育の現場に入り教育の実際を経験することにより児童・生徒との関わりを通じて教職への動機づけを明確にする。また、教育に係わる今日的課題に対して的確に対応するための第一歩を着実に踏み出すため、自らが取り組むべき課題を明らかにし、実践的な観点において深化・統合あるいは補完することによって、その改善を図る。『教育インターンシップA』とは実習先が異なる。『教育インターンシップC』『インターンシップD』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
教職関連科目群	教育インターンシップC	教育の現場に入り教育の実際を経験することにより児童・生徒との関わりを通じて教職への動機づけを明確にする。また、教育に係わる今日的課題に対して的確に対応するための第一歩を着実に踏み出すため、自らが取り組むべき課題を明らかにし、実践的な観点において深化・統合あるいは補完することによって、その改善を図る。『教育インターンシップD』とは実習先が異なる。『教育インターンシップA』『インターンシップB』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
教職関連科目群	教育インターンシップD	教育の現場に入り教育の実際を経験することにより児童・生徒との関わりを通じて教職への動機づけを明確にする。また、教育に係わる今日的課題に対して的確に対応するための第一歩を着実に踏み出すため、自らが取り組むべき課題を明らかにし、実践的な観点において深化・統合あるいは補完することによって、その改善を図る。『教育インターンシップC』とは実習先が異なる。『教育インターンシップA』『インターンシップB』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
教職関連科目群	教育哲学	教育について哲学的に探究する分野の入門講座である。哲学の学問的特徴から説き起こし、「教育とは何か」という問題への取り組みを中心に、教育の前提となる人間観、教育観、教育の目的や意義、さらに教育に関わる諸問題や諸課題について、根本的な、徹底的な、全体的・総合的な探究を行うための基礎を提供する。	
教職関連科目群	発達心理学	変化の激しい現代社会では人間の成長もまたそれらの影響を受けることとなる。発達心理学は人の誕生から死に至る行動の発生と変化を研究するが、本講では乳児期、幼児期、児童期を中心に、認知発達、言語発達、自己の発達について考える。これらの行動の諸側面について、その発達の变化をたどりながら、人間の発達の各段階の特質をみると共に、どのような要因が影響するのかを検討し、人間の生涯を通じた成長の過程へのより良い理解を図る。	
教職関連科目群	教育心理学	教育心理学は、教育に関連する諸事情について心理学的に研究し、教育の効果を高めるのに役立つような心理学的理論、知見、技術を提供しようとする学問である。心理学的に研究するということは、教育を科学的に理解することであり、本講義では子どもを生活の基盤、学習の過程、学校環境から総合的に認識し、教育実践の場に役立てることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職関連科目群	教育社会学	教育に関する諸問題を社会科学的に考察する分野の入門講座である。我々の実生活の隅々にまで顕在的・潜在的に浸透している教育現象を理解するためには、人間の文化・社会の全般に渡って複雑に入り組んでいる様々な要因を、多角的な展望の元で把握して行く必要がある。本講義では、巨視的・微視的な立場の双方から学校教育と全体社会との相互関係を多角的に概観し、学校教育システムとその機能、社会階層と教育等の問題について焦点的に考察して行く。	
教職関連科目群	教職演習A	教職における具体的な指導技術は、現場において子どもたちを目の当たりにした実践の中でこそ磨かれてゆくものであるが、大学における教員養成課程において学んでおくべき基本的な実践的指導を行う。具体的には、中高等学校における板書技術・ノート指導・発問・書写・机間指導といった技能訓練や、模擬授業である。また、教育実習後に自らの技能・資質について振り返りを行う際の足掛かりとする。	講義7時間 演習8時間
教職関連科目群	教職演習B	教職における具体的な指導技術は、現場において子どもたちを目の当たりにした実践の中でこそ磨かれてゆくものであるが、大学における教員養成課程において学んでおくべき基本的な実践的指導を行う。具体的には、小中高等学校における板書技術・ノート指導・発問・書写・机間指導といった技能訓練や、模擬授業、また各自が教育実習後に自らの技能・資質について振り返りを行う機会を提供する。	講義7時間 演習8時間
教職関連科目群	精神保健	社会の変化に対応して、心身の健康を保持増進するために、個人の適切な生活行動が重要と言われる。本講では、現代社会と家庭・学校・地域社会の変化と子どもの生活に触れながら、子どもの心の健康、親や教師の心の健康に関する問題、保持増進のための課題などについて概説する。また、野外活動、ゲームなどの体験教育プログラムを利用して、子どもたちの人間関係作りの支援、リーダーシップの育成、自尊感情を高めるといった諸プログラムについても理解することを目的とする。	
教職関連科目群	生命と性の教育	人間の生と性の問題は、若者たちの価値観の変化、高齢化社会の到来といった時代を迎えて、様々な問題に直面している。特に、大人や子どもを含めて、現代人の「生命と性」に関する考えが大きく変わりつつあり、また多くの性情報があふれている。本講義では、特に「生命と性」に関する様々な問題(第二性徴、妊娠・出産、人工妊娠中絶、エイズなど)を扱いながら、性教育のあり方について、日本や外国の現状をふまえ、考察する。	
教職関連科目群	異文化理解と教育	「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かねばならない」とは、ユネスコ憲章(1945年)の一節である。異文化理解とはいったい何であろうか。諸外国のことを知ることであろうか、また、自らの文化等を真に理解することが異文化理解に通じるのであろうか。本講では、留学問題、帰国子女問題、海外援助等の課題を扱い、異文化理解とは何か、そして、我々一人一人に異文化理解とは何を意味するのかを探っていくことを目的とする。	

学校法人玉川学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
玉川大学					玉川大学				
文学部					文学部				
国語教育学科	60	-	240		国語教育学科	60	-	240	
英語教育学科	80	-	320		英語教育学科	80	-	320	
農学部					農学部				
生産農学科	165	-	660		生産農学科	<u>155</u>	-	<u>620</u>	定員変更(△10)
環境農学科	70	-	280		環境農学科	70	-	280	
先端食農学科	70	-	280		先端食農学科	70	-	280	
工学部					工学部				
情報通信工学科	60	-	240		情報通信工学科	60	-	240	
ソフトウェアサイエンス学科	60	-	240		ソフトウェアサイエンス学科	60	-	240	
マネジメントサイエンス学科	60	-	240		マネジメントサイエンス学科	60	-	240	
エンジニアリングデザイン学科	60	-	240		エンジニアリングデザイン学科	60	-	240	
経営学部					経営学部				
国際経営学科	130	-	520		国際経営学科	130	-	520	
教育学部					教育学部				
教育学科	240	-	960		教育学科	<u>220</u>	-	<u>880</u>	定員変更(△20)
乳幼児発達学科	75	-	300		乳幼児発達学科	75	-	300	
芸術学部				→	芸術学部				
パフォーマンス・アート学科	130	-	520			<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和3年4月学生募集停止
メディア・デザイン学科	90	-	360			<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和3年4月学生募集停止
芸術教育学科	50	-	200			<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和3年4月学生募集停止
					<u>音楽学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>	学科の設置(届出)
					<u>アート・デザイン学科</u>	<u>100</u>	-	<u>400</u>	学科の設置(届出)
					<u>演劇・舞踊学科</u>	<u>90</u>	-	<u>360</u>	学科の設置(届出)
リベラルアーツ学部					リベラルアーツ学部				
リベラルアーツ学科	160	-	640		リベラルアーツ学科	160	-	640	
観光学部					観光学部				
観光学科	90	-	360		観光学科	<u>120</u>	-	<u>480</u>	定員変更(30)
教育学部					教育学部				
教育学科(通信教育課程)	1,500	-	6,000		教育学科(通信教育課程)	1,500	-	6,000	
芸術専攻科					芸術専攻科				
芸術専攻	10	-	10		芸術専攻	10	-	10	
計	3,160	-	12,610		計	3,160	-	12,610	

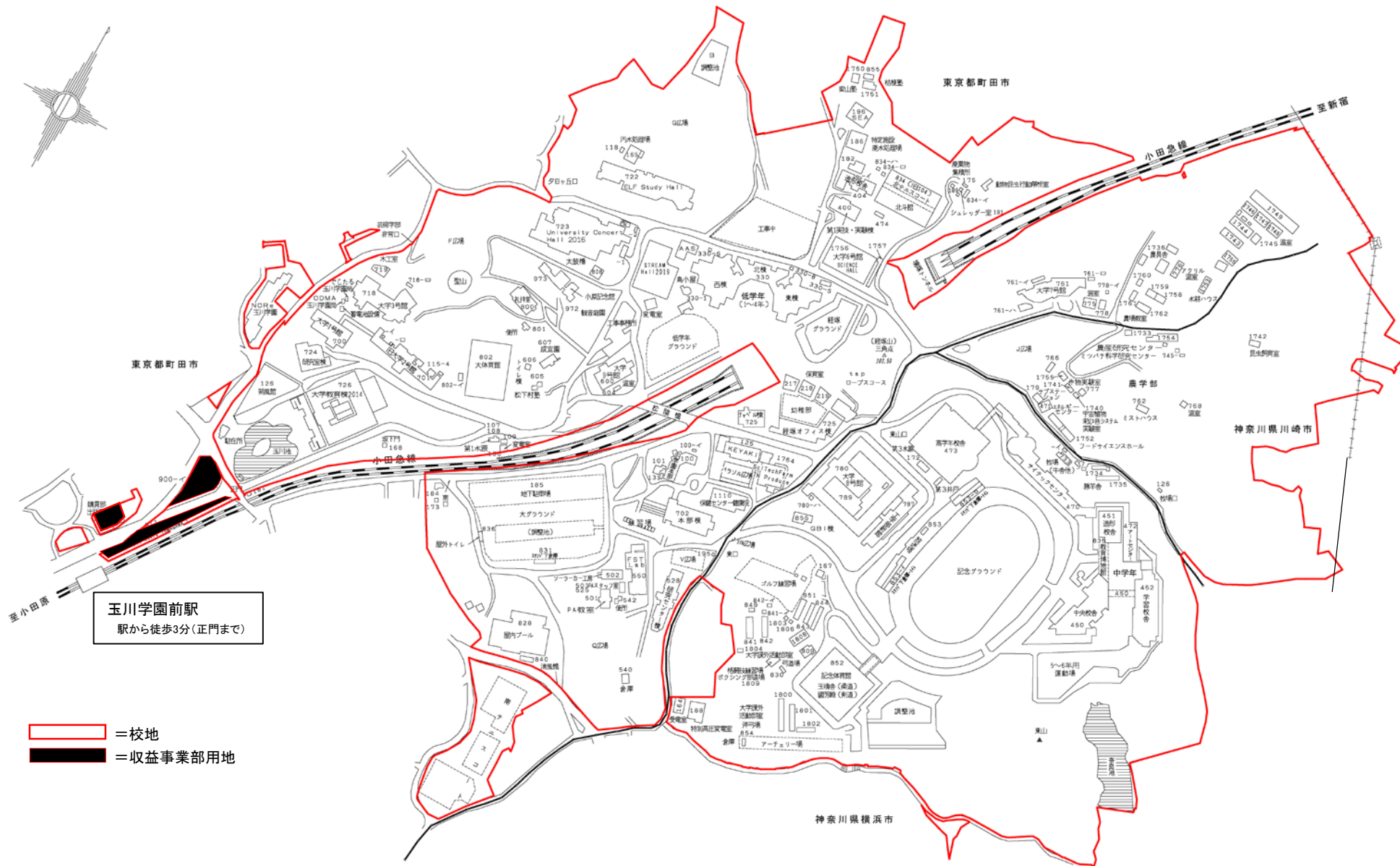
学校法人玉川学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
玉川大学大学院				玉川大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
人間学専攻(M)	5	-	10	人間学専攻(M)	5	-	10	
英語教育専攻(M)	7	-	14	英語教育専攻(M)	7	-	14	
農学研究科				農学研究科				
資源生物学専攻(M)	12	-	24	資源生物学専攻(M)	12	-	24	
資源生物学専攻(D)	4	-	12	資源生物学専攻(D)	4	-	12	
工学研究科				工学研究科				
機械工学専攻(M)	16	-	32	機械工学専攻(M)	16	-	32	
電子情報工学専攻(M)	16	-	32	電子情報工学専攻(M)	16	-	32	
システム科学専攻(D)	3	-	9	システム科学専攻(D)	3	-	9	
マネジメント研究科				マネジメント研究科				
マネジメント専攻(M)	7	-	14	マネジメント専攻(M)	7	-	14	
教育学研究科				教育学研究科				
教育学専攻(M)	10	-	20	教育学専攻(M)	10	-	20	
教職専攻(P)	20	-	40	教職専攻(P)	20	-	40	
脳科学研究科				脳科学研究科				
心の科学専攻(M)	5	-	10	心の科学専攻(M)	5	-	10	
脳科学専攻(D)	3	-	9	脳科学専攻(D)	3	-	9	
計	108	-	226	計	108	-	226	
玉川学園高等部	265	-	795	玉川学園高等部	265	-	795	
玉川学園中学部	235	-	705	玉川学園中学部	235	-	705	
玉川学園小学部	140	-	840	玉川学園小学部	140	-	840	
玉川学園幼稚部	教育年限2年 10	-	140	玉川学園幼稚部	教育年限2年 10	-	140	
	教育年限3年 40	-			教育年限3年 40	-		

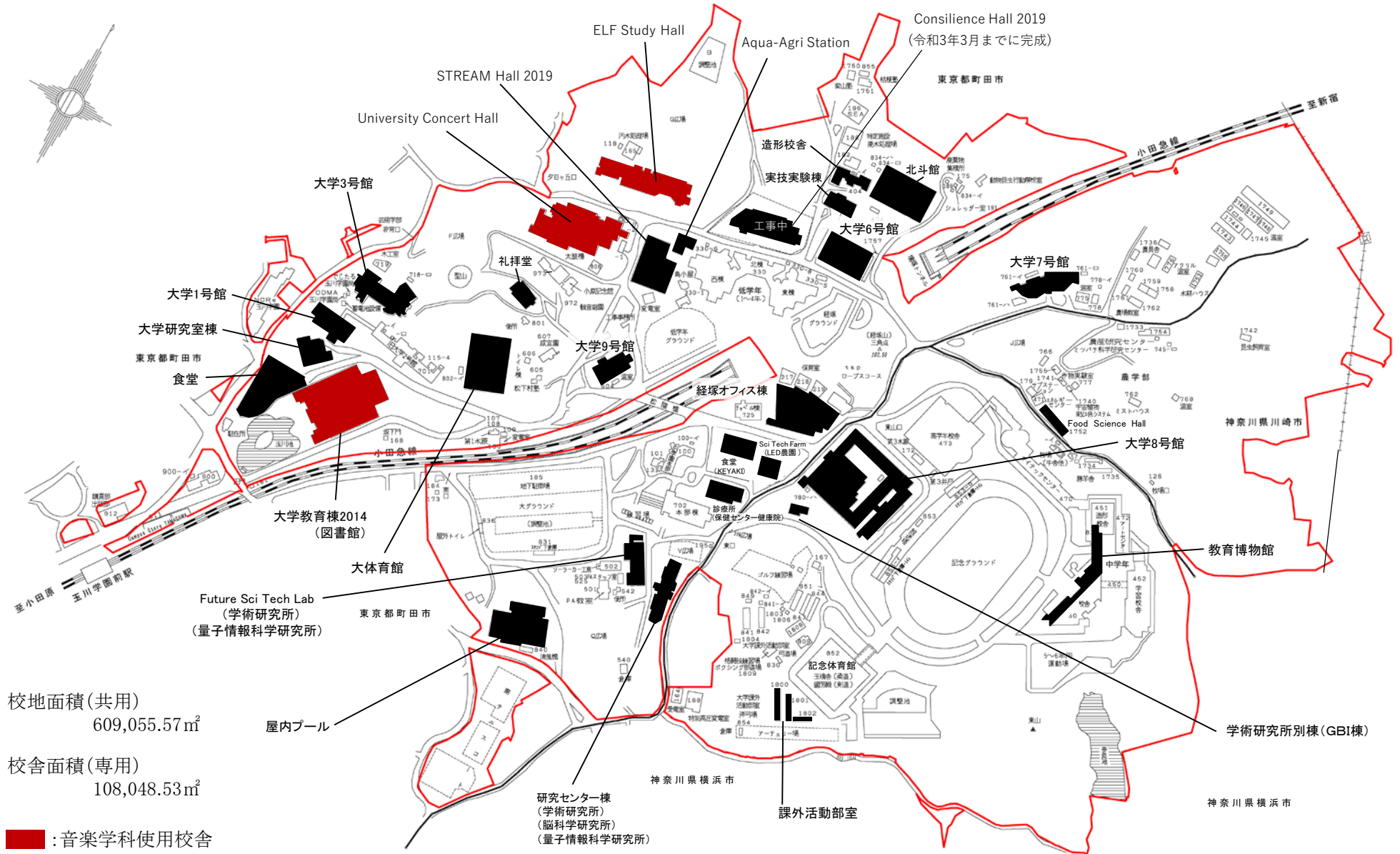
都道府県内における学校法人玉川学園の位置



学校法人玉川学園の近隣の環境



玉川大学の校舎・運動場配置図



第1章 目的及び使命

(目的及び使命)

第1条 本大学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、更にキリストの教えに従い、玉川学園建学の理想にかんがみ、「全人教育」をもって教育精神とし、広い教養と深い専門の学術の理論及び応用を教授する。宗教、芸術教育を重んじ魂を醇化し、浄らかな情操を養成し、厳粛な道義心を涵養することをもって人格を陶冶し、併せて人類の幸福と世界の文化の進展に寄与するものとする。

2 本大学の各学部についての人材養成等教育研究に係る目的は、別表第1に定める。

(自己点検及び評価)

第2条 本大学は、その教育研究水準の維持向上を図り、前条の目的及び使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の自己点検及び評価に関する細目は別にこれを定める。

3 本大学の授業及び研究指導の内容・方法の改善を図るため、組織的な研修・研究を実施する目的で、玉川大学FD委員会規程を別に定める。

第2章 学部・学科

(学部)

第3条 本大学に文学部、農学部、工学部、経営学部、教育学部、芸術学部、リベラルアーツ学部、観光学部を置く。

(学科等)

第4条 文学部に国語教育学科及び英語教育学科、農学部を生産農学科、環境農学科及び先端食農学科、工学部に情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科及びエンジニアリングデザイン学科、経営学部国際経営学科、教育学部に教育学科及び乳幼児発達学科、芸術学部音楽学科、アート・デザイン学科及び演劇・舞踊学科、リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科、観光学部に観光学科を置く。

2 教育学部教育学科に通信教育課程を置く。

3 通信教育課程に関しては、別に定める玉川大学教育学部教育学科通信教育課程規程による。

第3章 大学院

(大学院)

第5条 本大学に大学院を置く。

2 大学院に関しては、別に定める玉川大学大学院学則による。

第4章 学年、学期及び休業日

(学年及び学期)

第6条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学期は学年を2期に分け、それぞれの学期を1セメスターとする。期間については、教授会及び玉川大学部長会（以下「大学部長会」という。）の議を経て学長がこれを定める。

3 教育上の必要があるときは、夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間に特別学期を設けることができる。

(休業日)

第7条 本大学の休業日は、次のとおりとする。

(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(2) 日曜日

(3) 夏季休業日

(4) 冬季休業日

(5) 春季休業日

2 前項第3号から第5号の休業日の期間は、別に定める。

3 第1項各号に規定する以外の休業日については、教授会及び大学部長会の議を経て学長がこれを定める。

第5章 学部学科別定員

(定員)

第8条 本大学の定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	140人		560人
国語教育学科	60人		240人
英語教育学科	80人		320人
農学部	295人		1,180人
生産農学科	155人		620人
環境農学科	70人		280人
先端食農学科	70人		280人
工学部	240人		960人
情報通信工学科	60人		240人
ソフトウェアサイエンス学科	60人		240人
マネジメントサイエンス学科	60人		240人
エンジニアリングデザイン学科	60人		240人
経営学部	130人		520人
国際経営学科	130人		520人
教育学部	295人		1,180人
教育学科	220人		880人
乳幼児発達学科	75人		300人
芸術学部	270人		1,080人
音楽学科	80人		320人
アート・デザイン学科	100人		400人
演劇・舞踊学科	90人		360人
リベラルアーツ学部	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人
観光学部	120人		480人
観光学科	120人		480人
小計	1,650人		6,600人
教育学部			
教育学科通信教育課程	1,500人		6,000人
合計	3,150人		12,600人

第6章 修業年限及び教育課程

(修業年限)

第9条 本大学の修業年限は、4年とする。なお、在学年数は、8年を超えることはできない。

2 編入学生の修業年限は、3年次編入にあっては2年、2年次編入にあっては3年とし、在学年数はそれぞれ4年、6年を超えることはできない。

(授業科目)

第10条 授業科目は、ユニバーシティ・スタンダード科目（玉川教育・FYE科目群、人文科学科目群、社会科学科目群、自然科学科目群、学際科目群、言語表現科目群、教職関連科目群、資格関連科目群）、学部学科関連科目に区分し、必修科目及び選択科目に分ける。授業科目名及び単位数は、別表第2―①のとおりとする。

(授業科目及び単位数)

第11条 各学部の修業年限の間に履修しなければならない授業科目及び単位数については、次のとおりとする。なお、細部については学生要覧による。

(1) ユニバーシティ・スタンダード科目（玉川教育・FYE科目群）より7単位

(2) ユニバーシティ・スタンダード科目（人文科学科目群、社会科学科目群、自然科学科目群、学際科目群、言語表現科目群、教職関連科目群、資格関連科目群）については、各学部学科の履修規定による。

(3) 学部学科関連科目については、各学部学科の履修規定による。

- 2 教育上特に必要と認めたときは、本大学大学院及び専攻科の授業科目を履修させることができる。
- 3 教育職員免許状の授与を受けようとする学生は、教育職員免許法に基づき、同法第4条に定める免許状の種類に応じて、教育職員免許法施行規則に規定するそれぞれの科目及び単位数を修得しなければならない。
- 4 本大学で修得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表第3—①のとおりとする。
- 5 児童福祉法による保育士の資格を得ようとする学生は児童福祉法施行規則に規定する教科目及び単位数を修得しなければならない。
- 6 学校図書館法に基づく司書教諭、図書館法に基づく司書、社会教育法に基づく社会教育主事又は博物館法に基づく学芸員の資格を得ようとする者はそれぞれの法令に規定する科目及び単位数を修得しなければならない。
- 7 食品衛生法に基づく食品衛生管理者、同法施行令に基づく食品衛生監視員の資格を得ようとする者はそれぞれの法令に規定する科目及び単位数を修得しなければならない。
- 8 工事担任者の資格（国家試験受験科目一部免除）を得ようとする者は、工事担任者規則に規定する科目及び単位数を修得しなければならない。

（授業の方法等）

第12条 授業は講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 前項の授業は、文部科学大臣の定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

（学修時間及び単位）

第13条 各授業科目の単位数は、各学部教授会において定めるものとする。

- 2 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
 - (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 演習については、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 実験、実習及び実技については、30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。

- 3 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

（警告制度）

第14条 学生の学修の質の維持及び向上を図るために、警告制度を定める。

- 2 前項の細部については学生要覧による。

（進級条件及び進捗チェック）

第15条 教育上必要と認めた場合は、各学部学科において進級条件及び進捗チェックを定めることができる。

- 2 前項については学生要覧による。

第7章 単位の授与、卒業の要件及び学士

（単位の認定）

第16条 授業科目の単位の認定は、試験による。

- 2 試験の種類は次のとおりとし、その種類に応じて行う。
 - (1) 平常試験は、必要に応じ適宜行う。
 - (2) 定期試験は、学期末の定期試験期間内に行う。
 - (3) 追試験は、やむを得ない理由により定期試験を受けることのできなかった者のためにのみ追

試験期間内に行う。

(4) 単位認定試験は成績評価保留（インコンプリート）の者のためにのみ所定の期間内に行う。

3 試験の方法は、筆記、口述、レポート又は実技によるものとする。

4 試験の成績の評点は、S（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、F（59～0点）の5種とし、S、A、B、Cを合格、Fを不合格とする。また、授業科目によってはP（60点以上）を合格、F（59点以下）を不合格とすることができる。

5 定期試験及び単位認定試験は、別に定める本大学試験規程によって実施する。

（単位の授与）

第17条 前条の試験に合格した学生には、第13条所定の授業科目の単位を与える。

（他大学における授業科目の履修及び修得単位の認定）

第18条 本大学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学とあらかじめ協議の上、当該大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項により履修した授業科目の単位は、60単位を超えない範囲で本大学において履修修得した単位として認定することができる。

（短期大学等における修得単位の認定）

第19条 本大学が教育上有益であると認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修について、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることの出来る単位数は、前条第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（既修得単位の認定）

第20条 学生が本大学入学前に大学又は短期大学において修得した単位（既修得単位）について本大学が教育上有益と認めるときは、本大学において履修修得した単位として認定することができる。

ただし、この認定に関連して修業年限の短縮は行わない。

2 前項による単位の認定は、第18条、第29条第4項による単位認定と合わせて60単位を超えない範囲で行うものとする。

3 前2項に定める単位の認定に関し必要な事項は、別に定める。

（卒業の要件及び学士）

第21条 卒業の要件は、4年以上在学し、第11条第1項各号に定める単位を含め、124単位以上を累積GPA2.00以上の成績で修得することとする。

2 第1項に定める以外の卒業の要件については、学生要覧による。

3 卒業の決定は、第1項及び前項の要件を満たした学生に対し、教授会の議を経て学長がこれを行う。

4 前項により卒業が決定した者には、玉川大学学位規程に基づき、卒業した学部に応じ学士の学位を授与し「学位記」を交付する。

第8章 入学、転学部・転学科、編入学、転入学、留学、休学、復学、退学、除籍及び再入学

（入学の時期）

第22条 入学の時期は、学期の初めとする。

（入学の資格）

第23条 本大学に入学の資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規程により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者を含む。）

（入学の志願）

第24条 本大学に入学を志願する者は、入学志願書、出身高等学校又は中等教育学校の調査書、その他、入学試験実施要項で指定する関係書類に、別表第4—①に定める入学検定料を添えて提出しなければならない。ただし、出身高等学校又は中等教育学校の調査書については、該当する入学資格により、入学試験実施要項で指定する他の証明書等の提出をもって代えることができる。

（入学のための誓約書）

第25条 入学を許可された者は、本大学所定の様式に従って、保証人と連署の誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

第26条 保証人は、親権者又は学生の3親等以内の成年者で、独立の生計を営む者又はこれにかわるべき者とする。

2 保証人は、学生の生活と教育に関する一切の責任を負うものとする。

（転学部・転学科）

第27条 本大学の学生が他の学部・学科へ転学部・転学科を志望するときは、転学部・転学科希望願を提出して許可を受けるものとし、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

（編入学）

第28条 他の大学等に在学した者で、次の各号の一に該当する者が本大学に編入学（転入学）を希望するときは、選考の上入学を許可することがある。

(1) 大学を卒業した者（編入学）

(2) 短期大学を卒業した者（編入学）

(3) 高等専門学校を卒業した者（編入学）

(4) 他の大学に在学している者（転入学）

2 本大学に編入学を志願する者は、編入学志願書、卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書、成績証明書、その他編入学試験実施要項で指定する関係書類、転入学を志願する者は、転入学志願書、在学証明書、成績証明書、その他転入学試験実施要項で指定する関係書類に、別表第4—①に定める入学検定料を添えて提出しなければならない。

3 編入学（転入学）前の既修得単位の認定、編入（転入）学年及び入学後の履修科目については、各学部教授会において決定する。

4 編入（転入）学生の授業料等は別表第4—①（ただし、入学金を除く）にかかわらず、編入（転入）学科の編入（転入）学年と同学年の入学時の授業料等を適用する。ただし、玉川学園女子短期大学及び本大学からの編入生は入学金を徴収しない。

5 本大学から他の大学等へ編入学又は転入学を志望する学生は、退学願を提出して許可を受けるものとする。

（留学）

第29条 本大学が教育上有益と認めたときは、学生が外国の大学へ留学することを認めることがある。

2 前項による留学期間は、原則として1年以内とする。

3 留学期間は、在学年数に算入する。

4 留学によって修得した単位は、教授会の議を経て、第18条第2項に準じ認定することができる。

5 留学期間中の授業料等については、別表第4—①に定める。

6 留学に関する事項は別に定める。

（休学）

第30条 疾病その他の理由によって2か月以上修学のできない学生は、保証人連署の上願い出て、許可を得た上で休学することができる。

2 休学期間は、当該年度限りとする。ただし、疾病等やむを得ないと認められる場合には、願い出により翌年度に延長を許可することができる。

3 休学期間は、卒業に所要の在学年数には算入しない。ただし、休学期間は、通算して4年を超えることはできない。

4 休学期間中の在籍料については、玉川大学休学に関する在籍料取扱要領による。

（復学）

第31条 休学の理由がやんだときは、その旨を復学願に記し、保証人連署の上願い出て、許可を得て復学することができる。

（退学）

第32条 疾病その他の理由によって退学しようとする者は、保証人連署の上願い出て、許可を得た上で退学することができる。

（除籍）

第33条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

- （1） 第9条に規定する在学年数を経て、なお所定の課程を修了できない者
- （2） 学費の納付を怠り、督促を受けても、なお納付しない者
- （3） 第30条第3項に規定する休学期間の満了日に達しても、なお就学できない者
- （4） 休学期間の延長又は復学の手続きを怠った者
- （5） 死亡又は行方不明者

（再入学）

第34条 本大学を途中で退学した者（依願退学者）又は除籍者（学費未納による除籍者）が再入学を願い出たときは、欠員のある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

2 再入学に関する事項は玉川大学再入学に関する規程による。

（他の学校における在学の禁止）

第35条 本大学の学生は、同時に学校教育法による他の学校に在学することはできない。

（入学等の決定）

第36条 入学、転学部・転学科、編入学、転入学、留学、休学、復学、除籍及び再入学の許可並びに承認は教授会の議を経て、学長がこれを決定する。

第9章 賞罰

（表彰）

第37条 本大学学生で、品行方正、学術優秀な者、また学生の模範となるべき行いをした者は、教授会の議を経て、これを賞することができる。

2 前項に定める学生表彰に関する事項は、玉川大学学生表彰規程による。

（懲戒）

第38条 本大学学則に違背し、又は学生の本分に反する行為のあった者は、別に定める玉川大学学生処分規程によって懲戒する。懲戒は、譴責、停学及び退学とする。

2 停学は、確定期限を付す有期の停学及び確定期限を付さない無期の停学とする。

3 停学の期間が1か月以上にわたるときは、その期間は、第9条の期間に算入し、第21条の卒業の要件として在学すべき期間に算入しない。

（退学処分）

第39条 次の各号の一に該当する学生は、教授会の議を経て、これを退学に処することができる。

- （1） 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- （2） 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- （3） 正当の理由がなくて出席が常でない者
- （4） 本大学の秩序を乱し、その他学生の本分に反したと認められる者

第10章 授業料、入学金、奨学金その他

（授業料等）

第40条 本大学の授業料・教育研究諸料・施設設備金及び入学金（以下「授業料等」という。）、入学検定料は、別表第4—①のとおりとする。

2 既に納入した授業料等は、原則としてこれを返還しない。

3 所定の期日までに、正当な理由がなく、授業料等を納入しない学生は除籍することができる。

（奨学金）

第41条 本大学学生で成績優秀な者、成績優秀かつ経済的に修学が困難な者があるときは、選考の上、奨学金を給付することがある。

2 奨学金に関する事項は、玉川大学奨学金規程による。

第11章 教職員組織

(教職員)

第42条 本大学に次の教職員を置く。

学長、学部長、教授、准教授、助教、講師、助手、事務職員、技術職員及びその他の教職員。

第12章 大学部長会及び教授会

(大学部長会)

第43条 本大学に、大学部長会を置く。

2 大学部長会は、学長がこれを招集開会して、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- (1) 教育、研究及びこれに関連する人事に関する基本方針等、その運営における全学的な事項
- (2) 教授会の審議に関する基本的共通的な事項
- (3) 各種委員会に関する事項
- (4) 本大学学則、その他関係規程等の制定・改廃及び運用に関する事項
- (5) 学長の諮問に関する事項
- (6) その他本大学の運営に属する必要と認められる重要な事項

3 大学部長会の運営については、別に定める玉川大学部長会運営規程による。

(教授会)

第44条 各学部それぞれ教授会を置く。

2 教授会は、その学部の専任教授をもって組織する。

3 教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、助教、講師及びその他必要な教職員を出席させることができる。

4 教授会は、定例に学部長がこれを招集する。ただし、学長が必要と認めたときは、これを招集することができる。

5 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業
- (2) 学位の授与
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

6 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下「学長等」という）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

7 教授会の運営については、玉川大学教授会等運営規程による。

(全学教授会)

第45条 学長が必要と認めたときは、又は教授会から特に要求があったときは、学長は全学教授会を招集することができる。

2 全学教授会は全学の専任教授をもって組織する。

3 全学教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、助教、講師及びその他必要な教職員を出席させることができる。

4 全学教授会は、学長が特に必要と認めた本大学の重要事項を審議する。

(各種委員会等)

第46条 学長が必要と認めたとき、各種委員会等を組織し、それぞれの専門分野について審議研究することができる。なお、細部については、玉川大学教授会等運営規程による。

第13章 専攻科

(専攻科)

第47条 本大学に次の専攻科及び専攻を置く。

芸術専攻科 芸術専攻

2 専攻科は玉川大学の建学の精神に則り、学部・学科の教育の基礎の上に、精深な専門の理論及び応用の研究指導を行い、専門的技能者を養成し、もって文化の進展に寄与することを目的とする。

(専攻科の定員)

第48条 専攻科の定員は次のとおりとする。

芸術専攻科 芸術専攻 10人

(専攻科の修業年限)

第49条 専攻科の修業年限は、1年とする。ただし、在学年数は2年を超えることはできない。

(専攻科の授業科目等)

第50条 専攻科の授業科目及び履修方法は、別表第2—②のとおりとする。

2 教育職員免許状の授与を受けようとする者は、その免許状の種類・教科に応じて、教育職員免許法に定められた単位を修得しなければならない。

3 専攻科で修得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表第3—②のとおりとする。

(専攻科の修了の要件)

第51条 専攻科修了の要件は、本専攻科に1年以上在学し、前項第50条の規定に基づいて授業科目を履修し、30単位以上を修得しなければならない。

2 前項の要件を満たした者には、修了証書を授与する。

(専攻科の入学資格等)

第52条 本専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当し、かつ、所定の入学試験に合格した者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者で、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(3) 文部科学大臣の指定した者

(4) 本大学において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

2 入学を許可された者は、所定の期日までに入学手続を完了しなければならない。

3 入学の時期は、毎年4月とする。

(専攻科の授業料等)

第53条 本専攻科の授業料、教育研究諸料、施設設備金及び入学金、入学検定料は、別表第4—②のとおりとする。

(専攻科教授会)

第54条 専攻科の学事を運営するために、専攻科教授会を置く。

2 専攻科教授会は、次の教員をもって組織する。

(1) 専攻科主任

(2) 当該学部長

(3) 専攻科担当教授及び准教授

3 専攻科教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、助教、講師及びその他必要な教職員を出席させることができる。

4 専攻科教授会は、第44条第5項の教授会の審議事項について、専攻科に係る事項について審議する。

(大学学則の準用)

第55条 専攻科に関して本章に定める以外のことについては、本大学学則の各条項による。

第14章 教育学術情報図書館、教育博物館、研究所等に関する事項

(教育学術情報図書館)

第56条 本大学に玉川大学教育学術情報図書館を置く。

2 本大学の教職員及び学生は、別に定める教育学術情報図書館規程に従って図書を閲覧することができる。

(教育博物館)

第57条 本大学に教育博物館を置く。

2 教育博物館に関する規程は、別にこれを定める。

(学術研究所)

第58条 本大学に学術研究所を置く。

2 学術研究所に関する規程は、別にこれを定める。

(脳科学研究所)

第59条 本大学に脳科学研究所を置く。

2 脳科学研究所に関する規程は、別にこれを定める。

(量子情報科学研究所)

第60条 本大学に量子情報科学研究所を置く。

2 量子情報科学研究所に関する規程は、別にこれを定める。

(教師教育リサーチセンター)

第61条 本大学に教師教育リサーチセンターを置く。

2 教師教育リサーチセンターに関する規程は、別にこれを定める。

(国際教育センター)

第62条 本大学に国際教育センターを置く。

2 国際教育センターに関する規程は、別にこれを定める。

(ELFセンター)

第63条 本大学にELFセンターを置く。

2 ELFセンターに関する規程は、別にこれを定める。

(TAPセンター)

第64条 本大学にTAPセンターを置く。

2 TAPセンターに関する規程は、別にこれを定める。

(農場及び工場等)

第65条 本大学に試験場、農場・演習林及び工場を置く。

2 農場及び工場に関する規程は、別にこれを定める。

(全人教育研究センター及び健康教育研究センター)

第66条 本大学教育学部に全人教育研究センター及び健康教育研究センターを置く。

2 全人教育研究センター及び健康教育研究センターに関する規程は、別にこれを定める。

第15章 委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人学生に関する事項

(委託生)

第67条 政府又は他の機関から委託された者は、定員にさしつかえがなければ、受講を許可することがある。

(科目等履修生及び聴講生)

第68条 本大学で開講する授業科目のうち、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経て、科目等履修生又は聴講生として履修を許可することができる。

2 科目等履修生として履修した授業科目の単位の授与については、第16条を準用する。ただし、第23条に掲げる資格を有する者に限る。

3 科目等履修生及び聴講生の事項については、玉川大学科目等履修生・聴講生に関する取扱要領による。

(研究生)

第69条 本大学で特定の課題について研究をすすめよう并希望する者があるときは、教授会の議を経て、研究生として在籍を許可することができる。ただし、玉川大学大学院学則第22条に掲げる資格を有する者に限る。

2 研究生の事項については、玉川大学研究生に関する取扱要領による。

(委託生に関する事項の適用除外)

第70条 委託生、科目等履修生、聴講生及び研究生には、第21条を適用しない。

(委託生等の納付金)

第71条 委託生、科目等履修生、聴講生及び研究生は、科目等履修料、聴講料又は在籍料を納付しなければならない。

2 科目等履修料及び聴講料は、1単位につき講義・演習科目33,000円、実験科目35,000円とする。

3 在籍料及び選考料については、別に定める。

(外国人学生)

第72条 外国人で本大学に入学を希望する者があるときは、在日本外国公館の証明書がある者に限り、外国人学生として特別に入学を許可することがある。

(委託生等に関する事項の大学学則の準用)

第73条 委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人学生に関しては、本大学学則を準用する。

第16章 公開講座

(公開講座)

第74条 本大学は、時期によって公開講座を開くことができる。

2 公開講座に関する規程は、別にこれを定める。

第17章 免許法認定講習、免許法認定通信教育

(免許法認定講習、免許法認定通信教育)

第75条 本大学は、免許法認定講習、免許法認定通信教育を開くことができる。

2 免許法認定講習、免許法認定通信教育に関する規程は、別にこれを定める。

第18章 保健センター 健康院

(保健センター 健康院)

第76条 本大学に保健センター 健康院を置く。

2 保健センター 健康院に関する規程は、別に定める。

附 則

この学則は、昭和24年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和29年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和30年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和31年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和33年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和35年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和37年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和39年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和43年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和45年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和46年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和47年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和48年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

ただし、第9条の規定にかかわらず、昭和51年度から昭和53年度までの間、文学部教育学科、英米文学科、外国語学科、芸術学科と農学部農学科、農芸化学科の総定員は次のとおりとする。

学部・学科	総定員		
	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度
文学部	1,800人	2,000人	2,200人
教育学科	450人	500人	550人
英米文学科	450人	500人	550人
外国語学科	450人	500人	550人
芸術学科	450人	500人	550人
農学部	400人	480人	560人
農学科	200人	240人	280人
農芸化学科	200人	240人	280人
計	2,200人	2,480人	2,760人

附 則

この学則は、昭和52年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和53年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

ただし、第9条の規定にかかわらず昭和63年度から昭和65年度までの間、工学部情報通信工学科の総定員は次のとおりとする。

	昭和63年度	昭和64年度	昭和65年度
総定員	230人	260人	290人

附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年7月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

ただし、第9条の規定にかかわらず平成4年度から平成11年度までの間の入学定員は次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	学部・学科	入学定員	学部・学科	入学定員
文学部	840人	農学部	220人	工学部	400人
教育学科	210人	農学科	110人	機械工学科	100人
英米文学科	210人	農芸化学科	110人	電子工学科	100人
外国語学科	210人			情報通信工学科	100人
芸術学科	210人			経営工学科	100人

附 則

この学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

ただし、第9条の規定にかかわらず平成12年度から平成16年度までの間の入学定員は次のとおりとする。

学部・学科	入学定員				
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
文学部	840人	800人	770人	770人	750人
教育学科	210人	200人	190人	190人	180人
英米文学科	210人	210人	210人	210人	210人
外国語学科	210人	200人	190人	190人	180人
芸術学科	210人	190人	180人	180人	180人
農学部	220人	220人	210人	210人	200人
農学科	110人	110人	105人	105人	100人
農芸化学科	110人	110人	105人	105人	100人
工学部	360人	360人	360人	320人	320人
機械工学科	90人	90人	90人	80人	80人
電子工学科	90人	90人	90人	80人	80人
情報通信工学科	90人	90人	90人	80人	80人
経営工学科	90人	90人	90人	80人	80人
計	1,420人	1,380人	1,340人	1,300人	1,270人

附 則

- この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- （農学部の農学科ならびに農芸化学科の存続に関する経過措置）

農学部 of 農学科ならびに農芸化学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成13年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第9条の規定にかかわらず平成13年度から16年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
文学部	740人	3,260人	710人	3,130人	710人	3,000人	690人	2,850人
教育学科	200人	830人	190人	810人	190人	790人	180人	760人
英米文学科	150人	780人	150人	720人	150人	660人	150人	600人
外国語学科	200人	830人	190人	810人	190人	790人	180人	760人
芸術学科	190人	820人	180人	790人	180人	760人	180人	730人
農学部	220人	880人	210人	870人	210人	860人	200人	840人
生物資源学科	110人	440人	105人	435人	105人	430人	100人	420人
応用生物化学科	110人	440人	105人	435人	105人	430人	100人	420人
工学部	360人	1,520人	360人	1,480人	320人	1,400人	320人	1,360人
機械工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
電子工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
情報通信工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
経営工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
経営学部	180人	180人	180人	360人	180人	570人	180人	780人
国際経営学科	180人	180人	180人	360人	180人	570人	180人	780人
計	1,500人	5,840人	1,460人	5,840人	1,420人	5,830人	1,390人	5,830人

附 則

- この学則は、平成14年4月1日から施行する。
- （文学部の教育学科、英米文学科、外国語学科ならびに芸術学科の存続に関する経過措置）
文学部の教育学科、英米文学科、外国語学科ならびに芸術学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成14年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
また、第9条の規定にかかわらず平成14年度から平成16年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成14年度			平成15年度			平成16年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	280人	40人	2,700人	280人	40人	2,140人	280人	40人	1,620人
人間学科	80人	10人	80人	80人	10人	160人	80人	10人	250人
国際言語文化学科	200人	30人	200人	200人	30人	400人	200人	30人	630人
教育学科	—	—	620人	—	—	410人	—	—	200人
英米文学科	—	—	570人	—	—	360人	—	—	150人
外国語学科	—	—	620人	—	—	410人	—	—	200人

芸術学科	—		610人	—		400人	—		190人
農学部	220人		880人	220人		880人	220人		880人
生物資源学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
応用生物化学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
工学部	360人		1,480人	320人		1,400人	320人		1,360人
機械工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
電子工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
情報通信工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
経営工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
経営学部	180人	30人	360人	180人	30人	570人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	360人	180人	30人	570人	180人	30人	780人
教育学部	200人		200人	200人		400人	200人		600人
教育学科	200人		200人	200人		400人	200人		600人
芸術学部	190人		190人	190人		380人	190人		570人
パフォーマンス・アーツ学科	110人		110人	110人		220人	110人		330人
ビジュアル・アーツ学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
計	1,430人	70人	5,810人	1,390人	70人	5,770人	1,390人	70人	5,810人

附 則

この学則は、平成14年10月1日から施行する。

この学則の施行に伴い「玉川大学専攻科通則（昭和54年制定）」を廃止する。

附 則

- この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 第8条の規定にかかわらず平成15年度から平成17年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成15年度			平成16年度			平成17年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	435人		2,295人	435人	40人	1,930人	435人	50人	1,675人
人間学科	80人		160人	80人	10人	250人	80人	10人	340人
国際言語文化学科	200人		400人	200人	30人	630人	200人	30人	860人
リベラルアーツ学科	155人		155人	155人		310人	155人	10人	475人
教育学科	—		410人	—		200人	—		—
英米文学科	—		360人	—		150人	—		—
外国語学科	—		410人	—		200人	—		—
芸術学科	—		400人	—		190人	—		—
農学部	220人		880人	220人		880人	220人		880人
生物資源学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
応用生物化学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
工学部	320人		1,400人	320人		1,360人	320人		1,320人
機械工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人

電子工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人
情報通信工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人
経営工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人
経営学部	180人	30人	570人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	570人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
教育学部	250人		450人	250人		700人	250人		950人
教育学科	200人		400人	200人		600人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		50人	50人		100人	50人		150人
芸術学部	190人		380人	190人		570人	190人		760人
パフォーミング・アーツ学科	110人		220人	110人		330人	110人		440人
ビジュアル・アーツ学科	80人		160人	80人		240人	80人		320人
計	1,595人	30人	5,975人	1,595人	70人	6,220人	1,595人	80人	6,365人

附 則

- この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- （工学部の機械工学科、電子工学科、情報通信工学科ならびに経営工学科の存続に関する経過措置）

工学部の機械工学科、電子工学科、情報通信工学科ならびに経営工学科は、改正後の学則第4条の規定に係わらず平成16年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定に係わらず平成16年度から平成18年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成16年度			平成17年度			平成18年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	435人	40人	1,930人	435人	50人	1,675人	435人	50人	1,840人
人間学科	80人	10人	250人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
国際言語文化学科	200人	30人	630人	200人	30人	860人	200人	30人	860人
リベラルアーツ学科	155人		310人	155人	10人	475人	155人	10人	640人
教育学科	—		200人	—		—	—		—
英米文学科	—		150人	—		—	—		—
外国語学科	—		200人	—		—	—		—
芸術学科	—		190人	—		—	—		—
農学部	220人		880人	220人		880人	220人		880人
生物資源学科	130人		460人	130人		480人	130人		500人
応用生物化学科	90人		420人	90人		400人	90人		380人
工学部	320人		1,360人	320人		1,320人	320人		1,280人
機械システム学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
知能情報システム学科	90人		90人	90人		180人	90人		270人
メディアネットワーク学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人

マネジメントサイエ ンス学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
機械工学科	—		260人	—		170人	—		80人
電子工学科	—		260人	—		170人	—		80人
情報通信工学科	—		260人	—		170人	—		80人
経営工学科	—		260人	—		170人	—		80人
経営学部	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
教育学部	250人		700人	250人		950人	250人		1,000 人
教育学科	200人		600人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		100人	50人		150人	50人		200人
芸術学部	190人		570人	190人		760人	190人		760人
パフォーミング・ア ーツ学科	110人		330人	110人		440人	110人		440人
ビジュアル・アーツ 学科	80人		240人	80人		320人	80人		320人
計	1,595 人	70人	6,220 人	1,595 人	80人	6,365 人	1,595 人	80人	6,540 人

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- （農学部の応用生物化学科の存続に関する経過措置）
農学部の応用生物化学科は、改正後の学則第4条の規定に係わらず平成17年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
また、第8条の規定に係わらず平成17年度から平成19年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
	入学 定員	編入 学定員 (3 年次)	収容 定員	入学 定員	編入 学定員 (3 年次)	収容 定員	入学 定員	編入 学定員 (3 年次)	収容 定員
文学部	435人	50人	1,675 人	435人	50人	1,840 人	435人	50人	1,840 人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
国際言語文化学科	200人	30人	860人	200人	30人	860人	200人	30人	860人
リベラルアーツ学科	155人	10人	475人	155人	10人	640人	155人	10人	640人
農学部	250人		910人	250人		940人	250人		970人
生物資源学科	90人		440人	90人		420人	90人		400人
応用生物化学科	—		310人	—		200人	—		90人
生物環境システム学 科	60人		60人	60人		120人	60人		180人
生命化学科	100人		100人	100人		200人	100人		300人
工学部	320人		1,320 人	320人		1,280 人	320人		1,280 人
機械システム学科	80人		160人	80人		240人	80人		320人
知能情報システム学 科	90人		180人	90人		270人	90人		360人
メディアネットワー	80人		160人	80人		240人	80人		320人

ク学科									
マネジメントサイエ ンス学科	70人		140人	70人		210人	70人		280人
機械工学科	—		170人	—		80人	—		—
電子工学科	—		170人	—		80人	—		—
情報通信工学科	—		170人	—		80人	—		—
経営工学科	—		170人	—		80人	—		—
経営学部	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
教育学部	250人		950人	250人		1,000 人	250人		1,000 人
教育学科	200人		800人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		150人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	190人		760人	190人		760人	190人		760人
パフォーミング・ア ーツ学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
ビジュアル・アーツ 学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
計	1,625 人	80人	6,395 人	1,625 人	80人	6,600 人	1,625 人	80人	6,630 人

附 則

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 （文学部国際言語文化学科の存続に関する経過措置）

文学部国際言語文化学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成18年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成18年度から平成20年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	入学 定員	編入 学定員 (3 年次)	収容 定員	入学 定員	編入 学定員 (3 年次)	収容 定員	入学 定員	編入 学定員 (3 年次)	収容 定員
文学部	365人	50人	1,770 人	365人	50人	1,700 人	365人	30人	1,610 人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人		130人	130人		260人	130人	10人	400人
リベラルアーツ学科	155人	10人	640人	155人	10人	640人	155人	10人	640人
国際言語文化学科	—	30人	660人	—	30人	460人	—		230人
農学部	250人		940人	250人		970人	250人		1,000 人
生物資源学科	90人		420人	90人		400人	90人		360人
生物環境システム学 科	60人		120人	60人		180人	60人		240人
生命化学科	100人		200人	100人		300人	100人		400人
応用生物化学科	—		200人	—		90人	—		—
工学部	320人		1,280 人	320人		1,280 人	320人		1,280 人
機械システム学科	80人		240人	80人		320人	80人		320人

知能情報システム学科	90人		270人	90人		360人	90人		360人
メディアネットワーク学科	80人		240人	80人		320人	80人		320人
マネジメントサイエンス学科	70人		210人	70人		280人	70人		280人
機械工学科	—		80人	—		—	—		—
電子工学科	—		80人	—		—	—		—
情報通信工学科	—		80人	—		—	—		—
経営工学科	—		80人	—		—	—		—
経営学部	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
教育学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
教育学科	200人		800人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	260人		830人	260人		900人	260人		970人
パフォーミング・アーツ学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
メディア・アーツ学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
ビジュアル・アーツ学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
計	1,625人	80人	6,600人	1,625人	80人	6,630人	1,625人	60人	6,640人

附 則

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- （文学部リベラルアーツ学科の存続に関する経過措置）
文学部リベラルアーツ学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成19年3月31日に当該学部・学科に在学する者が当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
また、第8条の規定にかかわらず平成19年度から平成21年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	210人	40人	1,535人	210人	20人	1,280人	210人	20人	1,035人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人		260人	130人	10人	400人	130人	10人	540人
リベラルアーツ学科	—		475人	—		310人	—		155人
国際言語文化学科	—	30人	460人	—		230人	—		—
農学部	250人		970人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		400人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		180人	60人		240人	60人		240人

生命化学科	100人		300人	100人		400人	100人		400人
応用生物化学科	—		90人	—		—	—		—
工学部	320人		1,280人	320人		1,280人	320人		1,280人
機械システム学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
知能情報システム学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
メディアネットワーク学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
経営学部	195人		765人	195人		750人	195人		765人
国際経営学科	115人		685人	115人		590人	115人		525人
観光経営学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
教育学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
教育学科	200人		800人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	260人		900人	260人		970人	260人		1,040人
パフォーマンス・アート学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
メディア・アート学科	70人		140人	70人		210人	70人		280人
ビジュアル・アート学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
リベラルアート学部	160人		160人	160人		320人	160人		480人
リベラルアート学科	160人		160人	160人		320人	160人		480人
計	1,645人	40人	6,610人	1,645人	20人	6,600人	1,645人	20人	6,600人

附 則

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- （工学部機械システム学科、知能情報システム学科ならびにメディアネットワーク学科の存続に関する経過措置）

工学部機械システム学科、知能情報システム学科ならびにメディアネットワーク学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成20年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成20年度から平成22年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成20年度			平成21年度			平成22年度		
	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
文学部	210人	20人	1,280人	210人	20人	1,035人	210人	20人	880人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人	10人	400人	130人	10人	540人	130人	10人	540人

リベラルアーツ学科	—		310人	—		155人	—		—
国際言語文化学科	—		230人	—		—	—		—
農学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
生命化学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
工学部	240人		1,200人	240人		1,120人	240人		1,040人
機械情報システム学科	100人		100人	100人		200人	100人		300人
ソフトウェアサイエンス学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
機械システム学科	—		240人	—		160人	—		80人
知能情報システム学科	—		270人	—		180人	—		90人
メディアネットワーク学科	—		240人	—		160人	—		80人
経営学部	220人		775人	220人		815人	220人		855人
国際経営学科	130人		605人	130人		555人	130人		505人
観光経営学科	90人		170人	90人		260人	90人		350人
教育学部	290人		1,040人	290人		1,080人	290人		1,120人
教育学科	240人		840人	240人		880人	240人		920人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	270人		980人	270人		1,060人	270人		1,070人
パフォーミング・アーツ学科	120人		450人	120人		460人	120人		470人
メディア・アーツ学科	70人		210人	70人		280人	70人		280人
ビジュアル・アーツ学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
リベラルアーツ学部	160人		320人	160人		480人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		320人	160人		480人	160人		640人
計	1,640人	20人	6,595人	1,640人	20人	6,590人	1,640人	20人	6,605人

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。

2 (経営学部観光経営学科の存続に関する経過措置)

経営学部観光経営学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成25年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成25年度から平成27年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	210人	20人	880人	210人	20人	880人	210人	20人	880人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人	10人	540人	130人	10人	540人	130人	10人	540人
農学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
生命化学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
機械情報システム学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
ソフトウェアサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
経営学部	130人		790人	130人		700人	130人		610人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
観光経営学科	—		270人	—		180人	—		90人
教育学部	290人		1,160人	290人		1,160人	290人		1,160人
教育学科	240人		960人	240人		960人	240人		960人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
パフォーミング・アーツ学科	120人		480人	120人		480人	120人		480人
メディア・アーツ学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
ビジュアル・アーツ学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	90人		90人	90人		180人	90人		270人
観光学科	90人		90人	90人		180人	90人		270人
計	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 （芸術学部メディア・アーツ学科及びビジュアル・アーツ学科の存続に関する経過措置）
 芸術学部メディア・アーツ学科及びビジュアル・アーツ学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成26年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
 また、第8条の規定にかかわらず平成26年度から平成28年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	210人	20人	880人	210人	20人	880人	210人	20人	880人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人	10人	540人	130人	10人	540人	130人	10人	540人
農学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
生命化学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
機械情報システム学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
ソフトウェアサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
経営学部	130人		700人	130人		610人	130人		520人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
観光経営学科	—		180人	—		90人	—		—
教育学部	290人		1,160人	290人		1,160人	290人		1,160人
教育学科	240人		960人	240人		960人	240人		960人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
パフォーミング・アーツ学科	130人		490人	130人		500人	130人		510人
メディア・アーツ学科	—		210人	—		140人	—		70人
ビジュアル・アーツ学科	—		240人	—		160人	—		80人
メディア・デザイン学科	90人		90人	90人		180人	90人		270人
芸術教育学科	50人		50人	50人		100人	50人		150人
音楽コース	30人		30人	30人		60人	30人		90人
美術・工芸コー	20人		20人	20人		40人	20人		60人

ス									
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	90人		180人	90人		270人	90人		360人
観光学科	90人		180人	90人		270人	90人		360人
計	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人

附 則

1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。

2 （文学部比較文化学科の存続に関する経過措置）

文学部比較文化学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成27年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成27年度から平成29年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	160人	—	810人	160人	—	740人	160人	—	690人
人間学科	80人	—	330人	80人	—	320人	80人	—	320人
比較文化学科	—	—	400人	—	—	260人	—	—	130人
英語教育学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
農学部	285人		1,035人	285人		1,070人	285人		1,105人
生物資源学科	105人		375人	105人		390人	105人		405人
生物環境システム学科	70人		250人	70人		260人	70人		270人
生命化学科	110人		410人	110人		420人	110人		430人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
機械情報システム学科	60人		360人	60人		320人	60人		280人
ソフトウェアサイエンス学科	60人		270人	60人		260人	60人		250人
マネジメントサイエンス学科	60人		270人	60人		260人	60人		250人
エンジニアリングデザイン学科	60人		60人	60人		120人	60人		180人
経営学部	130人		610人	130人		520人	130人		520人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
観光経営学科	—		90人	—		—	—		—
教育学部	315人		1,185人	315人		1,210人	315人		1,235人
教育学科	240人		960人	240人		960人	240人		960人
乳幼児発達学科	75人		225人	75人		250人	75人		275人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
パフォーミング・ア	130人		500人	130人		510人	130人		520人

ーツ学科									
メディア・アーツ学科	—		140人	—		70人	—		—
ビジュアル・アーツ学科	—		160人	—		80人	—		—
メディア・デザイン学科	90人		180人	90人		270人	90人		360人
芸術教育学科	50人		100人	50人		150人	50人		200人
音楽コース	30人		60人	30人		90人	30人		120人
美術・工芸コース	20人		40人	20人		60人	20人		80人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	90人		270人	90人		360人	90人		360人
観光学科	90人		270人	90人		360人	90人		360人
計	1,650人	—	6,590人	1,650人	—	6,580人	1,650人	—	6,590人

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- （文学部人間学科、農学部生物資源学科、生物環境システム学科及び生命化学科ならびに工学部機械情報システム学科の存続に関する経過措置）

文学部人間学科、農学部生物資源学科、生物環境システム学科及び生命化学科ならびに工学部機械情報システム学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成29年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず平成29年度から平成31年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成29年度			平成30年度			平成31年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	140人		670人	140人		600人	140人		580人
国語教育学科	60人		60人	60人		120人	60人		180人
人間学科	—		240人	—		160人	—		80人
比較文化学科	—		130人	—		—	—		—
英語教育学科	80人		240人	80人		320人	80人		320人
農学部	305人		1,125人	305人		1,180人	305人		1,200人
生産農学科	165人		165人	165人		330人	165人		495人
環境農学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
先端食農学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
生物資源学科	—		300人	—		210人	—		105人
生物環境システム学科	—		200人	—		140人	—		70人
生命化学科	—		320人	—		220人	—		110人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人

情報通信工学科	60人		60人	60人		120人	60人		180人
機械情報システム学科	—		220人	—		120人	—		60人
ソフトウェアサイエンス学科	60人		250人	60人		240人	60人		240人
マネジメントサイエンス学科	60人		250人	60人		240人	60人		240人
エンジニアリングデザイン学科	60人		180人	60人		240人	60人		240人
経営学部	130人		520人	130人		520人	130人		520人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
教育学部	315人		1,235人	315人		1,260人	315人		1,260人
教育学科	240人		960人	240人		960人	240人		960人
乳幼児発達学科	75人		275人	75人		300人	75人		300人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
パフォーミング・アーツ学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
メディア・デザイン学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
芸術教育学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
音楽コース	30人		120人	30人		120人	30人		120人
美術・工芸コース	20人		80人	20人		80人	20人		80人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	90人		360人	90人		360人	90人		360人
観光学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
計	1,650人	—	6,590人	1,650人	—	6,600人	1,650人	—	6,600人

附 則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年4月1日）

- この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- （芸術学部パフォーミング・アーツ学科、メディア・デザイン学科及び芸術教育学科の存続に関する経過措置）

芸術学部パフォーミング・アーツ学科、メディア・デザイン学科及び芸術教育学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず令和3年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第8条の規定にかかわらず令和3年度から令和5年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	140人		560人	140人		560人	140人		560人
国語教育学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人

英語教育学科	80人	320人	80人	320人	80人	320人
農学部	295人	1,210人	295人	1,200人	295人	1,190人
生産農学科	155人	650人	155人	640人	155人	630人
環境農学科	70人	280人	70人	280人	70人	280人
先端食農学科	70人	280人	70人	280人	70人	280人
工学部	240人	960人	240人	960人	240人	960人
情報通信工学科	60人	240人	60人	240人	60人	240人
ソフトウェアサイエ ンス学科	60人	240人	60人	240人	60人	240人
マネジメントサイエ ンス学科	60人	240人	60人	240人	60人	240人
エンジニアリングデ ザイン学科	60人	240人	60人	240人	60人	240人
経営学部	130人	520人	130人	520人	130人	520人
国際経営学科	130人	520人	130人	520人	130人	520人
教育学部	295人	1,240人	295人	1,220人	295人	1,200人
教育学科	220人	940人	220人	920人	220人	900人
乳幼児発達学科	75人	300人	75人	300人	75人	300人
芸術学部	270人	1,080人	270人	1,080人	270人	1,080人
音楽学科	80人	80人	80人	160人	80人	240人
アート・デザイン学科	100人	100人	100人	200人	100人	300人
演劇・舞踊学科	90人	90人	90人	180人	90人	270人
パフォーミング・アー ツ学科	—	390人	—	260人	—	130人
メディア・デザイン学 科	—	270人	—	180人	—	90人
芸術教育学科	—	150人	—	100人	—	50人
音楽コース	—	90人	—	60人	—	30人
美術・工芸コース	—	60人	—	40人	—	20人
リベラルアーツ学部	160人	640人	160人	640人	160人	640人
リベラルアーツ学科	160人	640人	160人	640人	160人	640人
観光学部	120人	390人	120人	420人	120人	450人
観光学科	120人	390人	120人	420人	120人	450人
計	1,650人	—	6,600人	1,650人	—	6,600人

別表第1

人材養成等教育研究に係る目的

文学部

文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として社会に貢献できる言語運用能力と言語技術、および論理的思考力と柔軟な対応力を備えた人材養成を目指している。そのため、言語・文化に関する専門的知識、言語運用能力（日本語・英語）、論理的思考力というグローバル社会の基礎力を育成するための学科構成およびカリキュラム編成を行っている。

国語教育学科は、国際社会の一員であるとの自覚をもち、母語としての日本語の特質について深い理解を有し、物事を論理的かつ批判的に思考する力を身につけ、的確な言語運用能力によってグローバル社会に貢献できる人材を養成することを目的として、「言語表現コース」と「国語教員養成コース」を置く。

「言語表現コース」では、豊かな言語観・文化観と確実な言語技術を有し、論理的・批判的思考を基盤にグローバルな社会に貢献することができる人材を、「国語教員養成コース」では、社会で必要とされる実践的な国語の能力と言語文化に関する専門的な知識を駆使して授業ができる能力を十分に有し、中学校・高等学校等の教育機関における国語教育に貢献することがで

きる人材を養成する。

英語教育学科は、「英語教員養成コース」と「E L F コミュニケーションコース」の2領域で構成され、グローバル化に伴う言語や文化の多様化に対応できる資質・能力を育成することを目指し、国際コミュニケーションのための英語運用能力を身につけることを共通目標としている。「英語教員養成コース」では、英語教員に求められる豊かな言語観・文化観と指導力を、「E L F コミュニケーションコース」では、国際共通語としての英語コミュニケーション能力を育成し、積極的に国際社会に貢献することのできる人材を養成する。

農学部

農学部は、これからの日本に求められる国際競争力の維持・向上、活力ある地域社会の構築という重要課題に「農学」という「食」、「環境」、「健康」に直結する学問領域を通じて、果敢に取り組み、問題を発見・解決する意欲と実行力のある人材の養成を目的とする。実物教育、総合的・学際的視点、国際性、倫理観の4つを重視する教育・研究を展開し、「生産農学」、「環境農学」、「先端食農」という広い視野で農学全般を捉えることを特色とする。これらを通じ、科学の基本である「なぜ？」という鋭い視点を持つ知的好奇心旺盛な人材育成を達成する。

生産農学科は、あらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ、生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を行う。具体的には、有用微生物や有用天然物の探索、遺伝子組換え・昆虫の飼育・植物の栽培などの理論と技術を学修後、新機能の開発に結びつく研究を進める。これらの学修を通じて「生命の尊厳」・「他の生物との共存」などの倫理観を培い、食と農の安全安心に貢献できる人材育成を目指す。また、生産農学科は教員を養成するプログラムを設けており、中学・高等学校（理科）及び高等学校（農業）教員を育成する。

環境農学科は、自然環境や生産環境をよく理解し、地域性と国際的なセンスを兼ね備え、持続的循環型社会の構築に貢献できる人材の養成を行う。具体的には、農学に関する分野・諸問題に強い興味や取り組む意欲を持ち、生態系、農業生産、社会の3つの視点から「環境」を理論的・実践的に理解し、さまざまな問題解決に必要となる主体性と協調性を身につけた人材を育成する。

先端食農学科は、食料や食品の安全性や信頼性に関心が高まる中、既存の農業を越えた新たな食料生産のしくみや食品の機能性、食品製造にかかわる専門的な知識と実践的な能力を身につけた人材を養成することを目的とする。植物工場や陸上養殖など最先端のシステム化された食料生産に関する知識や能力を修得し、また食品の機能性や安全性、食品の製造・加工に関する知識や能力を習熟できる学修環境の提供を通じて、食料生産、食品加工の現場で活躍できる人材を養成する。

工学部

工学部では全人教育の下、人間力を備えたモノづくりの実践的技術者を育成することをミッションとしている。教育研究に取り組む学部の基本的なスタンスとして、「技術者は、技術の進歩を追求する技術者である前に、人間であることを希求すること」「失敗を恐れず人生の開拓者として絶えず夢に挑戦する技術者であること」「現状の正しい認識の上に、常に将来を見据えた前向きな姿勢で迅速な改革に取り組むこと」を前提に実技教育、労作教育を展開する。また自然尊重、地球環境に留意し環境教育を実践する。その結果、社会人として十分な品格を持った人間性豊かで、コミュニケーション力、問題発見・解決能力を備え、環境にも配慮した新たな価値を創造できる技術者の育成に努める。

情報通信工学科では、人と人とをつなぐコミュニケーション能力と技術を身につけ、現代のグローバルな情報化社会で活躍できる正しい倫理観をもつ人材を育成する。特に、社会におけるさまざまな物やシステムの情報制御技術、対人サービスのための知能ロボット、クラウドコンピューティングにおけるビッグデータ解析などのデータサイエンス、情報セキュリティおよび高速通信技術といった、時代に即した技術イノベーションの基礎を学ぶ。

ソフトウェアサイエンス学科では、現代社会のインフラストラクチャーとして、生活に不可欠なコンピュータやネットワークを支えるソフトウェア技術を習得した高度情報社会を支える技術者を育成する。教育目標は、ソフトウェア技術およびこれによって実現している身近な携

携帯電話、ゲーム機、デジカメ、ビデオ、家電製品、自動車などのさまざまな技術を、総合的に修得し、健全な技術として発展させられる見識を持った全人的技術者を育成することにある。

マネジメントサイエンス学科では、教育目標として科学的なアプローチを中心に激変する企業経営に対応できる人材育成を目指している。さらに実践的な経営者・技術者として必要な倫理観を備えた人材の育成、問題発見能力、問題解決能力、評価能力を備える人材の育成を目指している。また社会が求める新たな価値創造のできる実践的な経営者・管理者・技術者の知識が獲得できるように教育プロセスの改善を教員が推進する。

エンジニアリングデザイン学科は、ものづくりに欠かせない従来技術分野の修得はもちろんのこと、グローバルに展開する産業界のニーズに適合しうる人材養成を目的とする学科で、「機械工学」分野を中心として図面の読める経営者や経営に参画できる技術者の養成を目的とする。具体的には、ものづくりに不可欠な設計・製図・実験などの修得だけではなく、デジタル生産技術・工業デザインなどを取り込むことにより、技術者、経営者として地球的にも活躍できる人材を輩出する。

情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科は、数学教員養成プログラムを持つ。1年次から数学を専門として学び、数学の深い知識と幅広い教授法を身につけた数学教員を養成する。

経営学部

経済・社会のグローバル化により、すでに海外進出をしている企業だけでなく国内市場を相手にしてきた企業も基本的な経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて移動することを前提にした経営を考える必要がある。世界の各地域には企業経営やビジネス慣行における独自性が残っているが、グローバル化の進展でそれらの標準化が急速に進んでおり、その動きを背景にして世界の経営学教育も日々進歩し標準化が進展している。またグローバル化の波はトランスナショナル企業を出現させ、国内においては生産の海外移転を加速させている。競争に耐えられない企業が整理される一方で、新たな成長の牽引役となる企業がイノベーションを生み出していくことが喫緊の課題となっている。

経営学部では国際経営学科に3つのコースを設けて専門性を高めると同時に世界標準で主要科目の学修を進めることで、グローバル化に主体的に取り組む実践力と情報発信できる英語コミュニケーション力を修得し、ビジネスを通して社会の要請に応え世界に貢献できる人材の養成を目指す。

教育学部

教育学部は、全人教育の理念に基づき、幅広い知識と理解の深化、社会の変化やニーズに対応できる総合的かつ汎用的な技能や諸能力の体得、平和で豊かな社会の実現に積極的に寄与できる態度・志向性の涵養、そして専攻する分野における幅広く深い専門力、創造的思考力、実践的指導力の醸成を目指す人材養成等の教育研究を行うことで、人間や社会への理解や敬愛、規範意識・倫理観、教育や職務への使命感・責任感、自ら研鑽に努める意欲、実社会におけるリーダーシップ、それらを総合的に活用し自ら課題を解決する能力等を有する教員・保育士ならびに社会人を世に輩出する。

教育学科は、玉川教師訓を踏まえ、主として幼稚園、小・中・高等学校教育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員の養成とともに、教育関連分野をはじめとする幅広い分野に貢献できる人材の養成を目指す。

乳幼児発達学科は、玉川教師訓を踏まえ、教育・保育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員・保育士の養成とともに、社会のニーズに応えられる子育て支援に関わる人材の養成を目指す。

芸術学部

芸術学部は、本学創立の理念である全人教育のもと、全人的な人格陶冶と総合大学における芸術学部の特色を生かした芸術教育を目指している。芸術の各専門領域における理論と技能を体系的・実践的に学び、創造力・論理的思考力・マネジメント能力・協働力を培い、実行力と人間力を兼ね備えた「芸術による社会貢献」を推進しうる人材の養成を目的とする。

音楽学科は、音楽の体系的理解に基づき、現代社会における「上演芸術」及び音楽教育の役割を学修し、音楽における総合的実践力、コミュニケーション力及びマネジメント力を有して社会に貢献で

きる人材を養成する。

アート・デザイン学科は、予測困難な未来において、美術、デザインおよびメディアアートの役割を理解し、多文化・異分野と関連させ、共に新しい発想や芸術表現に挑戦し、問題を解決するプロセスに参画できる人材を養成する。

演劇・舞踊学科は、上演芸術の理論や歴史および創造プロセスを多角的に学修し、上演芸術の価値および社会における使命や役割について説くことができ、創造の現場および社会に貢献する人材を養成する。

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学部では、「幅広く深い教養および総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養する」ための教育を推進し、将来のキャリア形成を意識しながら、「学際的教養教育」かつ「知の基盤」の充実を図ることを目指しています。さらに、価値観の多様化・複雑化した現代社会では、時代の変化に柔軟に対応しつつ、調和の取れたコミュニケーション能力のある人材が求められており、その実現に向けて、実験・実習・調査・フィールドワークなどの体験型学習を積極的に取り入れ、地域や企業との連携を図り、社会的経験を積みながら「コミュニティの知的リーダー」となる人材の育成に努めています。具体的には、次のような学生を育てていくことを心掛けています。

- (1) 広い視野、判断力、考え抜く問題解決能力があり、積極的かつ協力して社会に関わっていきけるコミュニティのリーダーになれる人。
- (2) 基礎基本を土台に専門性を身につけ、様々なプロジェクトを実践・推進できる人。
- (3) 英語力・日本語力・デジタルコミュニケーション力があり、わが国の文化を様々な人々で世界に発信できる人。
- (4) 生涯教育を可能にする「ラーニング・コミュニティ」を意識し、生涯にわたり学び続ける気持ちを持ち、社会にその知識を還元・推進できる人。

観光学部

観光学部ではグローバル時代における観光の振興に広く貢献できる人材の養成を目指す。具体的には、現代における観光の意義と役割とその課題を的確に把握し、適切な情報の収集と分析を通して、また、異文化に対する理解を基礎に、高度な英語力を駆使してグローバル時代の観光産業と地域活性化に貢献できる人材を養成する。

そのために、グローバル時代における観光産業のあり方について、その基礎基本となる知識を体系的に学習し、そこで修得した知見を基に、幅広い観点から観光という現象の意義や役割を理解し、さらに現状の課題を社会科学的な方法論に基づいて認識しその解決策を提示できる能力を育成する。

また、グローバル時代の観光産業にあっては、インバウンド観光・アウトバウンド観光ともに、国際共通語としての英語力は必須であるとの前提にたち、その高度な運用力の修得を図るとともに、それを用いた異文化理解の深化と異文化との交流力を培うことを目指した教育・研究を行うことを目的とする。

教育課程は、「観光全般に関する知識」を体系的に修得させることと、「英語運用力」の向上を図ることを主軸として編成されている。この教育課程を通して、「人間関係構築力」「情報収集・分析・表現力」「異文化理解・対応力」「社会的責任と倫理観」「問題発見・解決力」など「グローバル時代における観光の振興に貢献できる人材」が備えるべき基礎的な資質・能力を身につけさせる。

別表第2－①

ユニバーシティ・スタンダード科目

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件		授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
玉川教育・FYE科目群	一年次セミナー 101	2	必修		社会科学科目群	科学技術社会論	2	選択	
	一年次セミナー 102	2	必修			観光学入門	2	選択	
	玉川の教育	0.3	必修			社会科学アカデミックスキルズ（リーディング）	1	選択	
	健康教育	1	必修			社会科学アカデミックスキルズ（ライティング）	1	選択	
	音楽 I	0.7	必修			名著講読（社会科学）	1	選択	
	音楽 II	1	必修		自然科学科目群	情報科学入門	2	選択	
	全人教育論	2	選択			ネットワーク入門	2	選択	
	二年次セミナー 201	2	選択			データ処理	2	選択	
	二年次セミナー 202	2	選択			マルチメディア表現	2	選択	
	三年次セミナー 301	2	選択			化学入門	2	選択	
人文科学科目群	三年次セミナー 302	2	選択			生物学入門	2	選択	
	ピアリーダー	2	選択			環境科学	2	選択	
	文化人類学	2	選択			数学入門	2	選択	
	民俗学入門	2	選択			解析学入門	2	選択	
	美術史	2	選択			代数学入門	2	選択	
	ことばと文化	2	選択			統計学入門	2	選択	
	比較文化論	2	選択			物理学入門	2	選択	
	日本文学	2	選択			実践の物理学	2	選択	
	外国文学	2	選択			科学入門	2	選択	
	歴史（世界）	2	選択			地球科学	2	選択	
	歴史（日本）	2	選択			エネルギー科学	2	選択	
	音楽史	2	選択			宇宙科学	2	選択	
	哲学	2	選択			STEM入門（科学と社会）	2	選択	
	倫理学	2	選択			人工知能と社会	2	選択	
	ロジック	2	選択			自然科学アカデミックスキルズ（リーディング）	1	選択	
	科学史	2	選択			自然科学アカデミックスキルズ（ライティング）	1	選択	
	宗教学	2	選択			名著講読（自然科学）	1	選択	
	世界の宗教と文化	2	選択		学際科目群	ミクロ脳科学	2	選択	
	演劇史	2	選択			マクロ脳科学	2	選択	
	キリスト教学	2	選択			健康スポーツ理論	2	選択	
	英語学	2	選択			生涯スポーツ演習	2	選択	
	日本語学	2	選択			環境教育	2	選択	
	日本学入門	2	選択			スポーツ史	2	選択	
	Japanology	2	選択			オリンピック文化論	2	選択	
	Japanese Pop Culture	2	選択			栄養学	2	選択	
	Modern Japanese History	2	選択			病理学	2	選択	
	East Asian History	2	選択			マスメディアと社会	2	選択	
	Issues in Japanese Studies A	2	選択			現代文化論	2	選択	
	Issues in Japanese Studies B	2	選択			プレゼンテーションスキル	2	選択	
	人文科学アカデミックスキルズ（リーディング）	1	選択			Presentation Skills in English	2	選択	
	人文科学アカデミックスキルズ（ライティング）	1	選択			複合領域研究 201～299	各2	選択	
	名著講読（人文科学）	1	選択			情報倫理と社会	2	選択	
社会科学科目群	会計学	2	選択			野外教育	2	選択	
	コミュニケーション論	2	選択			TAPファシリテーション I	2	選択	
	Academic Communication	2	選択			TAPファシリテーション II	2	選択	
	経済学（国際経済を含む。）	2	選択			環境教育ワークショップ I	2	選択	
	国際関係論	2	選択			環境教育ワークショップ II	2	選択	
	市民社会と法	2	選択			コーオプ・プログラム	2	選択	
	経営学	2	選択			キャリア・マネジメント	2	選択	
	マーケティング	2	選択			海外留学入門	2	選択	
	政治学（国際政治を含む。）	2	選択			インターンシップ A	2	選択	
	心理学	2	選択			インターンシップ B	2	選択	
	社会学	2	選択			インターンシップ C	1	選択	
	ボランティア概論	2	選択			インターンシップ D	1	選択	
	現代社会の教育課題	2	選択			国際研究 A	2	選択	

別表第2－①

ユニバーシティ・スタンダード科目

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
学際科目群	国際研究 B	2	選択	
	国際研究 C	2	選択	
	国際研究 D	3	選択	
	国際研究 E	4	選択	
	国際研究 F	5	選択	
	Japan Studies Overseas A	2	選択	
	Japan Studies Overseas B	2	選択	
	Japan Studies Overseas C	2	選択	
	フィールドワーク A	2	選択	
	フィールドワーク B	2	選択	
	フィールドワーク C	2	選択	
	地域創生プロジェクト A	1	選択	
	地域創生プロジェクト B	1	選択	
	地域創生プロジェクト C	2	選択	
	地域創生プロジェクト D	2	選択	
	地域創生プロジェクト E	3	選択	
	地域創生プロジェクト F	3	選択	
言語表現科目群	ELF 101	4	選択	
	ELF 102	4	選択	
	ELF 201	4	選択	
	ELF 202	4	選択	
	ELF 301	4	選択	
	ELF 302	4	選択	
	ELF 401	4	選択	
	ELF 402	4	選択	
	日本語表現 101	2	選択	
	日本語表現 102	2	選択	
	フランス語 101	2	選択	
	フランス語 102	2	選択	
	ドイツ語 101	2	選択	
	ドイツ語 102	2	選択	
	スペイン語 101	2	選択	
	スペイン語 102	2	選択	
	中国語 101	2	選択	
	中国語 102	2	選択	
教職関連科目群	日本国憲法	2	選択	
	体育	1	選択	
	教育原理	2	選択	
	教職概論	2	選択	
	教育の制度と経営	2	選択	
	学習・発達論	2	選択	
	特別支援教育	1	選択	
	教育課程編成論（中・高）	2	選択	
	道德教育の理論と方法（中）	2	選択	
	総合的な学習の時間の理論と方法（中・高）	1	選択	
	特別活動の理論と方法（中・高）	1	選択	
	教育の方法と技術（中・高）	2	選択	
	生徒・進路指導の理論と方法（中・高）	2	選択	
	教育相談の理論と方法（中・高）	2	選択	
	教育実習（中学校）	5	選択	
	教育実習（高等学校）	3	選択	
	教職実践演習（中・高）	2	選択	
	教育インターンシップ A	2	選択	
	教育インターンシップ B	2	選択	

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教職関連科目群	教育インターンシップ C	1	選択	
	教育インターンシップ D	1	選択	
	教育哲学	2	選択	
	発達心理学	2	選択	
	教育心理学	2	選択	
	教育社会学	2	選択	
	教職演習 A	1	選択	
	教職演習 B	1	選択	
	精神保健	2	選択	
	生命と性の教育	2	選択	
	異文化理解と教育	2	選択	
資格関連科目群	学校経営と学校図書館	2	選択	
	学校図書館メディアの構成	2	選択	
	学習指導と学校図書館	2	選択	
	読書と豊かな人間性	2	選択	
	情報メディアの活用	2	選択	
	生涯学習概論	2	選択	
	図書館概論	2	選択	
	図書館情報技術論	2	選択	
	図書館制度・経営論	2	選択	
	図書館サービス概論	2	選択	
	情報サービス論	2	選択	
	児童サービス論	2	選択	
	情報サービス演習 A	1	選択	
	情報サービス演習 B	1	選択	
	図書館情報資源概論	2	選択	
	情報資源組織論	2	選択	
	情報資源組織演習 A	1	選択	
	情報資源組織演習 B	1	選択	
	図書館情報資源特論	1	選択	
	図書・図書館史	1	選択	
	図書館施設論	1	選択	
	生涯学習と生涯教育	2	選択	
	生涯学習支援論 A	2	選択	
	生涯学習支援論 B	2	選択	
	社会教育経営論 A	2	選択	
	社会教育経営論 B	2	選択	
	社会教育実習	2	選択	
	社会教育課題研究	2	選択	
	社会体育論	2	選択	
	博物館概論	2	選択	
	博物館経営論	2	選択	
	博物館資料論	2	選択	
	博物館資料保存論	2	選択	
	博物館展示論	2	選択	
	博物館教育論	2	選択	
	博物館情報・メディア論	2	選択	
	博物館実習	3	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

国語教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		国語教員	言語表現	
言語表現入門 A	2	必修	必修	
日本文学概論	2	必修	必修	
言語表現入門 B	2	必修	必修	
学術情報リテラシー	2	選択	選択	
キャリアナビゲーション	1	選択	選択	
現代社会の諸問題	2	選択	必修	
日本文学史	2	必修	選択	
漢文学	2	必修	選択	
日本語文法論 I	2	必修	選択	
日本語文法論 II	2	選択	選択	
日本古典文学演習	2	必修	選択	
日本近代文学演習	2	選択	選択	
書写	2	必修	選択	
国語科指導法 I	2	必修	選択	
異文化間コミュニケーション	2	選択	選択	
世界文学	2	選択	選択	
メディアと文化表現	2	選択	選択	
ロジカルシンキング	2	選択	必修	
クリティカルシンキング	2	選択	必修	
クリティカルリーディング	2	選択	必修	
議論ストラテジー	2	選択	必修	
スクールインターンシップ A	2	選択	選択	
スクールインターンシップ B	2	選択	選択	
インターンシップ A	2	選択	選択	
インターンシップ B	1	選択	選択	
インターンシップ C	2	選択	選択	
インターンシップ D	1	選択	選択	
キャリアセミナー A	2	必修	必修	
国語科指導法 II	2	必修	選択	
日本語彙論	2	選択	選択	
キャリアセミナー B	2	必修	必修	
日本古典文学研究	2	選択	選択	
日本近代文学研究	2	選択	選択	
日本語史	2	選択	選択	
日本語学演習	2	選択	選択	
日本語音韻論	2	選択	選択	
ランゲージアーツセミナー A	2	必修	必修	
ランゲージアーツセミナー B	2	必修	必修	
教育現場研究	2	選択	選択	
現代思想と言語	2	選択	選択	
テクノロジーと言語	2	選択	選択	
英語で読む日本文学	2	選択	選択	
広告と言語	2	選択	選択	
プレゼンテーション技法	2	選択	選択	
情報編集デザイン	2	選択	選択	

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		国語教員	言語表現	
読み書きの認知と指導	2	選択	選択	
スクールインターンシップ C	2	選択	選択	
スクールインターンシップ D	2	選択	選択	
国語科指導法 III	2	選択	選択	
国語科指導法 IV	2	選択	選択	
レトリック探究	2	選択	選択	
音声表現法研究	2	選択	選択	
日本語学研究	2	選択	選択	
言語表現教育研究	2	選択	選択	
批評理論	2	選択	選択	
ランゲージアーツセミナー C	2	選択	選択	
ランゲージアーツセミナー D	2	選択	選択	
ランゲージアーツプロジェクト	2	選択	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

英語教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		英語 教員	E L F	
Basic Academic English Skills A	2	必修	必修	
English Phonetics	1	必修	必修	
Overseas Study A	2	選択	選択	
Overseas Study B	2	選択	選択	
Overseas Study C	2	選択	選択	
Basic Academic English Skills B	2	必修	必修	
日本語表現演習	2	選択	必修	
English Grammar	2	必修	必修	
World Studies	2	必修	必修	
Pre-departure Seminar	1	必修	必修	
Introduction to Language Studies	2	必修	必修	
英語科指導法 I	2	選択	選択	
British and American Literature	2	必修	必修	
Internship A	2	選択	選択	
Internship B	2	選択	選択	
Internship C	2	選択	選択	
School Internship A	2	選択	選択	
School Internship B	2	選択	選択	
School Internship C	2	選択	選択	
English for Intercultural Communication A	4	選択	選択	
Intercultural Communication A	4	選択	選択	
English for General Communication A	2	選択	選択	
English for General Communication B	2	選択	選択	
Integrated English Language Skills	2	選択	選択	
Academic English Skills A	2	選択	選択	
English for Intercultural Communication B	4	選択	選択	
Intercultural Communication B	4	選択	選択	
Studies in ELT	4	選択	選択	
Studies in ELF Communication	4	選択	選択	

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		英語 教員	E L F	
Academic English Skills B	2	選択	選択	
English for Writing Research Papers	2	選択	選択	
Strategies for Global Communication	2	選択	選択	
English in Global Contexts	2	必修	必修	
Multiculturalism in English-speaking Areas	2	必修	必修	
英語科指導法 II	4	選択	選択	
Global Communication	2	選択	選択	
Current Issues in Applied Linguistics	2	選択	選択	
Regional Studies	2	選択	選択	
Research Seminar A	2	必修	必修	
Language Testing	2	選択	選択	
Special Studies in American Literature	2	選択	選択	
Language Teaching in Asia	2	選択	選択	
Language and Society	2	選択	選択	
Speaking Workshop	2	選択	選択	
Special Studies in British Literature	2	選択	選択	
Issues in Second Language Acquisition	2	選択	選択	
Issues in Applied Linguistics	2	選択	選択	
Issues in International Mobility A	2	選択	選択	
Project Management Workshop	2	選択	選択	
Research Seminar B	1	必修	必修	
英語科指導法 III	2	選択	選択	
Issues in International Mobility B	2	選択	選択	
Issues in English Linguistics	2	選択	選択	
Research Seminar C	2	必修	必修	
Teaching English to Children	2	選択	選択	
Language through Contemporary English Literature	2	選択	選択	
Career English	2	選択	選択	
Senior Project	2	必修	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

生産農学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
基礎生物学実験	2	必修	
生産農学セミナー	1	必修	
化学	2	必修	
栽培学	2	必修	
生物学	2	必修	
基礎化学実験	2	必修	
フィールド実習 I	2	必修	
有機化学 I	2	必修	
分析化学	2	必修	
植物形態学	2	選択	
昆虫資源学	2	選択	
微生物学	2	選択	
有機化学	2	選択	
有機化学 II	2	選択	
生態学	2	必修	
フィールド実習 II	2	選択	
職業指導 (農業) I	2	選択	
生化学	2	必修	
生物化学実験	2	必修	
分子生物学 I	2	必修	
動物行動学	2	選択	
作物学	2	選択	
応用微生物学	2	選択	
地学	2	選択	
地学実験	1	選択	
物理学	2	選択	
物理学実験	1	選択	
細胞生物学	2	選択	
生物多様性論	2	選択	
動物生理学	2	選択	
樹木学	2	選択	
環境と農業	2	選択	
分類学	2	選択	
理科指導法 I	2	選択	
理科指導法 II	2	選択	
農業科指導法 I	2	選択	
農業科指導法 II	2	選択	
職業指導 (農業) II	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
分子生物学 II	2	選択	
植物病理学	2	選択	
分子構造解析論	2	選択	
天然物化学	2	選択	
専門実験・実習 I	2	必修	
インターンシップ	2	選択	
生物統計学	2	必修	
植物育種学	2	選択	
応用動物昆虫学	2	選択	
果樹園芸学	2	選択	
畜産学	2	選択	
農薬化学	2	選択	
有機合成化学	2	選択	
専門実験・実習 II	2	必修	
生産農学演習 I	2	必修	
フィールド実習 III	2	選択	
生物実験スキル	2	選択	
化学実験スキル	2	選択	
遺伝子工学	2	選択	
応用動物利用学	2	選択	
緑地保全学	2	選択	
食品製造	2	選択	
食品製造実習	1	選択	
野外活動指導法	2	選択	
植物生理学	2	選択	
農業マーケティング論	2	選択	
理科指導法 III	2	選択	
理科指導法 IV	2	選択	
生産農学演習 II	2	必修	
卒業研究 I	4	必修	
生産農学演習 III	2	必修	
卒業研究 II	4	必修	
卒業研究論文	2	必修	
教材研究	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

生産農学科 中・高（理科教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	基礎生物学実験 化学 生物学 基礎化学実験 分析化学	2 2 2 2 2	必修 必修 必修 必修 選択
生産農学科 理科教育コース科目	2 年次	有機化学 生化学 分子生物学Ⅰ 動物行動学 地学 地学実験 物理学 物理学実験 細胞生物学 理科指導法Ⅰ 理科指導法Ⅱ	2 2 2 2 2 1 2 1 2 2 2	必修 必修 選択 選択 必修 必修 必修 必修 選択 必修 必修
	3 年次	生物統計学 生物実験スキル 化学実験スキル 理科指導法Ⅲ 理科指導法Ⅳ	2 2 2 2 2	必修 選択 選択 必修 必修
	小計（21科目）		40	—
生産農学科 関連科目教育コース	2 年次	生態学 生物多様性論	2 2	選択 選択
	3 年次	分子生物学Ⅱ 分子構造解析論 天然物化学 インターンシップ 有機合成化学	2 2 2 2 2	選択 選択 選択 選択 選択
	4 年次	教材研究	2	必修
	小計（8科目）		16	—

理科の「教科及び教科の指導法に関する科目」

理科の関連科目

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	生産農学セミナー 栽培学 フィールド実習Ⅰ 有機化学Ⅰ	1 2 2 —	必修 選択 必修 —
生産農学科 理科教育コース以外の科目	2 年次	植物形態学 昆虫資源学 微生物学 有機化学Ⅱ フィールド実習Ⅱ 職業指導（農業）Ⅰ 生物化学実験 作物学 応用微生物学 動物生理学 樹木学 環境と農業 分類学 農業科指導法Ⅰ 農業科指導法Ⅱ 職業指導（農業）Ⅱ	2 2 2 — 2 2 — 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選択 選択 選択 — 選択 選択 — 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択
	3 年次	植物病理学 専門実験・実習Ⅰ 植物育種学 応用動物昆虫学 果樹園芸学 畜産学 農業化学 専門実験・実習Ⅱ 生産農学演習Ⅰ フィールド実習Ⅲ 遺伝子工学 応用動物利用学 緑地保全学 食品製造 食品製造実習 野外活動指導法 植物生理学 農業マーケティング論	2 — 2 2 2 2 2 — — 2 2 2 2 2 1 2 2 2	選択 — 選択 選択 選択 選択 選択 — — 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択
	4 年次	生産農学演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 生産農学演習Ⅲ 卒業研究Ⅱ 卒業研究論文	— — — — —	— — — — —
	小計（43科目）		62	—

農業の「教科及び教科の指導法に関する科目」

農業の関連科目

別表第2-①

生産農学科 高（農業教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	フィールド実習Ⅰ	2	必修
生産農学科農業教育コース科目	2年次	フィールド実習Ⅱ	2	選択
		職業指導（農業）Ⅰ	2	必修
		作物学	2	選択
		動物生理学	2	選択
		樹木学	2	選択
		環境と農業	2	選択
		分類学	2	選択
		農業科指導法Ⅰ	2	必修
		農業科指導法Ⅱ	2	必修
		職業指導（農業）Ⅱ	2	選択
	3年次	植物病理学	2	選択
		植物育種学	2	選択
		果樹園芸学	2	選択
		農薬化学	2	選択
		フィールド実習Ⅲ	2	選択
		遺伝子工学	2	選択
		応用動物利用学	2	選択
		緑地保全学	2	選択
		食品製造	2	選択
		食品製造実習	1	選択
		野外活動指導法	2	選択
		植物生理学	2	選択
		農業マーケティング論	2	選択
	小計（24科目）			47
生産農学科農業教育コース 関連科目	1年次	栽培学	2	選択
	2年次	植物形態学	2	選択
		昆虫資源学	2	選択
		微生物学	2	選択
		応用微生物学	2	選択
	3年次	インターンシップ	2	選択
		応用動物昆虫学	2	選択
		畜産学	2	選択
	4年次	教材研究	2	必修
小計（9科目）			18	—

農業の「教科及び教科の指導法に関する科目」

農業の関連科目

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	基礎生物学実験	2	必修
生産農学科農業教育コース以外の科目	1年次	生産農学セミナー	1	必修
		化学	2	必修
		生物学	2	必修
		基礎化学実験	2	必修
		有機化学Ⅰ	—	—
		分析化学	2	選択
	2年次	有機化学	2	必修
		有機化学Ⅱ	—	—
		生態学	2	選択
		生化学	2	必修
		生物化学実験	—	—
		分子生物学Ⅰ	2	選択
		動物行動学	2	選択
		地学	2	選択
		地学実験	1	選択
		物理学	2	選択
		物理学実験	1	選択
		細胞生物学	2	選択
		生物多様性論	2	選択
		理科指導法Ⅰ	2	選択
		理科指導法Ⅱ	2	選択
	3年次	分子生物学Ⅱ	2	選択
		分子構造解析論	2	選択
		天然物化学	2	選択
		専門実験・実習Ⅰ	—	—
		生物統計学	2	必修
		有機合成化学	2	選択
		専門実験・実習Ⅱ	—	—
		生産農学演習Ⅰ	—	—
		生物実験スキル	2	選択
		化学実験スキル	2	選択
	4年次	理科指導法Ⅲ	2	選択
		理科指導法Ⅳ	2	選択
		生産農学演習Ⅱ	—	—
		卒業研究Ⅰ	—	—
		生産農学演習Ⅲ	—	—
	4年次	卒業研究Ⅱ	—	—
		卒業研究論文	—	—
	小計（39科目）		53	—

理科の「教科及び教科の指導法に関する科目」

理科の関連科目

別表第2-①

生産農学科 (理科教育コース・農業教育コースを除く)

生産農学科科目（理科教育コース・農業教育コースを除く）	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年 次	基礎生物学実験	2	必修
		生産農学セミナー	1	必修
		化学	2	必修
		栽培学	2	必修
		生物学	2	必修
		基礎化学実験	2	必修
		フィールド実習Ⅰ	2	必修
		有機化学Ⅰ	2	必修
		分析化学	2	必修
	小計（9科目）		17	—
	2 年 次	植物形態学	2	選択
		昆虫資源学	2	選択
		微生物学	2	選択
		有機化学	—	—
		有機化学Ⅱ	2	選択
		生態学	2	必修
		フィールド実習Ⅱ	2	選択
		職業指導（農業）Ⅰ	—	—
		生化学	2	必修
		生物化学実験	2	必修
		分子生物学Ⅰ	2	必修
		動物行動学	2	選択
		作物学	2	選択
		応用微生物学	2	選択
		地学	—	—
		地学実験	—	—
		物理学	—	—
		物理学実験	—	—
		細胞生物学	2	選択
生物多様性論		2	選択	
動物生理学		2	選択	
樹木学		2	選択	
環境と農業		2	選択	
分類学		2	選択	
理科指導法Ⅰ		—	—	
理科指導法Ⅱ		—	—	
農業科指導法Ⅰ		—	—	
農業科指導法Ⅱ	—	—		
職業指導（農業）Ⅱ	—	—		
小計（29科目）		36	—	
3 年 次	分子生物学Ⅱ	2	選択	
	植物病理学	2	選択	
	分子構造解析論	2	選択	
	天然物化学	2	選択	
	専門実験・実習Ⅰ	2	必修	
	インターンシップ	2	選択	
	生物統計学	2	必修	
	植物育種学	2	選択	
	応用動物昆虫学	2	選択	
	果樹園芸学	2	選択	
	畜産学	2	選択	

生産農学科科目（理科教育コース・農業教育コースを除く）	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件	
	3 年 次	農業化学	2	選択	
		有機合成化学	2	選択	
		専門実験・実習Ⅱ	2	必修	
		生産農学演習Ⅰ	2	必修	
		フィールド実習Ⅲ	2	選択	
		生物実験スキル	－	－	
		化学実験スキル	－	－	
		遺伝子工学	2	選択	
		応用動物利用学	2	選択	
		緑地保全学	2	選択	
		食品製造	－	－	
		食品製造実習	－	－	
		野外活動指導法	－	－	
		植物生理学	2	選択	
		農業マーケティング論	2	選択	
	理科指導法Ⅲ	－	－		
	理科指導法Ⅳ	－	－		
	小計（28科目）			22	－
	4 年 次	生産農学演習Ⅱ	2	必修	
卒業研究Ⅰ		4	必修		
生産農学演習Ⅲ		2	必修		
卒業研究Ⅱ		4	必修		
卒業研究論文		2	必修		
教材研究		－	－		
小計（6科目）			14	－	

別表第2-①

環境農学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
環境と農業	2	必修	
基礎化学実験	2	必修	
農場実習Ⅰ	1	必修	
生物科学	2	必修	
環境農学概論	2	必修	
生態学概論	2	必修	
基礎生物学実験	2	必修	
農場実習Ⅱ	2	必修	
English Communication	2	選択	
地域環境研究	2	選択	
植物科学	2	選択	
植物繁殖学	2	選択	
地域環境論	2	選択	
科学英語表現Ⅰ	2	選択	
科学英語表現Ⅱ	2	選択	
環境農学実験	2	必修	
自然環境保全学	2	選択	
土壌生態学	2	選択	
生物環境物理学	2	選択	
動物行動生態学	2	選択	
分類学	2	選択	
環境倫理学	2	選択	
環境経済学	2	選択	
化学	2	選択	
生物統計学	2	必修	
農場実習Ⅲ	1	必修	
環境農学研究Ⅰ	3	必修	
地理学	2	選択	
環境マネジメント論	2	選択	
環境と法令	2	選択	
農学国際協力	2	選択	
地球環境と生態系	2	必修	
持続的農業論	2	必修	
環境農学研究Ⅱ	4	必修	
コミュニケーションスキル	2	選択	
農業マーケティング論	2	選択	
野外安全教育	2	選択	
インターンシップⅠ	2	選択	
環境農学演習Ⅰ	2	必修	
卒業研究Ⅰ	4	必修	
農業と動物	2	選択	
緑地環境学	2	選択	
環境農学演習Ⅱ	2	必修	
卒業研究Ⅱ	4	必修	
卒業研究Ⅲ	2	必修	
自然環境総合演習	2	選択	
インターンシップⅡ	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

先端食農学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
環境生物科学	2	選択	
基礎化学実験	2	必修	
農場実習	1	必修	
化学	2	必修	
生物学	2	必修	
有機化学 I	2	必修	
分析化学	2	選択	
基礎生物学実験	2	必修	
生物化学 I	2	必修	
微生物学	2	必修	
園芸学	2	必修	
海洋生態学	2	必修	
有機化学 II	2	選択	
食品製造科学	2	選択	
食品加工実習 I	2	選択	
生物化学 II	2	必修	
植物栄養学	2	必修	
食品機能化学	2	必修	
生物統計学	2	選択	
水産学	2	選択	
養殖学	2	選択	
先端食農実験 I	2	必修	
生物化学 III	2	必修	
食品衛生学	2	必修	
栄養生理化学	2	選択	
養蜂学	2	選択	
先端食農実験 II	2	必修	
専門領域研究	2	選択	
食品加工実習 II	2	選択	
先端食農演習 I	2	必修	
応用栄養学	2	選択	
畜産物利用学	2	選択	
植物生理学	2	選択	
農薬化学	2	選択	
公衆衛生学	2	選択	
インターンシップ	2	選択	
フィールド実習	2	選択	
植物工場実習	2	選択	
陸上養殖実習	2	選択	
先端食農演習 II A	2	必修	
卒業研究 I	4	必修	
先端食農演習 II B	2	必修	
卒業研究 II	4	必修	
卒業研究論文	2	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

情報通信工学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
チャンピオンシップ	1	必修	
工学基礎演習	1	選択	
代数学 I	2	必修	
解析学 I	2	必修	
数学演習 I	2	選択	
数学演習 II	2	選択	
物理学 I	2	選択	
コミュニケーション科学の世界	2	必修	
プログラミング I	2	必修	
情報システム入門	2	選択	
電気回路入門	2	必修	
ロボットプロジェクト A	1	選択	
ロボット入門	1	選択	
プログラミング II	2	選択	
解析学 II	2	選択	
技術英語 I	2	選択	
技術英語 II	2	選択	
センサ工学	2	必修	
確率統計学 I	2	選択	
工学倫理	1	必修	
熱と流れの力学	2	選択	
インテリジェントデバイス入門	2	必修	
情報工学実験	1	必修	
基礎物理学実験	2	選択	
通信システム	2	選択	
フーリエ解析	2	選択	
データサイエンス入門	2	選択	
認知科学	2	選択	
工業科指導法 I	2	選択	
工業科指導法 II	2	選択	
サイエンスイングリッシュ	4	選択	
数学科指導法 I	2	選択	
数学科指導法 II	2	選択	
微分方程式 I	2	選択	
複素解析 I	2	選択	
確率統計学 II	2	選択	
微分方程式 II	2	選択	
電磁気学	2	選択	
幾何学 I	2	選択	
インターフェース工学	2	選択	
ロボットプロジェクト B	1	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
キャリアデザイン	2	選択	
数値解析プログラミング	2	選択	
コミュニケーションロボット工学	2	選択	
ブレインサイエンス	2	選択	
インテリジェントデバイス実験 I	1	必修	
通信工学	2	選択	
応用電子物性	2	選択	
データサイエンス I	2	選択	
エネルギー工学	2	選択	
工学応用演習	1	選択	
インターンシップ I	1	選択	
インターンシップ II	1	選択	
インターンシップ III	1	選択	
インターンシップ IV	1	選択	
ロボットプログラミング	2	選択	
インテリジェントデバイス実験 II	2	選択	
情報理論	2	選択	
データサイエンス II	2	選択	
スマートエネルギー	2	選択	
レーダ工学	2	選択	
生体情報工学	2	選択	
職業指導 (工業) I	2	選択	
職業指導 (工業) II	2	選択	
複素解析 II	2	選択	
代数学 II	2	選択	
数学科指導法 III	2	選択	
数学科指導法 IV	2	選択	
人工知能	4	選択	
インテリジェントデバイス実験 III	2	選択	
卒業プロジェクト	4	必修	
研究室セミナー	2	選択	
量子セキュリティ	2	選択	
ブレインソフトウェア	2	選択	
ビッグデータ解析	2	選択	
幾何学 II	2	選択	
光通信工学	4	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

情報通信工学科 中・高（数学教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	代数学 I 解析学 I プログラミング I	2 2 2	必修 必修 必修
情報通信工学科 数学教育コース科目	2 年次	プログラミング II 解析学 II 確率統計学 I フーリエ解析 数学科指導法 I 数学科指導法 II 微分方程式 I 複素解析 I 確率統計学 II 微分方程式 II 幾何学 I	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選択 選択 必修 選択 必修 必修 選択 選択 選択 選択 必修
		数値解析プログラミング データサイエンス I データサイエンス II 複素解析 II 代数学 II 数学科指導法 III 数学科指導法 IV	2 2 2 2 2 2 2	選択 選択 選択 選択 選択 必修 必修
	4 年次	ビッグデータ解析 幾何学 II	2 2	選択 選択
	計（23科目）		46	—
数学教育コース 情報通信工学科 関連科目	3 年次	工学応用演習 インターンシップ I インターンシップ II インターンシップ III インターンシップ IV レーダ工学 生体情報工学	1 1 1 1 1 2 2	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択
		量子セキュリティ 光通信工学	2 4	選択 選択
	計（9科目）		15	—

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」

数学の関連科目

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	チャンピオンシップ 工学基礎演習 数学演習 I 数学演習 II 物理学 I コミュニケーション科学の世界 情報システム入門 電気回路入門 ロボットプロジェクト A ロボット入門	1 1 2 2 2 2 2 2 1 1	必修 選択 選択 選択 選択 必修 選択 必修 選択 選択
情報通信工学科 数学教育コース 以外の科目	2 年次	技術英語 I 技術英語 II センサ工学 工学倫理 熱と流れの力学 インテリジェントデバイス入門 情報工学実験 基礎物理学実験 通信システム データサイエンス入門 認知科学 工業科指導法 I 工業科指導法 II サイエンスイングリッシュ 電磁気学	2 2 2 1 2 2 1 2 2 2 2 2 2 4 2	選択 選択 必修 必修 選択 必修 必修 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択
		インターフェース工学 ロボットプロジェクト B	2 1	選択 選択
	3 年次	キャリアデザイン コミュニケーションロボット工学 ブレインサイエンス インテリジェントデバイス実験 I 通信工学 応用電子物性 エネルギー工学 ロボットプログラミング インテリジェントデバイス実験 II 情報理論 スマートエネルギー 職業指導（工業） I 職業指導（工業） II	2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選択 選択 選択 必修 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択
		人工知能 インテリジェントデバイス実験 III 卒業プロジェクト 研究室セミナー ブレインソフトウェア	4 2 4 2 2	選択 選択 必修 選択 選択
	計（45科目）		88	—

工業の「教科及び教科の指導法に関する科目」

工業の関連科目

情報通信工学科 高（工業教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	電気回路入門	2	必修
情報通信工学科工業教育コース科目	2年次	センサ工学	2	必修
		熱と流れの力学	2	選択
		インテリジェントデバイス入門	2	必修
		情報工学実験	1	必修
		通信システム	2	選択
		データサイエンス入門	2	選択
		工業科指導法Ⅰ	2	必修
		工業科指導法Ⅱ	2	必修
		電磁気学	2	選択
		インターフェース工学	2	選択
	3年次	コミュニケーションロボット工学	2	選択
		インテリジェントデバイス実験Ⅰ	1	必修
		通信工学	2	選択
		応用電子物性	2	選択
		エネルギー工学	2	選択
		ロボットプログラミング	2	選択
		インテリジェントデバイス実験Ⅱ	2	選択
		情報理論	2	選択
		スマートエネルギー	2	必修
		職業指導（工業）Ⅰ	2	必修
		職業指導（工業）Ⅱ	2	選択
	4年次	インテリジェントデバイス実験Ⅲ	2	選択
	計（23科目）		44	—
情報通信工学科工業教育コース関連科目	1年次	チャンピオンシップ	1	必修
		工学基礎演習	1	選択
		数学演習Ⅰ	2	選択
		数学演習Ⅱ	2	選択
		コミュニケーション科学の世界	2	必修
		情報システム入門	2	選択
		ロボットプロジェクトA	1	選択
		ロボット入門	1	選択
	2年次	工学倫理	1	必修
		基礎物理学実験	2	選択
		認知科学	2	選択
		ロボットプロジェクトB	1	選択
	3年次	ブレインサイエンス	2	選択
		インターンシップⅠ	1	選択
		インターンシップⅡ	1	選択
		インターンシップⅢ	1	選択
		インターンシップⅣ	1	選択
	4年次	人工知能	4	選択
		ブレインソフトウェア	2	選択
	計（19科目）		30	—

工業の「教科及び教科の指導法に関する科目」

工業の関連科目

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	代数学Ⅰ	2	必修
情報通信工学科工業教育コース以外の科目	1年次	解析学Ⅰ	2	必修
		物理学Ⅰ	2	選択
		プログラミングⅠ	2	必修
		プログラミングⅡ	2	選択
	2年次	解析学Ⅱ	2	選択
		技術英語Ⅰ	2	選択
		技術英語Ⅱ	2	選択
		確率統計学Ⅰ	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		サイエンスイングリッシュ	4	選択
		数学科指導法Ⅰ	2	選択
		数学科指導法Ⅱ	2	選択
		微分方程式Ⅰ	2	選択
		複素解析Ⅰ	2	選択
		確率統計学Ⅱ	2	選択
		微分方程式Ⅱ	2	選択
		幾何学Ⅰ	2	選択
	3年次	キャリアデザイン	2	選択
		数値解析プログラミング	2	選択
		データサイエンスⅠ	2	選択
		工学応用演習	1	選択
		データサイエンスⅡ	2	選択
		レーダ工学	2	選択
		生体情報工学	2	選択
		複素解析Ⅱ	2	選択
	4年次	代数学Ⅱ	2	選択
		数学科指導法Ⅲ	2	選択
		数学科指導法Ⅳ	2	選択
		卒業プロジェクト	4	必修
		研究室セミナー	2	選択
		量子セキュリティ	2	選択
		ビッグデータ解析	2	選択
		幾何学Ⅱ	2	選択
		光通信工学	4	選択
	計（35科目）		75	—

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」

数学の関連科目

情報通信工学科科目（数学教育コース・工業教育コースを除く）

情報通信工学科科目（数学教育コース・工業教育コースを除く）	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	チャンピオンシップ	1	必修
		工学基礎演習	1	選択
		代数学Ⅰ	2	必修
		解析学Ⅰ	2	必修
		数学演習Ⅰ	2	選択
		数学演習Ⅱ	2	選択
		物理学Ⅰ	2	選択
		コミュニケーション科学の世界	2	必修
		プログラミングⅠ	2	必修
		情報システム入門	2	選択
		電気回路入門	2	必修
		ロボットプロジェクト A	1	選択
		ロボット入門	1	選択
	小計（13科目）		22	—
	2年次	プログラミングⅡ	2	選択
		解析学Ⅱ	2	選択
		技術英語Ⅰ	2	選択
		技術英語Ⅱ	2	選択
		センサ工学	2	必修
		確率統計学Ⅰ	2	選択
		工学倫理	1	必修
		熱と流れの力学	2	選択
		インテリジェントデバイス入門	2	必修
		情報工学実験	1	必修
		基礎物理学実験	2	選択
		通信システム	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		データサイエンス入門	2	選択
		認知科学	2	選択
		工業科指導法Ⅰ	—	—
		工業科指導法Ⅱ	—	—
		サイエンスイングリッシュ	4	選択
		数学科指導法Ⅰ	—	—
		数学科指導法Ⅱ	—	—
		微分方程式Ⅰ	2	選択
		複素解析Ⅰ	2	選択
		確率統計学Ⅱ	2	選択
		微分方程式Ⅱ	2	選択
		電磁気学	2	選択
		幾何学Ⅰ	2	選択
		インターフェース工学	2	選択
		ロボットプロジェクト B	1	選択
	小計（28科目）		47	—

情報通信工学科科目（数学教育コース・工業教育コースを除く）	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	3年次	キャリアデザイン	2	選択
		数値解析プログラミング	2	選択
		コミュニケーションロボット工学	2	選択
		ブレインサイエンス	2	選択
		インテリジェントデバイス実験Ⅰ	1	必修
		通信工学	2	選択
		応用電子物性	2	選択
		データサイエンスⅠ	2	選択
		エネルギー工学	2	選択
		工学応用演習	1	選択
		インターンシップⅠ	1	選択
		インターンシップⅡ	1	選択
		インターンシップⅢ	1	選択
		インターンシップⅣ	1	選択
		ロボットプログラミング	2	選択
		インテリジェントデバイス実験Ⅱ	2	選択
		情報理論	2	選択
		データサイエンスⅡ	2	選択
		スマートエネルギー	2	選択
		レーダ工学	2	選択
		生体情報工学	2	選択
		職業指導（工業）Ⅰ	—	—
		職業指導（工業）Ⅱ	—	—
		複素解析Ⅱ	2	選択
		代数学Ⅱ	2	選択
		数学科指導法Ⅲ	—	—
		数学科指導法Ⅳ	—	—
	小計（27科目）		40	—
	4年次	人工知能	4	選択
		インテリジェントデバイス実験Ⅲ	2	選択
		卒業プロジェクト	4	必修
		研究室セミナー	2	選択
		量子セキュリティ	2	選択
		ブレインソフトウェア	2	選択
		ビッグデータ解析	2	選択
		幾何学Ⅱ	2	選択
		光通信工学	4	選択
	小計（9科目）		24	—

別表第2-①

ソフトウェアサイエンス学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
工学基礎演習	1	選択	
数学演習	2	選択	
物理学 I	2	選択	
技術英語	2	選択	
工学基礎 I	2	選択	
プログラミング I	2	必修	
代数学 I	2	必修	
解析学 I	2	必修	
デジタルシチズンシップ	2	必修	
プログラミング II	2	必修	
離散数学	2	選択	
解析学 II	2	選択	
経営情報分析	2	選択	
情報処理技術	2	選択	
論理回路	2	選択	
回路基礎	2	選択	
微分方程式 I	2	選択	
確率統計学 I	2	選択	
工学基礎 II	2	選択	
フーリエ解析	2	選択	
シグナルプロセッシング	2	選択	
ネットワーク技術 I	2	必修	
ゲーム企画開発論	2	選択	
アルゴリズムとデータ構造	2	選択	
コンピュータグラフィックス	2	選択	
情報システム	2	選択	
データ通信	2	選択	
ビジネスゲーム	2	選択	
微分方程式 II	2	選択	
確率統計学 II	2	選択	
幾何学 I	2	選択	
数学科指導法 I	2	選択	
情報科指導法 I	2	選択	
数学科指導法 II	2	選択	
情報科指導法 II	2	選択	
複素解析 I	2	選択	
システムプログラミング	2	選択	
コンピュータアーキテクチャ	2	選択	
オペレーティングシステム	2	選択	
ユーザインタフェースデザイン	2	選択	
ネットワークプログラミング	2	選択	
データベース	2	選択	
ネットワーク技術 II	2	選択	
セキュアプログラミング	2	選択	
情報セキュリティマネジメント	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
代数学 II	2	選択	
企業講義	2	選択	
モバイルシステム総合研究	2	選択	
イメージプロセッシング	2	選択	
ゲームアニメーションプログラミング	2	選択	
マルチメディア処理	2	選択	
モバイルシステムサービス	2	選択	
プロジェクト研究 A	2	選択	
プロジェクト研究 B	2	選択	
ソフトウェアサイエンス実験	2	必修	
インターンシップ I	1	選択	
インターンシップ II	1	選択	
インターンシップ III	1	選択	
インターンシップ IV	1	選択	
アルゴリズム応用	2	選択	
複素解析 II	2	選択	
数学科指導法 III	2	選択	
数学科指導法 IV	2	選択	
情報セキュリティ	2	選択	
ソフトウェア工学	2	選択	
数値解析プログラミング	2	選択	
情報理論	2	選択	
幾何学 II	2	選択	
輪講 A	2	選択	
輪講 B	2	選択	
卒業研究	4	必修	
ブレインソフトウェア	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

ソフトウェアサイエンス学科 中・高（数学教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	プログラミング I 代数学 I 解析学 I プログラミング II	2 2 2 2	必修 必修 必修 必修
ソフトウェアサイエンス学科数学教育コース科目	2年次	解析学 II 微分方程式 I 確率統計学 I フーリエ解析 アルゴリズムとデータ構造 微分方程式 II 確率統計学 II 幾何学 I 数学科指導法 I 数学科指導法 II 複素解析 I	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選択 選択 必修 選択 選択 選択 選択 必修 必修 必修 選択
	3年次	代数学 II 複素解析 II 数学科指導法 III 数学科指導法 IV	2 2 2 2	選択 選択 必修 必修
	4年次	数値解析プログラミング 幾何学 II	2 2	選択 選択
	計（21科目）		42	—
ソフトウェアサイエンス学科 数学教育コース関連科目	1年次	工学基礎 I 離散数学	2 2	選択 選択
	2年次	経営情報分析 回路基礎 工学基礎 II シグナルプロセッシング ビジネスゲーム	2 2 2 2 2	選択 選択 選択 選択 選択
	3年次	インターンシップ I インターンシップ II インターンシップ III インターンシップ IV アルゴリズム応用	1 1 1 1 2	選択 選択 選択 選択 選択
	4年次	情報理論	2	選択
	計（13科目）		20	—

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」

数学の関連科目

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	工学基礎演習 数学演習 物理学 I 技術英語 デジタルシチズンシップ	1 2 2 2 2	選択 選択 選択 選択 必修
ソフトウェアサイエンス学科数学教育コース以外の科目	2年次	情報処理技術 論理回路 ネットワーク技術 I ゲーム企画開発論 コンピュータグラフィックス 情報システム データ通信 オペレーティングシステム 情報科指導法 I 情報科指導法 II システムプログラミング コンピュータアーキテクチャ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選択 選択 必修 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択
	3年次	ユーザインタフェースデザイン ネットワークプログラミング データベース ネットワーク技術 II セキュアプログラミング 情報セキュリティマネジメント 企業講義 モバイルシステム総合研究 イメージプロセッシング ゲームアニメーションプログラミング マルチメディア処理 モバイルシステムサービス プロジェクト研究 A プロジェクト研究 B ソフトウェアサイエンス実験 情報セキュリティ ソフトウェア工学	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 必修 選択 選択
	4年次	輪講 A 輪講 B 卒業研究 ブレインソフトウェア	2 2 4 2	選択 選択 必修 選択
	計（38科目）		77	—

情報の「教科及び教科の指導法に関する科目」

情報の関連科目

別表第2-①

ソフトウェアサイエンス学科 高（情報教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
ソフトウェアサイエンス学科情報教育コース科目	1年次	デジタルシチズンシップ	2	必修
	2年次	情報処理技術	2	必修
		論理回路	2	選択
		ネットワーク技術 I	2	必修
		コンピュータグラフィックス	2	選択
		情報システム	2	必修
		データ通信	2	選択
		情報科指導法 I	2	必修
		情報科指導法 II	2	必修
	3年次	オペレーティングシステム	2	選択
		データベース	2	必修
		ネットワーク技術 II	2	選択
		イメージプロセッシング	2	選択
		マルチメディア処理	2	必修
		ソフトウェアサイエンス実験	2	必修
		情報セキュリティ	2	選択
	計（16科目）		32	—
ソフトウェアサイエンス学科情報教育コース関連科目	2年次	ゲーム企画開発論	2	選択
		システムプログラミング	2	選択
		コンピュータアーキテクチャ	2	選択
	3年次	ユーザインタフェースデザイン	2	選択
		ネットワークプログラミング	2	選択
		モバイルシステム総合研究	2	選択
		ゲームアニメーションプログラミング	2	選択
		モバイルシステムサービス	2	選択
		インターンシップ I	1	選択
		インターンシップ II	1	選択
		インターンシップ III	1	選択
		インターンシップ IV	1	選択
		ソフトウェア工学	2	選択
	4年次	ブレインソフトウェア	2	選択
	計（14科目）		24	—

 情報の「教科及び教科の指導法に関する科目」

 情報の関連科目

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
ソフトウェアサイエンス学科情報教育コース以外の科目	1年次	工学基礎演習	1	選択
		数学演習	2	選択
		物理学 I	2	選択
		技術英語	2	選択
		工学基礎 I	2	選択
		プログラミング I	2	必修
		代数学 I	2	必修
		解析学 I	2	必修
		プログラミング II	2	必修
		離散数学	2	選択
	2年次	解析学 II	2	選択
		経営情報分析	2	選択
		回路基礎	2	選択
		微分方程式 I	2	選択
		確率統計学 I	2	選択
		工学基礎 II	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		シグナルプロセッシング	2	選択
		アルゴリズムとデータ構造	2	選択
		ビジネスゲーム	2	選択
		微分方程式 II	2	選択
		確率統計学 II	2	選択
		幾何学 I	2	選択
		数学科指導法 I	2	選択
		数学科指導法 II	2	選択
		複素解析 I	2	選択
	3年次	セキュアプログラミング	2	選択
		情報セキュリティマネジメント	2	選択
		代数学 II	2	選択
		企業講義	2	選択
		プロジェクト研究 A	2	選択
		プロジェクト研究 B	2	選択
		アルゴリズム応用	2	選択
		複素解析 II	2	選択
		数学科指導法 III	2	選択
		数学科指導法 IV	2	選択
	4年次	数値解析プログラミング	2	選択
		情報理論	2	選択
		幾何学 II	2	選択
		輪講 A	2	選択
		輪講 B	2	選択
		卒業研究	4	必修
	計（42科目）		85	—

 数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」

 数学の関連科目

別表第2-①

ソフトウェアサイエンス学科科目
(数学教育コース・情報教育コースを除く)

ソフトウェアサイエンス学科科目 (数学教育コース・情報教育コースを除く)	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	工学基礎演習	1	選択
		数学演習	2	選択
		物理学 I	2	選択
		技術英語	2	選択
		工学基礎 I	2	選択
		プログラミング I	2	必修
		代数学 I	2	必修
		解析学 I	2	必修
		デジタルシチズンシップ	2	必修
		経営情報分析	2	選択
		プログラミング II	2	必修
		離散数学	2	選択
	小計 (12科目)		23	—
ソフトウェアサイエンス学科科目 (数学教育コース・情報教育コースを除く)	2 年次	解析学 II	2	選択
		情報処理技術	2	選択
		論理回路	2	選択
		回路基礎	2	選択
		微分方程式 I	2	選択
		確率統計学 I	2	選択
		工学基礎 II	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		シグナルプロセッシング	2	選択
		ネットワーク技術 I	2	必修
		ゲーム企画開発論	2	選択
		アルゴリズムとデータ構造	2	選択
		コンピュータグラフィックス	2	選択
		情報システム	2	選択
		データ通信	2	選択
		ビジネスゲーム	2	選択
		微分方程式 II	2	選択
		確率統計学 II	2	選択
		幾何学 I	2	選択
		数学科指導法 I	—	—
		情報科指導法 I	—	—
		数学科指導法 II	—	—
		情報科指導法 II	—	—
		複素解析 I	2	選択
		システムプログラミング	2	選択
		コンピュータアーキテクチャ	2	選択
		オペレーティングシステム	2	選択
	小計 (27科目)		46	—

ソフトウェアサイエンス学科科目 (数学教育コース・情報教育コースを除く)	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	3 年次	ユーザインタフェースデザイン	2	選択
		ネットワークプログラミング	2	選択
		データベース	2	選択
		ネットワーク技術 II	2	選択
		代数学 II	2	選択
		企業講義	2	選択
		モバイルシステム総合研究	2	選択
		イメージプロセッシング	2	選択
		ゲームアニメーションプログラミング	2	選択
		マルチメディア処理	2	選択
		モバイルシステムサービス	2	選択
		プロジェクト研究 A	2	選択
		プロジェクト研究 B	2	選択
		ソフトウェアサイエンス実験	2	必修
		インターンシップ I	1	選択
		インターンシップ II	1	選択
		インターンシップ III	1	選択
		インターンシップ IV	1	選択
		アルゴリズム応用	2	選択
		複素解析 II	2	選択
		数学科指導法 III	—	—
		数学科指導法 IV	—	—
		情報セキュリティ	2	選択
	小計 (23科目)		38	—
ソフトウェアサイエンス学科科目 (数学教育コース・情報教育コースを除く)	4 年次	数値解析プログラミング	2	選択
		情報理論	2	選択
		幾何学 II	2	選択
		輪講 A	2	選択
		輪講 B	2	選択
		卒業研究	4	必修
		ブレインソフトウェア	2	選択
	小計 (7科目)		16	—

別表第2-①

マネジメントサイエンス学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
技術英語	2	選択	
プログラミング I	2	選択	
キャリアデザイン	2	必修	
代数学 I	2	必修	
解析学 I	2	必修	
数学演習 I	2	選択	
数学演習 II	2	選択	
物理学 I	2	選択	
デジタルシチズンシップ	2	必修	
プログラミング II	2	選択	
解析学 II	2	選択	
プロジェクトマネジメント	2	選択	
消費生活科学	2	選択	
微分方程式 I	2	選択	
確率統計学 I	2	選択	
マーケティング論	2	選択	
経営情報処理	2	必修	
データサイエンス基礎演習	2	選択	
原価計算	2	選択	
人間工学	2	選択	
確率統計学 II	2	選択	
幾何学 I	2	選択	
微分方程式 II	2	選択	
複素解析 I	2	選択	
数学科指導法 I	2	選択	
数学科指導法 II	2	選択	
数値解析プログラミング	2	選択	
チームマネジメント	2	選択	
生産管理	2	選択	
統計の方法	2	選択	
サービスマネジメント	2	選択	
サービスイノベーション	2	選択	
ビジネスコンテンツ	2	必修	
キャリアとコミュニケーション	2	選択	
代数学 II	2	選択	
コストマネジメント	2	選択	
ベクトル解析	2	選択	
マネジメントサイエンスセミナー A	2	必修	
外書探究	2	選択	
マネジメント事例研究 I	2	必修	
マネジメントサイエンスセミナー B	2	選択	
複素解析 II	2	選択	
代数学 III	2	選択	
管理会計	2	選択	
品質管理	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
インターンシップ I	1	選択	
インターンシップ II	1	選択	
インターンシップ III	1	選択	
経済性分析	2	選択	
オペレーションズリサーチ	2	選択	
経営戦略マネジメント	2	選択	
数学科指導法 III	2	選択	
数学科指導法 IV	2	選択	
ファイナンス	2	選択	
計量経済学	2	選択	
情報分析論	2	選択	
社会モデル	2	選択	
幾何学 II	2	選択	
ユニバーサルデザイン	2	選択	
マネジメント事例研究 II	2	必修	
幾何学 III	2	選択	
製品開発実践論	2	選択	
意思決定論	2	選択	
最適化システム	2	選択	
卒業プロジェクト	4	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

エンジニアリングデザイン学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
導入ゼミ	2	必修	
工学基礎演習	1	選択	
工学基礎	2	選択	
数学演習	2	選択	
物理学 I	2	選択	
解析学 I	2	必修	
代数学 I	2	必修	
プログラミング I	2	選択	
プログラミング II	2	選択	
デジタルシチズンシップ	2	必修	
解析学 II	2	選択	
物理学 IIA	2	選択	
物理学 IIB	2	選択	
微分方程式 I	2	選択	
確率統計学 I	2	選択	
伝統文化と異文化理解	2	選択	
ファブラボ実験	1	必修	
スケッチと製図	1	必修	
機構学	2	選択	
材料力学	2	必修	
微分方程式 II	2	選択	
原価計算	2	選択	
確率統計学 II	2	選択	
数値解析プログラミング	2	選択	
化学と工学	2	選択	
電気回路基礎	2	選択	
人間工学	2	選択	
デジタルファブリケーション入門	2	選択	
デジタルファブリケーション	2	選択	
製品製造失敗学	2	選択	
設計製図	1	必修	
自然科学実験	1	選択	
工作実習	1	選択	
機械力学	2	選択	
流体力学	2	選択	
デザイン思考	2	選択	
管理技法	2	選択	
キャリアデザイン	2	必修	
材料と加工	2	選択	
リスクマネジメント	2	選択	
デジタルファブリケーション実習	1	必修	
メカトロニクス	2	選択	
機械要素設計	2	選択	
インターンシップ I	1	選択	
インターンシップ II	1	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
インターンシップ III	1	選択	
インターンシップ IV	1	選択	
海外研修	2	選択	
エンジニアリングデザインセミナー I	2	必修	
エンジニアリングデザイン演習	1	選択	
ユニバーサルデザイン	2	選択	
知的財産権の基礎	2	選択	
バイオミメティクス	2	選択	
工業デザイン	2	選択	
モデリングとシミュレーション	2	選択	
価値分析	2	選択	
エンジニアリングデザインセミナー II	2	必修	
卒業研究	4	必修	
デジタル生産加工	2	選択	
経営戦略	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

国際経営学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
マクロ経済学	2	必修	
ミクロ経済学	2	必修	
ESS A	1	必修	
ESS B	2	必修	
基礎数学	2	必修	
経営統計学	2	必修	
Intercultural Studies	2	必修	
企業論	2	必修	
基礎ファイナンス	2	必修	
Business English A	4	必修	
Business English B	4	必修	
専門基礎ゼミナール A	2	必修	
専門基礎ゼミナール B	2	必修	
企業倫理	2	必修	
国際会計基礎	4	選択	
マーケティング戦略	4	選択	
EPS A	2	必修	
EPS B	2	必修	
環境経営	2	選択	
人的資源管理	2	選択	
中小企業経営論	2	選択	
Strategic Management	4	選択	
経営塾	4	選択	
Global Business Studies	4	選択	
グローバルビジネスゼミナール A	2	選択	
グローバルビジネスゼミナール B	2	選択	
財務会計論	4	選択	
国際会計理論	4	選択	
国際会計ゼミナール A	2	選択	
国際会計ゼミナール B	2	選択	
パーソナル・ファイナンス	4	選択	
消費者行動論	4	選択	
販売管理・流通	4	選択	
マーケティング・リサーチ	4	選択	
マーケティングゼミナール A	2	選択	
マーケティングゼミナール B	2	選択	
経営法務	4	必修	
コーポレート・ファイナンス	4	選択	
Global Case Studies	4	選択	
グローバルビジネスゼミナール C	2	選択	
グローバルビジネスゼミナール D	2	選択	
管理会計論	4	選択	
国際会計ゼミナール C	2	選択	
国際会計ゼミナール D	2	選択	
Marketing Communication	4	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
New Product Management	4	選択	
マーケティングゼミナール C	2	選択	
マーケティングゼミナール D	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教育学概論	2	必修	
教職概論	2	必修	
教育の制度と経営	2	選択	
教育原理	2	選択	
学習・発達論	2	選択	
教育哲学	2	選択	
教育心理学	2	選択	
教育方法学	2	選択	
教育社会学	2	選択	
発達心理学	2	選択	
生涯学習概論	2	選択	
教育の方法と技術	2	選択	
国語	2	選択	
算数	2	選択	
理科	2	選択	
社会	2	選択	
家庭	2	選択	
生活	2	選択	
音楽	2	選択	
図工	2	選択	
体育（幼・小）	2	選択	
外国語（英語）	2	選択	
保育内容総論	2	選択	
教育インターンシップ（幼） A	2	選択	
教育インターンシップ（幼） B	2	選択	
教育インターンシップ（幼） C	1	選択	
教育インターンシップ（幼） D	1	選択	
文化人類学	2	選択	
民俗学入門	2	選択	
社会学	2	選択	
経済学（国際経済を含む。）	2	選択	
ボランティア概論	2	選択	
比較文化論	2	選択	
世界の宗教と文化	2	選択	
市民社会と法	2	選択	
日本史概論	2	選択	
体育実技（体操）	1	選択	
体育実技（陸上）	1	選択	
体育実技（スキー）	1	選択	
図書館情報資源概論	2	選択	
図書館情報資源特論	1	選択	
全人教育実践演習 A	2	必修	
全人教育実践演習 B	2	必修	
教育課程編成論	2	選択	
道德教育の理論と方法	2	選択	
総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択	
特別活動の理論と方法	1	選択	
生徒・進路指導の理論と方法	2	選択	
教育相談の理論と方法	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
幼児理解と教育相談	2	選択	
幼児教育課程論	2	選択	
幼児指導論	2	選択	
保育内容指導法（健康）	2	選択	
保育内容指導法（人間関係）	2	選択	
保育内容指導法（環境）	2	選択	
保育内容指導法（言葉）	2	選択	
保育内容指導法（表現）	2	選択	
国語科指導法	2	選択	
社会科指導法	2	選択	
算数科指導法	2	選択	
理科指導法	2	選択	
生活科指導法	2	選択	
音楽科指導法	2	選択	
家庭科指導法	2	選択	
図工科指導法	2	選択	
体育科指導法	2	選択	
外国語（英語）指導法	2	選択	
日本史各論 A	2	選択	
日本史各論 B	2	選択	
外国史概論	2	選択	
外国史各論 A	2	選択	
外国史各論 B	2	選択	
西洋文化史	2	選択	
東洋文化史	2	選択	
地理学概論	2	選択	
観光地誌論	2	選択	
政治学（国際政治を含む。）	2	選択	
西洋哲学思想史	2	選択	
東洋思想史	2	選択	
地球科学	2	選択	
宇宙科学	2	選択	
体育実技（水泳）	1	選択	
体育実技（ダンス）	1	選択	
体育実技（球技 A）	1	選択	
体育原理	2	選択	
体育社会学	2	選択	
体育測定評価	2	選択	
生理学（運動生理学を含む。）	2	選択	
衛生学	2	選択	
公衆衛生学	2	選択	
学校保健	2	選択	
保健体育科指導法 I	2	選択	
保健体育科指導法 II	2	選択	
博物館概論	2	選択	
博物館資料論	2	選択	
博物館教育論	2	選択	
現代教育研究 I	2	必修	
現代教育研究 II	2	必修	

教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
特別支援教育	1	必修	
臨床心理学	2	選択	
日本の伝統文化と歴史	2	選択	
日本と外国の歴史	2	選択	
歴史資料情報論	2	選択	
人文地理学	2	選択	
自然地理学	2	選択	
地理情報論	2	選択	
地誌学概論	2	選択	
世界の教育と文化環境	2	選択	
現代社会の教育課題	2	選択	
I C T 利活用の授業実践	2	選択	
法律学（国際法を含む。）	2	選択	
社会科・公民科指導法Ⅰ	2	選択	
社会科・公民科指導法Ⅱ	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	選択	
保健体育科指導法Ⅲ	2	選択	
保健体育科指導法Ⅳ	2	選択	
運動部活動の指導法	2	選択	
体育実技（球技 B）	1	選択	
体育実技（武道）	1	選択	
体育心理学	2	選択	
体育経営管理学	2	選択	
運動学（運動方法学を含む。）	2	選択	
栄養学	2	選択	
病理学	2	選択	
教育実習（幼稚園）	5	選択	
教育実習（小学校）	5	選択	
教育実習（中学校）	5	選択	
教育実習（高等学校）	3	選択	
教育実習（副・幼稚園）	3	選択	
教育実習（副・小学校）	3	選択	
教育実習（副・中学校）	3	選択	
学習指導と学校図書館	2	選択	
卒業課題研究Ⅰ	2	必修	
卒業課題研究Ⅱ	2	必修	
教職実践演習（幼）	2	選択	
教職実践演習（小）	2	選択	
教職実践演習（中・高）	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

教育学科（幼稚園教育コース）

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
幼稚園 教育コース 科目	教育学概論	2	必修
	教職概論	2	必修
	教育の制度と経営	2	必修
	教育の方法と技術	2	必修
	保育内容総論	2	必修
	教育哲学	2	選択
	教育心理学	2	選択
	教育方法学	2	選択
	教育社会学	2	選択
	発達心理学	2	選択
	生涯学習概論	2	選択
	国語	2	選択
	算数	2	選択
	音楽	2	選択
	図工	2	選択
	体育（幼・小）	2	選択
	教育インターンシップ（幼） A	2	選択
	教育インターンシップ（幼） B	2	選択
	教育インターンシップ（幼） C	1	選択
	教育インターンシップ（幼） D	1	選択
2 年次	教育原理	2	必修
	学習・発達論	2	必修
	幼児理解と教育相談	2	必修
	幼児教育課程論	2	必修
	幼児指導論	2	必修
	保育内容指導法（健康）	2	必修
	保育内容指導法（人間関係）	2	必修
	保育内容指導法（環境）	2	必修
	保育内容指導法（言葉）	2	必修
	保育内容指導法（表現）	2	必修
3 年次	特別支援教育	1	必修
	教育実習（幼稚園）	5	必修
	教育実習（副・幼稚園）	3	必修
	道德教育の理論と方法	2	選択
4年次	教職実践演習（幼）	2	必修
小計(35科目)		71	

幼稚園の「領域及び保育の指導法に関する科目」

幼稚園の「教育の基礎的理解に関する科目」

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
幼稚園 教育コース 以外の 科目	理科	2	選択
	社会	2	選択
	家庭	2	選択
	生活	2	選択
	外国語（英語）	2	選択
	文化人類学	2	選択
	民俗学入門	2	選択
	社会学	2	選択
	経済学（国際経済を含む。）	2	選択
	ボランティア概論	2	選択
	比較文化論	2	選択
	世界の宗教と文化	2	選択
	市民社会と法	2	選択
	日本史概論	2	選択
	体育実技（体操）	1	選択
	体育実技（陸上）	1	選択
	体育実技（スキー）	1	選択
	図書館情報資源概論	2	選択
	図書館情報資源特論	1	選択
2 年次	全人教育実践演習 A	2	必修
	全人教育実践演習 B	2	必修
	総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択
	特別活動の理論と方法	1	選択
	国語科指導法	2	選択
	社会科指導法	2	選択
	算数科指導法	2	選択
	理科指導法	2	選択
	生活科指導法	2	選択
	音楽科指導法	2	選択
	家庭科指導法	2	選択
	図工科指導法	2	選択
	体育科指導法	2	選択
	外国語（英語）指導法	2	選択
	日本史各論 A	2	選択
	日本史各論 B	2	選択
	外国史概論	2	選択
	外国史各論A	2	選択
	外国史各論B	2	選択
	西洋文化史	2	選択
	東洋文化史	2	選択
	地理学概論	2	選択

● 小学校 □地理歴史 ▼保健体育

◆ 社会 ▲公民

教育学科（幼稚園教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
幼稚園 教育コース 以外の 科目	2 年次	観光地誌論 □	2	選択
		政治学（国際政治を含む。） ◆▲	2	選択
		西洋哲学思想史 ◆▲	2	選択
		東洋思想史 ◆▲	2	選択
		地球科学 □	2	選択
		宇宙科学 □	2	選択
		体育実技（水泳） ▼	1	選択
		体育実技（ダンス） ▼	1	選択
		体育実技（球技 A） ▼	1	選択
		体育原理 ▼	2	選択
		体育社会学 ▼	2	選択
		体育測定評価	2	選択
		生理学（運動生理学を含む。） ▼	2	選択
		衛生学 ▼	2	選択
		公衆衛生学 ▼	2	選択
		学校保健 ▼	2	選択
		保健体育科指導法 I ▼	2	選択
		保健体育科指導法 II ▼	2	選択
		博物館概論 □	2	選択
		博物館資料論 □	2	選択
		博物館教育論 □	2	選択
	3 年次	現代教育研究 I	2	必修
		現代教育研究 II	2	必修
		教育課程編成論 ●◆▼▲□	2	選択
		生徒・進路指導の理論と方法 ●◆▼▲□	2	選択
		教育相談の理論と方法 ●◆▼▲□	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		日本の伝統文化と歴史 □	2	選択
		日本と外国の歴史 ◆□	2	選択
		歴史資料情報論 □	2	選択
		人文地理学 □	2	選択
		自然地理学 □	2	選択
		地理情報論 □	2	選択
		地誌学概論 ◆□	2	選択
		世界の教育と文化環境 □	2	選択
		現代社会の教育課題	2	選択
		I C T 利活用の授業実践	2	選択
		法律学（国際法を含む。） ◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 I ◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 II ◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 I ◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 II ◆□	2	選択
		保健体育科指導法 III ▼	2	選択
		保健体育科指導法 IV ▼	2	選択

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
幼稚園 教育コース 以外の 科目	3 年次	運動部活動の指導法 ▼	2	選択
		体育実技（球技 B） ▼	1	選択
		体育実技（武道） ▼	1	選択
		体育心理学 ▼	2	選択
		体育経営管理学 ▼	2	選択
		運動学（運動方法学を含む。） ▼	2	選択
		栄養学 ▼	2	選択
		病理学 ▼	2	選択
		教育実習（小学校） ●	5	—
		教育実習（中学校） ◆▼	5	—
		教育実習（高等学校） ▼▲□	3	—
		教育実習（副・小学校） ●	3	—
		教育実習（副・中学校） ◆▼	3	—
		学習指導と学校図書館 □	2	選択
	4 年次	卒業課題研究 I	2	必修
		卒業課題研究 II	2	必修
		教職実践演習（小） ●	2	—
		教職実践演習（中・高） ◆▼▲□	2	—
	小計(103科目)		204	

- 小学校
◆ 社会
▲ 公民
▼ 保健体育
□ 地理歴史

教育学科（小学校教育コース）

小学校教育コース科目	開設 年次	授業科目名	単位	履修 条件
	1 年 次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		国語	2	選択
		算数	2	選択
		理科	2	選択
		社会	2	選択
		家庭	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		体育（幼・小）	2	選択
	外国語（英語）	2	選択	
	2 年 次	教育原理	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		国語科指導法	2	必修
		社会科指導法	2	必修
		算数科指導法	2	必修
		理科指導法	2	必修
		生活科指導法	2	必修
		音楽科指導法	2	必修
		家庭科指導法	2	必修
		図工科指導法	2	必修
		体育科指導法	2	必修
外国語（英語）指導法		2	必修	
3 年 次	教育課程編成論	2	必修	
	道徳教育の理論と方法	2	必修	
	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修	

小学校教育コースの科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	3年次	教育相談の理論と方法	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		教育実習（小学校）	5	必修
		教育実習（副・小学校）	3	必修
	4年次	現代社会の教育課題	2	選択
		教職実践演習（小）	2	必修
	小計(43科目)		87	

小学校教育コース以外の科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	保育内容総論	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼） A	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼） B	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼） C	★	1 選択
		教育インターンシップ（幼） D	★	1 選択
		文化人類学	□	2 選択
		民俗学入門	◆□	2 選択
		社会学	◆▲	2 選択
		経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2 選択
		ボランティア概論	◆▲	2 選択
		比較文化論	□	2 選択
		世界の宗教と文化	□	2 選択
		市民社会と法	□	2 選択
		日本史概論	◆□	2 選択
		体育実技（体操）	▼	1 選択
		体育実技（陸上）	▼	1 選択
		体育実技（スキー）	▼	1 選択
		図書館情報資源概論	□	2 選択
		図書館情報資源特論	□	1 選択
	2年次	全人教育実践演習 A		2 必修
		全人教育実践演習 B		2 必修
		幼児理解と教育相談	★	2 選択
		幼児教育課程論	★	2 選択
		幼児指導論	★	2 選択
		保育内容指導法（健康）	★	2 選択

 小学校の「教科及び教科の指導法に関する科目」
 小学校の「教育の基礎的理解に関する科目」

★ 幼稚園 ◆ 社会 ▲ 公民
 ▼ 保健体育 □ 地理歴史

教育学科（小学校教育コース）

小学校教育コース以外の科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件	小学校教育コース以外の科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件			
	2年次	保育内容指導法（人間関係）	★	2		選択	3年次	自然地理学	□	2	選択	
		保育内容指導法（環境）	★	2		選択		地理情報論	□	2	選択	
		保育内容指導法（言葉）	★	2		選択		地誌学概論	◆□	2	選択	
		保育内容指導法（表現）	★	2		選択		世界の教育と文化環境	□	2	選択	
		日本史各論 A	□	2		選択		I C T利活用の授業実践		2	選択	
		日本史各論 B	□	2		選択		法律学（国際法を含む。）	◆▲	2	選択	
		外国史概論	◆□	2		選択		社会科・公民科指導法 I	◆▲	2	選択	
		外国史各論 A	□	2		選択		社会科・公民科指導法 II	◆▲	2	選択	
		外国史各論 B	□	2		選択		社会科・地理歴史科指導法 I	◆□	2	選択	
		西洋文化史	□	2		選択		社会科・地理歴史科指導法 II	◆□	2	選択	
		東洋文化史	□	2		選択		保健体育科指導法 III	▼	2	選択	
		地理学概論	◆□	2		選択		保健体育科指導法 IV	▼	2	選択	
		観光地誌論	□	2		選択		運動部活動の指導法	▼	2	選択	
		政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2		選択		体育実技（球技 B）	▼	1	選択	
		西洋哲学思想史	◆▲	2		選択		体育実技（武道）	▼	1	選択	
		東洋思想史	◆▲	2		選択		体育心理学	▼	2	選択	
		地球科学	□	2		選択		体育経営管理学	▼	2	選択	
		宇宙科学	□	2		選択		運動学（運動方法学を含む。）	▼	2	選択	
		体育実技（水泳）	▼	1		選択		栄養学	▼	2	選択	
		体育実技（ダンス）	▼	1		選択		病理学	▼	2	選択	
		体育実技（球技 A）	▼	1		選択		教育実習（幼稚園）	★	5	—	
		体育原理	▼	2		選択		教育実習（中学校）	◆▼	5	—	
		体育社会学	▼	2		選択		教育実習（高等学校）	▼▲□	3	—	
		体育測定評価		2		選択		教育実習（副・幼稚園）	★	3	—	
		生理学（運動生理学を含む。）	▼	2		選択		教育実習（副・中学校）	◆▼	3	—	
		衛生学	▼	2		選択		学習指導と学校図書館	□	2	選択	
		公衆衛生学	▼	2		選択		4年次	卒業課題研究 I		2	必修
		学校保健	▼	2		選択			卒業課題研究 II		2	必修
	保健体育科指導法 I	▼	2	選択		教職実践演習（幼）	★		2	—		
	保健体育科指導法 II	▼	2	選択		教職実践演習（中・高）	◆▼▲□		2	—		
博物館概論	□	2	選択	小計(95科目)				188				
博物館資料論	□	2	選択									
博物館教育論	□	2	選択									
3年次	現代教育研究 I		2	必修	★ 幼稚園							
	現代教育研究 II		2	必修	◆ 社会							
	臨床心理学		2	選択	▲ 公民							
	日本の伝統文化と歴史	□	2	選択	▼ 保健体育							
	日本と外国の歴史	◆□	2	選択	□ 地理歴史							
	歴史資料情報論	□	2	選択								
	人文地理学	□	2	選択								

★ 幼稚園

◆ 社会

▲ 公民

▼ 保健体育

□ 地理歴史

教育学科 中（社会科教育コース）

社会科教育コース科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		日本史概論	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		民俗学入門	2	選択
		社会学	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
	2年次	教育原理	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		外国史概論	2	必修
		地理学概論	2	必修
		政治学（国際政治を含む。）	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
		東洋思想史	2	選択
	3年次	教育課程編成論	2	必修
		道德教育の理論と方法	2	必修
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		地誌学概論	2	必修
		日本と外国の歴史	2	必修
		社会科・公民科指導法Ⅰ	2	必修
		社会科・公民科指導法Ⅱ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	必修
		教育実習（中学校）	5	必修
		教育実習（副・中学校）	3	必修

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」

社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

開設年次	授業科目名	単位	履修条件
3年次	現代社会の教育課題	2	選択
	法律学（国際法を含む。）	2	選択
4年次	教職実践演習（中・高）	2	必修
小計（40科目）		81	

開設年次	授業科目名	単位	履修条件
1年次	国語	★●	2 選択
	算数	★●	2 選択
	理科	●	2 選択
	社会	●	2 選択
	家庭	●	2 選択
	生活	★●	2 選択
	音楽	★●	2 選択
	図工	★●	2 選択
	体育（幼・小）	★●	2 選択
	外国語（英語）	●	2 選択
	保育内容総論	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）A	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）B	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）C	★	1 選択
	教育インターンシップ（幼）D	★	1 選択
	文化人類学	□	2 選択
	比較文化論	□	2 選択
	世界の宗教と文化	□	2 選択
	市民社会と法	□	2 選択
	体育実技（体操）	▼	1 選択
	体育実技（陸上）	▼	1 選択
	体育実技（スキー）	▼	1 選択
	図書館情報資源概論	□	2 選択
	図書館情報資源特論	□	1 選択
2年次	全人教育実践演習 A		2 必修
	全人教育実践演習 B		2 必修
	幼児理解と教育相談	★	2 選択
	幼児教育課程論	★	2 選択
	幼児指導論	★	2 選択
	保育内容指導法（健康）	★	2 選択

★ 幼稚園 ▼保健体育 ▲公民

● 小学校 □地理歴史

教育学科 中（社会科教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
社会科教育コース以外の科目	2 年次	保育内容指導法（人間関係）★	2	選択
		保育内容指導法（環境）★	2	選択
		保育内容指導法（言葉）★	2	選択
		保育内容指導法（表現）★	2	選択
		国語科指導法●	2	選択
		社会科指導法●	2	選択
		算数科指導法●	2	選択
		理科指導法●	2	選択
		生活科指導法●	2	選択
		音楽科指導法●	2	選択
		家庭科指導法●	2	選択
		図工科指導法●	2	選択
		体育科指導法●	2	選択
		外国語（英語）指導法●	2	選択
		日本史各論 A□	2	選択
		日本史各論 B□	2	選択
		外国史各論 A□	2	選択
		外国史各論 B□	2	選択
		西洋文化史□	2	選択
		東洋文化史□	2	選択
		観光地誌論□	2	選択
		地球科学□	2	選択
		宇宙科学□	2	選択
		体育実技（水泳）▼	1	選択
		体育実技（ダンス）▼	1	選択
		体育実技（球技 A）▼	1	選択
		体育原理▼	2	選択
		体育社会学▼	2	選択
		体育測定評価	2	選択
		生理学（運動生理学を含む。）▼	2	選択
		衛生学▼	2	選択
		公衆衛生学▼	2	選択
		学校保健▼	2	選択
		保健体育科指導法 I▼	2	選択
		保健体育科指導法 II▼	2	選択
		博物館概論□	2	選択
		博物館資料論□	2	選択
		博物館教育論□	2	選択

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
社会科教育コース以外の科目	3 年次	現代教育研究 I	2	必修
		現代教育研究 II	2	必修
		地理情報論□	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		日本の伝統文化と歴史□	2	選択
		歴史資料情報論□	2	選択
		人文地理学□	2	選択
		自然地理学□	2	選択
		世界の教育と文化環境□	2	選択
		I C T利活用の授業実践	2	選択
		保健体育科指導法 III▼	2	選択
		保健体育科指導法 IV▼	2	選択
		運動部活動の指導法▼	2	選択
		体育実技（球技 B）▼	1	選択
		体育実技（武道）▼	1	選択
		体育心理学▼	2	選択
		体育経営管理学▼	2	選択
		運動学（運動方法学を含む。）▼	2	選択
		栄養学▼	2	選択
		病理学▼	2	選択
		教育実習（幼稚園）★	5	—
		教育実習（小学校）●	5	—
		教育実習（高等学校）▼▲□	3	—
		教育実習（副・幼稚園）★	3	—
		教育実習（副・小学校）●	3	—
		学習指導と学校図書館□	2	選択
	4 年次	卒業課題研究 I	2	必修
		卒業課題研究 II	2	必修
		教職実践演習（幼）★	2	—
		教職実践演習（小）●	2	—
	小計(98科目)		194	

★ 幼稚園 ▼保健体育 ▲公民

● 小学校 □地理歴史

教育学科 中高（保健体育教育コース）

保健体育教育コース科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		体育実技（体操）	1	必修
		体育実技（陸上）	1	必修
		体育実技（スキー）	1	必修
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
	2年次	教育原理	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		体育実技（水泳）	1	必修
		体育実技（ダンス）	1	必修
		体育実技（球技 A）	1	必修
		生理学（運動生理学を含む。）	2	必修
		衛生学	2	必修
		公衆衛生学	2	必修
		学校保健	2	必修
		保健体育科指導法 I	2	必修
		保健体育科指導法 II	2	必修
		体育原理	2	選択
		体育社会学	2	選択
	3年次	教育課程編成論	2	必修
		道德教育の理論と方法	2	必修
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		保健体育科指導法 III	2	必修
		保健体育科指導法 IV	2	必修
		体育実技（球技 B）	1	必修
		体育実技（武道）	1	必修
		運動学（運動方法学を含む。）	2	必修
		教育実習（中学校）	5	必修
		教育実習（高等学校）	3	必修

保健体育教育コースの科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	3年次	教育実習（副・中学校）	3	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
		運動部活動の指導法	2	選択
		体育心理学	2	選択
		体育経営管理学	2	選択
		栄養学	2	選択
		病理学	2	選択
		教職実践演習（中・高）	2	必修
	4年次	小計(48科目)	90	選択

保健体育教育コース以外の科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	国語	★●	2 選択
		算数	★●	2 選択
		理科	●	2 選択
		社会	●	2 選択
		家庭	●	2 選択
		生活	★●	2 選択
		音楽	★●	2 選択
		図工	★●	2 選択
		体育（幼・小）	★●	2 選択
		外国語（英語）	●	2 選択
		保育内容総論	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼）A	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼）B	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼）C	★	1 選択
		教育インターンシップ（幼）D	★	1 選択
		文化人類学	□	2 選択
		民俗学入門	◆□	2 選択
		社会学	◆▲	2 選択
		経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2 選択
		ボランティア概論	◆▲	2 選択
		比較文化論	□	2 選択
		世界の宗教と文化	□	2 選択
		市民社会と法	□	2 選択
		日本史概論	◆□	2 選択
		図書館情報資源概論	□	2 選択
		図書館情報資源特論	□	1 選択

保健体育の「教科及び教科の指導法に関する科目」

保健体育の「教育の基礎的理解に関する科目等」

★ 幼稚園 ◆社会 ▲公民

● 小学校 □地理歴史

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件	
保健体育教育コース以外の科目	3 年 次	日本と外国の歴史	◆□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		地誌学概論	◆□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		I C T利活用の授業実践		2	選択
		法学学（国際法を含む。）	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅰ	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅱ	◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	◆□	2	選択
		教育実習（幼稚園）	★	5	—
	教育実習（小学校）	●	5	—	
	教育実習（副・幼稚園）	★	3	—	
	教育実習（副・小学校）	●	3	—	
	学習指導と学校図書館	□	2	選択	
	4 年 次	卒業課題研究Ⅰ		2	必修
		卒業課題研究Ⅱ		2	必修
教職実践演習（幼）		★	2	—	
教職実践演習（小）		●	2	—	
		小計(90科目)	185		

● 小学校 □ 地理歴史

教育学科 高（地理歴史教育コース）

地理歴史教育コースの科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	1年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		日本史概論	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		民俗学入門	2	選択
	2年次	教育原理	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		外国史概論	2	必修
		地理学概論	2	必修
		日本史各論 A	2	選択
		日本史各論 B	2	選択
		外国史各論 A	2	選択
		外国史各論 B	2	選択
		西洋文化史	2	選択
		東洋文化史	2	選択
		観光地誌論	2	選択
	3年次	教育課程編成論	2	必修
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		日本の伝統文化と歴史	2	必修
		日本と外国の歴史	2	必修
		歴史資料情報論	2	必修
		地理情報論	2	必修
		地誌学概論	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	必修
		教育実習（高等学校）	3	必修
		道徳教育の理論と方法	2	選択
		人文地理学	2	選択
		自然地理学	2	選択
		現代社会の教育課題	2	選択
	4年次	教職実践演習（中・高）	2	必修
	小計（42科目）		82	

開設年次	授業科目名	単位	履修条件
1年次	文化人類学	2	選択
	比較文化論	2	選択
	世界の宗教と文化	2	選択
	市民社会と法	2	選択
	図書館情報資源概論	2	選択
	図書館情報資源特論	1	選択
2年次	地球科学	2	選択
	宇宙科学	2	選択
	博物館概論	2	選択
	博物館資料論	2	選択
	博物館教育論	2	選択
3年次	世界の教育と文化環境	2	選択
	学習指導と学校図書館	2	選択
小計(13科目)		25	

開設年次	授業科目名	単位	履修条件
1年次	国語	★●	2 選択
	算数	★●	2 選択
	理科	●	2 選択
	社会	●	2 選択
	家庭	●	2 選択
	生活	★●	2 選択
	音楽	★●	2 選択
	図工	★●	2 選択
	体育（幼・小）	★●	2 選択
	外国語（英語）	●	2 選択
	保育内容総論	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）A	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）B	★	2 選択
	教育インターンシップ（幼）C	★	1 選択
	教育インターンシップ（幼）D	★	1 選択
	社会学	◆▲	2 選択
	経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2 選択
	ボランティア概論	◆▲	2 選択
	体育実技（体操）	▼	1 選択
	体育実技（陸上）	▼	1 選択
	体育実技（スキー）	▼	1 選択
2年次	全人教育実践演習 A		2 必修
	全人教育実践演習 B		2 必修
	幼児理解と教育相談	★	2 選択
	幼児教育課程論	★	2 選択
	幼児指導論	★	2 選択
	保育内容指導法（健康）	★	2 選択
	保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択

地理歴史の「教科及び教科の指導法に関する科目」

地理歴史の「教育の基礎的理解に関する科目等」

★ 幼稚園 ● 小学校 ◆ 社会

▲ 公民 ▼ 保健体育

教育学科 高（地理歴史教育コース）

地理歴史教育コース以外の科目	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件	
	2 年 次	保育内容指導法（環境）	★	2	選択
		保育内容指導法（言葉）	★	2	選択
		保育内容指導法（表現）	★	2	選択
		国語科指導法	●	2	選択
		社会科指導法	●	2	選択
		算数科指導法	●	2	選択
		理科指導法	●	2	選択
		生活科指導法	●	2	選択
		音楽科指導法	●	2	選択
		家庭科指導法	●	2	選択
		図工科指導法	●	2	選択
		体育科指導法	●	2	選択
		外国語（英語）指導法	●	2	選択
		政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2	選択
		西洋哲学思想史	◆▲	2	選択
		東洋思想史	◆▲	2	選択
		体育実技（水泳）	▼	1	選択
		体育実技（ダンス）	▼	1	選択
		体育実技（球技 A）	▼	1	選択
		体育原理	▼	2	選択
		体育社会学	▼	2	選択
		体育測定評価		2	選択
		生理学（運動生理学を含む。）	▼	2	選択
	衛生学	▼	2	選択	
	公衆衛生学	▼	2	選択	
	学校保健	▼	2	選択	
保健体育科指導法Ⅰ	▼	2	選択		
保健体育科指導法Ⅱ	▼	2	選択		
3 年 次	現代教育研究Ⅰ		2	必修	
	現代教育研究Ⅱ		2	必修	
	臨床心理学		2	選択	
	ICT利活用の授業実践		2	選択	
	法律学（国際法を含む。）	◆▲	2	選択	
	社会科・公民科指導法Ⅰ	◆▲	2	選択	
	社会科・公民科指導法Ⅱ	◆▲	2	選択	
	保健体育科指導法Ⅲ	▼	2	選択	
	保健体育科指導法Ⅳ	▼	2	選択	
	運動部活動の指導法	▼	2	選択	
	体育実技（球技 B）	▼	1	選択	
	体育実技（武道）	▼	1	選択	
	体育心理学	▼	2	選択	
	体育経営管理学	▼	2	選択	

地理歴史教育コース以外の科目

地理歴史教育コース以外の科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件	
	3年次	運動学（運動方法学を含む。）	▼	2	選択
		栄養学	▼	2	選択
		病理学	▼	2	選択
		教育実習（幼稚園）	★	5	—
		教育実習（小学校）	●	5	—
		教育実習（中学校）	◆▼	5	—
		教育実習（副・幼稚園）	★	3	—
		教育実習（副・小学校）	●	3	—
	4年次	教育実習（副・中学校）	◆▼	3	—
卒業課題研究Ⅰ			2	必修	
卒業課題研究Ⅱ			2	必修	
教職実践演習（幼）		★	2	—	
	教職実践演習（小）	●	2	—	
	小計(83科目)		168		

★ 幼稚園 ● 小学校 ◆ 社会
▲ 公民 ▼ 保健体育

教育学科 高（公民教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
公民教育コース科目	1 年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		社会学	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
	2 年次	教育原理	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		政治学（国際政治を含む。）	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
		東洋思想史	2	選択
	3 年次	教育課程編成論	2	必修
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		社会科・公民科指導法Ⅰ	2	必修
		社会科・公民科指導法Ⅱ	2	必修
		教育実習（高等学校）	3	必修
		道德教育の理論と方法	2	選択
		現代社会の教育課題	2	選択
		法律学（国際法を含む。）	2	選択
	4年次	教職実践演習（中・高）	2	必修
	小計(31科目)		60	

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」

社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
公民教育コース以外の科目	1 年次	国語	★●	2 選択
		算数	★●	2 選択
		理科	●	2 選択
		社会	●	2 選択
		家庭	●	2 選択
		生活	★●	2 選択
		音楽	★●	2 選択
		図工	★●	2 選択
		体育（幼・小）	★●	2 選択
		外国語（英語）	●	2 選択
		保育内容総論	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼）A	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼）B	★	2 選択
		教育インターンシップ（幼）C	★	1 選択
		教育インターンシップ（幼）D	★	1 選択
		文化人類学	□	2 選択
		民俗学入門	□	2 選択
		比較文化論	□	2 選択
		世界の宗教と文化	□	2 選択
		市民社会と法	□	2 選択
	2 年次	日本史概論	◆□	2 選択
		体育実技（体操）	▼	1 選択
		体育実技（陸上）	▼	1 選択
		体育実技（スキー）	▼	1 選択
		図書館情報資源概論	□	2 選択
		図書館情報資源特論	□	1 選択
		全人教育実践演習 A		2 必修
		全人教育実践演習 B		2 必修
		幼児理解と教育相談	★	2 選択
		幼児教育課程論	★	2 選択
		幼児指導論	★	2 選択
		保育内容指導法（健康）	★	2 選択
		保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択
		保育内容指導法（環境）	★	2 選択
		保育内容指導法（言葉）	★	2 選択
		保育内容指導法（表現）	★	2 選択
		国語科指導法	●	2 選択
		社会科指導法	●	2 選択
		算数科指導法	●	2 選択
		理科指導法	●	2 選択
		生活科指導法	●	2 選択
		音楽科指導法	●	2 選択
		家庭科指導法	●	2 選択
		図工科指導法	●	2 選択
		体育科指導法	●	2 選択

★ 幼稚園 ● 小学校 ◆ 社会

▼ 保健体育 □ 地理歴史

教育学科 高（公民教育コース）

公民教育コース以外の科目	開設 年次	授 業 科 目 名		単 位	履 修 条 件
	2 年 次	外国語（英語）指導法	●	2	選択
		日本史各論 A	□	2	選択
		日本史各論 B	□	2	選択
		外国史概論	◆□	2	選択
		外国史各論 A	□	2	選択
		外国史各論 B	□	2	選択
		西洋文化史	□	2	選択
		東洋文化史	□	2	選択
		地理学概論	◆□	2	選択
		観光地誌論	□	2	選択
		地球科学	□	2	選択
		宇宙科学	□	2	選択
		体育実技（水泳）	▼	1	選択
		体育実技（ダンス）	▼	1	選択
		体育実技（球技 A）	▼	1	選択
		体育原理	▼	2	選択
		体育社会学	▼	2	選択
		体育測定評価		2	選択
		生理学（運動生理学を含む。）	▼	2	選択
		衛生学	▼	2	選択
	公衆衛生学	▼	2	選択	
	学校保健	▼	2	選択	
	保健体育科指導法Ⅰ	▼	2	選択	
	保健体育科指導法Ⅱ	▼	2	選択	
	博物館概論	□	2	選択	
	博物館資料論	□	2	選択	
博物館教育論	□	2	選択		
3 年 次	現代教育研究Ⅰ		2	必修	
	現代教育研究Ⅱ		2	必修	
	臨床心理学		2	選択	
	日本の伝統文化と歴史	□	2	選択	
	日本と外国の歴史	◆□	2	選択	
	歴史資料情報論	□	2	選択	
	人文地理学	□	2	選択	
	自然地理学	□	2	選択	
	地理情報論	□	2	選択	
	地誌学概論	◆□	2	選択	
	世界の教育と文化環境	□	2	選択	
	I C T 利活用の授業実践		2	選択	
	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	◆□	2	選択	
	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	◆□	2	選択	
	保健体育科指導法Ⅲ	▼	2	選択	
	保健体育科指導法Ⅳ	▼	2	選択	
	運動部活動の指導法	▼	2	選択	
体育実技（球技 B）	▼	1	選択		

公民教育コース以外の科目

公民教育コース以外の科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件	
	3年次	体育実技（武道）	▼	1	選択
		体育心理学	▼	2	選択
		体育経営管理学	▼	2	選択
		運動学（運動方法学を含む。）	▼	2	選択
		栄養学	▼	2	選択
		病理学	▼	2	選択
		教育実習（幼稚園）	★	5	—
		教育実習（小学校）	●	5	—
		教育実習（中学校）	◆▼	5	—
		教育実習（副・幼稚園）	★	3	—
		教育実習（副・小学校）	●	3	—
	教育実習（副・中学校）	◆▼	3	—	
学習指導と学校図書館	□	2	選択		
4年次	卒業課題研究Ⅰ		2	必修	
	卒業課題研究Ⅱ		2	必修	
	教職実践演習（幼）	★	2	—	
	教職実践演習（小）	●	2	—	
小計(107科目)			215		

★ 幼稚園 ● 小学校 ◆ 社会

▼ 保健体育 □ 地理歴史

教育学科科目（教員免許取得コースを除く）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件		開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	教育学概論	2	必修		1 年次	幼児理解と教育相談	2	選択
教育学科科目（免許取得コースを除く）	1 年次	教職概論	2	必修	教育学科科目（免許取得コースを除く）	1 年次	幼児教育課程論	2	選択
		教育の制度と経営	2	選択			幼児指導論	2	選択
		教育哲学	2	選択			保育内容指導法（健康）	2	選択
		教育心理学	2	選択			保育内容指導法（人間関係）	2	選択
		教育方法学	2	選択			保育内容指導法（環境）	2	選択
		教育社会学	2	選択			保育内容指導法（言葉）	2	選択
		発達心理学	2	選択			保育内容指導法（表現）	2	選択
		生涯学習概論	2	選択			国語科指導法	2	選択
		教育の方法と技術	2	選択			社会科指導法	2	選択
		国語	2	選択			算数科指導法	2	選択
		算数	2	選択			理科指導法	2	選択
		理科	2	選択			生活科指導法	2	選択
		社会	2	選択			音楽科指導法	2	選択
		家庭	2	選択			家庭科指導法	2	選択
		生活	2	選択			図工科指導法	2	選択
		音楽	2	選択			体育科指導法	2	選択
		図工	2	選択			外国語（英語）指導法	2	選択
		体育（幼・小）	2	選択		2 年次	日本史各論 A	2	選択
		外国語（英語）	2	選択			日本史各論 B	2	選択
		保育内容総論	2	選択			外国史概論	2	選択
		教育インターンシップ（幼） A	2	選択			外国史各論 A	2	選択
		教育インターンシップ（幼） B	2	選択			外国史各論 B	2	選択
		教育インターンシップ（幼） C	1	選択			西洋文化史	2	選択
		教育インターンシップ（幼） D	1	選択			東洋文化史	2	選択
		文化人類学	2	選択			地理学概論	2	選択
		民俗学入門	2	選択			観光地誌論	2	選択
		社会学	2	選択			政治学（国際政治を含む。）	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	2	選択			西洋哲学思想史	2	選択
		ボランティア概論	2	選択			東洋思想史	2	選択
		比較文化論	2	選択			地球科学	2	選択
		世界の宗教と文化	2	選択			宇宙科学	2	選択
		市民社会と法	2	選択			体育実技（水泳）	1	選択
		日本史概論	2	選択			体育実技（ダンス）	1	選択
		体育実技（体操）	1	選択			体育実技（球技 A）	1	選択
		体育実技（陸上）	1	選択			体育原理	2	選択
		体育実技（スキー）	1	選択			体育社会学	2	選択
		図書館情報資源概論	2	選択			体育測定評価	2	選択
		図書館情報資源特論	1	選択			生理学（運動生理学を含む。）	2	選択
	2 年次	全人教育実践演習 A	2	必修			衛生学	2	選択
		全人教育実践演習 B	2	必修			公衆衛生学	2	選択
		教育原理	2	選択			学校保健	2	選択
		学習・発達論	2	選択			保健体育科指導法 I	2	選択
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択			保健体育科指導法 II	2	選択
		特別活動の理論と方法	1	選択			博物館概論	2	選択

教育学科科目（教員免許取得コースを除く）

教育学科科目 （免許取得コースを除く）	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	2年次	博物館資料論	2	選択
	2年次	博物館教育論	2	選択
3年次		現代教育研究Ⅰ	2	必修
		現代教育研究Ⅱ	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		教育課程編成論	2	選択
		道德教育の理論と方法	2	選択
		生徒・進路指導の理論と方法	2	選択
		教育相談の理論と方法	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		日本の伝統文化と歴史	2	選択
		日本と外国の歴史	2	選択
		歴史資料情報論	2	選択
		人文地理学	2	選択
		自然地理学	2	選択
		地理情報論	2	選択
		地誌学概論	2	選択
		世界の教育と文化環境	2	選択
		現代社会の教育課題	2	選択
		I C T利活用の授業実践	2	選択
		法律学（国際法を含む。）	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅰ	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅱ	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	選択
		保健体育科指導法Ⅲ	2	選択
		保健体育科指導法Ⅳ	2	選択
		運動部活動の指導法	2	選択
		体育実技（球技B）	1	選択
		体育実技（武道）	1	選択
		体育心理学	2	選択
		体育経営管理学	2	選択
		運動学（運動方法学を含む。）	2	選択
		栄養学	2	選択
		病理学	2	選択
		教育実習（幼稚園）	5	—
		教育実習（小学校）	5	—
		教育実習（中学校）	5	—
		教育実習（高等学校）	3	—
		教育実習（副・幼稚園）	3	—
		教育実習（副・小学校）	3	—
		教育実習（副・中学校）	3	—
		学習指導と学校図書館	2	選択

開設年次	授業科目名	単位	履修条件
4年次	卒業課題研究Ⅰ	2	必修
	卒業課題研究Ⅱ	2	必修
	教職実践演習（幼）	2	—
	教職実践演習（小）	2	—
	教職実践演習（中・高）	2	—
小計(138科目)		275	

別表第2-①

乳幼児発達学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教育学概論	2	必修	
保育者論	2	必修	
教育哲学	2	選択	
教育社会学	2	選択	
子どもと家庭の発達心理学	2	選択	
教育原理	2	選択	
学習・発達論	2	選択	
教育の制度と経営	2	選択	
保育内容総論	2	選択	
保育原理	2	選択	
児童学	2	選択	
社会福祉	2	選択	
子どもの保健	2	選択	
教育方法学	2	選択	
教育の方法と技術	2	選択	
国語	2	選択	
算数	2	選択	
生活	2	選択	
図工（幼）	2	選択	
教育インターンシップ（幼） A	2	選択	
教育インターンシップ（幼） B	2	選択	
教育インターンシップ（幼） C	1	選択	
教育インターンシップ（幼） D	1	選択	
保育インターンシップ A	2	選択	
保育インターンシップ B	2	選択	
保育インターンシップ C	1	選択	
保育インターンシップ D	1	選択	
全人教育実践演習 A	2	必修	
全人教育実践演習 B	2	必修	
保育の心理学	2	選択	
幼児理解と教育相談	2	選択	
幼児指導論	2	選択	
保育内容指導法（健康）	2	選択	
保育内容指導法（人間関係）	2	選択	
保育内容指導法（環境）	2	選択	
保育内容指導法（言葉）	2	選択	
保育内容指導法（表現）	2	選択	
音楽（幼）	2	選択	
体育（幼）	2	選択	
子どもの遊びと育ち	2	選択	
子ども家庭福祉	2	選択	
子どもの健康と安全	1	選択	
乳児保育 I	2	選択	
人間関係論	2	選択	
現代教育研究 I	2	必修	
現代教育研究 II	2	必修	
保育カリキュラム論	2	選択	
救急処置法	2	選択	
社会的養護	2	選択	
子どもの食と栄養	2	選択	
乳児保育 II	1	選択	
社会的養護演習	1	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
特別な支援を必要とする子どもの理解と援助 I	1	選択	
特別な支援を必要とする子どもの理解と援助 II	1	選択	
児童文化	2	選択	
保育実践論 A	2	選択	
教育実習（幼稚園1種）	5	選択	
保育実習指導 I	2	選択	
保育実習 I	4	選択	
卒業課題研究 I	2	必修	
卒業課題研究 II	2	必修	
保育・教職実践演習	2	選択	
子ども家庭支援論	2	選択	
子育て支援演習	1	選択	
子どもと家族の福祉	2	選択	
保育実践論 B	2	選択	
保育実践論 C	2	選択	
保育実習指導 II	1	選択	
保育実習指導 III	1	選択	
保育実習 II	2	選択	
保育実習 III	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2－①

音楽学科科目

授業科目の名称	単位	履修条件			卒業要件
		演奏・創作	ミュージカル	音楽教育	
芸術概論	2	必修	必修	必修	
音楽理論	2	必修	必修	必修	
ソルフェージュ I	2	必修	必修	必修	
ソルフェージュ II	2	必修	必修	選択	
アンサンブル I	2	選択	必修	選択	
アンサンブル II	2	選択	必修	選択	
音楽専門実技 I	2	必修	選択	選択	
音楽専門実技 II	2	必修	選択	選択	
器楽基礎 A	2	選択	選択	選択	
器楽基礎 B	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 A	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 B	2	選択	選択	必修	
演技・舞踊入門	2	選択	選択	選択	
演技・舞踊基礎演習	2	選択	選択	選択	
舞台技術基礎演習	2	選択	選択	選択	
上演基礎実習	4	選択	選択	選択	
鍵盤楽器基礎	2	選択	選択	必修	
和楽器指導法（管・絃・打）	2	選択	選択	必修	
音楽文化論	2	必修	選択	選択	
和声学 I	2	必修	選択	選択	
和声学 II	2	必修	選択	選択	
アンサンブル III	2	選択	選択	選択	
アンサンブル IV	2	選択	選択	選択	
第九演奏表現 A	2	選択	選択	選択	
音楽専門実技 III	2	選択	選択	選択	
音楽専門実技 IV	2	選択	選択	選択	
器楽基礎 C	2	選択	選択	選択	
器楽基礎 D	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 C	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 D	2	選択	選択	選択	
ミュージカル表現 I	4	選択	必修	選択	
ミュージカル表現 II	4	選択	必修	選択	
演劇理論	2	選択	選択	選択	
芸術と社会	2	選択	選択	選択	
音楽科指導法 I	2	選択	選択	必修	
音楽科指導法 II	2	選択	選択	必修	
創作教育法	1	選択	選択	選択	
器楽教育法 I（管・打・合奏）	2	選択	選択	必修	
日本音楽史	2	選択	選択	選択	

授業科目の名称	単位	履修条件			卒業要件
		演奏・創作	ミュージカル	音楽教育	
民族音楽概説	2	選択	選択	選択	
作家理解と作品講読	2	選択	選択	選択	
歌唱教育法（合唱）	2	選択	選択	必修	
指揮法	2	選択	選択	必修	
対位法	2	選択	選択	選択	
楽式論	2	選択	選択	選択	
西洋音楽史	2	選択	選択	選択	
現代音楽史	2	選択	選択	選択	
第九演奏表現 B	2	選択	選択	選択	
アンサンブル V	2	選択	選択	選択	
アンサンブル VI	2	選択	選択	選択	
演奏・創作 I	2	必修	選択	選択	
演奏・創作 II	2	必修	選択	選択	
文献資料講読	2	選択	選択	選択	
器楽 I	2	選択	選択	選択	
器楽 II	2	選択	選択	選択	
声楽 I	2	選択	選択	選択	
声楽 II	2	選択	選択	選択	
世界演劇・舞踊史 I	2	選択	選択	選択	
世界演劇・舞踊史 II	2	選択	選択	選択	
オーディション演習	2	選択	選択	選択	
上演実習 A	4	選択	必修	選択	
上演実習 B	4	選択	選択	選択	
劇場接遇演習（ゲストリレーション）	2	選択	選択	選択	
音楽科指導法 III	2	選択	選択	必修	
音楽科指導法 IV	2	選択	選択	必修	
器楽教育法 II（リコーダー・弦楽器）	2	選択	選択	選択	
鑑賞教育理論（音楽）	2	選択	選択	選択	
伴奏法	2	選択	選択	選択	
歌曲伴奏法	2	選択	選択	選択	
作曲法 I	2	必修	選択	必修	
作曲法 II	2	必修	選択	選択	
器楽 III	2	選択	選択	選択	
器楽 IV	2	選択	選択	選択	
声楽 III	2	選択	選択	選択	
声楽 IV	2	選択	選択	選択	
アンサンブル VII	2	選択	選択	選択	
アンサンブル VIII	2	選択	選択	選択	
第九演奏表現 C	2	選択	選択	選択	
音楽教育実践法	2	選択	選択	選択	
演奏・創作 III	2	選択	選択	選択	
卒業演奏・卒業創作	2	選択	選択	選択	
卒業創作・研究 A	4	選択	必修	選択	
卒業創作・研究 B	4	選択	選択	選択	
卒業論文執筆法	2	選択	選択	選択	
卒業論文	2	選択	選択	選択	

各コース必修単位

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2－①

アート・デザイン学科科目

授業科目名称	単位	履修条件		卒業要件
		メ デ ィ ア 表 現	美 術 教 育	
芸術概論	2	必修	必修	
アート・デザイン理論基礎 I	2	必修	選択	
アート・デザイン理論基礎 II	2	必修	選択	
アート・デザイン演習基礎 A	2	選択	選択	
アート・デザイン演習基礎 B	2	選択	選択	
アート・デザイン演習基礎 C	2	必修	選択	
美術理論	2	選択	必修	
絵画基礎	2	選択	必修	
彫刻基礎	2	選択	必修	
デザイン基礎	2	選択	必修	
工芸基礎	2	選択	必修	
映像メディア表現基礎	2	選択	必修	
ドローイング	1	選択	必修	
コンピュータ音楽基礎 A	2	選択	選択	
コンピュータ音楽基礎 B	2	選択	選択	
文化立国論	2	必修	選択	
芸術コミュニケーション論	2	必修	選択	
工芸理論	2	選択	選択	
工芸史	2	選択	選択	
西洋美術史	2	選択	必修	
日本美術史	2	選択	必修	
美術科・工芸科指導法 I	2	選択	選択	
美術科・工芸科指導法 II	2	選択	選択	
デザイン史	2	選択	選択	
音楽分析技法	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 A	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 B	2	選択	選択	
絵画 I	2	選択	選択	
絵画 II	2	選択	選択	
図法・製図	2	選択	選択	
彫刻 I	2	選択	選択	
彫刻 II	2	選択	選択	
デザイン I	2	選択	選択	
デザイン II	2	選択	選択	
工芸 I	2	選択	選択	
工芸 II	2	選択	選択	
コンピュータ・グラフィックス I	2	選択	選択	
コンピュータ・グラフィックス II	2	選択	選択	
映像メディア表現 I	2	選択	選択	
映像メディア表現 II	2	選択	選択	
空間表現 I	2	選択	選択	
空間表現 II	2	選択	選択	
総合造形 I	2	選択	選択	
総合造形 II	2	選択	選択	
コンピュータ音楽 I	2	選択	選択	
コンピュータ音楽 II	2	選択	選択	

授業科目名称	単位	履修条件		卒業要件
		メ デ ィ ア 表 現	美 術 教 育	
共創芸術プロジェクト A	2	選択	選択	
共創芸術プロジェクト B	2	選択	選択	
Art and Sound Techniques	2	選択	選択	
Art and Sound Design A	2	選択	選択	
Art and Sound Design B	2	選択	選択	
タイポグラフィ基礎演習	2	選択	選択	
デジタルタイポグラフィ	2	選択	選択	
アート・デザイン研究 I	2	必修	必修	
アート・デザイン研究 II	2	必修	必修	
芸術表現学	2	選択	選択	
アート・デザイン理論研究 I	2	必修	選択	
アート・デザイン理論研究 II	2	必修	選択	
鑑賞教育理論（美術）	2	選択	必修	
デザイン理論	2	選択	選択	
美術科指導法 I	2	選択	選択	
美術科指導法 II	2	選択	選択	
アート・デザイン演習 A	2	選択	選択	
アート・デザイン演習 B	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 C	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 D	2	選択	選択	
情報デザイン I	2	選択	選択	
情報デザイン II	2	選択	選択	
アート・デザイン卒業研究 I	2	必修	必修	
アート・デザイン卒業研究 II	2	必修	必修	
東洋美術史	2	選択	選択	
アートによる社会貢献	2	必修	選択	
アート・デザイン演習 C	2	選択	選択	
アート・デザイン演習 D	2	選択	選択	
エキシビション	2	選択	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2－①

演劇・舞踊学教科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
芸術概論	2	必修	
演技・舞踊入門	2	必修	
演技・舞踊基礎演習	2	必修	
舞台技術基礎演習	2	必修	
上演基礎実習	4	必修	
日本文化芸術論	2	選択	
世界演劇・舞踊史 I	2	必修	
世界演劇・舞踊史 II	2	必修	
Performing in English	1	選択	
演技・舞踊演習 I	4	選択	
演技・舞踊演習 II	4	選択	
日本演劇・舞踊史 I	2	必修	
日本演劇・舞踊史 II	2	必修	
演劇理論	2	選択	
芸術と社会	2	選択	
所作・擬闘	2	選択	
シアターデザイン基礎演習 I	2	選択	
シアターデザイン基礎演習 II	2	選択	
メイクアップ	2	選択	
上演実習 A	4	選択	
上演実習 B	4	選択	
舞台創造演習 I	4	選択	
舞台創造演習 II	4	選択	
芸術創造演習 I	4	選択	
芸術創造演習 II	4	選択	
応用演劇演習 I	2	選択	
応用演劇演習 II	2	選択	
芸術プロジェクト A	2	選択	
芸術プロジェクト B	2	選択	
演技・舞踊演習 III	4	選択	
演技・舞踊演習 IV	4	選択	
オーディション演習	2	選択	
上演実習 C	4	選択	
上演実習 D	4	選択	
劇場接遇演習（ゲストリレーション）	2	選択	
舞台創造演習 III	4	選択	
舞台創造演習 IV	4	選択	
芸術プロジェクト C	2	選択	
芸術プロジェクト D	2	選択	
アナウンス・ナレーション研究	2	選択	
劇空間デザイン研究	2	選択	
舞台芸術研究 I	2	必修	
舞台芸術研究 II	2	必修	
芸術創造演習 III	4	選択	
芸術創造演習 IV	4	選択	
応用演劇演習 III	2	選択	
応用演劇演習 IV	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
芸術プロジェクト E	2	選択	
芸術プロジェクト F	2	選択	
卒業創作・研究 A	4	必修	
卒業創作・研究 B	4	必修	
舞台芸術研究 III	2	必修	
舞台芸術研究 IV	2	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2-①

リベラルアーツ学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
リベラルアーツ基礎	1	必修	
こどもと心の科学	2	選択	
パーソナリティ心理学	2	選択	
ブリッジ講座 A	2	必修	
ブリッジ講座 B	2	選択	
哲学の諸問題	2	選択	
倫理学の諸問題	2	選択	
宗教学の諸問題	2	選択	
社会分析基礎論	2	選択	
文学と社会	2	選択	
キリスト教思想史	2	選択	
社会心理学	2	選択	
社会調査実習 I	2	選択	
社会調査法	4	選択	
心理学研究法 I	2	選択	
心理学研究法 II	2	選択	
日本語教育概論	2	選択	
日本語教育演習	2	選択	
考現学演習	2	選択	
儀礼文化論	2	選択	
国際関係研究	2	選択	
国際貿易論	2	選択	
リベラルアーツセミナー I A	2	必修	
リベラルアーツセミナー I B	2	選択	
リベラルアーツセミナー II A	2	必修	
リベラルアーツセミナー II B	2	選択	
文献講読 A	2	選択	
文献講読 B	2	選択	
フィールドリサーチ	2	選択	
死生論	2	選択	
現代と倫理	2	選択	
心の哲学	2	選択	
哲学特殊研究	2	選択	
法哲学	2	選択	
宗教的人間研究	2	選択	
宗教的文化研究	2	選択	
青年・成人・老年期の心の科学	2	選択	
認知行動科学	2	選択	
言語心理学	2	選択	
児童文学	2	選択	
現代文学研究	2	選択	
比較文学	2	選択	
民俗芸能論	2	選択	
民俗文化研究	2	選択	
日本語指導法 I	2	選択	
日本語指導法 II	2	選択	
日本語教育実習 A	1	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
日本語教育実習 B	2	選択	
日本語教育実習 C	2	選択	
表象文化論	2	選択	
現代サブカルチャー論	2	選択	
社会学理論	2	選択	
社会調査実習 II	2	選択	
産業・組織心理学	2	選択	
国際関係事例研究 A	2	選択	
国際関係事例研究 B	2	選択	
STEMと現代社会 I	2	選択	
STEMと現代社会 II	2	選択	
リベラルアーツセミナー III	2	選択	
リベラルアーツセミナー IV	2	選択	
リベラルアーツプロジェクト	2	必修	
専門研究 A	2	選択	
専門研究 B	2	選択	
日本思想史	2	選択	
実証的社会学研究	2	選択	
健康心理学	2	選択	
犯罪心理学	2	選択	
日本語教育現場研究	2	選択	
鑑賞批評論	2	選択	
グローバル人材論	2	選択	
環境平和論	2	選択	
日本学調査実習	2	選択	
STEM文献研究	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第2－①

観光学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
観光概論	3	必修	
College English I	2	必修	
Intensive English Training A	1	選択	
観光立国論	1	必修	
観光地理学	2	選択	
観光史	2	選択	
College English II	2	必修	
Intensive English Training B	1	選択	
リサーチ・メソッド	2	必修	
College English III	2	必修	
Intensive English Training C	1	選択	
留学準備セミナー	1	必修	
観光経営学 A	2	選択	
デスティネーション・マーケティング A	2	選択	
観光社会学 A	2	選択	
観光政策論	2	選択	
国際観光論 A	2	選択	
観光経営学 B	2	選択	
デスティネーション・マーケティング B	2	選択	
観光社会学 B	2	選択	
国際観光論 B	2	選択	
English for Business Purposes I	3	選択	
English for Business Purposes II	3	選択	
English for Academic Purposes	2	選択	
English for Specific Purposes I	2	選択	
English for Specific Purposes II	2	選択	
Business Communication I	2	選択	
Business Communication II	2	選択	
Intercultural Communication	2	選択	
Intercultural Case Studies	2	選択	
Communicative Skills in English	2	選択	
Methods for Analysis	2	選択	
Tourism & Hospitality Systems	2	選択	
Management & Marketing Studies	2	選択	
観光時事講義	2	選択	
College Reading & Writing I	2	必修	
観光学ゼミナール I	2	必修	
観光開発論 A	2	選択	
観光行動論 A	2	選択	
観光文化論 A	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
航空事業論 A	2	選択	
宿泊事業論 A	2	選択	
旅行事業論 A	2	選択	
地域文化論	2	選択	
観光キャリア論	2	選択	
観光文献講読	2	選択	
観光関連法規	2	選択	
交通事業論	2	選択	
ホスピタリティ・マネジメント	2	選択	
観光開発論 B	2	選択	
観光行動論 B	2	選択	
観光文化論 B	2	選択	
航空事業論 B	2	選択	
宿泊事業論 B	2	選択	
旅行事業論 B	2	選択	
College Reading & Writing II	2	必修	
観光財務情報分析	2	選択	
異文化交流論	2	選択	
観光経済学	2	選択	
観光メディア論	2	選択	
国際協力	2	選択	
観光まちづくり関連法規	2	選択	
サービス・マーケティング	2	選択	
アート・ツーリズム	2	選択	
イベント・ツーリズム	2	選択	
エコ・ツーリズム	2	選択	
観光学ゼミナール II	2	選択	
English Communication Strategies	2	必修	
College Reading & Writing III	2	選択	
観光情報システム	2	選択	
ホスピタリティ論	2	選択	
観光学ゼミナール III	2	選択	
卒業論文	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

通信教育ユニバーシティ・スタンダード科目

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
FYE 科目群 ・ 玉川教育	一年次セミナー 101	2	必修	9 単位
	一年次セミナー 102	2	必修	
	健康教育	1	必修	
	音楽 I	1	必修	
	音楽 II	1	必修	
	全人教育論	2	必修	
人文 科学 科目群	歴史 (世界)	2	選択	16 単位 以上
	歴史 (日本)	2	選択	
	哲学	2	選択	
	倫理学	2	選択	
社会 科学 科目群	コミュニケーション論	2	選択	
	国際関係論	2	選択	
	心理学	2	選択	
自然 科学 科目群	生物学入門	2	選択	
	数学入門	2	選択	
	物理学入門	2	選択	
学際 科目群	健康スポーツ理論	2	選択	
	環境教育	2	選択	
言語 表現 科目群	ELF (通信101)	2	選択	
	ELF (通信102)	2	選択	
	日本語表現	2	選択	

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教職 関連 科目群	情報科学入門	2	選択	学科科目と合わせて 99単位以上
	日本国憲法	2	選択	
	教職 (体育実技)	1	選択	
	教職 (健康教育)	1	選択	
	精神保健	2	選択	
	生命と性の教育	2	選択	
	異文化理解と教育	2	選択	
資格 関連 科目群	学校経営と学校図書館	2	選択	
	学習指導と学校図書館	2	選択	
	学校図書館メディアの構成	2	選択	
	読書と豊かな人間性	2	選択	
	情報メディアの活用	2	選択	
	図書館概論	2	選択	
	図書館施設論	1	選択	
	図書館情報技術論	2	選択	
	図書館制度・経営論	2	選択	
	図書館サービス概論	2	選択	
	情報サービス論	2	選択	
	児童サービス論	2	選択	
	情報サービス演習 A	1	選択	
	情報サービス演習 B	1	選択	
	情報資源組織論	2	選択	
	情報資源組織演習 A	1	選択	
	情報資源組織演習 B	1	選択	
	図書・図書館史	1	選択	
	生涯学習と生涯教育	2	選択	
	社会教育経営論 A	2	選択	
	社会教育経営論 B	2	選択	
	社会教育実習	2	選択	
	社会教育課題研究	2	選択	
	生涯学習支援論 A	2	選択	
	生涯学習支援論 B	2	選択	
	視聴覚教育メディア論	2	選択	
	博物館経営論	2	選択	
	博物館資料保存論	2	選択	
	博物館展示論	2	選択	
	博物館情報・メディア論	2	選択	
	博物館実習	3	選択	
	文化史	2	選択	
	日本美術史	2	選択	
	西洋美術史	2	選択	
	考古学	2	選択	
	自然科学史	2	選択	

※履修方法の詳細については、学生要覧による。

教育学科通信教育課程科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教育学概論	2	必修	
教職概論	2	選択	
教育の制度と経営	2	選択	
教育原理	2	選択	
学習・発達論	2	選択	
教育哲学	2	選択	
教育心理学	2	選択	
教育方法学	2	選択	
教育社会学	2	選択	
発達心理学	2	選択	
生涯学習概論	2	選択	
教育の方法と技術	2	選択	
国語	2	選択	
算数	2	選択	
理科	2	選択	
社会	2	選択	
家庭	2	選択	
生活	2	選択	
音楽	2	選択	
図工	2	選択	
体育（幼・小）	2	選択	
外国語（英語）	2	選択	
保育内容総論	2	選択	
文化人類学	2	選択	
民俗学入門	2	選択	
社会学	2	選択	
経済学（国際経済を含む。）	2	選択	
ボランティア概論	2	選択	
比較文化論	2	選択	
世界の宗教と文化	2	選択	
市民社会と法	2	選択	
日本史概論	2	選択	
図書館情報資源概論	2	選択	
図書館情報資源特論	1	選択	
教育実践演習 A	2	必修	
教育実践演習 B	2	必修	
教育課程編成論	2	選択	
道德教育の理論と方法	2	選択	
総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択	
特別活動の理論と方法	1	選択	
生徒・進路指導の理論と方法	2	選択	
教育相談の理論と方法	2	選択	
幼児理解と教育相談	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
幼児教育課程論	2	選択	
幼児指導論	2	選択	
保育内容指導法（健康）	2	選択	
保育内容指導法（人間関係）	2	選択	
保育内容指導法（環境）	2	選択	
保育内容指導法（言葉）	2	選択	
保育内容指導法（表現）	2	選択	
国語科指導法	2	選択	
社会科指導法	2	選択	
算数科指導法	2	選択	
理科指導法	2	選択	
生活科指導法	2	選択	
音楽科指導法	2	選択	
家庭科指導法	2	選択	
図工科指導法	2	選択	
体育科指導法	2	選択	
外国語（英語）指導法	2	選択	
日本史各論 A	2	選択	
日本史各論 B	2	選択	
外国史概論	2	選択	
外国史各論 A	2	選択	
外国史各論 B	2	選択	
西洋文化史	2	選択	
東洋文化史	2	選択	
地理学概論	2	選択	
観光地誌論	2	選択	
政治学（国際政治を含む。）	2	選択	
西洋哲学思想史	2	選択	
東洋思想史	2	選択	
地球科学	2	選択	
宇宙科学	2	選択	
博物館概論	2	選択	
博物館資料論	2	選択	
博物館教育論	2	選択	
現代教育研究 I	2	必修	
現代教育研究 II	2	必修	
特別支援教育	1	選択	
臨床心理学	2	選択	
日本の伝統文化と歴史	2	選択	
日本と外国の歴史	2	選択	
歴史資料情報論	2	選択	
人文地理学	2	選択	
自然地理学	2	選択	

別表第2－①

教育学科通信教育課程科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
地理情報論	2	選択	
地誌学概論	2	選択	
世界の教育と文化環境	2	選択	
現代社会の教育課題	2	選択	
ICT利活用の授業実践	2	選択	
法律学（国際法を含む。）	2	選択	
社会科・公民科指導法Ⅰ	2	選択	
社会科・公民科指導法Ⅱ	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	選択	
教育実習（幼稚園）	5	選択	
教育実習（小学校）	5	選択	
教育実習（中学校）	5	選択	
教育実習（高等学校）	3	選択	
教育実習（副・幼稚園）	3	選択	
教育実習（副・小学校）	3	選択	
教育実習（副・中学校）	3	選択	
卒業課題研究	4	選択	
教職実践演習（幼）	2	選択	
教職実践演習（小）	2	選択	
教職実践演習（中・高）	2	選択	
代数学Ⅰ	2	選択	
代数学Ⅱ	2	選択	
幾何学Ⅰ	2	選択	
幾何学Ⅱ	2	選択	
解析学Ⅰ	2	選択	
解析学Ⅱ	2	選択	
解析学Ⅲ	2	選択	
確率統計学Ⅰ	2	選択	
確率統計学Ⅱ	2	選択	
コンピュータ	2	選択	
数学科指導法Ⅰ	2	選択	
数学科指導法Ⅱ	2	選択	
数学科指導法Ⅲ	2	選択	
数学科指導法Ⅳ	2	選択	

※履修方法の詳細については、学生要覧による。

教育学科通信教育課程（幼稚園教育コース）

幼稚園教育コース科目	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	教育学概論	2	必修
		教育原理	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		保育内容総論	2	必修
		生涯学習概論	2	選択
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		国語	2	選択
		算数	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
	体育（幼・小）	2	選択	
	2 年次	幼児理解と教育相談	2	必修
		幼児教育課程論	2	必修
		道德教育の理論と方法	2	選択
		幼児指導論	2	必修
		保育内容指導法（健康）	2	必修
		保育内容指導法（人間関係）	2	必修
		保育内容指導法（環境）	2	必修
		保育内容指導法（言葉）	2	必修
		保育内容指導法（表現）	2	必修
3年次	特別支援教育	1	必修	
4 年次	教育実習（幼稚園）	5	必修	
	教育実習（副・幼稚園）	3	必修	
	教職実践演習（幼）	2	必修	
小計(32科目)			67	

幼稚園の「領域及び保育の指導法に関する科目」

幼稚園の「教育の基礎的理解に関する科目」

- 小学校 □ 地理歴史
- ◆ 社会 ▲ 公民

幼稚園教育コース以外の科目	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	理科	●	2 選択
		社会	●	2 選択
		家庭	●	2 選択
		外国語（英語）	●	2 選択
		日本史概論	◆□	2 選択
		社会学	◆▲	2 選択
		経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2 選択
		民俗学入門	◆□	2 選択
		ボランティア概論	◆▲	2 選択
		文化人類学	□	2 選択
		世界の宗教と文化	□	2 選択
		市民社会と法	□	2 選択
		図書館情報資源特論	□	1 選択
		図書館情報資源概論	□	2 選択
		比較文化論	□	2 選択
		代数学Ⅰ		2 選択
		解析学Ⅰ		2 選択
		解析学Ⅱ		2 選択
	2 年次	総合的な学習の時間の理論と方法	●◆▲□	1 選択
		特別活動の理論と方法	●◆▲□	1 選択
		教育課程編成論	●◆▲□	2 選択
		生徒・進路指導の理論と方法	●◆▲□	2 選択
		教育相談の理論と方法	●◆▲□	2 選択
		国語科指導法	●	2 選択
		社会科指導法	●	2 選択
		算数科指導法	●	2 選択
		理科指導法	●	2 選択
		生活科指導法	●	2 選択
		音楽科指導法	●	2 選択
		家庭科指導法	●	2 選択
		図工科指導法	●	2 選択
		体育科指導法	●	2 選択
		外国語（英語）指導法	●	2 選択
		外国史概論	◆□	2 選択
		地理学概論	◆□	2 選択
		政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2 選択
		西洋哲学思想史	◆▲	2 選択
		東洋思想史	◆▲	2 選択
		日本史各論 A	□	2 選択
		日本史各論 B	□	2 選択
		外国史各論 A	□	2 選択
		外国史各論 B	□	2 選択
		東洋文化史	□	2 選択
		西洋文化史	□	2 選択
		観光地誌論	□	2 選択
		博物館概論	□	2 選択

教育学科通信教育課程（幼稚園教育コース）

幼稚園教育コース以外の科目	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	2年次	博物館資料論 □	2	選択
		博物館教育論 □	2	選択
		地球科学 □	2	選択
		宇宙科学 □	2	選択
		確率統計学Ⅰ	2	選択
		確率統計学Ⅱ	2	選択
		幾何学Ⅰ	2	選択
		解析学Ⅲ	2	選択
		数学科指導法Ⅰ	2	選択
		数学科指導法Ⅱ	2	選択
	3年次	現代教育研究Ⅰ	2	必修
		教育実践演習A	2	必修
		社会科・公民科指導法Ⅰ ◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅱ ◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ □◆	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ □◆	2	選択
		歴史資料情報論 □	2	選択
		地理情報論 □	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	2	選択
		地誌学概論 ◆□	2	選択
		人文地理学 □	2	選択
		自然地理学 □	2	選択
		日本の伝統文化と歴史 □	2	選択
		日本と外国の歴史 ◆□	2	選択
		世界の教育と文化環境 □	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		現代社会の教育課題	2	選択
		I C T利活用の授業実践	2	選択
		代数学Ⅱ	2	選択
		数学科指導法Ⅲ	2	選択
		数学科指導法Ⅳ	2	選択
	4年次	現代教育研究Ⅱ	2	必修
		教育実践演習B	2	必修
		教育実習（小学校） ●	5	—
		教育実習（中学校） ◆	5	—
		教育実習（高等学校） ▲□	3	—
		教育実習（副・小学校） ●	3	—
		教育実習（副・中学校） ◆	3	—
		卒業課題研究	4	選択
		教職実践演習（小） ●	2	—
		教職実践演習（中・高） ◆▲□	2	—
		幾何学Ⅱ	2	選択
		コンピュータ	2	選択
	小計(89科目)		186	

教育学科 通信教育課程（小学校教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
	1 年次	教育学概論	2	必修
小学校教育コース科目	1 年次	教育原理	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		生涯学習概論	2	選択
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		国語	2	選択
		算数	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		体育(幼・小)	2	選択
		理科	2	選択
		社会	2	選択
		家庭	2	選択
		外国語（英語）	2	選択
	2 年次	教育課程編成論	2	必修
		道徳教育の理論と方法	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		国語科指導法	2	必修
		社会科指導法	2	必修
		算数科指導法	2	必修
		理科指導法	2	必修
		生活科指導法	2	必修
		音楽科指導法	2	必修
		家庭科指導法	2	必修
		図工科指導法	2	必修
		体育科指導法	2	必修
		外国語（英語）指導法	2	必修
	3年次	特別支援教育	1	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
	4 年次	教育実習（小学校）	5	必修
		教育実習（副・小学校）	3	必修
		教職実践演習（小）	2	必修
	小計（43科目）		87	

★ 幼稚園 □地理歴史

◆ 社会 ▲公民

小学校の「教科及び教科の指導法に関する科目」

小学校の「教育の基礎的理解に関する科目」

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年次	日本史概論	◆□	2 選択
	経済学(国際経済を含む。)	◆▲	2 選択
	社会学	◆▲	2 選択
	ボランティア概論	◆▲	2 選択
	民俗学入門	◆□	2 選択
	保育内容総論	★	2 選択
	比較文化論	□	2 選択
	世界の宗教と文化	□	2 選択
	市民社会と法	□	2 選択
	図書館情報資源特論	□	1 選択
	図書館情報資源概論	□	2 選択
	文化人類学	□	2 選択
	代数学Ⅰ		2 選択
	解析学Ⅰ		2 選択
	解析学Ⅱ		2 選択
小学校教育コース以外の科目	幼児理解と教育相談	★	2 選択
	幼児教育課程論	★	2 選択
	幼児指導論	★	2 選択
	保育内容指導法（健康）	★	2 選択
	保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択
	保育内容指導法（環境）	★	2 選択
	保育内容指導法（言葉）	★	2 選択
	保育内容指導法（表現）	★	2 選択
	政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2 選択
	外国史概論	◆□	2 選択
	地理学概論	◆□	2 選択
	西洋哲学思想史	◆▲	2 選択
	東洋思想史	◆▲	2 選択
	日本史各論 A	□	2 選択
	日本史各論 B	□	2 選択
	外国史各論 A	□	2 選択
	外国史各論 B	□	2 選択
	東洋文化史	□	2 選択
	西洋文化史	□	2 選択
	観光地誌論	□	2 選択
	博物館概論	□	2 選択
	博物館資料論	□	2 選択
	博物館教育論	□	2 選択
	地球科学	□	2 選択
	宇宙科学	□	2 選択
	確率統計学Ⅰ		2 選択
	確率統計学Ⅱ		2 選択
	幾何学Ⅰ		2 選択
	解析学Ⅲ		2 選択
	数学科指導法Ⅰ		2 選択
	数学科指導法Ⅱ		2 選択

教育学科 通信教育課程（小学校教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件	
小学校 教育コース 以外の科目	3 年次	現代教育研究Ⅰ	2	必修	
		教育実践演習A	2	必修	
		日本と外国の歴史	◆□	2	選択
		地誌学概論	◆□	2	選択
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	◆▲	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅰ	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅱ	◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	◆□	2	選択
		臨床心理学		2	選択
		ICT利活用の授業実践		2	選択
		代数学Ⅱ		2	選択
	数学科指導法Ⅲ		2	選択	
	数学科指導法Ⅳ		2	選択	
	4 年次	現代教育研究Ⅱ		2	必修
		教育実践演習B		2	必修
		教育実習(幼稚園)	★	5	—
		教育実習(中学校)	◆	5	—
		教育実習(高等学校)	▲□	3	—
		教育実習(副・幼稚園)	★	3	—
		教育実習(副・中学校)	◆	3	—
		卒業課題研究		4	選択
教職実践演習(幼)		★	2	—	
教職実践演習(中・高)		◆▲□	2	—	
幾何学Ⅱ			2	選択	
コンピュータ			2	選択	
小計(78科目)			166		

教育学科 通信教育課程（社会科教育コース）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
社会科教育コース科目	1 年次	教育学概論	2	必修
		教育原理	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		生涯学習概論	2	選択
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		日本史概論	2	必修
		経済学(国際経済を含む。)	2	選択
		民俗学入門	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
		社会学	2	選択
	2 年次	教育課程編成論	2	必修
		道徳教育の理論と方法	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		外国史概論	2	必修
		地理学概論	2	必修
		政治学（国際政治を含む。)	2	選択
		東洋思想史	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
	3 年次	特別支援教育	1	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
		地誌学概論	2	必修
		日本と外国の歴史	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅰ	2	必修
		社会科・公民科指導法Ⅱ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	必修
	4 年次	教育実習（中学校）	5	必修
		教育実習（副・中学校）	3	必修
		教職実践演習（中・高）	2	必修
	小計（40科目）		81	

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」

社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

★ 幼稚園

● 小学校

▲ 公民

□ 地理歴史

	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
社会科教育コース以外の科目	1 年次	保育内容総論	★	2 選択
		国語	★●	2 選択
		算数	★●	2 選択
		理科	●	2 選択
		社会	●	2 選択
		家庭	●	2 選択
		生活	★●	2 選択
		音楽	★●	2 選択
		図工	★●	2 選択
		体育(幼・小)	★●	2 選択
		外国語（英語）	●	2 選択
		文化人類学	□	2 選択
		比較文化論	□	2 選択
		世界の宗教と文化	□	2 選択
		市民社会と法	□	2 選択
		図書館情報資源特論	□	1 選択
		図書館情報資源概論	□	2 選択
		代数学Ⅰ		2 選択
		解析学Ⅰ		2 選択
		解析学Ⅱ		2 選択
	2 年次	幼児理解と教育相談	★	2 選択
		幼児教育課程論	★	2 選択
		幼児指導論	★	2 選択
		保育内容指導法（健康）	★	2 選択
		保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択
		保育内容指導法（環境）	★	2 選択
		保育内容指導法（言葉）	★	2 選択
		保育内容指導法（表現）	★	2 選択
		国語科指導法	●	2 選択
		社会科指導法	●	2 選択
		算数科指導法	●	2 選択
		理科指導法	●	2 選択
		生活科指導法	●	2 選択
		音楽科指導法	●	2 選択
		家庭科指導法	●	2 選択
		図工科指導法	●	2 選択
		体育科指導法	●	2 選択
		外国語（英語）指導法	●	2 選択
		日本史各論 A	□	2 選択
		日本史各論 B	□	2 選択
		外国史各論 A	□	2 選択
		外国史各論 B	□	2 選択
		東洋文化史	□	2 選択
		西洋文化史	□	2 選択
		観光地誌論	□	2 選択
		博物館概論	□	2 選択
		博物館資料論	□	2 選択
		博物館教育論	□	2 選択

教育学科 通信教育課程（社会科教育コース）

社会科教育コース以外の科目	開設 年次	授業科目名	単位	履修条件	
	2 年 次	地球科学	□	2	選択
		宇宙科学	□	2	選択
		確率統計学Ⅰ		2	選択
		確率統計学Ⅱ		2	選択
		幾何学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅲ		2	選択
		数学科指導法Ⅰ		2	選択
		数学科指導法Ⅱ		2	選択
	3 年 次	現代教育研究Ⅰ		2	必修
		教育実践演習Ⅰ		2	必修
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		臨床心理学		2	選択
		ICT利活用の授業実践		2	選択
		代数学Ⅱ		2	選択
数学科指導法Ⅲ			2	選択	
数学科指導法Ⅳ		2	選択		
4 年 次	現代教育研究Ⅱ		2	必修	
	教育実践演習Ⅱ		2	必修	
	教育実習（幼稚園）	★	5	—	
	教育実習（小学校）	●	5	—	
	教育実習（高等学校）	▲□	3	—	
	教育実習（副・幼稚園）	★	3	—	
	教育実習（副・小学校）	●	3	—	
	卒業課題研究		4	選択	
	教職実践演習（幼）	★	2	—	
	教職実践演習（小）	●	2	—	
	幾何学Ⅱ		2	選択	
	コンピュータ		2	選択	
小計（81科目）			172		

社会科教育コース以外の科目

教育学科 通信教育課程（地理歴史教育コース）

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年次	教育学概論	2	必修
	教育原理	2	必修
	教職概論	2	必修
	教育の制度と経営	2	必修
	学習・発達論	2	必修
	教育の方法と技術	2	必修
	生涯学習概論	2	選択
	教育哲学	2	選択
	教育心理学	2	選択
	教育方法学	2	選択
	教育社会学	2	選択
	発達心理学	2	選択
	日本史概論	2	必修
	民俗学入門	2	選択
2 年次	教育課程編成論	2	必修
	総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
	特別活動の理論と方法	1	必修
	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
	教育相談の理論と方法	2	必修
	道德教育の理論と方法	2	選択
	外国史概論	2	必修
	地理学概論	2	必修
	日本史各論 A	2	選択
	日本史各論 B	2	選択
	外国史各論 A	2	選択
	外国史各論 B	2	選択
	東洋文化史	2	選択
	西洋文化史	2	選択
	観光地誌論	2	選択
3 年次	特別支援教育	1	必修
	現代社会の教育課題	2	選択
	日本と外国の歴史	2	必修
	歴史資料情報論	2	必修
	地理情報論	2	必修
	地誌学概論	2	必修
	日本の伝統文化と歴史	2	必修
	人文地理学	2	選択
	自然地理学	2	選択
	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	必修
	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	必修
4年次	教育実習（高等学校）	3	必修
	教職実践演習（中・高）	2	必修
小計（42科目）		82	

★幼稚園 ◆社会

●小学校 ▲公民

地理歴史の「教科及び教科の指導法に関する科目」

地理歴史の「教育の基礎的理解に関する科目等」

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年次	比較文化論	2	選択
	世界の宗教と文化	2	選択
	市民社会と法	2	選択
	文化人類学	2	選択
	図書館情報資源特論	1	選択
	図書館情報資源概論	2	選択
2 年次	地球科学	2	選択
	宇宙科学	2	選択
	博物館概論	2	選択
	博物館資料論	2	選択
	博物館教育論	2	選択
3 年次	世界の教育と文化環境	2	選択
小計（12科目）		23	

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年次	保育内容総論 ★	2	選択
	国語 ★●	2	選択
	算数 ★●	2	選択
	理科 ●	2	選択
	社会 ●	2	選択
	家庭 ●	2	選択
	生活 ★●	2	選択
	音楽 ★●	2	選択
	図工 ★●	2	選択
	体育(幼・小) ★●	2	選択
	外国語（英語） ●	2	選択
	経済学(国際経済を含む。) ◆▲	2	選択
	社会学 ◆▲	2	選択
	ボランティア概論 ◆▲	2	選択
	代数学Ⅰ	2	選択
2 年次	解析学Ⅰ	2	選択
	解析学Ⅱ	2	選択
	幼児理解と教育相談 ★	2	選択
	幼児教育課程論 ★	2	選択
	幼児指導論 ★	2	選択
	保育内容指導法（健康） ★	2	選択
	保育内容指導法（人間関係） ★	2	選択
	保育内容指導法（環境） ★	2	選択
	保育内容指導法（言葉） ★	2	選択
	保育内容指導法（表現） ★	2	選択
	国語科指導法 ●	2	選択
	社会科指導法 ●	2	選択
	算数科指導法 ●	2	選択
	理科指導法 ●	2	選択
	生活科指導法 ●	2	選択
	音楽科指導法 ●	2	選択
	家庭科指導法 ●	2	選択

教育学科 通信教育課程（地理歴史教育コース）

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
2 年 次	図工科指導法 ●	2	選択
	体育科指導法 ●	2	選択
	外国語（英語）指導法 ●	2	選択
	政治学（国際政治を含む。） ◆▲	2	選択
	西洋哲学思想史 ◆▲	2	選択
	東洋思想史 ◆▲	2	選択
	確率統計学Ⅰ	2	選択
	確率統計学Ⅱ	2	選択
	幾何学Ⅰ	2	選択
	解析学Ⅲ	2	選択
	数学科指導法Ⅰ	2	選択
	数学科指導法Ⅱ	2	選択
3 年 次	現代教育研究Ⅰ	2	必修
	教育実践演習 A	2	必修
	法律学(国際法を含む。) ◆▲	2	選択
	社会科・公民科指導法Ⅰ ◆▲	2	選択
	社会科・公民科指導法Ⅱ ◆▲	2	選択
	臨床心理学	2	選択
	I C T利活用の授業実践	2	選択
	代数学Ⅱ	2	選択
	数学科指導法Ⅲ	2	選択
	数学科指導法Ⅳ	2	選択
4 年 次	現代教育研究Ⅱ	2	必修
	教育実践演習 B	2	必修
	教育実習（幼稚園） ★	5	—
	教育実習（小学校） ●	5	—
	教育実習（中学校） ◆	5	—
	教育実習（副・幼稚園） ★	3	—
	教育実習（副・小学校） ●	3	—
	教育実習（副・中学校） ◆	3	—
	卒業課題研究	4	選択
	教職実践演習（幼） ★	2	—
	教職実践演習（小） ●	2	—
	幾何学Ⅱ	2	選択
	コンピュータ	2	選択
小計（67科目）		148	

教育学科 通信教育課程（公民教育コース）

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年 次	教育学概論	2	必修
	教育原理	2	必修
	教職概論	2	必修
	教育の制度と経営	2	必修
	学習・発達論	2	必修
	教育の方法と技術	2	必修
	生涯学習概論	2	選択
	教育哲学	2	選択
	教育心理学	2	選択
	教育方法学	2	選択
	教育社会学	2	選択
	発達心理学	2	選択
	ボランティア概論	2	選択
	社会学	2	選択
	経済学(国際経済を含む。)	2	選択
2 年 次	教育課程編成論	2	必修
	総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
	特別活動の理論と方法	1	必修
	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
	教育相談の理論と方法	2	必修
	道德教育の理論と方法	2	選択
	政治学（国際政治を含む。）	2	選択
	西洋哲学思想史	2	選択
	東洋思想史	2	選択
3 年 次	特別支援教育	1	必修
	現代社会の教育課題	2	選択
	法学(国際法を含む。)	2	選択
	社会科・公民科指導法Ⅰ	2	必修
	社会科・公民科指導法Ⅱ	2	必修
4 年 次	教育実習（高等学校）	3	必修
	教職実践演習（中・高）	2	必修
小計（31科目）		60	

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」

社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

★幼稚園 ◆社会

●小学校 □地理歴史

開設 年次	授業科目名	単位	履修条件
1 年 次	保育内容総論	★	2 選択
	国語	★●	2 選択
	算数	★●	2 選択
	理科	●	2 選択
	社会	●	2 選択
	家庭	●	2 選択
	生活	★●	2 選択
	音楽	★●	2 選択
	図工	★●	2 選択
	体育(幼・小)	★●	2 選択
	外国語（英語）	●	2 選択
	日本史概論	◆□	2 選択
	民俗学入門	◆□	2 選択
	文化人類学	□	2 選択
	比較文化論	□	2 選択
	世界の宗教と文化	□	2 選択
	市民社会と法	□	2 選択
	図書館情報資源特論	□	1 選択
	図書館情報資源概論	□	2 選択
	代数学Ⅰ		2 選択
	解析学Ⅰ		2 選択
	解析学Ⅱ		2 選択
2 年 次	幼児理解と教育相談	★	2 選択
	幼児教育課程論	★	2 選択
	幼児指導論	★	2 選択
	保育内容指導法（健康）	★	2 選択
	保育内容指導法（人間関係）	★	2 選択
	保育内容指導法（環境）	★	2 選択
	保育内容指導法（言葉）	★	2 選択
	保育内容指導法（表現）	★	2 選択
	国語科指導法	●	2 選択
	社会科指導法	●	2 選択
	算数科指導法	●	2 選択
	理科指導法	●	2 選択
	生活科指導法	●	2 選択
	音楽科指導法	●	2 選択
	家庭科指導法	●	2 選択
	図工科指導法	●	2 選択
	体育科指導法	●	2 選択
	外国語（英語）指導法	●	2 選択
	外国史概論	◆□	2 選択
	地理学概論	◆□	2 選択
	日本史各論 A	□	2 選択
	日本史各論 B	□	2 選択
	外国史各論 A	□	2 選択
	外国史各論 B	□	2 選択

教育学科 通信教育課程（公民教育コース）

開設 年次	授業科目名		単位	履修条件
2 年 次	東洋文化史	□	2	選択
	西洋文化史	□	2	選択
	観光地誌論	□	2	選択
	博物館概論	□	2	選択
	博物館資料論	□	2	選択
	博物館教育論	□	2	選択
	地球科学	□	2	選択
	宇宙科学	□	2	選択
	確率統計学Ⅰ		2	選択
	確率統計学Ⅱ		2	選択
	幾何学Ⅰ		2	選択
	解析学Ⅲ		2	選択
	数学科指導法Ⅰ		2	選択
	数学科指導法Ⅱ		2	選択
3 年 次	現代教育研究Ⅰ		2	必修
	教育実践演習 A		2	必修
	日本と外国の歴史	◆□	2	選択
	地誌学概論	◆□	2	選択
	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	◆□	2	選択
	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	◆□	2	選択
	歴史資料情報論	□	2	選択
	地理情報論	□	2	選択
	人文地理学	□	2	選択
	自然地理学	□	2	選択
	日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
	世界の教育と文化環境	□	2	選択
	臨床心理学		2	選択
	I C T利用の授業実践		2	選択
	代数学Ⅱ		2	選択
	数学科指導法Ⅲ		2	選択
	数学科指導法Ⅳ		2	選択
4 年 次	現代教育研究Ⅱ		2	必修
	教育実践演習 B		2	必修
	教育実習（幼稚園）	★	5	—
	教育実習（小学校）	●	5	—
	教育実習（中学校）	◆	5	—
	教育実習（副・幼稚園）	★	3	—
	教育実習（副・小学校）	●	3	—
	教育実習（副・中学校）	◆	3	—
	卒業課題研究		4	選択
	教職実践演習（幼）	★	2	—
	教職実践演習（小）	●	2	—
	幾何学Ⅱ		2	選択
	コンピュータ		2	選択
小計（90科目）			193	

104

教育学科通信教育課程（教員免許取得コースを除く）

	開設 年次	授業科目名	単位	履修 条件
教育学科 科目（教員 免許取得 コースを 除く）	3 年次	現代教育研究 I	2	必修
		教育実践演習 A	2	必修
		特別支援教育	1	選択
		日本の伝統文化と歴史	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	2	選択
		地誌学概論	2	選択
		歴史資料情報論	2	選択
		地理情報論	2	選択
		人文地理学	2	選択
		自然地理学	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		世界の教育と文化環境	2	選択
		日本と外国の歴史	2	選択
		現代社会の教育課題	2	選択
		I C T利活用の授業実践	2	選択
		社会科・公民科指導法 I	2	選択
		社会科・公民科指導法 II	2	選択
		社会科・地理歴史指導法 I	2	選択
		社会科・地理歴史指導法 II	2	選択
		代数学 II	2	選択
		数学科指導法 III	2	選択
		数学科指導法 IV	2	選択
	4 年次	現代教育研究 II	2	必修
		教育実践演習 B	2	必修
		教育実習 (幼稚園)	5	—
		教育実習 (小学校)	5	—
		教育実習 (中学校)	5	—
		教育実習 (高等学校)	3	—
		教育実習 (幼稚園)	3	—
		教育実習 (小学校)	3	—
		教育実習 (中学校)	3	—
		卒業課題研究	4	—
		教職実践演習 (幼)	2	—
		教職実践演習 (小)	2	—
		教職実践演習 (中・高)	2	—
		幾何学 II	2	選択
		コンピュータ	2	選択
		合計 (121科目)	253	

別表第2-②

芸術専攻科芸術専攻

授業科目	単位数	備考
A群《共通必修科目》		
芸術専攻演習Ⅰ	2	
芸術専攻演習Ⅱ	2	
修了プロジェクト	8	
B群《共通選択科目》		
芸術特別研究 A (音楽系)	2	
芸術特別研究 B (舞台美術系)	2	
芸術特別研究 C (美術系)	2	
芸術教育研究	2	
C群《選択必修》		
芸術専門研究Ⅰ	4	
芸術専門研究Ⅱ	4	
専門特殊研究Ⅰ	4	
専門特殊研究Ⅱ	4	
実技専門研究Ⅰ (音楽)	8	
実技専門研究Ⅱ (音楽)	8	
実技専門研究Ⅰ (美術)	8	
実技専門研究Ⅱ (美術)	8	
実技専門研究Ⅰ (舞台芸術)	8	
実技専門研究Ⅱ (舞台芸術)	8	

履修方法

- (1) A群《共通必修科目》を履修し、12単位を修得しなければならない。
- (2) B群《共通選択科目》より科目を選択し、2単位以上を修得しなければならない。
- (3) C群《選択必修科目》より各々の専門分野に従い16単位を修得しなければならない。
- (4) 本専攻科を修了するには、上記第1項、第2項及び第3項の要件を満たし、合計30単位以上を修得しなければならない。

別表第3－①

学部	学科	免許状の種類	教科
文学部	国語教育学科	中学校教諭1種免許状	国語
		高等学校教諭1種免許状	国語
	英語教育学科	中学校教諭1種免許状	英語
		高等学校教諭1種免許状	英語
農学部	生産農学科	中学校教諭1種免許状	理科
		高等学校教諭1種免許状	理科・農業
工学部	情報通信工学科	中学校教諭1種免許状	数学
		高等学校教諭1種免許状	数学・工業
	ソフトウェアサイエンス学科	中学校教諭1種免許状	数学
		高等学校教諭1種免許状	数学・情報
	マネジメントサイエンス学科	中学校教諭1種免許状	数学
		高等学校教諭1種免許状	数学
教育学部	教育学科	幼稚園教諭1種免許状	
		小学校教諭1種免許状	
		中学校教諭1種免許状	社会・保健体育
		高等学校教諭1種免許状	地理歴史・公民・保健体育
	乳幼児発達学科	幼稚園教諭1種免許状	
芸術学部	音楽学科	中学校教諭1種免許状	音楽
		高等学校教諭1種免許状	音楽
	アート・デザイン学科	中学校教諭1種免許状	美術
		高等学校教諭1種免許状	美術・工芸
教育学部	教育学科 通信教育課程	幼稚園教諭1種免許状	
		小学校教諭1種免許状	
		中学校教諭1種免許状	社会
		高等学校教諭1種免許状	地理歴史・公民

別表第3－②

専攻科名	免許状の種類	教科
芸術専攻科芸術専攻	中学校教諭専修免許状	音楽
		美術
	高等学校教諭専修免許状	音楽
		美術

履修方法

免許状の種類	基礎資格	専攻科における修得単位数
中学校教諭専修免許状（音楽）	中学校教諭1種免許状（音楽）	24単位以上
中学校教諭専修免許状（美術）	中学校教諭1種免許状（美術）	
高等学校教諭専修免許状（音楽）	高等学校教諭1種免許状（音楽）	24単位以上
高等学校教諭専修免許状（美術）	高等学校教諭1種免許状（美術）	

別表第4－①

(単位は円)

学部・学科 項目		文 学 部		農 学 部			工 学 部	経営学部	教育学部	芸術学部	リベラルアーツ学部	観光学部
		国語教育学科	*英語教育学科	生産農学科	*環境農学科	先端食農学科	情報通信工学科	国際経営学科	教育学科	音楽学科	リベラルアーツ学科	* 観光学科
							ソフトウェアサイエンス学科			アート・デザイン学科		
							マネジメントサイエンス学科		乳幼児発達学科	演劇・舞踊学科		
							エンジニアリングデザイン学科					
授業料	1年次	1,023,000	1,023,000	1,047,000	1,047,000	1,047,000	1,103,000	1,023,000	1,023,000	1,193,000	1,023,000	1,023,000
	2年次	1,033,000	516,500	1,057,000	705,000	1,057,000	1,113,000	1,033,000	1,033,000	1,203,000	1,033,000	516,500
	3年次	1,043,000	521,500	1,067,000	1,067,000	1,067,000	1,123,000	1,043,000	1,043,000	1,213,000	1,043,000	521,500
	4年次	1,053,000	1,053,000	1,077,000	1,077,000	1,077,000	1,133,000	1,053,000	1,053,000	1,223,000	1,053,000	1,053,000
教育研究諸料	1年次	216,700	216,700	293,000	293,000	295,100	293,000	216,700	226,700	263,000	216,700	216,700
	2年次	216,700	216,700	293,000	293,000	295,100	293,000	216,700	226,700	263,000	216,700	216,700
	3年次	216,700	216,700	293,000	293,000	295,100	293,000	216,700	226,700	263,000	216,700	216,700
	4年次	216,700	216,700	293,000	293,000	295,100	293,000	216,700	226,700	263,000	216,700	216,700
施設設備金	1年次	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000	200,000	200,000	280,000	200,000	200,000
	2年次	200,000	100,000	250,000	167,000	256,800	270,000	200,000	200,000	280,000	200,000	100,000
	3年次	200,000	100,000	250,000	250,000	256,800	270,000	200,000	200,000	280,000	200,000	100,000
	4年次	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000	200,000	200,000	280,000	200,000	200,000
留学費用	1年次											
	2年次		留学授業料 US\$12,955 (備考7)		留学授業料 CAN\$6,747 (備考7)							留学授業料 AU\$19,960 (備考7)
	3年次											
	4年次											
入学金		250,000		250,000			250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
入学検定料		35,000		35,000			35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000

備 考

1. 休学期間中の在籍料は、玉川大学休学に関する在籍料取扱要領による。
2. 留学期間中は、在籍料として当該年次の教育研究諸料、施設設備金を納入するものとする。
3. 玉川学園女子短期大学卒業生及び本大学からの編入生は入学金を徴収しない。
4. 卒業延期者の納付金は、授業料を単位制、教育研究諸料及び施設設備金をセメスター単位で徴収する。
5. 大学入試センター試験利用入学試験、英語外部試験スコア利用入学試験及び本学が指定する資格・検定取得者並びに併願受験の際の入学検定料については、別途に定める。
6. 教職課程の受講料及び学芸員資格取得に関する費用は、別途に定める。
7. * 学科の留学費用は留学当該年次セメスターで徴収する。
留学授業料の最終決定は該当年の留学授業料と2月の為替レートで円換算し決定される。

別表第4－①

教育学部教育学科通信教育課程

(単位は円)

課程 費目	正科生	科目等履修生	備考
入学選考料	20,000	20,000	
入学金	30,000	—	
編入料	10,000	—	
登録料	—	15,000	
授業料	125,300	8,000	
学修料	8,000	8,000	

1. 科目等履修生授業料は科目等履修料と読み替えるものとする。
2. 科目等履修生の科目等履修料は1単位分である。
3. 休学期間中は、在籍料として当該年次の授業料、学修料の2分の1相当額を徴収する。
4. 所定の年限を経てなお在学する場合の授業料は別途定める。
5. 玉川大学・玉川学園女子短期大学卒業者及び玉川大学大学院修了者の正科生入学金・編入料、科目等履修生登録料は徴収しない。
6. インターネットによる出願にあたっては、入学選考料・編入料は2分の1相当額、学修料は2,000円を差し引いた金額を徴収する。

別表第4－②

(単位は円)

専攻 \ 項目	授業料	教育研究諸料	施設設備金	入学金	入学検定料
芸術専攻科芸術専攻	1,160,000	193,000	160,000	150,000	35,000

- 備 考 1. 休学期間中は、在籍料として別途定める額を納入するものとする。
 2. 玉川大学からの進学者は、入学金を徴収しない。

玉川大学学則

「教授会に関する記述の抜粋」

第12章 大学部長会及び教授会

(省 略)

第44条 各学部それぞれ教授会を置く。

- 2 教授会は、その学部の専任教授をもって組織する。
- 3 教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、助教、講師及びその他必要な教職員を出席させることができる。
- 4 教授会は、定例に学部長がこれを招集する。ただし、学長が必要と認めたときは、これを招集することができる。
- 5 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学、卒業
 - (2) 学位の授与
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 6 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長(以下「学長等」という)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 7 教授会の運営については、玉川大学教授会等運営規程による。

第45条 学長が必要と認めたときは、又は教授会から特に要求があったときは、学長は全学教授会を招集することができる。

- 2 全学教授会は全学の専任教授をもって組織する。
- 3 全学教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、助教、講師及びその他必要な教職員を出席させることができる。
- 4 全学教授会は、学長が特に必要と認めた本大学の重要事項を審議する。

第46条 学長が必要と認めたとき、各種委員会等を組織し、それぞれの専門分野について審議研究することができる。なお、細部については、玉川大学教授会等運営規程による。

(省 略)

玉川大学教授会等運営規程

平成14年4月1日制定

改正

平成16年4月1日	平成17年4月1日
平成18年4月1日	平成19年4月1日
平成20年4月1日	平成21年4月1日
平成22年4月1日	平成23年4月1日
平成24年4月1日	平成25年4月1日
平成26年4月1日	平成27年4月1日
平成28年4月1日	平成28年7月29日
平成29年4月1日	平成30年4月1日
平成31年4月1日	令和2年4月1日

玉川大学教授会等運営規程

(目的)

第1条 玉川大学学則(以下「本大学学則」という。)第44条第7項並びに第46条に規定する玉川大学教授会(以下「教授会」という。)の運営について、学校法人玉川学園会議等運営規程のほか、本規程に定める。

(会議)

第2条 教授会は毎月これを開会する。

2 教授会の議長は、学部長がこれに当たる。

3 教授会は、特に定めのある場合を除き、構成員の過半数の出席をもって成立する。

4 教授会に係る事務主管は教学部とする。

(審議事項)

第3条 本大学学則第44条第5項及び第6項の審議並びに第7項の運営については、次の各号による。

(1) 学部長が必要と認めた場合には、学科ごとに審議し、学部教授会の意見とすることができる。

(2) 本大学学則第44条第5項第1号の「入学者の決定」については、学長が委嘱した各学部入学試験判定会議において審議し、学長がこれを決定する。

(3) 学長又は学部長は、前号の決定を学部教授会に報告するものとする。

(4) 教員の任用、昇格にあたっての教員資格審査については、予め学長が委嘱した教員資格審査委員会で審議し、学長が決定する。

(審議事項の報告)

第4条 教授会の審議の結果は、学科主任等により、必要に応じ速やかに各学科に報告するものとする。

(各委員会)

第5条 本大学学則第46条に基づき、教務委員会、教職課程委員会、学生委員会、入学試験運営委員会、課外活動支援委員会、キャリア・就職指導委員会、FD委員会、大学学事運営委員会、国際教育推進委員会、インターンシップ委員会、ELF運営委員会、環境エデュケーター委員会、アクティブ・ラーニング推進委員会、教育再生加速委員会、及びIR委員会を置く。また、文学部には、中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会、教育学部には、幼保取得特例プログラム運営委員会及び通信教育課程入学選考委員会を置く。

2 各委員会の委員は、毎年度当初、学部長等が各学科主任等の意見を徴し、学長に推薦し、学長が任命する。

3 委員会は、学長の諮問に答え、審議の結果を答申する。また、委員会は、必要な事項を審議し、大学部長会に建議又は学長に上申することができる。

(教務委員会)

第6条 教務委員会は、教学部長を委員長とし、各学部の教務主任及び事務担当をもって構成する。

2 教務委員会は、次の事項を審議する。

(1) 教育課程の基本的・共通的事項(教育課程改正に関する事項を含む。)

(2) 時間割編成に係る共通的事項

(3) その他本委員会に属する事項

3 教務委員会は、委員長が招集し開催する。

4 教務委員会は、原則として毎月開催する。

5 事務主管は教学部とする。

(教職課程委員会)

第7条 教職課程委員会は、教師教育リサーチセンター長を委員長とし、各学部の教職担当及び事務担当をもって構成する。

2 教職課程委員会は、次の事項を審議する。

(1) 教職に関する事項

(2) 教職課程に関する事項

(3) 教職課程のカリキュラムに関する事項

(4) 教育職員免許状・保育士資格、その他の資格に関する事項

(5) その他本委員会に属する事項

3 教職課程委員会は、委員長が招集し開催する。

4 教職課程委員会は、原則として毎月開催する。

5 事務主管は教師教育リサーチセンターとする。

(学生委員会)

第8条 学生委員会は、学生支援センター長を委員長とし、各学部の学生主任及び事務担当をもって構成する。

2 学生委員会は、次の事項を審議する。

(1) 学生の生活指導に関する基本的事項

(2) 学生の福利厚生に関する事項

(3) その他本委員会に属する事項

3 学生委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

4 事務主管は学生支援センターとする。

(入学試験運営委員会)

第9条 入学試験運営委員会は、学長を委員長とし、各学部長、副学部長、教学部長、教学部事務部長、入試広報部長及び事務担当をもって構成する。

2 入学試験運営委員会は、次の事項を審議する。

(1) 入学試験科目及び日程に関する事項

(2) 推薦入学試験の推薦基準に関する事項

(3) 入学試験の出題・点検・採点者及び監督者の編成に関する事項

(4) 入学者選抜の在り方とその実施方法に関する事項

(5) その他本委員会に属する事項

3 入学試験運営委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

4 事務主管は入試広報部とする。

(課外活動支援委員会)

第10条 課外活動支援委員会は、学生支援センター長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

2 課外活動支援委員会は、次の事項を審議する。

(1) 課外活動全般の指導に関する事項

(2) 課外活動の行事に関する事項

(3) 各会(体育会、文化会)の指導運営に関する事項

(4) 課外活動における緊急事故処置に関する事項

(5) その他本委員会に属する事項

3 課外活動支援委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

4 事務主管は学生支援センターとする。

(キャリア・就職指導委員会)

第11条 キャリア・就職指導委員会は、キャリアセンター長を委員長とし、各学部の就職担当及び事務担当をもって構成する。

2 キャリア・就職指導委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 就職及びキャリア支援に対する基本的・共通的な事項
- (2) その他本委員会に属する事項

3 キャリア・就職指導委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

4 事務主管はキャリアセンターとする。

(FD委員会)

第12条 FD委員会の運営については、別に定める玉川大学FD委員会規程による。

2 事務主管は教学部とする。

(大学学事運営委員会)

第13条 大学学事運営委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

2 大学学事運営委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 学事日程の調整に関する事項
- (2) 行事の内容及び形態に関する事項
- (3) 行事の運営に関する事項
- (4) 行事の運営体制に関する事項
- (5) オリエンテーション・入学式・大学卒業式・大学院修了式・体育祭・音楽祭・クリスマス礼拝・卒業祝賀パーティに関する事項
- (6) その他本委員会が本大学の行事の共通運営に必要と認める事項

3 大学学事運営委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

4 事務主管は教学部とする。

(国際教育推進委員会)

第14条 国際教育推進委員会は、国際教育センター長を委員長とし、各学部の国際教育担当及び事務担当をもって構成する。

2 国際教育推進委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 海外留学プログラムに関する事項
- (2) 海外研修プログラムに関する事項
- (3) 国際教育・交流プログラムに関する事項
- (4) その他委員長が必要と認めた事項

3 国際教育推進委員会は、委員長が招集し開催する。

4 国際教育推進委員会は、原則として毎月開催する。

5 事務主管は国際教育センターとする。

(インターンシップ委員会)

第15条 インターンシップ委員会は、教学部長を委員長とし、各学部のインターンシップ担当及び事務担当をもって構成する。

2 委員長が必要と認めたときには、副委員長を置くことができる。

3 インターンシップ委員会は、次の事項を審議する。

- (1) インターンシップ推進に関する事項
- (2) インターンシップ受入企業等の選定に関する事項
- (3) 派遣学生に関する事項
- (4) その他本委員会に属する事項

4 インターンシップ委員会は、委員長が招集し開催する。

5 インターンシップ委員会は、原則として毎月開催する。

6 事務主管は教学部とする。

(ELF運営委員会)

第16条 ELF運営委員会は、ELFセンター長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

2 ELF運営委員会は、次の事項を審議する。

- (1) ELFプログラムの開発・運営・実施に関する事項
- (2) 教科書選定・教材開発・整備に関する事項
- (3) 学生の英語学修サポート(e-Learning)に関する事項
- (4) プレースメントテストの実施・クラス編成・成績管理に関する事項
- (5) その他本委員会に属する事項

3 ELF運営委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

4 事務主管はELFセンターとする。

(環境エデュケーター委員会)

第17条 環境エデュケーター委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

2 環境エデュケーター委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 環境エデュケーター養成講座に関する事項
- (2) 環境エデュケータートレーニング講座に関する事項
- (3) 学生環境保全委員会の活動に関する事項
- (4) その他本委員会が必要と認める事項

3 環境エデュケーター委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

4 事務主管は教学部とする。

(アクティブ・ラーニング推進委員会)

第18条 アクティブ・ラーニング推進委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

2 アクティブ・ラーニング推進委員会は、次の事項を審議する。

- (1) アクティブ・ラーニングの推進に関する事項
- (2) その他本委員会が必要と認める事項

3 事務主管は教学部とする。

(教育再生加速委員会)

第19条 教育再生加速委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。

2 教育再生加速委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教育再生加速事業に関する事項
- (2) その他本委員会が必要と認める事項

3 事務主管は教学部とする。

(IR委員会)

第20条 IR委員会の審議事項は、別に定める玉川大学IR委員会規程による。

2 IR委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

3 事務主管は教学部とする。

(文学部中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会)

第21条 文学部中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会の運営については、別に定める玉川大学文学部中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会規程による。

2 事務主管は教学部とする。

(幼保取得特例プログラム運営委員会)

第22条 幼保取得特例プログラム運営委員会の運営については、別に定める玉川大学幼保取得特例プログラム運営委員会規程による。

2 事務主管は教学部とする。

(通信教育課程入学選考委員会)

第23条 通信教育課程入学選考委員会の運営については、別に定める玉川大学教育学部教育学科通

信教育課程規程による。

2 事務主管は入試広報部とする。

附 則

1 この規程は、平成14年4月1日から施行する。

2 玉川大学教授会等運営に関する細則(昭和44年4月1日制定)は廃止する。

附 則(平成15年4月1日)

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成16年4月1日)

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成18年4月1日)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年4月1日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年4月1日)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年4月1日)

1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。

2 玉川大学学事運営委員会規程(平成15年4月1日制定)は廃止する。

附 則(平成22年4月1日)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成23年4月1日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年4月1日)

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年4月1日)

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成26年4月1日)

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成27年4月1日)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成28年4月1日)

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年7月29日)

この規程は、平成28年7月29日から施行する。

附 則(平成29年4月1日)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成30年4月1日)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成31年4月1日)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(令和2年4月1日)

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類 目次

1.設置の趣旨及び必要性	1
2.学部、学科等の特色	3
3.学部、学科等の名称及び学位の名称	3
4.教育課程の編成の考え方及び特色	4
5.教員組織の編成の考え方及び特色	6
6.教育方法、履修指導方法及び卒業要件	6
7.施設、設備等の整備計画	8
8.入学者選抜の概要	9
9.取得可能な資格	10
10.教育実習の具体的計画	10
11.管理運営	12
12.自己点検・評価	12
13.情報の公表	14
14.教育内容等の改善を図るための組織的な取組	15
15.社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	16

設置の趣旨等を記載した書類

1.設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の必要性

①大学の目的と使命

創立者小原國芳は、人間を「生まれながらにして、唯一無二の個性を持ちつつも、万人共通の世界をも有する存在である」と定義した。この人間観を基礎に、その人をより魅力的な存在にする個性を伸ばそうとする「個性尊重」の教育と、全ての人間に共通する才能を育む「全人教育」が成立した。

ここでいう「全人教育」とは、真・善・美・聖・健・富の6つの価値の創造にあるとし、それは即ち学問・道徳・芸術・宗教・健康・生活の6方面の人間文化を調和的に豊かに形成することをいうのである。

この教育理想の実現に向けて、当初、中学部、小学部、幼稚部の学校を設置してスタート。さらに数々の設置を経て昭和24年新学制の公布によって新制の玉川大学設置を見た。

玉川大学は、玉川学園の建学の理想にかんがみ、「全人教育」をもって教育精神とし、広い教養と深い専門の学術の理論及び応用を教授する。宗教教育、芸術教育を重んじ魂を醇化し、淨らかな情操を養成し、厳粛な道義心を涵養することをもって人格を陶冶し、併せて人類の幸福と世界の文化の進展に寄与することを目的としてきている。

玉川大学の使命は、一つにこの人間像を実現させることであり、そして二つに、日本社会、さらには世界に貢献できる人材を養成することにある。

②学科の設置の必要性

文化芸術基本法に基づき平成30年3月に閣議決定された「文化芸術推進基本計画—文化芸術の『多様な価値』を活かして、未来をつくる—」（以下「基本計画」）においては、「文化芸術は、国民全体及び人類普遍の社会的財産として、創造的な経済活動の源泉や、持続的な経済発展や国際協力の円滑化の基盤となるもの」とし、更に「我が国の文化財や伝統等は、世界に誇るべきものであり、日本人自身がその価値を十分に認識し、これを維持、継承、発展させることが重要である」としている。一方で、「急激な社会変化によって、人材や活動の場の確保等文化芸術を支えてきた基盤がぜい弱化する中で、分野によっては、後継者育成や適切な専門的人材の確保が困難になっている」などの課題が指摘されている。

基本計画では、今後5年間（平成30年度～令和4年度）の文化芸術政策の基本的な方向性として、「文化芸術の創造・発展・継承と豊かな文化芸術教育の充実」「多様で高い能力を有する専門的人材の確保・育成」等6つの戦略を掲げ、「文化芸術を創造し、支える人材の育成・充実」や「高いスキルを有する専門的人材」の確保が重要であるとしている。特に、「多様で高い能力を有する専門的人材の確保・育成」の実現にあたっては、「芸術系大学等の有する教員や教育研究機能など、様々な資源を活用して、実演芸術のアートマネジメント等に関する専門的人材を養成する取組を推進する」ことや「大学等の教育機関や国立の文化施設等における文化芸術に係る教育及び研究の充実を図る」ことが期待されている。

また、第Ⅲ期教育振興基本計画においても、「芸術家等の養成・文化芸術振興策の推進」が掲げられており、文化芸術の発展を担う人材の育成の重要性が示されている。

本学は、『音楽』によって、精神的な基礎づくりを行う」という玉川学園創立者小原國芳の信念、期待に基づき、創設期より音楽教育を重視してきた。創立者の音楽教育に対する期待は次のような言葉で示されている。「音楽は、すさんだ心をなごやかにし、暗い気持ちを明るくし、悲しみをなぐさめ、疲れをいやし、希望を与えてくれます。この音楽の持つ不思議な力を教育でも十分に利用したいのです」また、「音楽こそは、人と人の心を結ぶきずなとなるものと考えます。教育が、人と人との触れ合いの中にあることを考える時、立派な音楽なくしてマコトの教育はあり

得ないとさえ考えます。どうぞ、世界に誇り得る教育が、文化が、民族が、出来上がる日のためにも、音楽の楽しみを、今日、今から大事にさせていただきよう祈ります」と。その創立者の思いをもとに、本学では『音楽』の授業を全学部で必修とし、全学部1年次生が舞台にあがってベートーヴェンの「第九」を合唱する音楽祭を開催している。

こうした本学の伝統のもと、芸術学部パフォーミング・アーツ学科および芸術教育学科において音楽分野の教育を展開してきた。そこでは、音楽における実践的な能力の習熟、公演・制作活動と音楽表現の諸活動に新たな価値を付与する音楽教育力・演奏力・表現力・企画制作力・運営力などの研究を相互に連動させることで、多様多彩な表現の可能性を追求すると同時に、音楽表現の社会的・公共的な意義と視点を獲得することができた。本学の音楽教育の伝統継承ならびに芸術学部における実績を生かし、社会の要請である「文化芸術立国」実現に資する人材を育成するために、パフォーミング・アーツ学科および芸術教育学科の両学科に分かれて展開していた音楽分野の教育を一つに集約し充実させるために音楽学科を設置することとした。

③専攻科との関係

本学に設置する芸術専攻科（芸術専攻）は、玉川大学の建学の精神に則り、芸術学部の教育の基礎の上に、精深な専門の理論及び応用の研究指導を行い、専門的技能者を養成し、もって文化の進展に寄与することを目的としている。

具体的には、芸術専攻科（芸術専攻）では、少人数の授業や個別の指導によって、学部教育において醸成された豊かな知識や技能、実践感覚を基礎として、学問的により広くかつ深く、高度な教育・研究を行っている。

また、芸術学部で中学校教諭一種免許状（音楽・美術）および高等学校教諭一種免許状（音楽・美術）を取得した学生が、芸術専攻科（芸術専攻）において必要な単位を修得することにより、中学校教諭専修免許状（音楽・美術）および高等学校教諭専修免許状（音楽・美術）を取得することができる。

（2）教育研究上の目的及び養成する人材像（資料1参照）

①研究対象とする中心的な学問分野、養成する人材像及び学位授与の方針

音楽学科の研究対象とする中心的な学問分野は音楽分野である。

前述（「学科の設置の必要性」）の通り、「文化芸術を創造し、支える人材の育成・充実」といった社会の要請に応えるため、音楽の体系的理解に基づき、現代社会における「上演芸術」及び音楽教育の役割を学修し、音楽における総合的实践力、コミュニケーション力及びマネジメント力を有して社会に貢献できる人材を養成する。

上記人材像を実現するため、次のような能力を身に付けさせることを学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とする。

ディプロマ・ポリシーの策定にあたっては、文部科学省中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」を踏まえて「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」の3種類に分類し、身に付けるべき知識等を、「～できる」「～を身に付けている」という学生を主語とした行為動詞とすることで、卒業時の到達目標を具体化している。

- a) 音楽に関する専門的な技術及び知識を身に付けるとともに、自然・社会・多文化・異分野と関連させながら理解することができる。
- b) 音楽の専門的な知識・技能をもとに、多様化する社会の諸問題に対し、解決しようとする意志をもち、認識、分析、解決するための言語力、論理的思考力、マネジメント力、コミュニケーション力、及び表現力を身に付けている。
- c) 音楽の専門的な知識・技能を生かし、社会人としての倫理観と責任感をもち、生涯にわたり積極的に学び続ける生涯学習力を身に付けている。
- d) 進化する社会の音楽活動に携わり、国際的な視野を持ち、他者と価値観、倫理観を共有し、

音楽を通して社会に貢献する意識をもつことができる。

②想定される卒業後の具体的な進路

「上演芸術」及び音楽教育の役割を学修し、音楽における総合的实践力、コミュニケーション力及びマネジメント力を有して社会に貢献することが期待される。主な進路としては、演奏家、批評家、歌手、俳優、劇団員、音楽教室講師、海外留学、大学院進学、国内外企業、公務員、中学校・高校教員（音楽）などが想定される。

2.学部、学科等の特色

音楽学科では、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、7つの機能のうち「特定の専門的分野（芸術）の教育・研究」および「幅広い職業人養成」を重点的に担う。

音楽学科では、音楽の体系的理解に基づき、現代社会における「上演芸術」及び音楽教育の役割を学修し、音楽における総合的实践力、コミュニケーション力及びマネジメント力を有して社会に貢献できる人材を養成するため、次のような特色をもって教育・研究を展開する。

- a) 1年次より、自己の将来目標に則して「演奏・創作コース」、「ミュージカルコース」、「音楽教育コース」、といった履修上の3つのコースを設ける。各コースとも1年次では基礎力、2年次には応用力、3年次以降は専門的な能力を身に付ける学修を行う。
「演奏・創作コース」は音楽の演奏技術や創作などの学びを通して、「ミュージカルコース」は総合芸術であるミュージカルの専門的な知識や歌唱、演技といった学びを通して、「音楽教育コース」は音楽の基礎的理論や専門的な知識、音楽教育に関する音楽表現や実践的指導などの学びを通して、学位授与方針や人材養成の目標の達成を目指す。
- b) 音楽における総合的实践力、コミュニケーション力及びマネジメント力を築くために3コース合同の公演会、ワークショップ等を開催し自発的に考えまた行動できる力を養う。
- c) 中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」では「学習機会全体の中での高等教育の位置付けと各高等教育機関の個性・特色」で「教育の実施や卒業認定・学位授与に関する方針（カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシー）を明確にし、教育課程の改善や出口管理の強化を図ることが求められる。」と述べている。音楽学科では、3つのポリシーを一体的で整合性あるものとして策定することはもちろんのこと、高等教育の質保証として GPA（Grade Point Average）制度を導入し、単位の実質化に向けて履修登録上限単位数を半期16単位とし、GPAによる学修警告制度を実施し、卒業要件に累積 GPA2.00 以上を付加している。

3.学部、学科等の名称及び学位の名称

設置する学科の名称および学位の名称は以下のとおりである。

【学科の名称】 音楽学科 (Department of Music)

【学位の名称】 学士（芸術学） (Bachelor of Arts)

音楽に関する教育・研究をとおして、音楽の体系的理解に基づき、現代社会における「上演芸術」及び音楽教育の役割を学修し、音楽における総合的实践力、コミュニケーション力及びマネジメント力を有して社会に貢献できる人材を養成することを学科の目的としていることから、学科名称を「音楽学科」(Department of Music)とした。また、「特定の専門的分野（芸術）の教育・研究」および「幅広い職業人養成」を重点的に担う教育を行うことから、学位に付記する専攻分野の名称を「学士（芸術学）」(Bachelor of Arts)とした。

4.教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成の基本方針・考え方

「養成する人材像」並びに学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に挙げた知識・技能の修得、態度・志向の育成を目指し、以下の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に基づきカリキュラムを編成している。

- a) 芸術分野の理論や実技の基盤をつくる導入科目として『芸術概論』を開設し、学部共通の必修科目とする。
- b) 音楽に関する基礎全般を概観し、楽譜に関する知識や、その知識を踏まえたベーシックな理論、さらに楽曲演奏の基礎となる音楽の3要素（リズム、メロディー、ハーモニー）について学修するために、1年次の必修科目として『音楽理論』や『ソルフェージュI』を配置する。
- c) 自己の将来目標にあわせて専門的な学びを深めるため、1年次より「演奏・創作コース」、「ミュージカルコース」、「音楽教育コース」の3つのコースを設定し、コースごとに必要な専門的知識・技能を修得するための科目を開設する。
- d) 音楽分野の専門的な知識・技能を修得するだけでなく、専門的な知識・技能の学修を通して課題を認識・分析する力や、言語力、論理的思考力、マネジメント力、コミュニケーション力を身に付けるために、他者と協働しながら主体的に取り組むプロジェクト型および演習形式の科目を配置する。
- e) 4年間の集大成として成果を発表する科目として『卒業演奏・卒業創作』、『卒業創作・研究』、『卒業論文』を配置する。
- f) 専門科目の学びと並行してユニバーシティ・スタンダード科目の諸科目を学ぶことで、様々な学問分野に触れながら、それぞれの分野を自らの専門分野の学問的・社会的役割と関連づけて理解することができる。

(2) 教育課程の特色（資料2、3、4参照）

諸答申において学士課程教育は教養教育と専門基礎教育を中心に行うとされており、また、教育基本法には「大学は学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに…」と定められている。その趣旨を踏まえ、教養豊かな幅広い知識を持ち、基礎学力の堅固な基盤と高度な専門能力を持った人材を育成するために、全学共通の教養科目「ユニバーシティ・スタンダード科目群」と本学科の「専門科目群」により教育課程を編成している。

①ユニバーシティ・スタンダード科目群

ユニバーシティ・スタンダード科目群については、「玉川教育・FYE（First Year Experience・初年次教育）科目群」、「人文科学科目群」、「社会科学科目群」、「自然科学科目群」、「学際科目群」、「言語表現科目群」、「資格関連科目群」の7群で構成されている。

＜玉川教育・FYE 科目群＞

この科目群は、『玉川の教育』、『一年次セミナー』、『二年次セミナー』、『健康教育』、『音楽』、『全人教育論』など全人教育の基底となるばかりでなく、基本的な学修スキルの獲得やキャリア教育の要素も含む。

初年次教育科目である『一年次セミナー101』、『一年次セミナー102』は必修科目として1年次の前期と後期に開設されている。大学での授業をいかに効果的に受講するか、4年間の大学生活の中でどのように人生の目標を設定しキャリアデザインを行っていくかを考え学ぶ科目である。主な授業内容は、「社会人としての自由と責任」「批判的思考方法と論理的解決能力の養成」「大学生としての基本的な読解力、文章力、コミュニケーション能力の養成」「大学4年間の学修戦略」「大学の支援資源の活用方法」である。

＜人文科学科目群＞

多文化・異文化についての造詣を深めると同時に、これまで人類が積み重ねてきた文化に

ついて学修する科目群である。『文化人類学』、『比較文化論』、『ことばと文化』、『歴史（世界）』、『歴史（日本）』、『哲学』、『倫理学』、『宗教学』、『ロジック』などの科目で構成されている。

＜社会科学科目群＞

社会現象を考察、分析、総合し、そこに一定の法則を見い出すとともに、学修を通して市民の社会的役割と責任を理解する科目群である。『経済学（国際経済を含む。）』、『経営学』、『国際関係論』、『政治学（国際政治を含む。）』、『心理学』、『社会学』、『会計学』、『コミュニケーション論』、『マーケティング』などの科目で構成されている。

＜自然科学科目群＞

自然現象の法則を学ぶと同時に、人間社会を発展させる自然科学の社会的機能を理解する科目群である。『環境科学』、『生物学入門』、『地球科学』、『統計学入門』、『データ処理』、『情報科学入門』、『マルチメディア表現』、『数学入門』、『エネルギー科学』、『宇宙科学』などの科目で構成されている。

＜学際科目群＞

既存の学問領域の枠組みだけではとらえきれない事象について、様々な学問の知見を援用しながら学修する科目群である。『ミクロ脳科学』、『マクロ脳科学』、『健康スポーツ理論』、『マスメディアと社会』、『環境教育ワークショップ』、『コーオプ・プログラム』、『キャリア・マネジメント』などの科目で構成されている。

＜言語表現科目群＞

言語の運用能力、言語によるコミュニケーション能力の養成を目的とする科目群である。『E L F』、『日本語表現』、『フランス語』、『ドイツ語』、『スペイン語』、『中国語』で構成されている。

＜資格関連科目群＞

学生の興味、関心に応じて幅広く学修できる科目を配置している。『生涯学習概論』、『読書と豊かな人間性』、『情報サービス論』、『生涯学習支援論』、『図書館概論』、『学習指導と学校図書館』、『社会教育課題研究』、『博物館教育論』などの科目で構成されている。

②専門科目群

専門科目群については、音楽分野の理論と実践に関する科目とで構成し、学修進度に合わせて履修できるよう、100 番台科目から 400 番台科目までナンバリングを施している。教育課程を編成するにあたっては、学部・学科の特色を生かし、学位授与方針や人材養成の目標を実現するために、カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーを作成し、体系的な履修を可能にする科目編成を行った。

＜100 番台科目＞

芸術分野を学ぶ導入科目として『芸術概論』を学部共通の必修科目として前期に開講する。また、音楽分野に関する導入科目として『音楽概論』を必修科目として配置する。

1 年次より自己の将来目標に合わせて基礎科目をベースに自身の専門性を深めていく。そのため、履修上のコースとして「演奏・創作コース」、「ミュージカルコース」、「音楽教育コース」といった 3 つのコースを開設する。

100 番台科目においては、『音楽専門実技』、『アンサンブル』、『ソルフェージュ』、『器楽基礎』、『声楽基礎』、『演技・舞踊入門』、『演技・舞踊基礎演習』、『舞台技術基礎演習』、『上演基礎実習』、『鍵盤楽器基礎』、『和楽器指導法（管・絃・打）』といった科目を開設し、上演芸術全般（音楽実技・音楽教育・演技・舞踊・舞台技術・企画構想）の基礎を学ぶことを目的とする。

＜200 番台科目＞

200 番台科目においては、『音楽文化論』、『和声学』、『ミュージカル表現』、『演劇理論』、『芸術と社会』、『創作教育法』、『器楽教育法』、『日本音楽史』などの科目を開設し、上演芸術全般（演奏/創作・音楽教育・ミュージカル・舞台技術・企画構想）の諸要素について理解を深める

ことを目的とする。

<300 番台科目>

300 番台科目においては、『演奏・創作』、『歌唱教育法（合唱）』、『指揮法』、『対位法』、『楽式論』、『現代音楽史』、『上演実習』、『劇場接遇演習』、『鑑賞教育理論（音楽）』、『伴奏法』、『器楽』、『声楽』などのように 2 年次での学修を発展させる科目を多く開設し、より専門性を体系的に学修させることを目的とする。

<400 番台科目>

400 番台科目においては、『卒業演奏・卒業創作』、『卒業創作・研究』、『卒業論文』といった科目を開設し、学士課程教育の集大成として、さまざまな形態により成果発表を行い、学位授与の方針で示している力を学生が修得することを目的とする。

③教職関連科目群

「音楽」の中学校・高等学校教員、音楽教室講師などの教育産業に従事することを目指す学生のために必要な科目を配置している。

5.教員組織の編成の考え方及び特色

音楽学科は、教授 5 名、准教授 2 名の合計 7 名の専任教員で教員組織を編成する。本学科では、音楽の体系的理解に基づき、現代社会における「上演芸術」及び音楽教育の役割を学修し、音楽における総合的実践力、コミュニケーション力及びマネジメント力を有して社会に貢献できる人材の養成を目指すとしており、この人材養成の目的を達成するために、それにふさわしい教育課程の編成を行い、教員を配置している。すなわち、教育研究の目的や養成する人材像、学部・学科の特色、教育課程の編成を踏まえた教員組織を編成している。なお、専任教員の中心的な研究対象学問分野は音楽である。

具体的な専任教員の科目担当配置は次の通りである。

ユニバーシティ・スタンダード科目群のうち、『一年次セミナー101』、『一年次セミナー102』は、学科の学びを俯瞰し、大学での学修プラン及び卒業後のキャリアプランを構想できるようにすることを目的として必修としており、30 名程度の少人数クラスで開講し、専任が授業を担当する。

必修科目である『芸術概論』、『音楽理論』、『ソルフェージュⅠ』は専任の教授および准教授を配置している。このほか教育課程の中核的科目については専任の教授および准教授がほとんどの授業を担当することから、適切な教員配置となっているといえる。

開設年度（令和 3 年 4 月 1 日）の年齢構成は、61 歳が 1 名、59 歳が 2 名、58 歳が 1 名、57 歳が 2 名、54 歳が 1 名で、平均年齢は 57.9 歳である。また、本学の教員定年年齢は 65 歳である。完成年度までにこれを超える専任教員はいない。

6.教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

①授業方法と受講生数、配当年次

本学科においては、専門の知識、技能の往還を図りながら体系的に学修できるようカリキュラムを編成している。幅広い知識を身に付ける科目については講義形式中心、技能を修得する科目については演習を中心としつつ、演習や講義を組み合わせることで、より教育効果をあげるよう工夫している。また、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、学生の主体的な学びを推進する。

上演芸術（演奏・創作、音楽教育、ミュージカル、舞台技術）という性格上、科目によっては複数教員の担当が必要となる。そのため、複数の担当教員による共同授業やオムニバス授業の割合が多くなっている。共同授業やオムニバス授業においては、担当する教員の連携を密にして、効果的な授業展開ができるよう体制を整える。

受講生数については、授業の内容や授業形態に応じて、効果的な人数を設定する。目安として、講義科目は 30 人～80 人を基本とする。演習科目、実習・実技科目は内容により効果的な人数が異なるが、基本的にはどの科目も少人数できめ細やかな指導ができる体制を整備している。

配当年次については、科目にナンバリングを施し、基礎から専門へと体系的な学修ができるよう設定している。また、カリキュラム・ツリーやカリキュラム・マップ、履修モデルなどをもとに、科目間の関係や履修順序にも配慮して配当年次を決定している。

②授業におけるメディアの利用

本学で導入している、学修教材の配信や成績などを統合して管理するシステムである Learning Management System「Blackboard@Tamagawa」を本学科でも活用する。通常授業は対面で行われるが、通常の授業にこのシステムを活用することにより、授業教材の管理、授業の進捗管理、授業内容の補完、学生の予習・復習課題などの進捗管理等が可能であり、学生の自主的な学修をより効果的に促進することができる。グループワーク、ディスカッション、教材や資料の提供、課題提出、小テストなどがインターネットを通じていつでもどこからでもできるようになっている。

③単位制度の実質化を図るために履修科目登録の上限を半期 16 単位に設定

単位制度の実質化を図るため、各学期における履修登録できる単位数の上限を 16 単位（前セメスターの GPA が 3.20 以上の成績優秀者は 18 単位まで履修可能）と定めている。それにより、学生は少数の授業を集中的に学ぶことができる。授業及び授業外学修時間を合わせて 1 日 8 時間の学修を基本とし、1 単位を 45 時間の学修を標準とする内容を以って構成することで、単位制度の趣旨との合致及び、単位の実質化を目指す。

なお、学生の主体的な学びを促すため、時間割を工夫して、授業と授業の間に予習・復習を行える時間を設ける。さらに、自主的学修のためのスペースとして、教育学術情報図書館内に従来の個人学修に適した環境に加え、グループワークやプレゼンテーションを行える空間としてラーニング・コモンズを設置している。

④学修の質を評価する制度の導入

学修の質を評価するために GPA 制度を導入する。各学期における学修の成果（S、A、B、C、F の 5 段階）を履修 1 単位あたりのポイント（GPA）として数値化して算出し、学修の質を可視化する。なお、卒業要件として累積 GPA2.00 以上を課す。また、各学年の学修継続条件にも GPA を活用している。

（2）履修指導方法（資料 5 参照）

教務主任を中心に教務担当教員および各クラス担任教員による教務ガイダンスを開催し、学生への履修アドバイスの機会を設ける。また、個々の学生に対しては、教務担当教員および各クラス担任教員がシラバスや履修モデルを提示し、体系的に学修が進められるよう履修指導を行う。なお、成績に関しては GPA をもとに指導を行う。

（3）卒業要件

卒業要件は卒業時における卒業生の質の確保を目標に設定している。学生に質の高い知識や技術を身につけさせたうえで、卒業生として送り出すことが大学の責任である。そのため、卒業時に学修量ばかりでなく GPA で学修の質を評価する。なお、卒業に必要な単位数は 124 単位であり、卒業にあたっての条件を次のように定める。

- a) 修業年限を満たすこと。
- b) 全科目の修得単位の合計が 124 単位以上であること。
- c) 累積 GPA が 2.00 以上であること。

- d) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、玉川教育・FYE 科目群から必修科目をすべて含み 7 単位以上を修得していること。
- e) ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群から 4 単位以上、社会科学科目群・自然科学科目群・学際科目群からそれぞれ 2 単位以上、言語表現科目群から「ELF」科目を含み 4 単位以上、合計 14 単位以上を修得していること。
- f) 音楽学科専門科目群の必修科目 6 単位を修得していること。
- g) 音楽学科専門科目群の 100 番台科目から必修科目を除き 6 単位以上、200 番台科目から 12 単位以上、300 番台科目から 4 単位以上、400 番台科目から 4 単位以上修得していること。

7.施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学では教育理念の具現化を遂行するにあたり『12 の教育信条』を定め、その一つに『自然の尊重』を掲げ、雄大な自然の教育的価値を重視し、かつ環境への配慮を積極的に行ってきた。現在、町田市にあるキャンパスは約 61 万㎡に及ぶ。

大学の校地は玉川学園幼稚部、小学部、中学部、高等部との共用となるが、各部ごとにその主な活動区域は分散しており、教育活動が特定の区域に集中して行われないう配慮している。校舎間の移動においては余裕のある通路や空地が確保されており、スムーズな移動が可能となっている。また、学生が利用する食堂および周辺にはベンチやテーブル・椅子等を配置しており、学生が休息できるスペースを十分有している。体育施設については屋外運動場として大グラウンドをはじめテニスコート、ゴルフ練習場、洋弓場、弓道場を備えている。また、屋内運動場としては大体育館、温水プールなどを設置している。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学科では単位制度の実質化を図るため、各学期において履修登録できる単位数の上限を 16 単位と定め、学生が集中して科目を受講することができ、予習・復習が十分行えるよう配慮している。これまで芸術学部パフォーミング・アーツ学科および芸術教育学科が使っていた教室等を継続して使用することから、施設・設備は十分に確保できており、学生の利用上における支障はないものと考えている。

教育課程、授業形態などから考慮される必要な施設・設備として、講義室、演習室、実技室、個人レッスン室、ホール、自習室などを設置している。

多くの講義室ではマルチメディア対応の機器（プロジェクター、BD・DVD プレーヤー、書画カメラ等）が導入されている。また、学内 LAN 光ケーブルを敷設しそれぞれの校舎及び建物間のネットワークを構築している。また、一般教室、研究室及び図書館、ラウンジ等においては「いつでも、どこでも」の教育環境を構築すべく無線 LAN を設置し、キャンパスのあらゆるところでネットワークにアクセスして学修ができる環境にある。「University Concert Hall 2016」にはコンサートホールに加え、ピアノや管楽器、声楽等の演習室及びレッスン室を設置し、学生が、個人練習または複数人によるアンサンブル練習ができる環境を用意している。

教員の研究室については、本学科の専任教員が合計 7 人であることから 7 室を用意する。また、別に教職員ラウンジ、学生と面談するスペース、非常勤講師控室、会議室を整備している。

その他、図書館、体育館、教育博物館、学長室、事務室、保健センター健康院、学生食堂などを備えている。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

大学教育の質保証を支える学修の場として「教育学術情報図書館（以降、「本学図書館」）」を設置している。

本学図書館はもはや本を置くだけの場所ではなく、ラーニング・コモンズやデジタル基盤の推

進プログラム（電子ジャーナル、電子書籍、データベース、コンテンツ作成、ICT 支援）を組み合わせて提供している。さらに、そのような技術基盤の資源はリテラシー教育を通して学修生活を変革し研究等にも貢献している。

そのため、情報を迅速に収集するとともに、主体的な学修サイクルの各段階に向けて発信・支援できる体制を整える。例えば、研究成果を公開する学術リポジトリ・システムを、平成 24 年度より運用開始した。また、本学図書館員の学部担当制を継続しながら、学生支援センターと連携して人的支援を推進している。彼らは、学生対象の各種ガイダンスを適時行いつつ、教育・研究活動に直接関係する資料を体系的に収集するために、カリキュラムや研究動向を把握しながら図書等の資料を選定している。

本学図書館は「大学教育棟 2014」の 1 階から 3 階及び 4 階の一部（合計：9,022 m²）を専有し、内部には最大約 130 万冊（自動書庫含む、令和元年度末蔵書冊数約 97 万冊）の図書等資料が収容可能である。また 1,040 席の座席を保有しており、これは学生収容定員数の約 15%にあたる。

グループワークやアクティブ・ラーニングといった、課題解決学修に適したラーニング・コモンズを内部（3・4F）に設置する一方で、個室 96 室、個人キャレル席 84 席など、個人学修に適した環境（1・2F）にも配慮している。

図書等資料の閲覧要求に迅速に対応するため、約 85 万冊規模の IC タグ対応自動書庫を設置している。そして学生証等の IC カード化に伴い、入退館ゲートを導入し、安心・安全な学修環境を確保している。

データベースは『CiNii』をはじめとした横断的なデータベースのみならず、分野別、主題別にも対応し利用環境を整えている。平成 24 年度より大規模なデータベース『Web of Science（全分野）』を導入し、引用文献情報の検索も可能となっている。

電子ジャーナルも年々増加し、『EBSCO Academic Search Premier』をはじめ『日経 BP』などを導入し約 9,300 誌の電子ジャーナルが利用可能となっている。いずれも学内 IP サイト契約を行い、利用の便を図っている。

また、本学に所蔵されていない図書等の資料は、大学図書館間の相互貸借や文献複写システムである『NACSIC-ILL』を経由して取寄せ、他大学との相互協力の体制を整えている。

8. 入学者選抜の概要

(1) 受入方針

音楽学科では、音楽の体系的理解に基づき、現代社会における「上演芸術」及び音楽教育の役割を学修し、音楽における総合的実践力、コミュニケーション力及びマネジメント力を有して社会に貢献する人材を養成することを目的としている。そのために以下のような入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を受験生に示し、学生の受け入れを行う。

- a) 高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語および芸術などの内容を理解し、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。
- b) 物事を多面的かつ論理的に考察しようとする態度や、「読み、書く、聞く、話す」の基礎的な 4 技能を身につけている。
- c) 人間、自然、文化、産業、国際などの諸問題に関心を持ち、積極的に社会に貢献しようとする意欲がある。
- d) 多文化、異文化の存在を認め、自分の考えを他者に伝えようとする意欲と態度があると共に、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
- e) 他者と積極的にのかかわり、対話や自らの表現を通して相互理解に努めようとする態度と、入学後に必要となる芸術表現に関する基礎的な技能を有している。
- f) 高等学校教育の内容・水準に配慮し、関連する日本語に関する検定、外国語に関する検定（実用英語技能検定準 2 級以上、TOEIC®L&R400 点以上等）、コンピュータ操作に関する資格、数量的なスキルに関する資格やスコア、古典派のソナタ形式を演奏できるピアノ技術を

有していることが望ましい。

(2) 実施方法

本学科では、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行い、養成する人材像や教育課程との関連性を踏まえて、アドミッション・ポリシーのもと、志願者が高等教育を受けるに相応しい資質や能力を有しているかを多面的に判定する。

入学者選抜は、指定校制推薦入学試験、公募制推薦入学試験、総合型入学審査、学内総合型入学審査、一般入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験、首都圏教員養成総合型入学審査、地域創生推薦入学試験（公募型教員養成推薦）により実施する。本学では、学長を委員長とする入学試験運営委員会を設置し、上述の入学者選抜の基本方針に基づき、入学試験全般について統括する体制を採っている。入学試験運営委員会は本学の入学試験の在り方について、その方針を策定し、入学試験の実施方法について具体的な審議、検討を行う。

9.取得可能な資格

音楽学科では、中学校教諭1種免許状（音楽）および高等学校教諭1種免許状（音楽）の国家資格を取得することができる。ただし、資格取得は卒業要件ではない。

10.教育実習の具体的計画（資料6参照）

(1) 実習の目的

教育実習では、音楽の専門的な知識・技能をもとに教育現場における課題を認識し、分析、解決する言語力、論理的思考力、マネジメント力、コミュニケーション力及び表現力を身に付けさせる。また、社会人としての倫理観と責任感を醸成する。

学級経営や教育課程・教育方法、生徒指導をはじめ学校全般の教育活動を総合的に体験し、考察することで、教育の厳粛さ、教師としての使命を認識するとともに、自発的・継続的に省察できる力を備えることを目指す。

(2) 実習の具体的内容、実習水準の確保の方策

実習は事前指導、教育実習（現場実習）、事後指導の組み合わせで実施し、知識（理論）や技能（実践）の往還を図る。具体的な内容とそれに伴い習得しようとしている知能・技術は以下の通りとする。教育実習指導教員で共有し、指導にあたる。

①事前指導

教育実習（現場実習）に先立ち、指導計画と指導案、学級経営や生徒指導、道德教育、教員の服務、さらには学校教育の実情や教育実習の心構え等総括的な指導を行う。

②教育実習（現場実習）

授業の観察、生徒指導への参加、実地授業の実施等の体験を通して、授業の在り方や教師としての役割を果たすのに必要な知識、技能、態度などについて理解を深めさせる。

<第1週目（導入）>

教育計画や活動の概要をつかみ、指導法の基本を習得する。

- a) 学校・学年・学級経営の概要、生徒についての基本的理解、授業の観察と指導法についての理解、生徒指導への参加など。
- b) 講話・・・実習の心構えと実習校の教育、学級経営、学習指導、道德・総合的な学習の時間、特別活動の指導、保健安全指導、生徒指導など。

<第2週目（展開）>

- a) 示範授業・・・担当教科、道德、学級指導等の授業。基本実習を活かし充実した実習へと積み重ねを図る。
- b) 授業実践による学習指導法の実証的習得。

c) 学級経営についての基本的事項の把握、生徒指導への参加など。

<第3週目(まとめ)>

教育実習の一層の充実を図り、その成果をまとめる。

a) 実地授業・・・担当科目、道徳・総合的な学習の時間又は学級指導。

b) 研究授業と研究会。

c) 教育実習反省会・・・まとめと今後の課題。

③事後指導

現場実習終了後、教育実習事後報告書及び実習日誌をもとに本学の教育実習指導教員を中心に現場実習の反省を行い、これからの課題等についての指導を行う。

(3) 成績評価体制及び単位認定方法

以下の通り、教育実習の評価は実習校の評価及び、事前指導、事後指導の振り返りを踏まえ、総合的に評価する。

a) 実習先の評価(教育実習評価票、総合所見)

b) 実習日誌の内容

c) 事後報告書の内容

d) 実習及び事前・事後指導の出席状況

(4) 実習前の準備状況

感染予防に関する対策として、1年次の参観実習(中学校または高等学校での1日現場体験)実施の際に麻疹の抗体確認を行う。2回以上の接種記録が確認できない場合には抗体検査の結果もしくは予防接種証明書の提出を義務付ける。

保険は一括加入とする。学生自身が教育実習中に被った災害、障害に対しては「学生教育研究災害損害保険」に、学生が教育実習中に生徒を含む学校関係者に怪我を負わせてしまった、または備品等を損壊してしまったことによる法律上の損害賠償を保障するための「学研災付帯賠償責任保険」に加入する。

守秘義務やSNSの利用については事前指導および教育実習直前ガイダンスにおいても注意を喚起すべく指導を行う。

(5) 教員の配置並びに巡回指導計画

教育実習生には教育実習指導教員を割り当て、訪問指導等を行う。

巡回(訪問)指導については、大学近郊の地域(東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県他)において実施し、実習生に対して個別指導を行う。遠方の実習校においては電話やメールを用いた個別指導ならびに、学生の様子等について実習校の関係者にヒアリングを行う。また、年1回「実習協議会」を開催し、実習校の校長や実習担当教員などと意見交換を行うことで、次年度以降の指導に生かす。

(6) 実習先の確保

本学では、東京都や神奈川県等の教育委員会や校長会への依頼を中心に実習校を決定している。芸術学部において平成30～令和2年度に教育実習が行われた、または行う予定の中学校、高等学校(教科「音楽」)は資料7のとおりである。

(7) 実習の時期

本学及び実習先の教育日程を考慮して実習の時期を決定する。その際、複数の学生を受け入れてもらう実習先に対しては、実習が重ならないよう配慮する。なお、基本的には、実習は3年次の9月上旬より11月下旬の間に行う。

(8) 実習先との連携体制

本学教師教育リサーチセンターが窓口となり、実習開始年度当初に実習校宛に「教育実習指導のお願い」を送付して教育実習の目的を伝え、指導等の依頼を行う。また、あわせて「実習日誌」「教育実習評価票」「教育実習生出勤簿」等の資料についても送付する。

前述のとおり、実習中に教育実習指導教員が実習校の校長や実習担当教員から意見を聴取するとともに、年1回「実習協議会」を開催し意見交換を行うことで、次年度以降の指導に生かす。

11. 管理運営

(1) 教授会

教授会は、学部の専任教授をもって組織する。ただし、審議事項に応じて、准教授、助教、及びその他必要な教職員を出席させることができる。教授会は、原則として毎月1回定例で開催する。召集は学部長が行う。

教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- a) 学生の入学、卒業
- b) 学位の授与
- c) 教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

(2) 大学部長会

大学部長会は、全学に共通する教育及び研究の施策を審議するために設置されている。構成員は、学長、高等教育担当理事、学部長、研究所長、教師教育リサーチセンター長、国際教育センター長、ELFセンター長、学生支援センター長、入試広報部長、キャリアセンター長、教学部長、教学事務部長である。大学部長会は、原則として毎月1回定例で開催する。召集は学長が行う。

大学部長会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- a) 教育、研究及びこれに関連する人事に関する基本方針等、その運営における全学的な事項
- b) 教授会の審議に関する基本的共通的な事項
- c) 各種委員会に関する事項
- d) 本大学学則、その他関係規程等の制定・改廃及び運用に関する事項
- e) 学長の諮問に関する事項
- f) その他本大学の運営に属する必要と認められる重要な事項

(3) 各種委員会

それぞれの専門分野について審議研究し、その運営を図るために次の15の委員会を設置している。教務委員会、教職課程委員会、学生委員会、入学試験運営委員会、課外活動支援委員会、キャリア・就職指導委員会、FD委員会、大学学事運営委員会、国際教育推進委員会、インターシップ委員会、ELF運営委員会、環境エデュケーター委員会、アクティブ・ラーニング推進委員会、教育再生加速委員会、IR委員会で、各学部の専任教員と事務系職員で構成され、定期的に行っている。各委員会の具体的な構成員、審議事項、開催頻度等については、玉川大学教授会等運営規程に定めている。

12. 自己点検・評価（資料8、9参照）

(1) 実施体制・実施方法

本学においては、教育研究等の活動及びその運営に関し、総合的な点検・調査・分析・評価を行い、その結果に基づく改善に努め、教育研究水準の質を保証し、その向上を図ることを目的として、平成4年に「教育研究活動等点検調査委員会（以下「点検調査委員会」）を発足した。委員会の委員は理事長・学長（委員長）、常勤の理事、各学部長、各研究科長、高等教育附置機関の長、

高等教育支援機関の長、管理部門の各部長などで構成している。

学部等の各組織が自らその諸活動において点検調査を行い、その結果に基づく改善に努めるため、点検調査委員会の下に「学部・研究科部会」(各学部・研究科の部会で構成)、「大学共通部会」(教務部会、教員養成部会、国際教育部会 他全 10 部会で構成)、「管理運営分科会」を設け、それぞれ点検・評価を行っている。「学部・研究科部会」は各学部・研究科における点検・評価を、「大学共通部会」は大学共通事項の点検・評価(学部を横断した点検・評価)を行う。

更に、「学部・研究科部会」「大学共通部会」「管理運営分科会」の点検・評価結果をもとに、全学的観点から改善施策案の適切性や実際の改善状況をチェックする「大学分科会」を置いている。

年度初めに点検調査委員会において各分科会、部会における年間の重点・点検評価項目及びスケジュールを共有し、年度末に当該年度の活動内容を分科会、部会ごとに点検調査委員会にて報告している。点検・分析の実施にあたっては指定統計調査などのデータを利用し、根拠に基づく点検・評価を実施している。

また、本学では、より客観的な意見を取り入れ、教育研究水準の向上を図るため、平成 14 年 4 月に教育研究活動等有識者会議を発足した。年 2 回定例会議を開催し、高等教育・初等中等教育に高い識見を持つ委員、民間関係者を含む学識経験者など多方面で高い見識を持つ学外の委員により構成し、本学の教育研究活動ならびに管理運営に関する意見交換を行っている。また、点検調査委員会がまとめた「自己点検・評価報告書」に対する評価、意見、助言をもらい、調査報告としてまとめてホームページで公表している。

(2) 評価項目

以下の項目に関する点検、調査、分析、評価を行い、それをもとに改善を図っている。

①理念・目的

大学および学部・研究科の理念・目的の適切性。

②内部質保証

a) 内部質保証の推進に責任を負う体制及び内部質保証システムの適切性

b) 教育研究活動、自己点検・評価結果、財務その他情報公開の適切性

③教育研究組織

教育研究組織(学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織)の適切性

④教育課程・学習成果

a) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性

b) 教育課程の適切性

c) 学習の活性化、効果的な教育を行うための措置

d) 成績評価、単位認定、学位授与の適切性

e) 学習成果を適切に把握及び評価するための措置

⑤学生の受け入れ

a) アドミッション・ポリシーの適切性

b) 学生募集及び入学者選抜、運営体制の適切性

c) 定員設定および定員管理の適切性

⑥教員・教員組織

a) 教員組織編制の適切性

b) 教員の募集、採用、昇任等の適切性

c) 教員の資質向上のための措置

⑦学生支援

学生支援体制及び学生支援の適切性

⑧教育研究等環境

a) 教育研究活動に必要な施設・設備の適切性

b) 研究倫理を遵守するための措置

⑨社会連携・社会貢献

社会連携・社会貢献活動の適切性

⑩大学運営・財務

a) 学長、教授会等の権限の適切性

b) 法人及び大学運営に関する業務、教育研究活動の支援等に必要な事務組織の適切性

c) 事務職員及び教員の大学運営に対する意欲・資質向上を図るための措置

(3) 結果の活用・公表

自己点検・評価の結果明らかになった課題・改善施策については、点検調査委員会で共有の上、教育研究等の運営を司る各種委員会や学部・研究科において具体的な改善案を検討、実施している。公表については、平成 13 年度に「自己点検・評価報告書 2000」、平成 17 年度に「自己点検・評価報告書 2005」、平成 23 年度に「自己点検・評価報告書 2010」、そして平成 30 年度に「自己点検・評価報告書 2017」をそれぞれウェブページに掲載した。

なお、平成 30 年度に認証評価機関（財団法人大学基準協会）による 3 回目の認証評価（機関評価）を受け、平成 31 年 3 月に適合と認定されている。

また、大学院教育学研究科教職専攻（専門職学位課程）は平成 27 年度に認証評価機関（教員養成評価機構）の教職大学院認証評価を受け、適合と認定されている。

13.情報の公表

学校法人玉川学園情報公開規程の第 1 条に「この規程は、学校法人玉川学園（以下「本法人」といい、設置する学校を含む。）が保有する情報の公開と本法人寄附行為第 36 条第 2 項に基づく書類の閲覧に関し必要な事項を定める。但し、個人情報に関する事項については別に定める学校法人玉川学園個人情報保護規程によるものとする。」と規定し、公開する情報を第 2 条に示している。

具体的には、学校教育法施行規則第 172 条の 2 及び教育職員免許法施行規則 22 条の 6 に定められた情報に加え、学内外への情報の提供としては「玉川学園総合パンフレット（日本語版・英語版）」「全人（毎月発行）」「全人特別号」「父母会報」（本学学生の保護者向け）、「大学案内」、「研究者情報総覧」、「FD 活動報告書」などがあり、すべて「玉川大学・玉川学園ホームページ（<http://www.tamagawa.jp/>）」で公開している。

また、大学関係者の情報公開請求に対応できるよう財産目録、財務諸表、事業報告書、役員等名簿、監査報告書、役員に対する報酬等の支給の基準及び寄附行為を備え付けており、同時に前述のホームページで公開している。

なお、「大学教育情報（<http://www.tamagawa.jp/university/introduction/information/>）」に以下に記載する項目を一覧で公開している（玉川大学玉川学園総合サイト＞玉川大学＞大学教育情報）。

- a) 大学の教育研究上の目的および 3 つの方針に関すること
- b) 教育研究上の基本組織に関すること
- c) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- d) 統計データ（入学者数、在籍者数、卒業者数、進学者数、就職者数）
- e) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること
- f) 学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定にあたっての基準に関すること
- g) 大学の教員の養成の状況に関すること
- h) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- i) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- j) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- k) 財務に関する情報（事業計画書・予算、事業報告書・決算）

その他、以下の項目についてもホームページ等で公開している。

- a) 本学の教育理念
(<http://www.tamagawa.jp/education/idea/>)
- b) 大学の概要（学則、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、FD 活動、自己点検・評価、研究者情報など）
(<http://www.tamagawa.jp/university/introduction/outline/>)
- c) シラバス
(<https://unitama.tamagawa.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp>)
- d) アクレディテーション（認証評価結果）
(<http://www.tamagawa.jp/introduction/accreditation.html>)
- e) 設置届出書及び設置計画履行状況報告書
(<http://www.tamagawa.jp/introduction/assessment/workshop/past.html>)
- f) コンプライアンス方針
(<http://www.tamagawa.jp/introduction/compliance.html>)
- g) 社会・地域連携
(<http://www.tamagawa.jp/social/>)
- h) 玉川ライブラリ（総合パンフレット、情報誌「Puente たまがわ」、「全人特別号」大学案内など）
(<http://www.tamagawa.jp/introduction/study/library.html>)
- i) 月刊誌「全人」
(<http://www.tamagawa.jp/serial/zenjin/>)

14.教育内容等の改善を図るための組織的な取組（資料 10 参照）

本学では、教育研究活動の向上・能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、各学部に FD 担当教員並びにファカルティ・ディベロッパー（以下 FDer）を配置し、当該学部の特色に合わせた様々な FD 活動を展開している。さらにそれを横断する形で、教学部長を委員長とした全学的な「大学 FD 委員会」を設置し、全学的な課題や情報の収集と伝達及び他大学における FD 活動の情報収集を行うと共に、ワークショップや事例報告会等を開催し、全学的に教員の教育力向上を図っている。

具体的には、授業方法改善のためのワークショップ（アクティブ・ラーニングを促す授業設計、ルーブリック評価）の実施、FDer の養成、ティーチング・ポートフォリオの導入と利用拡大に向けたメンター（TP を作成する教員を支援する教員）養成、著名な有識者を講演者として招いた講演会の開催などである。さらに、ピアレビューとして教職員による授業参観を毎年行っている。

芸術学部においては、芸術学部長を中心とした主任会の構成員及び FD 委員が中核メンバーとなって行っている。上記の大学全体のと定期開催の主任会と主任研修会で情報の共有や分析を行い、目標や課題の設定、及び手段などの基本方針を検討する。中核メンバーや FD 委員はもとより、課題ごとの担当教員が報告や成果および方策等を教授会で報告し、組織的な取り組みとする仕組みを構築している。また、各学科の主任は学部 FD の中核メンバーであるので、学科内の取り組みをまとめることや推進する役割を担い、教授会と学科会が連動して FD 活動を推進させている。

芸術学部では具体的に次のような FD 活動を実施している。

- a) 講演会・ワークショップの開催
- b) 授業評価アンケートの実施（年 2 回）
- c) 授業成果報告書の作成
- d) 高大連携の観点から学外研究会等への教員派遣
- e) 国内外の大学の教育実態視察の実施（教育方法や管理についての調査）
- f) 専任教員と非常勤教員合同の教育目標の確認を目的とした研修会

15.社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 社会的・職業的自立に関する指導等の実施に向けた体制の整備

本学では、キャリアデザイン及び就職の支援を、各学部・学科の学級担任、就職担当教員、教職担当教員とキャリアセンター、教師教育リサーチセンター等関係部署が連携して行っている。

キャリアセンターでは企業及び公務員への就職希望者を対象に、教師教育リサーチセンターでは教員及び保育士志望の学生を対象に支援を行っている。

キャリアセンターにはキャリア・コンサルティング資格保有者（専任・兼任）を配置し、個別指導に加え、就職ガイダンス、業界研究会等を開催している。

教師教育リサーチセンターには教員採用に係る支援を行う職員に加え、校長経験者を置き、教育現場に即した指導を行っている。

就職担当教員で構成するキャリア・就職指導委員会、教職担当で構成する教職課程委員会を設置し、全学を横断して就職・教職及びキャリア支援に関する事項を共有、審議することで支援部署と教員が連携を取りながら支援を行っている。

(2) 教育課程内の取組

経済産業省が平成 18 年から提唱している「社会人基礎力」を含め、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培うために、教育課程内では次のような取組を行っている。

まず一年次に、前述の『一年次セミナー101』、『一年次セミナー102』において、4 年間の大学生活の中でどのように人生の目標を設定しキャリアデザインを行っていくかを考え学ぶ。働くことの意義や将来の人生設計など、一人ひとりが将来の目標を立てるための知識と方法を学修する。また、社会人として必要な物事の考え方や倫理観、コミュニケーションの在り方、社会との関わり方についても学ぶこととなる。具体的な内容としては、「社会人としての自由と責任」、「個人と社会とのかかわり」、「卒業後のキャリアアップ戦略を見据えた大学 4 年間の学修戦略」などである。『一年次セミナー101』、『一年次セミナー102』は全学共通科目であるが、音楽学科ではいずれの科目も一クラス 30 名程度とし、クラス担任が授業を担当する。

1 年次から 4 年次までさまざまな演習および実技・実習科目を配置し、その科目を継続的に履修することで、上演芸術に関わるさまざまな仕事の職能および社会的役割を理解し、周囲と協働して相互の立場や特性を尊重しながらリーダーシップを発揮し、チームワークを意識することができるようになる。

4 年次では学修の成果を卒業演奏、卒業創作、卒業公演、卒業論文などにより発表する。この学修を通して、課題を認識し、分析し、解決するための言語力・論理的思考力・マネジメント力・コミュニケーション力・表現力を身に付ける。それにより、多様化する社会の諸問題に対応できる力を養うとともに、創作することを通じて社会に貢献する意識をもつことになる。

(3) 教育課程外の取組（資料 11 参照）

上述したキャリアセンター及び教師教育リサーチセンターが各種講座、セミナー、研究会、ガイダンス、面談等の計画を立て、毎年内容を見直しながら実施している。

具体的には、各種ガイダンスや「学内企業説明会」「業界研究会」「OB・OG 交流会」「卒業生による面接対策」などを通して就職観・職業観の醸成を図り、また、就職活動や就職試験対策として、「就職ガイダンス」「自己 PR 作成講座」「履歴書・エントリーシート作成講座」「教員採用模擬試験」「公務員対策講座」「面接対策セミナー」「グループディスカッション対策」「マナー講座」「適職診断テスト」「労働法セミナー」などを実施している。

その他、通年で、「キャリアカウンセリング（個別面談）」や「模擬面接」、「教職講座」を実施している。

また、キャリア・就職への意識を高めるために、3 年次生に「就職ハンドブック」を配付して啓蒙を図っている。

キャリアセンターと教師教育リサーチセンターでは、就職情報 Web サイト「たまナビ」を共有利用し、学生の志望変更にもリアルタイムに対応できるシステムを構築している。このサイトでは、年間 11,000 社の求人及び企業からの最新情報、本学独自の企業情報、OB・OG の在職状況などを提供している。

継続学習センターにおいては、秘書検定対策講座、TOEIC®テスト対策、英会話講座、フランス語、スペイン語、中国語をはじめ自然、芸術、日本文化、語学、健康・スポーツ、教育、資格、教養に関する約 200 の講座を開設している。学生は教育課程で学ぶ以外に、自身の興味・関心に応じて受講することが可能である。有料ではあるが、同じキャンパス内で受講することができるメリットがある。

全学の学生対象に行っている上述の取組を、本学科学生にも同様に行う。

資 料 目 次

資料 1	芸術学部音楽学科 人材養成および教育課程の概要
資料 2	芸術学部音楽学科 教育課程の構成
資料 3	芸術学部音楽学科 教育課程表
資料 4	芸術学部音楽学科 カリキュラム・ツリー
資料 5	芸術学部音楽学科 履修モデル
資料 6	芸術学部音楽学科 教育実習実施計画
資料 7	教育実習先一覧
資料 8	教育研究活動等点検調査委員会組織図
資料 9	学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程
資料 10	玉川大学 FD 委員会規程
資料 11	就職支援プログラムについて

芸術学部 音楽学科

人材養成及び教育課程の概要

— 人・音・音楽・社会・生活・文化・芸術・教育 を通して —
音楽の体系的理解に基づき、現代社会における上演芸術および音楽教育の役割を学修し、
音楽における総合的実践力、コミュニケーション力およびマネジメント力を有して社会に
貢献できる人材を養成する

音楽学科のディプロマポリシー

■知識・理解

音楽に関する専門的な技術および知識を身に付けるとともに、自然・社会・多文化・異分野と関連させながら理解することができる。

■汎用的能力

音楽の専門的な知識・技能をもとに、多様化する社会の諸問題に対し、解決しようとする意志をもち、認識、分析、解決するための言語力、論理的思考力、マネジメント力、コミュニケーション力、および表現力を身に付けている。

■態度・志向性

音楽の専門的な知識・技能を生かし、社会人としての倫理観と責任感をもち、生涯にわたり積極的に学び続ける生涯学習力を身に付けている。

進化する社会の音楽活動に携わり、国際的な視野を持ち、他者と価値観、倫理観を共有し、音楽を通して社会に貢献する意識をもつことができる。

人材育成の目標・教育課程と主な教育科目

教育によって次世代や
社会に寄与する人材

芸術・音楽によって社会や経済に貢献する人材

音楽教育コース

- (1) 音楽の基礎的理論や専門的な知識と音楽教育に関する音楽表現法や実践の指導力を修得することができる。
- (2) 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を生かし、国際的な視野を持ち、文化芸術力を生かしながら、学校教育や社会の現場等で必要な思考力・創造力、教育問題解決力、実践的指導力、自己表現力などを身に付けることができる。
- (3) 音楽教育の現場と学外機関との連携を図る協働力、ネットワーク力や文化芸術を核としたマネジメント力を高める基礎力を身に付けることができる。

中学校・高等学校教諭（音楽）/
社会教育主事/
図書館司書

演奏・創作コース

- (1) 音楽の演奏技術及び創作に関して専門的な能力を修得することができる。
- (2) 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を生かし、国内外における演奏・創作活動に対応できる文化芸術力、創造力、演奏表現力、アンサンブル力及びコミュニケーション力を身に付けることができる。
- (3) 進化する音楽活動に携わり、マネジメント力を身に付け、音楽文化に積極的に寄与する意識を持つことができる。

演奏家/音楽教室講師/海外留学
大学院進学/国内外企業・他

ミュージカルコース

- (1) 総合芸術であるミュージカルの専門的な知識や歌唱力、演技力を修得することができる。
- (2) 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を生かし、多種多様なジャンルの音楽から形成されるミュージカルに対応できる創造力、歌唱力、アンサンブル力、自己表現力、コミュニケーション能力を身に付けることができる。
- (3) 進化するミュージカルの舞台に携わり、マネジメント力を身に付け、ミュージカルの上演に積極的に寄与する意識を持つことができる。

歌手/俳優/劇団員/国内外企業・他

音楽学科の教育課程と主な教育科目

【音楽教育コース】

鍵盤楽器基礎/和楽器指導法（管・絃・打）/
音楽科指導法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ/器楽教育法Ⅰ（管・打・合奏）/器楽教育法Ⅱ（リコーダー・弦楽器）/
歌唱教育法（合唱）/民族音楽概説/指揮法/作曲法Ⅰ、Ⅱ

【教育課程】

教育原理/教職概論/教育実習/教育実践演習

【演奏・創作コース】

音楽専門実技Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ/アンサンブルⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ/第九演奏表現 A.B.C/作家理解と作品講読/声楽Ⅰ、Ⅱ/器楽Ⅰ、Ⅱ/演奏・創作Ⅰ、Ⅱ/指揮法/対位法/楽式論/歌曲伴奏法/民族音楽概説/作曲法Ⅰ、Ⅱ/卒業演奏・卒業創作

【ミュージカルコース】

アンサンブルⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ/演技・舞踊入門/演技・舞踊基礎演習/舞台技術基礎演習/演劇理論/舞台技術基礎演習/オーディション演習/世界演劇・舞踊史Ⅰ、Ⅱ/上演実習 A・B/卒業創作・研究 A.B/ミュージカル表現Ⅰ、Ⅱ

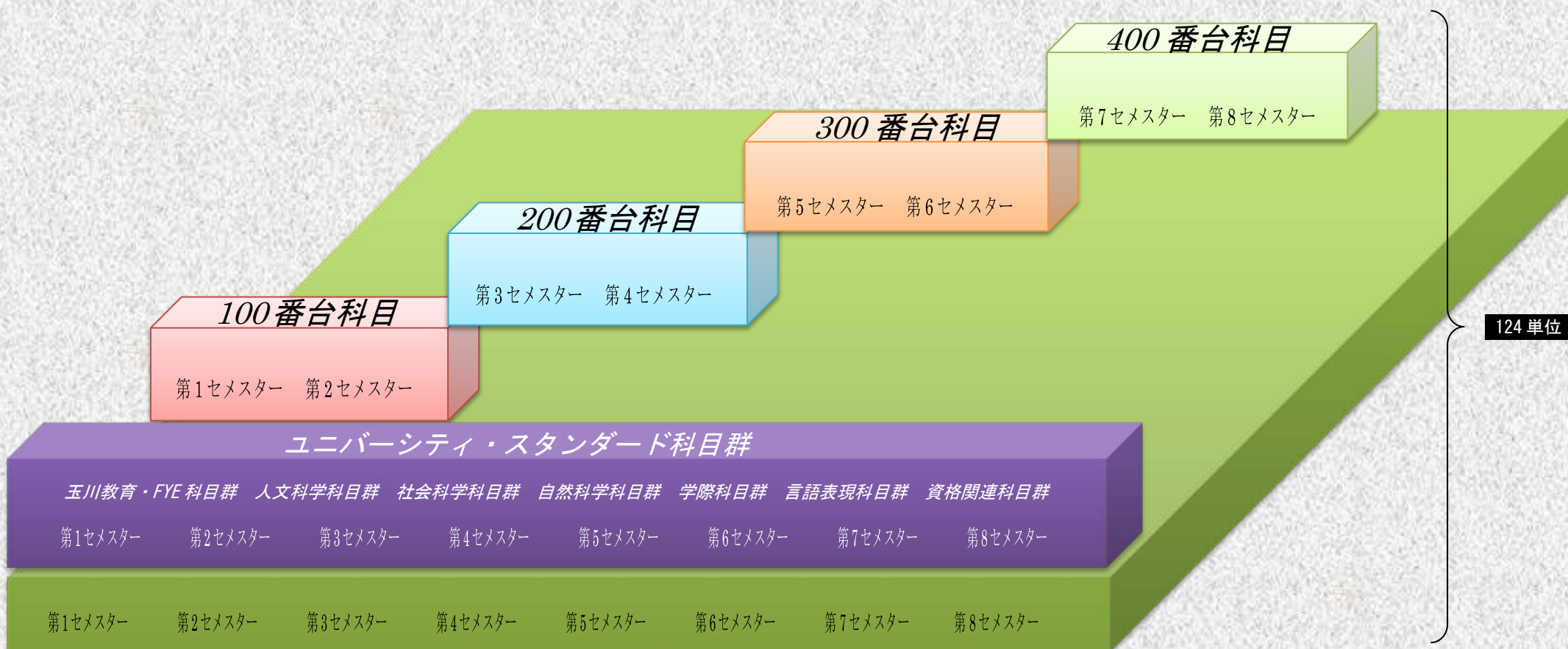
【音楽学科共通科目】

芸術概論/音楽理論/日本音楽史/西洋音楽史/現代音楽史/ソルフェージュⅠ、Ⅱ

【ユニバーシティ・スタンダード科目】

玉川教育・FYE 科目群、人文科学科目群、社会科学科目群、自然科学科目群、学際科目群、言語表現科目群、資格関連科目群

芸術学部 音楽学科 教育課程の構成



芸術学部 音楽学科 教育課程表

			1年次		2年次		3年次		4年次									
			1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター									
ユニバーシティ・スタンダード科目群	・F Y E 科目群	必修	一年次セミナー101	2	一年次セミナー102	2												
			健康教育	1	玉川の教育	0.3												
		選択	音楽Ⅰ	0.7	音楽Ⅱ	1												
			二年次セミナー201	2	二年次セミナー202	2	三年次セミナー301	2	三年次セミナー302	2								
					全人教育論	2												
					ピアリーダー	2												
	人文科学 科目群	文化人類学		2	比較文化論	2	歴史(世界)	2	哲学	2	演劇史	2	日本学入門	2				
		美術史		2	日本文学	2	歴史(日本)	2	ロジック	2	英語学	2	人文科学アカデミックスキルズ(リーディング)	1				
		ことばと文化		2	外国文学	2	音楽史	2	宗教学	2	日本語学	2	人文科学アカデミックスキルズ(ライティング)	1				
				民族学入門	2	倫理学	2	世界の宗教と文化	2									
						キリスト教学	2	名著講読(人文科学)	1									
								科学史	2									
										Japanology	2	Modern Japanese History	2					
												Japanese Pop Culture	2					
	社会科学 科目群	会計学		2	経済学(国際経済を含む。)	2	マーケティング	2	心理学	2	観光学入門	2	社会科学アカデミックスキルズ(ライティング)	1				
		コミュニケーション論		2	経営学	2	政治学(国際政治を含む。)	2	社会学	2	社会科学アカデミックスキルズ(リーディング)	1						
				市民社会と法	2	ボランティア概論	2			Academic Communication	2	国際関係論	2	名著講読(社会科学)	1			
										科学技術社会論	2							
	自然科学 科目群	情報科学入門		2	データ処理	2	化学入門	2	環境科学	2	解析学入門	2	統計学入門	2	科学入門	2	自然科学アカデミックスキルズ(ライティング)	1
		ネットワーク入門		2	マルチメディア表現	2	生物学入門	2	数学入門	2	代数学入門	2	物理学入門	2	自然科学アカデミックスキルズ(リーディング)	1		
				STEM入門(科学と社会)	2			実践の物理学	2	地球科学	2	エネルギー科学	2	宇宙科学	2	名著講読(自然科学)	1	
										人工知能と社会	2							
	学際科目群	マクロ脳科学		2	環境教育	2	情報倫理と社会	2	インターンシップA	2	インターンシップD	1	フィールドワークC	2	地域創生プロジェクトC	2	地域創生プロジェクトF	3
		健康スポーツ理論		2	オリンピック文化論	2	TAPファシリテーションⅠ	2	インターンシップB	2	フィールドワークA	2	地域創生プロジェクトA	1	地域創生プロジェクトD	2		
		生涯スポーツ演習		2	マスメディアと社会	2	海外留学入門	2	インターンシップC	1	フィールドワークB	2	地域創生プロジェクトB	1	地域創生プロジェクトE	3		
				ミクロ脳科学	2	TAPファシリテーションⅡ	2	国際研究A	2	国際研究C	2	国際研究E	4					
				プレゼンテーションスキル	2	環境教育ワークショップⅠ	2	国際研究B	2	国際研究D	3	国際研究F	5					
						現代文化論	2	複合領域研究 201～299	2	環境教育ワークショップⅡ	2	コーオプ・プログラム	2					
								スポーツ史	2	Presentation Skills in English	2	野外教育	2					
										栄養学	2	キャリア・マネジメント	2					
	科目表現語群	ELF 101		4	ELF 201	4	ELF 401	4	日本語表現101	2	ドイツ語 101	2	中国語 101	2				
		ELF 102		4	ELF 301	4	ELF 402	4	フランス語 101	2	スペイン語 101	2						
	資格関連科目群				ELF 202	4	ELF 302	4	日本語表現102	2	フランス語 102	2	ドイツ語 102	2	スペイン語 102	2	中国語 102	2
		学校経営と学校図書館		2	学校図書館メディアの構成	2	情報メディアの活用	2	生涯学習概論	2	図書館概論	2	図書館制度・経営論	2	図書館情報資源特論	1	図書・図書館史	1
				図書館情報技術論	2	図書館サービス概論	2	情報サービス論	2	児童サービス論	2	図書館情報資源概論	2	図書館施設論	1	生涯学習と生涯教育	2	
						情報資源組織論	2	社会教育課題研究	2	社会体育論	2	博物館概論	2	博物館資料保存論	2	博物館展示論	2	
						生涯学習支援論B	2	社会教育経営論 B	2									
								読書と豊かな人間性	2	情報資源組織演習B	1	社会教育実習	2	博物館経営論	2	博物館教育論	2	
								情報資源組織演習A	1	生涯学習支援論A	2	社会教育経営論 A	2	博物館資料論	2	博物館情報・メディア論	2	
										学習指導と学校図書館	2	情報サービス演習A	1	情報サービス演習B	1	博物館実習	3	
	専門科目群	100番台科目	必修	芸術概論	2	音楽理論	2	ソルフェージュⅠ	2									
				アンサンブルⅠ	2	音楽専門実技Ⅰ	2	器楽基礎A	2	声楽基礎A	2	演技・舞踊入門	2	舞台技術基礎演習	2	鍵盤楽器基礎	2	和楽器指導法(管・絃・打)
			選択		ソルフェージュⅡ	2	アンサンブルⅡ	2	音楽専門実技Ⅱ	2	器楽基礎B	2	声楽基礎B	2	演技・舞踊基礎演習	2	上演基礎実習	4
		200番台科目	選択					音楽文化論	2	アンサンブルⅢ	2	器楽基礎C	2	ミュージカル表現Ⅰ	4	芸術と社会	2	
								和声学Ⅰ	2	音楽専門実技Ⅲ	2	声楽基礎C	2	演劇理論	2	音楽科指導法Ⅰ	2	
				和声学Ⅱ	2	音楽専門実技Ⅳ	2	ミュージカル表現Ⅱ	4	器楽教育法Ⅰ(管・打・合奏)	2							
300番台科目		選択					アンサンブルⅣ	2	器楽基礎D	2	音楽科指導法Ⅱ	2	日本音楽史	2				
							第九演奏表現A	2	声楽基礎D	2	創作教育法	1						
											民族音楽概説	2	現代音楽史	2	世界演劇・舞踊史Ⅰ	2	器楽教育法Ⅱ(リコーダー・弦楽器)	2
											作家理解と作品講読	2	アンサンブルⅤ	2	オーディション演習	2	伴奏法	2
											歌唱教育法(合唱)	2	演奏・創作Ⅰ	2	上演実習A	4	歌曲伴奏法	2
											指揮法	2	器楽Ⅰ	2	劇場接遇演習(ゲストリレーション)	2		
400番台科目		選択									対位法	2	声楽Ⅰ	2	音楽科指導法Ⅲ	2		
													楽式論	2	文献資料講読	2	音楽科指導法Ⅳ	2
													西洋音楽史	2	器楽Ⅱ	2	鑑賞教育理論(音楽)	2
													第九演奏表現B	2	声楽Ⅱ	2		
													アンサンブルⅥ	2	世界演劇・舞踊史Ⅱ	2		
													演奏・創作Ⅱ	2	上演実習B	4		
													作曲法Ⅰ	2	音楽教育実践法	2		
													器楽Ⅲ	2	演奏・創作Ⅲ	2		
													声楽Ⅲ	2	卒業創作・研究A	4		
													アンサンブルⅦ	2	卒業論文執筆法	2		
													作曲法Ⅱ	2				
													器楽Ⅳ	2				
													声楽Ⅳ	2				
													アンサンブルⅧ	2				
													第九演奏表現C	2				
													卒業演奏・卒業創作	2				
												卒業創作・研究B	4					
												卒業論文	2					
教職関連科目群			日本国憲法	2	教職概論	2	学習・発達論	2	教育インターンシップA	2	教育インターンシップC	1						
			教育原理	2	教育の制度と経営	2	教育の方法と技術(中・高)	2	教育インターンシップB	2	教育インターンシップD	1						
				体育	1	教育哲学	2	発達心理学	2	教育心理学	2	教育社会学	2					
					特別支援教育	1	総合的な学習の時間の理論と方法(中・高)	1	特別活動の理論と方法(中・高)	1	精神保健	2	異文化理解と教育	2				
							生命と性の教育	2										
									教育課程編成論(中・高)	2	道徳教育の理論と方法(中)	2	生徒・進路指導の理論と方法(中・高)	2	教育相談の理論と方法(中・高)	2		
												教育実習(中学校)	5	教育実習(高等学校)	3	教職演習A	1	
																教職実践演習(中・高)	2	
																教職演習B	1	



芸術学部 音楽学科

●履修モデルA(楽器演奏に関する学びを通して人材養成の目的を達成するモデル)

【演奏・創作コース】

		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業必要 単位数
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター		
スタンダード科目群・ ユニバーシティ・ コミュニティ・ グローバル科目群	玉川教育・FYE 科目群(必修)	健康教育 音楽I 一年次セミナー 101	1 0.7 2	玉川の教育 音楽II 一年次セミナー 102	0.3 1 2												7 単位	
	人文科学科目群			人文科学アドバンストキルズ(オーディナル)	1	音楽史	2							ことばと文化	2		21 単位	
	社会科学科目群	コミュニケーション論	2					ボランティア概論	2									
	自然科学科目群							ネットワーク入門	2						マルチメディア表現	2		
	学際科目群									現代文化論	2				環境教育	2		
	言語表現科目群					ELF 101	4											
専門科目群	100番台科目群	芸術概論 ソルフエージュⅠ 音楽専門実技Ⅰ アンサンブルⅠ 器楽基礎A	2 2 2 2 2	音楽理論 ソルフエージュⅡ 音楽専門実技Ⅱ アンサンブルⅡ 器楽基礎B	2 2 2 2 2												96 単位	
	200番台科目群			音楽文化論 音楽専門実技Ⅲ 器楽基礎C 和声学Ⅰ アンサンブルⅢ	2 2 2 2 2	日本音楽史 音楽専門実技Ⅳ 器楽基礎D 和声学Ⅱ アンサンブルⅣ 第九演奏表現A	2 2 2 2 2 2											
	300番台科目群							作家理解と作品講読 声楽Ⅰ 器楽Ⅰ 演奏・創作Ⅰ 指揮法 対位法 アンサンブルⅤ	2 2 2 2 2 2 2	西洋音楽史 声楽Ⅱ 器楽Ⅱ 演奏・創作Ⅱ 第九演奏表現B 楽式論 アンサンブルⅥ 文献資料講読	2 2 2 2 2 2 2	民族音楽概説 歌曲伴奏法 現代音楽史	2 2 2					
	400番台科目群												演奏・創作Ⅲ 器楽Ⅲ 作曲法Ⅰ アンサンブルⅦ	2 2 2 2	卒業演奏・卒業創作 器楽Ⅳ 作曲法Ⅱ アンサンブルⅧ 第九演奏表現C	2 2 2 2		
	履修単位数合計		15.7単位		14.3単位		16単位		16単位		16単位		16単位		16単位			14単位

芸術学部 音楽学科

●履修モデルB(ミュージカルに関する学びを通して人材養成の目的を達成するモデル)

【ミュージカルコース】

		1年次			2年次			3年次			4年次			卒業必要 単位数
		1セメスター		2セメスター	3セメスター		4セメスター	5セメスター		6セメスター	7セメスター		8セメスター	
スタンダード 科目群	ユニバーシティ・ スタンダード科目群	健康教育 音楽I 一年次セミナー 101	1 0.7 2	玉川の教育 音楽II 一年次セミナー 102	0.3 1 2									7 単位
	人文科学科目群	音楽史	2				演劇史	2			人文科学アカデミックス(リサーチ)	1		19 単位
	社会科学科目群												コミュニケーション論	2
	自然科学科目群										ネットワーク入門	2	マルチメディア表現	2
	学際科目群							生涯スポーツ演習	2		現代文化論	2		
	言語表現科目群				ELF 101	4								
専門科目群	100番台科目群	アンサンブルⅠ 芸術概論 演技・舞踊入門 音楽理論 声楽基礎A	2 2 2 2 2	アンサンブルⅡ 演技・舞踊基礎演習 舞台技術基礎演習 上演基礎実習 声楽基礎B	2 2 2 4 2	ソルフェージュⅠ	2	ソルフェージュⅡ	2					98 単位
	200番台科目群				アンサンブルⅢ ミュージカル表現Ⅰ 演劇理論 声楽基礎C	2 4 2 2	アンサンブルⅣ ミュージカル表現Ⅱ 第九演奏表現A 芸術と社会 声楽基礎D	2 4 2 2 2						
	300番台科目群							アンサンブルⅤ 声楽Ⅰ 上演実習A 作家理解と作品講読 世界演劇・舞踊史Ⅰ オーデション演習	2 2 4 2 2 2	アンサンブルⅥ 声楽Ⅱ 上演実習B 西洋音楽史 劇場接遇演習(ゲストリレーション) 世界演劇・舞踊史Ⅱ 第九演奏表現B	2 2 4 2 2 2 2	現代音楽史	2	
	400番台科目群										アンサンブルⅦ 卒業創作・研究A 声楽Ⅲ	2 4 2	アンサンブルⅧ 卒業創作・研究B 声楽Ⅳ 第九演奏表現C	2 4 2 2
履修単位数合計		15.7単位		15.3単位		16単位		16単位		16単位		15単位		124 単位

芸術学部 音楽学科

●履修モデルC(音楽教育に関する学びを通して人材養成の目的を達成するモデル)

【音楽教育コース】

		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業必要 単位数
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター		
スタンダード科目群 ユニバーシティ・ ド科目群	玉川教育・FYE 科目群(必修)	健康教育 音楽I 一年次セミナー101	1 0.7 2	玉川の教育 音楽II 一年次セミナー102	0.3 1 2		全人教育論	2								9 単位		
	人文科学科目群					音楽史	2				ことばと文化	2		ロジック	2	18 単位		
	社会科学科目群										市民社会と法	2		現代社会の教育課題	2			
	自然科学科目群													人工知能と社会	2			
	学際科目群													環境教育	2			
	言語表現科目群			ELF101	4													
専門科目群	100番台科目群	芸術概論 声楽基礎A ソルフェージュ I 鍵盤楽器基礎 和楽器指導法(管・絃・打)	2 2 2 2 2	音楽理論 声楽基礎B ソルフェージュ II	2 2 2	器楽基礎A	2	器楽基礎B	2							97 単位		
	200番台科目群					声楽基礎C 和声学 I 音楽科指導法 I	2 2 2	声楽基礎D 器楽教育法 I (管・打・合奏) 日本音楽史 創作教育法 音楽科指導法 II	2 2 2 1 2	器楽基礎C	2	器楽基礎D	2					
	300番台科目群							歌唱教育法(合唱) 指揮法 演奏・創作 I 音楽科指導法Ⅲ	2 2 2 2	西洋音楽史 演奏・創作 II 音楽科指導法Ⅳ	2 2 2 2	伴奏法 器楽教育法Ⅱ(リコーダー・弦楽器) 現代音楽史 民族音楽概説	2 2 2 2	鑑賞教育理論(音楽)	2			
	400番台科目群											作曲法 I 音楽教育実践法 演奏・創作Ⅲ 卒業論文執筆法	2 2 2 2	作曲法Ⅱ 卒業論文	2 2			
	教職関連科目群	教育原理	2	教職概論	2	教育の制度と経営 学習・発達論 教育の方法と技術(中・高)	2 2 2	体育 総合的な学習の時間の理論と方法(中・高) 特別活動の理論と方法(中・高)	1 1 1	教育相談の理論と方法(中・高) 教育課程編成論(中・高) 道徳教育の理論と方法(中・高)	2 2 2	生徒・進路指導の理論と方法(中・高) 特別支援教育	2 1					
履修単位数合計		15.7単位		15.3単位		16単位		16単位		16単位		15単位		16単位		124 単位		

芸術学部音楽学科 教育実習実施計画

教育目的	現場での体験を通して、教育の厳粛さを認識するとともに、各自の課題を明確にし、適性についての省察をもとに教職についての自覚を持ち、教師としての使命感を新たに認識することを目的とする。
教育効果	実習校や併設の中学校・高等学校、教育委員会等との連携を密にし、学級経営や教育課程・教育方法、生徒指導をはじめ学校全般の教育活動を総合的に体験し考察する機会とする。
実施時期	本学及び実習先の教育日程を考慮して実習の時期を決定する。その際、複数の学生を受け入れてもらう実習先に対しては、実習が重ならないよう配慮する。なお、基本的には、実習は 3 年次の 9 月上旬より 11 月下旬の間に行う。
事前指導	教育実習(現場実習)に先立ち、指導計画と指導案、学級経営や生徒指導、道德教育、教員の服務、さらには学校教育の実情や教育実習の心構え等総括的な指導を行う。
(現場実習) 教育実習	授業の観察、生徒指導への参加、実地授業の実施等の体験を通して、授業のあり方や教師としての役割を果たすのに必要な知識、技能、態度などについて理解を深めさせる。
事後指導	現場実習終了後、教育実習事後報告書及び実習日誌をもとに本学の教育実習指導教員を中心に現場実習の反省を行い、これからの課題等についての指導を行う。
実習先との連携体制	本学教師教育リサーチセンターが窓口となり、実習開始年度当初に実習校宛に「教育実習指導のお願い」を送付して教育実習の目的を伝え、指導等の依頼を行う。また、併せて「実習日誌」「教育実習評価票」「教育実習生出勤簿」等の資料についても送付する。 実習中にも、大学近郊の地域(東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県他)には教育実習指導教員が実習校を訪問して、実習生に対して個別指導を行う。また、実習校の校長や実習担当教員などと協議する機会を持つ。なお、遠方の実習校においては電話やメール等を用いた個別指導ならびに、学生の様子等について実習校の関係者にヒアリングを行っている。
成績評価体制および単位認定方法	実習校においては校長、教頭(副校長)、教務主任、実習担当の先生方等に実習の評価を依頼し、「教育実習評価票」に記入していただく。玉川大学教職課程委員会が教職担当教員に委嘱して、実習校からの書類に基づき、事前・事後指導と併せて評価する。本学では成績評価について以下の内容をもとに総合的に評価する。 (i) 実習先の評価 (ii) 実習日誌の内容 (iii) 事後報告書の内容 (iv) 実習及び事前・事後指導の出席状況

教育実習受入承諾書 一覧

音楽学科

教育委員会名	免許種・教科	承認開始時期
東京都教育委員会	中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）	令和３年４月１日
神奈川県教育委員会	中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）	令和３年４月１日
横浜市教育委員会	中学校教諭１種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）	令和３年４月１日
川崎市教育委員会	中学校教諭１種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）	令和３年４月１日
相模原市立教育委員会	中学校教諭１種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）	令和３年４月１日

学校名	所在地	免許種・教科	承認開始時期
玉川学園中学部	東京都町田市玉川学園 6-1-1	中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）	令和３年４月１日
玉川学園高等部	東京都町田市玉川学園 6-1-1	中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）	令和３年４月１日

芸術学部音楽学科 教育実習先一覧(平成 30 年度実績)

(中学校)

実 習 校 名	所 在 地
日立市立泉丘中学校	茨城県日立市水木町 2 丁目 9-1
筑西市立明野中学校	茨城県筑西市倉持 1138
常総市立水海道西中学校	茨城県常総市豊岡町乙 1005-1
太田市立東中学校	群馬県太田市飯塚町 80
越谷市立西中学校	埼玉県越谷市神明町 2 丁目 385
熊谷市立荒川中学校	埼玉県熊谷市月見町 2 丁目 174
江戸川区立松江第一中学校	東京都江戸川区松江 5-5-1
杉並区立杉森中学校	東京都杉並区阿佐谷北 5-45-24
八王子市立宮上中学校	東京都八王子市南大沢 5-5
玉川学園中学年	東京都町田市玉川学園 6-1-1
横浜市立新羽中学校	神奈川県横浜市港北区新羽町 1434-4
横浜市立みたけ台中学校	神奈川県横浜市青葉区みたけ台 30
横浜市立大道中学校	神奈川県横浜市金沢区大道一丁目 85 番 1 号
横浜市立瀬谷中学校	神奈川県横浜市瀬谷区中央 5 番地 41
川崎市立金程中学校	神奈川県川崎市麻生区金程 3-16-1
藤沢市立鵜沼中学校	神奈川県藤沢市鵜沼桜が岡 4 丁目 3 番 37 号
自修館中等教育学校	神奈川県伊勢原市見附島 411 番地

(高等学校)

実 習 校 名	所 在 地
関東第一高等学校	東京都江戸川区松島 2 丁目 10-11
東京都立芦花高等学校	東京都世田谷区粕谷 3-8-1
長野県屋代高等学校	長野県千曲市屋代 1000
新潟県立長岡向陵高等学校	新潟県長岡市喜多町字川原 1030 番地 1 号

芸術学部音楽学科 教育実習先一覧(令和元年度実績)

(中学校)

実 習 校 名	所 在 地
仙台市立上杉山中学校	宮城県仙台市青葉区上杉 6 丁目 7 番 1 号
常総市立水海道中学校	茨城県常総市小山戸町 61 番地
壬生町立壬生中学校	栃木県下都賀郡壬生町大字壬生甲 2770
高崎市立榛名中学校	群馬県高崎市上里見町 430
白井市立南山中学校	千葉県白井市南山 1 丁目 6-1
習志野市立第二中学校	千葉県市習志野市実籾 1-44-1
江戸川区立葛西第二中学校	東京都江戸川区宇喜田町 1085 番地
江戸川区立葛西中学校	東京都江戸川区立中葛西 2-4-3
小金井市立東中学校	東京都小金井市東町 1-5-33
日野市立七生中学校	東京都日野市南平 6 丁目 7-1
玉川学園中学年	東京都町田市玉川学園 6-1-1
福生市立福生第三中学校	東京都福生市南田園 3-1-1
横浜市立神奈川中学校	神奈川県横浜市神奈川区西大口 141
横浜市立中川中学校	神奈川県横浜市都筑区大圃町 240 番地
横浜市立西柴中学校	神奈川県横浜市金沢区西柴 1 丁目 23-1
横浜市立岩崎中学校	神奈川県横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘 2 丁目 6-1
横浜市立新井中学校	神奈川県横浜市保土ヶ谷区新井町 43 番地 7
横浜市立豊田中学校	神奈川県横浜市戸塚区下倉田町 950
川崎市立有馬中学校	神奈川県立川崎市宮前区有馬 7-7-1
相模原市立清新中学校	神奈川県相模原市中央区清新 8-5-1
横須賀市立浦賀中学校	神奈川県横須賀市浦賀 3 丁目 26-1
鎌倉市立玉縄中学校	神奈川県鎌倉市岡本 1100 番地
藤沢市立高倉中学校	神奈川県藤沢市高倉 1122
藤沢市立長後中学校	神奈川県藤沢市下土棚 590
秦野市立南中学校	神奈川県秦野市緑町 16-1
伊勢原市立中沢中学校	神奈川県伊勢原市下糟屋 231-1

(高等学校)

実 習 校 名	所 在 地
東京都立八潮高等学校	東京都品川区東品川 3-27-22
玉川学園高学年	東京都町田市玉川学園 6-1-1
東海大学付属浦安高等学校	千葉県浦安市東野 3-11-1
春日部共栄高等学校	埼玉県春日部市上大増新田 213 番地
上田西高等学校	長野県上田市下塩尻 868

(中学・高等学校)

実 習 校 名	所 在 地
桜美林中学校・高等学校	東京都町田市常盤町 3758
関東学院六浦中学校・高等学校	神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1

芸術学部音楽学科 教育実習先一覧(令和2年度予定)

(中学校)

実 習 校 名	所 在 地
弘前市立北辰中学校	青森県弘前市高杉五反田 191
筑西市立関城中学校	茨城県筑西市犬塚 100
宇都宮市立星が丘中学校	栃木県宇都宮市星が丘 2 丁目 3 番 31 号
太田市立生品中学校	群馬県太田市新田市新井町 121 番地
富士見市立水谷中学校	埼玉県富士見市大字水子 3117
浦安市立美浜中学校	千葉県浦安市美浜 5-12-2
松戸市立第二中学校	千葉県松戸市小山 685
江戸川区立松江第一中学校	東京都江戸川区松江 5-5-1
玉川学園中学年	東京都町田市玉川学園 6-1-1
多摩市立諏訪中学校	東京都多摩市諏訪 5-12-1
横浜市立大島中学校	神奈川県横浜市中区本牧原 22 番地 1 号
横浜市立旭北中学校	神奈川県横浜市旭区上白根 2-47-1
横浜市立南戸塚中学校	神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 1842 番地の 1
川崎市立東高津中学校	神奈川県川崎市高津区末長 4-1-1
横須賀市立公郷中学校	神奈川県横須賀市公郷町 5-81
茅ヶ崎市立萩園中学校	神奈川県茅ヶ崎市萩園 2425
甲府市立北中学校	山梨県甲府市大和町 4-35
浦添市立仲西中学校	沖縄県浦添市屋富祖 2-13-1

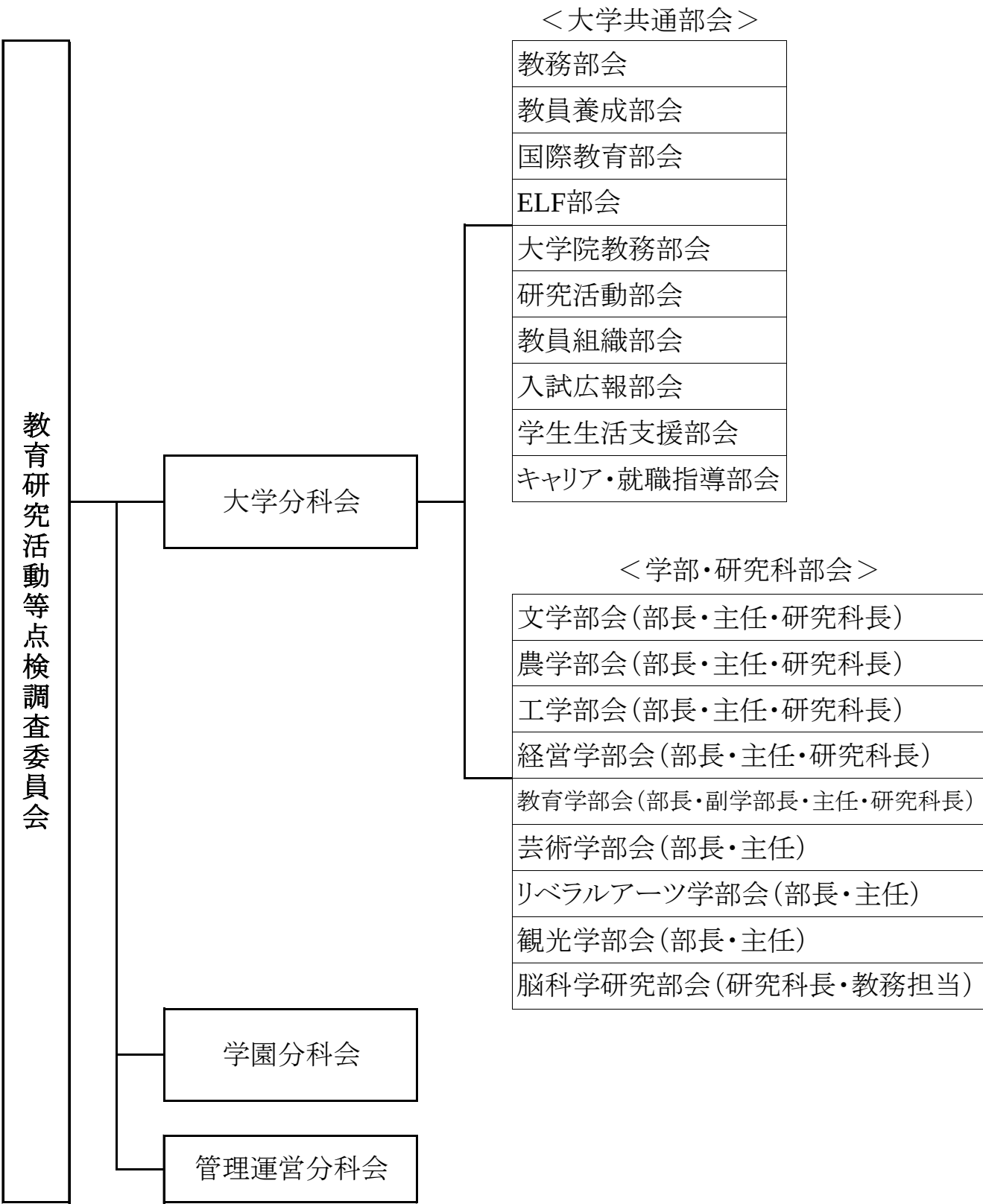
(高等学校)

実 習 校 名	所 在 地
茨城県立鹿島高等学校	茨城県鹿嶋市城山 2-2-19
昌平高等学校	埼玉県北葛飾郡杉戸町下野 851
東京都立江戸川高等学校	東京都江戸川区松島 2-38-1
東京都立田柄高等学校	東京都練馬区光が丘 2-3-1
玉川学園高学年	東京都町田市玉川学園 6-1-1
相洋高等学校	神奈川県小田原市城山 4-13-33

(中学・高等学校)

実 習 校 名	所 在 地
八王子学園八王子中学校・高等学校	東京都八王子市台町4-35-1

2020年度 教育研究活動等点検調査委員会 組織図



学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程

平成4年4月1日制定

改正

平成6年4月1日	平成14年4月1日
平成23年4月1日	平成17年4月1日
平成27年4月1日	平成29年4月1日
平成31年4月1日	令和2年4月1日

(目的)

第1条 学校法人玉川学園（以下「本法人」という。）に教育研究活動等点検調査委員会（以下「本委員会」という。）を置く。

2 本委員会は本法人の教育研究等の活動及びその運営に関し、総合的な点検・調査・分析・評価（以下「点検・評価等」という。）を行い、その結果に基づく改善に努め、もって本法人の教育研究水準の質を保証し、その向上を図ることを目的とする。

3 前条の点検・評価等の項目は別に定める。

(構成)

第2条 本委員会は全学園連絡会の構成員を中心に、次の区分によって毎年度当初理事長が委嘱する。

委員長
副委員長
委員
事務担当

2 委員長は必要あると認めたとき他の教職員を含めることができる。

3 学部等の各組織が自らその諸活動において点検・評価等を行い、その結果に基づく改善に努めるため、本委員会に分科会、部会を設ける。分科会、部会については別に定める。

(審議事項)

第3条 本委員会は次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 各部会の点検・評価等の結果及び改善施策に関する事項
- (2) 前号に基づく改善の指摘に関する事項
- (3) 第1号及び第2号に基づく改善施策の進捗に関する事項
- (4) 本委員会の組織、手続きの点検・評価に関する事項

(活動報告)

第4条 本委員会における点検・評価等に関する審議の結果及び改善施策は、学内に公表するものとする。（自己点検・評価および学校評価）

第5条 「教育研究調査報告書」等に基づく大学の自己点検・評価及びK-12の学校評価については、分科会、部会にてこれを行い、本委員会の審議を経て「自己点検・評価報告書」及び「学校評価結果」としてとりまとめ公表するものとする。

2 大学の「自己点検・評価報告書」の公表は7年を周期とする。

3 大学の自己点検・評価の客観性、妥当性を確保するため、「自己点検・評価報告書」は「K-16教育研究活動等有識者会議」に諮ることとする。得られた意見、助言等は本委員会において共有し、同報告書と併せてホームページで公表するものとする。

4 専門職学位課程の「自己評価書」の公表は5年を周期とする。

5 K-12の「学校評価結果」の公表は毎年行う。

6 K-12の「学校評価結果」の公表にあたっては、学校関係者評価の結果を付すものとする。

(その他)

第6条 本委員会はその運営に関し必要な事項を細則に定める。

第7条 この規程の改廃は、全学園連絡会の議を経なければならない。

第8条 本委員会に係る事務主管は、教育情報・企画部EQA課が行う。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則（平成6年4月1日）

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成14年4月1日）

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成17年4月1日）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成23年4月1日）

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成27年4月1日）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成29年4月1日）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月1日）

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和2年4月1日）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会運営細則

平成4年4月1日制定

改正

平成5年4月1日
平成6年4月1日
平成7年4月1日
平成8年4月1日
平成9年4月1日
平成17年4月1日
平成28年4月1日
平成28年7月29日
平成29年4月1日
平成29年6月1日
平成30年4月1日
平成31年4月1日

第1条 学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程（以下「本委員会規程」という。）

第6条に基づき、本運営細則を定める。

第2条 本委員会規程第1条第3項の点検・調査・分析・評価（以下「点検・評価等」という。）の項目は次の各号による。

- (1) 教育目標等学校運営の根幹に関すること
- (2) 教育活動に関すること
- (3) 学生、生徒等の支援に関すること
- (4) 研究活動に関すること
- (5) 教員組織に関すること
- (6) 教育研究等環境に関すること
- (7) 国際教育・交流に関すること
- (8) 社会貢献・社会連携に関すること
- (9) 管理運営に関すること
- (10) 本委員会の組織・手続きに関すること

2 前項の細目は別に定める。

第3条 本委員会規程第1条第2項の目的を達成するために、前条の項目及び細目に応じた統計調査を行う。

2 前項の統計調査の実施方法及び結果の公表方法については別に定める学校法人玉川学園指定統計調査に関する取扱要領による。

第4条 本委員会規程第2条第3項の分科会は次の各号による。

	〈分科会名称〉	〈基本構成〉	〈まとめ役〉	〈事務主管部署〉
(1)	学園分科会	K-12協議会（学園長、理事を除く）	学園教学部長	学園教学部学園教学課
(2)	大学分科会	大学共通部会の座長、教育学術情報図書館長、教学部事務部長、法人部門の部署長、教育情報・企画部長	教学部長	教学部教務課
(3)	管理運営分科会	法人部長会（理事長、理事を除く）	総務部長	総務部総務課

2 前項各号の分科会のうち第2号には学部等ごとの点検・評価を行うため、次の部会を置く（総称して「学部・研究科部会」という）。学部・研究科部会における点検・評価等の結果の適切

性及び、その結果に基づく全学的観点からの点検・評価等は大学分科会が担当する。

〈学部・研究科部会〉

	〈部会名称〉	〈基本構成〉	〈まとめ役〉	〈事務主管部署〉
(1)	文学部会	文学部の部長・主任、文学研究科長	文学部長	教学部
(2)	農学部会	農学部の部長・主任、農学研究科長	農学部長	
(3)	工学部会	工学部の部長・主任、工学研究科長	工学部長	
(4)	経営学部会	経営学部の部長・主任、マネジメント研究科長	経営学部長	
(5)	教育学部会	教育学部の部長・副学部長・主任、教育学研究科長、教職大学院科長	教育学部長	
(6)	芸術学部会	芸術学部の部長・主任、芸術専攻科主任	芸術学部長	
(7)	リベラルアーツ学部会	リベラルアーツ学部の部長・主任	リベラルアーツ学部長	
(8)	観光学部会	観光学部の部長・主任	観光学部長	
(9)	脳科学研究部会	脳科学研究科の科長・教務担当	脳科学研究科長	

3 専門職学位課程の点検・評価等の体制は別に定める。

4 第1項各号の分科会のうち第2号には大学共通事項の点検・評価を行うため、次の部会を置く（総称して「大学共通部会」という）。大学共通部会における点検・評価等の結果の適切性及び、その結果に基づく全学的観点からの点検・評価等は大学分科会が担当する。

〈大学共通部会〉

	〈部会名称〉	〈基本構成〉	〈まとめ役〉	〈事務主管部署〉
(1)	教務部会	教務委員会	教学部長	教学部
(2)	教員養成部会	教職課程委員会、教学部	教師教育 リサーチセンター長	教師教育 リサーチセンター
(3)	国際教育部会	国際教育推進委員会、教学部	国際教育センター長	国際教育センター
(4)	E L F 部会	E L F 運営委員会、教学部	E L F センター長	E L F センター
(5)	大学院教務部会	大学院教務委員会	教学部長	教学部
(6)	研究活動部会	学術研究所長、脳科学研究所長、量子情報科学研究所長、教学部長、学部長、副学部長、教育博物館長、TAPセンター長、教学部事務部長	学術研究所長	学術研究所研究 促進室
(7)	教員組織部会	教学部長、教学部事務部長、学部長、副学部長、学術研究所長、脳科学研究所長、量子情報科学研究所長	教学部長	教学部
(8)	入試広報部会	入試運営委員会（学長、理事を除く）	入試広報部長	入試広報部
(9)	学生生活支援部会	学生委員会、学生担当	学生支援センター長	学生支援センター
(10)	キャリア・就職指導部会	キャリア・就職指導委員会	キャリアセンター長	キャリアセンター

5 第1項各号の分科会、第2項各号及び第4項各号の部会の点検・評価等の項目は別に定める。

6 第1項各号の分科会、第2項各号及び第4項各号の委員及び事務担当は毎年度当初理事長が委嘱する。

7 委員長は必要あると認めたとき第2項及び第4項以外の部会を置くことができる。

第5条 各部会の分担以外の項目及び細目等については大学分科会が直接担当する。

第6条 各分科会・部会等における点検・評価等の結果と、その結果に基づく改善施策については委員長に上申しなければならない。

第7条 本委員会及び各部会等が行う点検・評価等の進行手順は別に定める。

附 則

この細則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則（平成5年4月1日）

この細則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年4月1日）

この細則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成7年4月1日）

この細則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年4月1日）

この細則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成9年4月1日）

この細則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成17年4月1日）

この細則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成28年4月1日）

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年7月29日）

この細則は、平成28年7月29日から施行する。

附 則（平成29年4月1日）

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成29年6月1日）

この細則は、平成29年6月1日から施行する。

附 則（平成30年4月1日）

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月1日）

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

学校法人玉川学園指定統計調査に関する取扱要領

平成4年4月1日制定

1. この指定統計調査は次の各号による。
 - (1) 各部署が業務上作成する統計調査のうち学校法人玉川学園（以下「本法人」という。）が指定するもの
 - (2) 本法人が必要と認め、特定部署に委託して作成する統計調査
 - (3) 学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会運営細則第3条の規定による統計調査
2. 前項の指定統計調査を実施する場合、その実施者はその調査事項についてあらかじめ理事長の承認を得なければならない。ただし、定期的報告を義務づけられている統計調査は除く。
3. 第1項第1号の「各部署が業務上作成する調査のうち本法人が指定するものの統計調査」については、当該年度の3月31日までに提出するものとする。
4. 第1項第2号の「本法人が必要と認め、特定部署に委託して作成する統計調査」については、その都度指定する期日までに提出するものとする。
5. 第1項第3号の「学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会運営細則第3条の規定による統計調査」については特定の事項を除き原則として、当該年度の3月31日までに提出するものとする。
6. 第3項から第5項の指定統計調査報告書の様式及び提出部数は別に定める。

附 則

この要領は、平成4年4月1日から実施する。

改正

平成17年4月1日

(趣旨)

第1条 本規程は、学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程第1条第2項の目的に照らし、学校法人玉川学園（以下「本法人」という。）が、より客観的な意見を取り入れた教育研究水準向上を図るために、K－16教育研究活動等有識者会議（以下「本有識者会議」という。）を置き、広くかつ高い見識を有する者の意見、提言を徴し、教育・研究の充実及び質の維持向上に資することを目的として定める。

(審議事項)

第2条 本有識者会議は、次の各号に定める事項を審議、助言する。

- (1) 本法人の教育の目標達成、及びその質の維持向上を図るための基本的計画に関する事項
- (2) 本法人の教育研究活動等総合的な点検、調査、分析、評価に関する事項
- (3) その他本法人の基本的事項に関し、理事長が必要と認めた事項

(組織構成)

第3条 本有識者会議は、委員長、委員をもって構成する。

- 2 本有識者会議の委員長は、理事長がこれにあたる。
- 3 本有識者会議の委員については、理事長が委嘱する。
- 4 委員のうち学外者は次の区分による。
 - (1) 高等教育に高い識見を有する者 2～4名
 - (2) 初等中等教育に高い識見を有する者 2～4名
 - (3) 民間関係者を含む学識経験者 2～4名
- 5 委員には本法人の教職員を委嘱することができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任することができる。

- 2 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第5条 本有識者会議は、委員長が召集する。

- 2 本有識者会議は、年2回、6月と1月に開催する。
- 3 委員長が必要と認めたときは、臨時にこれを召集することができる。

(審議結果の報告)

第6条 本有識者会議の審議結果は、教育研究活動等点検調査委員会に報告するものとする。

(事務主管)

第7条 本有識者会議に係る事務主管は、教育情報・企画部EQA課が行う。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成17年4月1日）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

○玉川大学FD委員会規程

平成15年4月1日制定

改正

平成21年4月1日

平成31年4月1日

(目的)

第1条 玉川大学（以下「本大学」という。）教員の、教育研究活動の向上・能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、大学FD（ファカルティ・ディベロップメント）（以下「FD」という。）委員会（以下「本委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 本委員会は、委員長、委員、事務担当をもって構成する。

2 前項の委員長は教学部長とする。

3 委員は、各学部のFD担当があたる。

4 委員等は、毎年度当初、学長がこれを委嘱する。

5 委員長が必要と認めたときは副委員長を置くことができる。

6 本委員会には学部ごとの分科会を設けることができる。

7 前項による分科会のまとめ役及び委員は学部長が選任する。

(任期)

第3条 委員の任期は1か年とする。ただし、再任を妨げない。

(運営)

第4条 本委員会は、委員長が招集・開会し、議長となる。

2 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の教職員の出席を求め、意見を聴取することができる。

(審議事項)

第5条 本委員会は、次の事項を審議する。

(1) 教育研究活動改善の方策に関する事項

(2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項

(3) 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項

(4) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項

(5) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行

(6) 分科会からの報告・審議に関する事項

(7) その他FDに関連する事項

(分科会)

第6条 各分科会は、FD担当が取りまとめ、本委員会に検討・実施事項を報告しなければならない。

2 各分科会にはFD活動を円滑に進めるため、FDer（ファカルティ・ディベロッパー）（以下、「FDer」）を置く。FDerはFD担当が兼ねることができる。

(答申)

第7条 委員長は、本委員会の審議結果を学長に答申しなければならない。

(実施事項の決定)

第8条 前条の答申内容の実施については、大学部長会の議を経て学長が決定する。

(実施事項の運用)

第9条 前条により決定した実施事項に関する実際の運用に関しては、教務委員会及び教育研究活動等点検調査委員会との調整を図りながら検討、実施するものとする。

(事務主管)

第10条 本委員会に係る事務主管は、教学部が行う。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成21年4月1日）

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月1日）

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

就職支援プログラムについて

実施月	講座名	実施学年			
		1年	2年	3年	4年
4月	教職課程受講希望者ガイダンス	●			
	公立学校教員採用選考・学内説明会（全国教育委員会）	●	●	●	●
	教員・保育士就職ガイダンス（卒業生体験談含む）			●	
	教員採用模擬試験（幼・小・中・高）《5月公開模試》			●	●
	保育士就職模擬試験（幼を含む）			●	●
	私立教員就職ガイダンス（小・中・高）				●
	教員採用模擬試験（首都圏近郊・自治体別）				●
	私立幼稚園教諭・保育士・福祉職就職ガイダンス1/2				●
5月	インターンシップ個別相談	●	●	●	
	就職ガイダンス①			●	
	就職ガイダンス②			●	
	教職課程基礎講座	●			
	教員採用模擬試験（幼・小・中・高）《5月公開模試》	●	●		
	就職ガイダンス	●	●	●	
	教員養成プログラム・学内説明会（近隣教育委員会）	●	●	●	●
6月	就職ガイダンス基礎編	●	●		
	インターンシップ個別相談	●	●	●	
	適職診断テスト	●	●	●	
	公務員基礎ガイダンス	●	●	●	
	公務員対策講座	●	●	●	
	公務員専門職ガイダンス	●	●	●	
	就活用写真撮影			●	
	模試結果解説・学習スタートガイダンス	●	●	●	
	過去問分析ワークショップ			●	
	教員採用模擬試験（幼・小・中・高）《6月公開模試》試験直前			●	●
	教員採用試験[直前]対策講座				●
	私立幼稚園教諭・保育士・福祉職就職直前ガイダンス(実習後2/2)				●
7月	インターンシップ個別相談	●	●	●	
	マナー講座	●	●	●	
	U・Iターン企業就職ガイダンス	●	●	●	●
	公務員相談会	●	●	●	●
	教員・保育士採用試験対策講座（一次・二次試験）				●
8月	教員・保育士採用試験対策講座（二次試験）				●
	筆記試験対策講座	●	●	●	
	夏期実技集中講座（幼・保）	●	●	●	●
9月	企業見学バスツアー	●	●	●	
	公務員対策講座	●	●	●	
	県別学習相談会（小・中・高）			●	
	教員・保育士採用試験対策講座（二次試験）				●
10月	公務員対策講座	●	●	●	
	公務員相談会	●	●	●	
	筆記試験対策講座ガイダンス			●	
	公立学校教員採用選考・秋季学内説明会（全国教育委員会）	●	●	●	
	教員・保育士採用試験 最新動向ガイダンス	●	●	●	
	教員・保育士採用試験対策講座（名簿登載者向け）				●
11月	公務員対策講座	●	●	●	
	OBOG交流会	●	●	●	
	企業見学会	●	●	●	
	青年海外協力隊	●	●	●	
	実践講座（自己分析）			●	
	実践講座（自己PR）			●	
	実践講座（履歴書作成）			●	
	実践講座（面接マナー）			●	

実施月	講 座 名	実施学年			
		1年	2年	3年	4年
11月	筆記試験対策講座（SPI編）			●	
	就活用写真撮影			●	
	教員採用模擬試験[ﾌﾟﾚ模試/ﾄﾗｲｱﾙ模試]（幼・小・中・高）	●	●	●	
	教職特別講座（対象：教員就職者）				●
12月	公務員対策講座	●	●	●	
	業界研究会	●	●	●	
	就職ガイダンス		●		
	実践講座（自己分析）			●	
	実践講座（自己PR）			●	
	実践講座（履歴書作成）			●	
	実践講座（面接マナー）			●	
	筆記試験対策講座（SPI編）			●	
	就活用写真撮影			●	
1月	公務員対策講座	●	●	●	
	適職診断テスト	●	●	●	
	実践講座（自己分析）			●	
	実践講座（自己PR）			●	
	実践講座（履歴書作成）			●	
	実践講座（面接マナー）			●	
	筆記試験対策講座（WEBテスト編）			●	
	就活用写真撮影			●	
2月	就活直前ガイダンス			●	
	労働法ガイダンス			●	
	学内業界・企業説明会			●	
	実践講座（自己分析）			●	
	実践講座（自己PR）			●	
	実践講座（履歴書作成）			●	
	実践講座（面接マナー）			●	
	OBOGによる面接対策講座			●	
	就活用写真撮影			●	
	筆記試験対策講座[教職教養]等		●	●	
	公立幼稚園・保育士採用対策講座（専門・実技）		●	●	
	教員採用模擬試験（幼・小・中・高）《3月公開模試》		●	●	
	保育士就職模擬試験		●	●	
3月	公務員集団討論対策講座	●	●	●	
	公務員個人面接対策講座	●	●	●	
	学内業界・企業説明会			●	
	教員・保育士就職直前ガイダンス（希望地調査）			●	
	大学推薦ガイダンス（小・中・高）			●	
通年	キャリアカウンセリング（個別面談）	●	●	●	●
	模擬面接			●	●
	教職サポートルーム学習支援（個別相談）	●	●	●	●
	1年次教職講座	●			
	2年次教職講座（筆記試験、論作文<基礎>）		●		
	3年次教職講座（筆記試験、論作文・面接<実践>）			●	
	4年次教職講座（直前対策／名簿登載者指導）				●

教 員 名 簿

学長の氏名等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏 名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	現 職 （就任年月）
一	学長	オハラ ヨシキ 小原 芳明 ＜平成6.4＞		Master of Arts in Analysis of Educational Policy （米国）		玉川大学 学長 （平成6.4～令和7.3）

教員の氏名等												
(芸術学部 音楽学科)												
調査 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
1	専	教授	オサ ユウジ 長 裕二 ＜令和3年4月＞		芸術学修士		玉川の教育 芸術概論※ アンサンブルⅠ アンサンブルⅡ アンサンブルⅢ アンサンブルⅣ ミュージカル表現Ⅰ ミュージカル表現Ⅱ 声楽Ⅰ 声楽Ⅱ 上演実習A 上演実習B 声楽Ⅲ 声楽Ⅳ 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B	1後 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	0.3 0.4 2 2 2 2 4 4 2 2 4 2 4 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 教授 (平29.4)	6日
2	専	教授	シミス(ワダ) ヒロミ 清水(和田) 宏美 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		芸術概論※ 和楽器指導法(管・絃・打) 音楽科指導法Ⅰ 音楽科指導法Ⅱ 創作教育法※ 器楽教育法Ⅰ(管・打・合奏)※ 日本音楽史 民族音楽概説 文献資料講読 音楽科指導法Ⅲ 音楽科指導法Ⅳ 器楽教育法Ⅱ(リコーダー・弦楽器)※ 音楽教育実践法 卒業論文執筆法 卒業論文 教育実習(中学校) 教育実習(高等学校) 教職実践演習(中・高) 教育インターンシップA	1前 1前 2前 2後 2後 2後 2後 3・4前 3後 3前 3後 3・4前 4前 4前 4後 3後～4前 3後～4前 4後 1・2・3・4前・後	0.3 2 4 4 0.6 0.3 2 2 2 2 0.1 2 2 2 5 3 2 4	1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 教授 (平29.4)	6日
3	専	教授 (学科主任)	ナカムラ イワキ 中村 岩城 ＜令和3年4月＞		文学士		芸術概論※ ソルフェージュⅠ ソルフェージュⅡ 音楽専門実技Ⅰ 音楽専門実技Ⅱ 器楽基礎A 器楽基礎B 鍵盤楽器基礎 音楽専門実技Ⅲ 音楽専門実技Ⅳ 器楽基礎C 器楽基礎D 演奏・創作Ⅰ 演奏・創作Ⅱ 器楽Ⅰ 器楽Ⅱ 器楽Ⅲ 器楽Ⅳ 演奏・創作Ⅲ 卒業演奏・卒業創作	1前 1・2前 1・2後 1前 1後 1・2前 1・2後 1前 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	0.3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 教授 (平2.4)	6日
4	専	教授	ノモト ユキオ 野本 由紀夫 ＜令和3年4月＞		芸術学修士		音楽史 音楽理論 音楽文化論 第九演奏表現A 作家理解と作品講読 指揮法 西洋音楽史 文献資料講読 鑑賞教育理論(音楽) 卒業論文執筆法 卒業論文	1・2・3・4前・後 1前・後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 3・4後 4前 4後	4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 教授 (平18.4)	6日

調査 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
5	専	教授	ババ' シンジ 馬場 眞二 <令和3年4月>		修士(音楽)		一年次セミナー101 一年次セミナー102 音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 芸術概論※ アンサンブルⅠ アンサンブルⅡ 音楽専門実技Ⅰ 音楽専門実技Ⅱ 声楽基礎A 声楽基礎B 第九演奏表現A 音楽専門実技Ⅲ 音楽専門実技Ⅳ 声楽基礎C 声楽基礎D 演奏・創作Ⅰ 演奏・創作Ⅱ 声楽Ⅰ 声楽Ⅱ 声楽Ⅲ 声楽Ⅳ 演奏・創作Ⅲ 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1前 1後 1前 1前 1後 1前 1後 1・2前 1・2後 2後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後	2 2 0.7 1 0.3 2	1 1	玉川大学 芸術学部 教授 (平20.4)	6日
6	専	准教授	マツカリ マナブ' 松川 儒 <令和3年4月>		künstlerisches Aufbaustudium (ドイツ)		一年次セミナー101 一年次セミナー102 芸術概論※ ソルフェージュⅠ ソルフェージュⅡ アンサンブルⅠ アンサンブルⅡ 音楽専門実技Ⅰ 音楽専門実技Ⅱ 鍵盤楽器基礎 第九演奏表現A 音楽専門実技Ⅲ 音楽専門実技Ⅳ 演奏・創作Ⅰ 演奏・創作Ⅱ 器楽Ⅰ 器楽Ⅱ 歌曲伴奏法 器楽Ⅲ 器楽Ⅳ 演奏・創作Ⅲ 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1前 1・2前 1・2後 1前 1後 1前 1後 1前 2後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3・4前 4前 4後 4前 4後	2 2 0.3 2	1 1	玉川大学 芸術学部 准教授 (平19.4)	6日
7	専	准教授	ワタナベ' アキコ 渡辺 明子 <令和3年4月>		芸術学修士		一年次セミナー101 一年次セミナー102 アンサンブルⅠ アンサンブルⅡ 音楽専門実技Ⅰ 音楽専門実技Ⅱ 声楽基礎A 声楽基礎B 第九演奏表現A 音楽専門実技Ⅲ 音楽専門実技Ⅳ 声楽基礎C 声楽基礎D 歌唱教育法(合唱) 演奏・創作Ⅰ 演奏・創作Ⅱ 声楽Ⅰ 声楽Ⅱ 声楽Ⅲ 声楽Ⅳ 演奏・創作Ⅲ 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1前 1後 1前 1後 1・2前 1・2後 2後 2前 2後 2前 2後 2前 3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2	1 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 准教授 (平30.4)	6日
8	兼任	教授	アオノカズ'ヒコ 青野 和彦 <令和4年4月>		神学修士		キリスト教学	2・3・4前	2	1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平31.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
9	兼任	教授	アオヤマ リヤス 青山 典靖 ＜令和3年4月＞		学士(文学)		演技・舞踊入門※ 演技・舞踊基礎演習 上演基礎実習※	1前 1後 1後	0.4 2 3.2	1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 教授 (平31.4)	
10	兼任	教授	アーカリ ジェイスン ARCARI Jason ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Drama (英国)		演技・舞踊基礎演習 上演基礎実習※ オーディション演習※	1後 1後 3前・後	2 3.2 0.5	1 1 2	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 教授 (平30.4)	
11	兼任	教授	アミノコウイチ 網野 公一 ＜令和3年4月＞		文学修士※		日本学入門	1・2・3・4前	2	1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平1.4)	
12	兼任	教授	アントウ マサキ 安藤 正紀 ＜令和4年4月＞		教育学修士		特別支援教育	2・3前・後	2	2	玉川大学 教育学研究科 教職専攻(教職大学院) 教授 (平25.4)	
13	兼任	教授	イワタケイコ 岩田 恵子 ＜令和3年4月＞		博士(学術)		学習・発達論 発達心理学	1・2前・後 1・2・3後	4 2	2 1	玉川大学 教育学部 乳幼児発達学科 教授 (平21.4)	
14	兼任	教授	オオキ エイチ 大木 栄一 ＜令和5年4月＞		経営学修士		キャリア・マネジメント	3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授 (平25.4)	
15	兼任	教授	オオクボ ヒデトシ 大久保 英敏 ＜令和4年4月＞		博士(工学)		エネルギー科学	2・3・4前	2	1	玉川大学 工学部 情報通信工学科 教授 (平7.4)	
16	兼任	教授	オオタニ チエ 大谷 千恵 ＜令和3年4月＞		Master of Arts in Education (米国)		国際研究A 国際研究B 国際研究C 国際研究D 国際研究E 国際研究F 異文化理解と教育	1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後 2・3・4前	4 4 4 6 8 10 2	2 2 2 2 2 2 1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平10.4)	
17	兼任	教授	オカダ ヒロユキ 岡田 浩之 ＜令和4年4月＞		博士(工学)		人工知能と社会	2・3・4後	2	1	玉川大学 工学部 情報通信工学科 教授 (平18.4)	
18	兼任	教授	オグラヤスユキ 小倉 康之 ＜令和4年4月＞		博士(美術)		複合領域研究 201～299	2・3・4前・後	4	2	玉川大学 芸術学部 メディア・デザイン学科 教授 (平20.4)	
19	兼任	教授	カキザキ ヒロタカ 柿崎 博孝 ＜令和4年4月＞		文学士		博物館経営論	2・3後	2	1	玉川大学 教育博物館 教授 (昭60.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
20	兼任	教授	カワサキ トシキ 川崎 登志喜 <令和4年4月>		体育学修士		社会体育論	2・3前	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平2.4)	
21	兼任	教授	カンノ カズオ 菅野 和郎 <令和4年4月>		修士(歴史学)※		博物館資料保存論	2・3前	2	1	玉川大学 教育博物館 教授 (平8.4)	
22	兼任	教授	キタハラ ヒロオ 北原 博雄 <令和3年4月>		博士(文学)		日本語学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 文学部 国語教育学科 教授 (平29.4)	
23	兼任	教授	クウワタル 工藤 亘 <令和3年4月>		修士(教育学)※		生涯スポーツ演習 体育 生徒・進路指導の理論と方法(中・高)	1・2・3・4前・後 1・2後 3前・後	4 1 4	2 1 2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平11.4)	
24	兼任	教授	コサカイ マサカズ 小酒井 正和 <令和4年4月>		博士(経営学)		複合領域研究 201～299	2・3・4前・後	4	2	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 教授 (平19.4)	
25	兼任	教授	コバヤシ ユキオ 小林 幸夫 <令和3年4月>		政治学修士※		日本国憲法	1前・後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平6.4)	
26	兼任	教授	サカミ マサミチ 坂上 雅道 <令和3年4月>		博士(医学)		ミクロ脳科学	1後・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 脳科学研究所 教授 (平13.4)	
27	兼任	教授	サクマ ヒロユキ 佐久間 裕之 <令和3年4月>		文学修士※		全人教育論 教育哲学	2前・後 1・2・3後	4 2	2 1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平16.4)	
28	兼任	教授	ササイ ヒロミ 笹井 宏益 <令和4年4月>		法学士		社会教育経営論B	2・3前	2	1	玉川大学 学術研究所 教授 (平29.4)	
29	兼任	教授	シュコウトウ 朱 浩東 <令和3年4月>		博士(社会学)		ことばと文化 中国語 101 中国語 102	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	4 4 2	2 2 1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平10.4)	
30	兼任	教授	スギヤマ ミチヤ 杉山 倫也 <令和3年4月>		修士(文学)※		教育原理 教職概論 道德教育の理論と方法(中)	1前・後 1前・後 3前・後	4 4 4	2 2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平29.4)	
31	兼任	教授	タカヒラ サユリ 高平 小百合 <令和3年4月>		Ph.D. in Human Development (米国)		教育心理学	1・2・3後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平11.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
32	兼任	教授	タニカズキ 谷 和樹 <令和5年4月>		修士(学校教育学)		現代社会の教育課題	3・4前・後	4	2	玉川大学 教育学研究科 教職専攻(教職大学院) 教授 (平20.4)	
33	兼任	教授	ツバキトシユキ 椿 敏幸 <令和3年4月>		修士(美術)		芸術概論※	1前	0.3	1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 教授 (平5.4)	
34	兼任	教授	ナカイエツコ 永井 悦子 <令和3年4月>		博士(学術)		Japan Studies Overseas A Japan Studies Overseas B Japan Studies Overseas C フィールドワークA フィールドワークB フィールドワークC 地域創生プロジェクトA 地域創生プロジェクトB 地域創生プロジェクトC 地域創生プロジェクトD 地域創生プロジェクトE 地域創生プロジェクトF	3・4後 3・4後 3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 2 4 4 4 2 2 4 4 4 6 6	1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平20.4)	
35	兼任	教授	ナカムラ カオリ 中村 香 <令和3年4月>		博士(学術)		生涯学習概論 社会教育実習 社会教育課題研究	1・2前 2・3後 2・3前	2 2 2	1 1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平22.4)	
36	兼任	教授	ニワノ ヒロエ 庭野 裕恵 <令和5年4月>		博士(医学)		病理学	3・4後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平24.4)	
37	兼任	教授	ネガミ アキラ 根上 明 <令和4年4月>		修士(知識科学)		ピアリーダー	2前・後	4	2	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 教授 (平26.4)	
38	兼任	教授	ハラタ マリ 原田 真理 <令和4年4月>		博士(保健学)		教育相談の理論と方法(中・高) 精神保健	3前 2・3・4前	2 2	1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 通信教育課程 教授 (平19.4)	
39	兼任	教授	ハラノ ケンイチ 原野 健一 <令和3年4月>		博士(農学)		生物学入門	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 学術研究所 教授 (平24.4)	
40	兼任	教授	ヒグチ マサオ 樋口 雅夫 <令和5年4月>		修士(教育学)		教育課程編成論(中・高)	3前・後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平30.4)	
41	兼任	教授	フタムラ シュウサク 二村 周作 <令和3年4月>		MA Scenography (英国)		舞台技術基礎演習※ 上演基礎実習※	1前・後 1後	0.3 3.5	2 1	株式会社二村周作アートリエ (平28.5)	
42	兼任	教授	マツダ テツヤ 松田 哲也 <令和3年4月>		博士(医学)		マクロ脳科学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 脳科学研究所 教授 (平16.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
43	兼任	教授	ミヤタセキ 宮田 成紀 <令和3年4月>		博士(工学)		物理学入門 実践の物理学	1・2・3・4前・後 2・3・4前	4 2	2 1	玉川大学 工学部 情報通信工学科 教授 (平27.4)	
44	兼任	教授	ムラヤマニナ 村山 にな <令和3年4月>		Ph.D.in Art History (米国)		美術史 博物館概論	1・2・3・4前・後 2・3前	4 2	2 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 教授 (平24.4)	
45	兼任	教授	ヤマグチ オキトモ 山口 意友 <令和3年4月>		文学修士※		教育哲学	1・2・3後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 通信教育課程 教授 (平21.4)	
46	兼任	教授	ヤマグチ ケイスケ 山口 圭介 <令和3年4月>		修士(文学)※		教職概論 道德教育の理論と方法(中)	1前・後 3前・後	4 4	2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平20.4)	
47	兼任	教授	ヤマダ ノブユキ 山田 信幸 <令和3年4月>		教育学修士		健康教育	1前	1	1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (昭62.4)	
48	兼任	教授	ユトウ サタムネ 湯藤 定宗 <令和3年4月>		修士(教育学)		教育原理 教育の制度と経営 教育課程編成論(中・高)	1前・後 1・2前・後 3前・後	4 4 4	2 2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 通信教育課程 教授 (平26.4)	
49	兼任	教授	リア スティーブ LIA Steve <令和4年4月>		Master of Applied Linguistics (TESOL) (オーストラリア)		Academic Communication Presentation Skills in English	2・3・4前 2・3・4後	2 2	1 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平13.4)	
50	兼任	教授	ワタナベ (ミチ) キョウコ 渡辺(三田) 京子 <令和3年4月>		農学博士		STEM入門(科学と社会)	1・2・3・4後	2	1	玉川大学 農学部 生産農学科 教授 (平1.4)	
51	兼任	教授	ワタナベ マサヒコ 渡邊 正彦 <令和3年4月>		文学修士※		日本文学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平5.4)	
52	兼任	教授	ヲサキ(ゴトウ) ヒロミ ワザキ(後藤) 浩実 <令和3年4月>		修士(芸術学)		上演基礎実習※ 芸術と社会 劇場接遇演習(ゲストリレーション)※	1後 2・3前・後 3前・後	3.5 4 1.9	1 2 2	公益財団法人 東京都歴史文化財団 アートカウンシル東京 企画室企画助成課 企画担当係長 (平30.5)	
53	兼任	准教授	アサヒ コウヤ 朝日 公哉 <令和3年4月>		修士(教育学)		音楽I 音楽II	1前 1後	0.7 1	1 1	玉川大学 教育学部 乳幼児発達学科 准教授 (平10.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
54	兼任	准教授	アリゲンタン シェラード 有源探 シェラード <令和3年4月>		修士(教育学)※		哲学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平20.4)	
55	兼任	准教授	イシタ マユリ 石田 万由里 <令和3年4月>		博士(経営学)		会計学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授 (平28.4)	
56	兼任	准教授	イチカワ ナオコ 市川 直子 <令和3年4月>		博士(農学)		科学入門 名著講読(自然科学)	1・2・3・4前・後 2・3・4前・後	4 2	2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平14.4)	
57	兼任	准教授	ウオサキ(フカダ) ユウコ 魚崎(福田) 祐子 <令和3年4月>		博士(人間科学)		学習・発達論 発達心理学	1・2前・後 1・2・3後	4 2	2 1	玉川大学 教育学部 教育学科 通信教育課程 准教授 (平24.9)	
58	兼任	准教授	ウノ ケイ 宇野 慶 <令和4年4月>		修士(史学)		博物館資料論 博物館実習	2・3後 3・4前・後	2 6	1 2	玉川大学 教育博物館 准教授 (平14.4)	
59	兼任	准教授	カミヤワタル 神谷 渉 <令和3年4月>		修士(国際経営)		インターンシップA インターンシップB インターンシップC インターンシップD	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	4 4 2 2	2 2 2 2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授 (平28.4)	
60	兼任	准教授	カワモト カズタカ 川本 和孝 <令和4年4月>		修士(教育学)		生涯学習支援論B 特別活動の理論と方法(中・高)	2・3前 2・3前・後	2 2	1 2	玉川大学 TAPセンター 准教授 (平14.6)	
61	兼任	准教授	キウチ マサミツ 木内 正光 <令和3年4月>		博士(工学)		経営学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授 (平31.4)	
62	兼任	准教授	コジマ(ミヤザキ) サエコ 小島(宮崎) 佐恵子 <令和3年4月>		修士(文学)※		三年次セミナー301 三年次セミナー302 社会科学アカデミックスキルズ(リーディング) 社会科学アカデミックスキルズ(ライティング) 名著講読(社会科学)	3前 3後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 2・3・4前・後	2 2 2 2 2	1 1 2 2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平25.4)	
63	兼任	准教授	ゴッタルド マルコ GOTTARDO Marco <令和3年4月>		Ph.D. (米国) Master of Philosophy (米国) Master of Arts (米国)		宗教学 世界の宗教と文化 Japanology	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 3・4前	4 2 2	2 1 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平22.4)	
64	兼任	准教授	シモムラ ヤスヒロ 下村 恭広 <令和4年4月>		修士(文学)※		二年次セミナー201 二年次セミナー202	2前 2後	2 2	1 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平17.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
65	兼任	准教授	スズキ ジュンヤ 鈴木 淳也 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		健康教育	1前	1	1	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平26.4)	
66	兼任	准教授	タカギ ヒロユキ 高城 宏行 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Education (英国)		海外留学入門	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 文学部 英語教育学科 准教授 (平30.4)	
67	兼任	准教授	タカハシ(タハナ) アイ 高橋(立花) 愛 ＜令和4年4月＞		博士(教育学)		博物館教育論	2・3後	2	1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 准教授 (平22.4)	
68	兼任	准教授	タナカ モトコ 田中 素子 ＜令和5年4月＞		Doctor of Philosophy (カナダ)		Japanese Pop Culture	3・4後	2	1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平29.4)	
69	兼任	准教授	タニワキ シゲキ 谷脇 茂樹 ＜令和3年4月＞		修士(経済学)		観光学入門	1・2・3・4前	2	1	玉川大学 観光学部 観光学科 准教授 (令2.4)	
70	兼任	准教授	タバタ シノブ 田畑 忍 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		教育の方法と技術(中・高)	1・2前・後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 通信教育課程 准教授 (平25.4)	
71	兼任	准教授	タワシントリョウ 多和田 真太良 ＜令和3年4月＞		博士(表象文化学)		芸術概論※ 上演基礎実習※ 劇場接遇演習(ゲストリレーション)※	1前 1後 3前・後	0.3 3.5 2.1	1 1 2	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 准教授 (平28.4)	
72	兼任	准教授	ニイヌマ(イケダ) トモユキ 新沼(池田) 智之 ＜令和3年4月＞		修士(文学)※		上演基礎実習※ 演劇理論 世界演劇・舞踊史I	1後 2前・後 3・4前	3.2 4 2	1 2 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 准教授 (平31.4)	
73	兼任	准教授	ハセガワ ヒデノブ 長谷川 英伸 ＜令和4年4月＞		博士(経営学)		コーオプ・プログラム	2・3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授 (平25.4)	
74	兼任	准教授	ハマダ ヒデアケ 濱田 英毅 ＜令和3年4月＞		博士(史学)		人文科学アカデミックスキルズ(ライティング) 名著講読(人文科学) 教育インターンシップB 教育インターンシップC 教育インターンシップD	1・2・3・4前・後 2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 4 2 2	2 2 2 2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平29.4)	
75	兼任	准教授	マツモト ユミ 松本 由美 ＜令和6年4月＞		修士(文学)※		教職演習B	4後	1	1	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平25.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
76	兼任	准教授	マツヤマ イワオ 松山 巖 ＜令和3年4月＞		教育学修士※		図書館概論 図書館制度・経営論 情報サービス演習B 図書館情報資源概論 情報資源組織論 情報資源組織演習A 情報資源組織演習B	1・2前 1・2前 3・4前 1・2後 2・3前 2・3後 2・3後	2 2 1 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 通信教育課程 准教授 (平13.4)	
77	兼任	准教授	ミナシマ(ナガタ) エイコ 南島(長田) 永衣子 ＜令和3年4月＞		修士(体育学)		健康スポーツ理論	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平28.4)	
78	兼任	准教授	ムライ シンジ 村井 伸二 ＜令和3年4月＞		教育学修士		野外教育 TAPファシリテーションⅠ TAPファシリテーションⅡ 生涯学習と生涯教育 社会教育経営論A	2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2後 2・3後	2 4 2 2 2	1 2 1 1 1	玉川大学 TAPセンター 准教授 (平24.4)	
79	兼任	助教	セキトモコ 関 智子 ＜令和3年4月＞		Master of Science (Experiential Education) (米国)		コミュニケーション論	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 助教 (平30.4)	
80	兼任	助教	タナカ ケイスケ 田中 圭介 ＜令和3年4月＞		修士(音楽)		演技・舞踊入門※ 演技・舞踊基礎演習 上演基礎実習※	1前 1後 1後	0.4 2 3.2	1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 助教 (平31.4)	
81	兼任	助教	ヤマダ(バトリカリス) アキ 山田(バトリカリス) 亜紀 ＜令和5年4月＞		Ph.D.in Education (米国)		Modern Japanese History Issues in Japanese Studies A	3・4前 4前	2 2	1 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 助教 (平31.4)	
82	兼任	講師	クリバヤシ アカネ 栗林 あかね ＜令和4年4月＞		修士(音楽)		音楽文化論	2前	2	1	玉川大学 教育博物館 講師 (平27.4)	
83	兼任	講師	アサイアイ 浅井 愛 ＜令和5年4月＞		修士(音楽)		楽器教育法Ⅱ(リコーダー・弦楽器)※	3・4前	1.1	1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 非常勤講師 (令2.4)	
84	兼任	講師	アサオ ケイイチロウ 浅尾 慶一郎 ＜令和3年4月＞		経営学修士 Master of Business Administration (米国)		政治学(国際政治を含む。)	1・2・3・4前・後	4	2	浅尾慶一郎事務所 代表	
85	兼任	講師	アジフ ミカ 味府 美香 ＜令和4年4月＞		修士(教育学)※ 学士(音楽)		創作教育法※ 楽器教育法Ⅰ(管・打・合奏)	2後 2後	0.4 2	1 1	東京成徳大学 准教授 (平23.4)	
86	兼任	講師	アダチ カズトシ 安達 和年 ＜令和3年4月＞		工学士		ネットワーク入門 マルチメディア表現	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	4 4	2 2	玉川大学 工学部 ソフトウェアサイエンス学科 非常勤講師 (平8.4)	
87	兼任	講師	アラ カズヨシ 荒 一能 ＜令和3年4月＞		修士(文学)		民俗学入門	1・2・3・4後	2	1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平25.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
88	兼任	講師	アラキ タマオ 荒木 玉緒 ＜令和3年4月＞		文学士		音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 非常勤講師 (平6.4)	
89	兼任	講師	アリヤマ ユミコ 有山 裕美子 ＜令和3年4月＞		修士(文化情報)		図書館サービス概論	1・2後	2	1	工学院大学 附属中学・高等学校 司書教諭 (平21.2)	
90	兼任	講師	アワタ ウララ 栗田 麗 ＜令和3年4月＞		学士(文学)		演技・舞踊入門※ 演技・舞踊基礎演習	1前 1後	0.1 2	1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 非常勤講師 (平27.4)	
91	兼任	講師	イノナミ 飯野 なみ ＜令和3年4月＞		修士(芸術学)		アンサンブルI アンサンブルII 音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B アンサンブルIII アンサンブルIV 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D アンサンブルV アンサンブルVI 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽教育法II(リコーダー・弦楽器)※ 器楽III 器楽IV アンサンブルVII アンサンブルVIII 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 3前 3後 3・4前 4前 4後 2前 2後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1.1 2 2 2 2 2 2	1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 非常勤講師 (平30.4)	
92	兼任	講師	イケダ ユミ 池田 佑美 ＜令和3年4月＞		博士(農学)		環境科学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 農学部 生産農学科 非常勤講師 (平25.4)	
93	兼任	講師	イシノ ヒロコ 石野 寛子 ＜令和3年4月＞		高校卒		アンサンブルI アンサンブルII アンサンブルIII アンサンブルIV ミュージカル表現I ミュージカル表現II アンサンブルV アンサンブルVI 上演実習A 上演実習B アンサンブルVII アンサンブルVIII 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B	1前 1後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 4 4 2 2 4 4 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	有限会社クローズ パレエ講師 (平31.10)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
94	兼任	講師	イシバシマイ 石橋 舞 ＜令和3年4月＞		学士(芸術)		舞台技術基礎演習※ 上演基礎実習※	1前・後 1後	1.3 3.2	2 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平23.4)	
95	兼任	講師	イチバトシユキ 市場 俊之 ＜令和4年4月＞		Doktor der Sozialwissenschaften (ドイツ)		スポーツ史	2・3・4後	2	1	中央大学商学部 教授 (平5.4)	
96	兼任	講師	イトウアミカ 伊藤 あみか ＜令和3年4月＞		学士(音楽)		アンサンブルI アンサンブルII アンサンブルIII アンサンブルIV アンサンブルV アンサンブルVI アンサンブルVII アンサンブルVIII	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平30.11)	
97	兼任	講師	ウラコウキ 浦 弘毅 ＜令和3年4月＞		高校卒		演技・舞踊入門※ 舞台技術基礎演習※ オーディション演習※	1前 1前・後 3前・後	0.3 1.3 1.3	1 2 2	ステージワークURAK 代表取締役社長 (平27.11)	
98	兼任	講師	エトウケイヤ 江藤 圭也 ＜令和3年4月＞		修士(経済学)※		経済学(国際経済を含む。)	1・2・3・4前	2	1	玉川大学 経営学部 国際経営学科 非常勤講師 (平19.4)	
99	兼任	講師	エントウシュウイチロウ 遠藤 将一郎 ＜令和3年4月＞		学士(音楽) 学士(文学)		アンサンブルI アンサンブルII 音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B アンサンブルIII アンサンブルIV 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D アンサンブルV アンサンブルVI 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV アンサンブルVII アンサンブルVIII 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後 4前 4後	2 2	1 1	公益財団法人 東京フィルハーモニー 交響楽団 コントラバス奏者 (平8.9)	
100	兼任	講師	オオカワタカコ 大川 孝子 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性	1・2前 3・4前 2・3後	2 2 2	1 1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平27.4)	
101	兼任	講師	オオクボユウキ 大久保 悠貴 ＜令和3年4月＞		修士(法学)※		市民社会と法	1・2・3・4後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (令2.4)	
102	兼任	講師	オオサキコウジ 大崎 恒次 ＜令和3年4月＞		博士(経営学)		マーケティング	1・2・3・4前・後	4	2	専修大学商学部 准教授	

調査 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
109	兼任	講師	オサノミホ 小佐野 実穂 <令和3年4月>		修士(音楽)		器楽基礎A 器楽基礎B 鍵盤楽器基礎 器楽基礎C 器楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 伴奏法 器楽III 器楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1・2前 1・2後 1前 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 3・4前 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 非常勤講師 (平30.4)	
110	兼任	講師	カカタ ヒロコ 加形 裕子 <令和3年4月>		修士(芸術情報)		音楽専門実技I 音楽専門実技II 声楽基礎A 声楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 声楽基礎C 声楽基礎D 第九演奏表現B 演奏・創作I 演奏・創作II 声楽I 声楽II 声楽III 声楽IV 第九演奏表現C 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2前 2後 2後 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	つくだ音楽教室 主宰(声楽講師) (平24.9)	
111	兼任	講師	カサマ カツヤ 風間 克彌 <令和3年4月>		文学士		音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平14.4)	
112	兼任	講師	カツキ ケイスケ 香月 圭佑 <令和3年4月>		修士(音楽) 学士(文学)		アンサンブルI アンサンブルII 音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B アンサンブルIII アンサンブルIV 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D アンサンブルV アンサンブルVI 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV アンサンブルVII アンサンブルVIII 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後 4前 4後	2 2	1 1	東京シティ・フィルハーモニック 次席チェロ奏者 (フォアジューラー) (平26.8)	
113	兼任	講師	カツマタ ノブユキ 勝又 暢之 <令和3年4月>		博士(学術)		環境教育	1・2・3・4前・後	4	2	公益財団法人 平岡環境科学研究所 援助研究員	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
114	兼任	講師	カウヒデアキ 加藤 英明 <令和3年4月>		工学士		情報倫理と社会	1・2・3・4前	2	1	玉川大学 工学部 情報通信工学科 非常勤講師 (平25.4)	
115	兼任	講師	カウヒデアキ 加藤 秀雄 <令和3年4月>		修士(文学)※		文化人類学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平31.4)	
116	兼任	講師	カネコヒロシ 金子 宏 <令和3年4月>		文学士		音楽専門実技I 音楽専門実技II 声楽基礎A 声楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 声楽基礎C 声楽基礎D 第九演奏表現B 演奏・創作I 演奏・創作II 声楽I 声楽II 声楽III 声楽IV 第九演奏表現C 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2前 2後 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平31.4)	
117	兼任	講師	カワサキトシハル 川崎 敏治 <令和3年4月>		博士(理学)		統計学入門	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 非常勤講師 (平24.4)	
118	兼任	講師	キウチマサト 木内 真人 <令和4年4月>		(論)博士(理学)		地球科学 宇宙科学	2・3・4前・後 2・3・4前・後	4 4	2 2	玉川大学 工学部 エンジニアリングデザイン学科 非常勤講師 (平31.4)	
119	兼任	講師	キクチトモコ 菊地 智子 <令和3年4月>		修士(音楽)		ソルフェージュI ソルフェージュII アンサンブルI アンサンブルII 音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B アンサンブルIII アンサンブルIV 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D アンサンブルV アンサンブルVI 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV アンサンブルVII アンサンブルVIII 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1・2前 1・2後 1前 1後 1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後 4前 4後 4前 4後	2 2	1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平20.4)	
120	兼任	講師	キンタシン 岸田 真 <令和3年4月>		文学修士		演劇史 世界演劇・舞踊史II	1・2・3・4前・後 3・4後	4 2	2 1	桜美林大学 芸術文化学群 教授 (平17.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
121	兼任	講師	キタオカ タマコ 北岡 タマ子 <令和4年4月>		修士(コミュニティ振興学) 学士(教養)		博物館情報・メディア論	2・3後	2	1	お茶の水女子大学 リエゾン・URAセンター リサーチ・アドミニストレーター (平22.6)	
122	兼任	講師	キヌガワ ユリ 絹川 友梨 <令和3年4月>		修士(学際情報学) Masters of Art (ニュージーランド)		演技・舞踊基礎演習	1後	2	1	インプロワークス株式会社 代表取締役 (平21.9)	
123	兼任	講師	キムラミネコ 木村 美音子 <令和3年4月>		音楽学士		アンサンブルI アンサンブルII アンサンブルIII アンサンブルIV 歌唱教育法(合唱) アンサンブルV アンサンブルVI アンサンブルVII アンサンブルVIII	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平21.4)	
124	兼任	講師	キンダイチ ヨシアキ 金田一 賢顕 <令和5年4月>		修士(教育学) 学士(哲学)		教育相談の理論と方法(中・高)	3前	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平28.4)	
125	兼任	講師	クスハラ タツヤ 楠原 竜也 <令和3年4月>		修士(教育学)		演技・舞踊基礎演習 上演基礎実習※ オーディション演習※	1後 1後 3前・後	2 3.2 1.6	1 1 2	現代舞踊 (コンテンポラリーダンサー) 演劇 (フィジカルシアター) (平12.4)	
126	兼任	講師	クウケンイチ 工藤 健一 <令和3年4月>		修士(文学)※		歴史(日本)	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 非常勤講師 (平17.4)	
127	兼任	講師	クボタ アヤカ 久保田 彩佳 <令和3年4月>		学士(音楽)		アンサンブルI アンサンブルII アンサンブルIII アンサンブルIV ミュージカル表現I ミュージカル表現II アンサンブルV アンサンブルVI 上演実習A 上演実習B アンサンブルVII アンサンブルVIII 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B	1前 1後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 4 4 2 2 4 4 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平30.4)	
128	兼任	講師	コスマ アキオ 小沼 明生 <令和3年4月>		博士(史学)		人文科学アカデミックスキルズ(リーディング) 自然科学アカデミックスキルズ(リーディング) 自然科学アカデミックスキルズ(ライティング)	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 2	2 2 2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 非常勤講師 (平24.4)	
129	兼任	講師	コバヤシ フミコ 小林 史子 <令和4年4月>		学士(音楽)		音楽科指導法I 音楽科指導法II 音楽科指導法III 音楽科指導法IV 教職実践演習(中・高)	2前 2後 3前 3後 4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 非常勤講師 (令2.4)	
130	兼任	講師	コバヤシ マサユキ 小林 正幸 <令和3年4月>		修士(社会学)※		社会学 マスメディアと社会 現代文化論	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 2・3・4前	4 4 2	2 2 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平17.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
131	兼任	講師	コハルアキエ 小原 明恵 <令和3年4月>		修士(学術) 学士(教育学)		教育社会学	1・2・3後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平30.4)	
132	兼任	講師	コネ マツタロウ 小峰 松太郎 <令和3年4月>		学士(音楽)		音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	銀河管弦楽団 団員 (平16.10)	
133	兼任	講師	コンノ テツヤ 今野 哲也 <令和3年4月>		博士(音楽) 経済学士		音楽理論 和声学I 和声学II 対位法 楽式論 作曲法I 作曲法II	1前・後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	4 2 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 非常勤講師 (平28.10)	
134	兼任	講師	サイトウトモコ 齊藤 智子 <令和3年4月>		修士(音楽)		アンサンブルI アンサンブルII 音楽専門実技I 音楽専門実技II 声楽基礎A 声楽基礎B アンサンブルIII アンサンブルIV 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 声楽基礎C 声楽基礎D ミュージカル表現I ミュージカル表現II アンサンブルV アンサンブルVI 演奏・創作I 演奏・創作II 声楽I 声楽II 声楽III 声楽IV アンサンブルVII アンサンブルVIII 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後 4前 4後	2 2	1 1	(株)アーツ齊藤 取締役 (平26.4)	
135	兼任	講師	サイトウヤスリ 齋藤 泰則 <令和3年4月>		教育学修士※		学校図書館メディアの構成 児童サービス論 情報サービス演習A 図書・図書館史	1・2前 1・2後 3・4前 1・2前	2 2 1 1	1 1 1 1	明治大学 教授 (平17.4)	
136	兼任	講師	サウヤスト 佐藤 恭仁 <令和3年4月>		修士(化学)		プレゼンテーションスキル	1・2・3・4後	2	1	株式会社ドラボケ 代表取締役 (平17.12)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
137	兼任	講師	サトウユキ 佐藤 雄紀 <令和3年4月>		修士(教育学)		器楽基礎A 器楽基礎B 鍵盤楽器基礎 器楽基礎C 器楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1・2前 1・2後 1前 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	信州豊南短期大学 助教 (平28.4)	
138	兼任	講師	シノダ カオル 篠田 薫 <令和3年4月>		準学士		上演基礎実習※	1後	3.2	1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平21.9)	
139	兼任	講師	シバタ トオル 柴田 徹 <令和3年4月>		修士(教育学)※		情報メディアの活用	1・2前・後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平28.4)	
140	兼任	講師	シマダ ヒロシ 島田 啓司 <令和3年4月>		文学士		演技・舞踊入門※ 演技・舞踊基礎演習 オーディション演習※	1前 1後 3前・後	0.3 2 1.6	1 1 2	劇団S.W.A.T! 主宰 (昭58.11)	
141	兼任	講師	ショールツ ジェフリー Schultz Jeffrey <令和3年4月>		M.S.E.d. in TESOL (米国)		ELF 301 ELF 302	1・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後	8 8	2 2	玉川大学 ELFセンター 非常勤講師 (平27.4)	
142	兼任	講師	シロセ ミサキ 白勢 美咲 <令和3年4月>		Post-Master's Advanced Certificate Program in TESOL (米国)		ELF 101	1・2・3・4前・後	16	4	玉川大学 ELFセンター 非常勤講師 (平27.9)	
143	兼任	講師	スキサキ イズミ 杉崎 泉 <令和3年4月>		学士(文学)		演技・舞踊入門※ 演技・舞踊基礎演習 上演基礎実習※	1前 1後 1後	0.3 2 3.2	1 1 1	鳳蘭レビューアカデミー パレエ講師 (平20.11)	
144	兼任	講師	スミシゲキ 角 茂樹 <令和4年4月>		Diploma for Social Studies (英国)		East Asian History 国際関係論	4前 2・3・4前・後	2 4	1 2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 客員教授(非常勤) (令1.9)	
145	兼任	講師	タカヤナギ カツヒロ 高柳 克弘 <令和3年4月>		修士(文学)※		日本語表現 101 日本語表現 102	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	4 2	2 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平28.4)	
146	兼任	講師	タケダ トモヤ 武田 知也 <令和3年4月>		学士(文学)		上演基礎実習※	1後	3.2	1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平31.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
147	兼任	講師	タニガワ マユコ 谷川 マユコ <令和3年4月>		教育学修士		音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平23.4)	
148	兼任	講師	タニクチ アヤ 谷口 綾 <令和3年4月>		学士(芸術)		舞台技術基礎演習※ 上演基礎実習※	1前・後 1後	1.3 3.2	2 1	二村周作アトリエ 舞台美術家助手 (平21.4)	
149	兼任	講師	タマガワ サヤカ 玉川 さやか <令和3年4月>		M.A. (英国)		演技・舞踊入門※	1前	0.1	1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平17.4)	
150	兼任	講師	チハ ヨシヒロ 千葉 吉裕 <令和5年4月>		理学修士		生徒・進路指導の理論と方法(中・高)	3前・後	4	2	玉川大学 教職課程支援室 非常勤講師 (平30.4)	
151	兼任	講師	ツジ ヒロヒサ 辻 裕久 <令和3年4月>		Diploma of Advanced Studies with Merit (英国)		音楽専門実技I 音楽専門実技II 声楽基礎A 声楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 声楽基礎C 声楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 声楽I 声楽II 声楽III 声楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 非常勤講師 (平30.4)	
152	兼任	講師	ツシマ ケイスケ 津島 圭佑 <令和3年4月>		修士(音楽)		ソルフェージュI ソルフェージュII アンサンブルI アンサンブルII 音楽専門実技I 音楽専門実技II アンサンブルIII アンサンブルIV 音楽専門実技III 音楽専門実技IV ミュージカル表現I ミュージカル表現II 演奏・創作I 演奏・創作II 上演実習A 上演実習B 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B	1・2前 1・2後 1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平29.4)	
153	兼任	講師	ツツイ ハルカ 筒井 晴香 <令和3年4月>		博士(学術)		ロジック	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平27.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
154	兼任	講師	ツネオカ アキコ 常岡 亜希子 <令和3年4月>		M.A. in TESOL (米国)		英語学	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平16.4)	
155	兼任	講師	トミザワ ミチコ 富澤 美千子 <令和4年4月>		修士(人間科学)		総合的な学習の時間の理論と方法(中・高) 特別活動の理論と方法(中・高)	2・3前・後 2・3前・後	2 2	2 2	横浜美術大学 教授 (平29.4)	
156	兼任	講師	ナガイタカヒロ 永井 崇多宏 <令和3年4月>		修士(芸術学)		アンサンブルI アンサンブルII アンサンブルIII アンサンブルIV ミュージカル表現I ミュージカル表現II アンサンブルV アンサンブルVI 上演実習A 上演実習B アンサンブルVII アンサンブルVIII 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B	1前 1後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 4 4 2 2 4 4 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京合唱協会 正団員 (平20)	
157	兼任	講師	ナガイタカミ 永井 匠 <令和3年4月>		修士(文学)※		歴史(世界)	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平30.9)	
158	兼任	講師	ナガエ キヨカス 長江 清和 <令和4年4月>		修士(教育学)		特別支援教育	2・3前・後	2	2	埼玉大学 教育学部附属 教育実践総合センター 教授 (平28.4)	
159	兼任	講師	ナカタトモヒロ 中田 知宏 <令和3年4月>		博士(芸術学)		アンサンブルI アンサンブルII 音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B 第九演奏表現A 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D 第九演奏表現B 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV 第九演奏表現C 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1前 1後 1・2前 1・2後 2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4後 4前 4後 4後	2 2	1 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 非常勤講師 (平30.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
160	兼任	講師	ナカムラヒロミ 中村 裕美 <令和3年4月>		学士(音楽) 学士(文学)		音楽専門実技I 音楽専門実技II 声楽基礎A 声楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 声楽基礎C 声楽基礎D 第九演奏表現B 演奏・創作I 演奏・創作II 声楽I 声楽II 声楽III 声楽IV 第九演奏表現C 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2前 2後 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 非常勤講師 (平17.4)	
161	兼任	講師	ニシクボトモヒロ 西久保 友広 <令和3年4月>		修士(音楽)		アンサンブルI アンサンブルII 音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B アンサンブルIII アンサンブルIV 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D アンサンブルV アンサンブルVI 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV アンサンブルVII アンサンブルVIII 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後 4前 4後	2 2	1 1	(財)読売日本交響楽団 楽団員 (平21.5)	
162	兼任	講師	ニシユキコ 西 由起子 <令和3年4月>		修士(芸術学)		音楽専門実技I 音楽専門実技II 声楽基礎A 声楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 声楽基礎C 声楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 声楽I 声楽II 声楽III 声楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 非常勤講師 (平27.4)	
163	兼任	講師	ニシヤマ ヨシタカ 西山 由隆 <令和3年4月>		博士(生物産業学)		化学入門	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 農学部 先端食農学科 非常勤講師 (平21.4)	
164	兼任	講師	ハギユミコ 萩 裕美子 <令和5年4月>		博士(保健学) 教育学士 栄養学士		栄養学	3・4前	2	1	東海大学 体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科 教授 (平21.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
165	兼任	講師	ハタナカマリ 畑中 真理 ＜令和3年4月＞		芸術修士		音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平18.4)	
166	兼任	講師	ババノヴァ イリーナ Babanova Irina Ognyanova ＜令和3年4月＞		MA and Ph.D. Joint Degree (米国)		ELF 201 ELF 202	1・2・3・4前・後 1後・2・3・4前・後	8 8	2 2	玉川大学 ELFセンター 非常勤講師 (平28.4)	
167	兼任	講師	ハヤシ キョウヘイ 林 京平 ＜令和3年4月＞		修士(音楽)		ソルフェージュI ソルフェージュII アンサンブルI アンサンブルII 音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1・2前 1・2後 1前 1後 1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平27.9)	
168	兼任	講師	ヒタ ユウイチロウ 樋田 有一郎 ＜令和3年4月＞		修士(社会学)		教育社会学	1・2・3後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平29.10)	
169	兼任	講師	ヒナタ ヨシカズ 日向 良和 ＜令和3年4月＞		修士(図書館・情報学)		図書館情報技術論 情報サービス論 図書館情報資源特論 図書館施設論	1・2後 1・2後 1・2前 1・2後	2 2 1 1	1 1 1 1	都留文科大学 情報センター 准教授 (平22.4)	
170	兼任	講師	フクイ マサヨシ 福井 正仁 ＜令和5年4月＞		文学士		教職演習A	3後・4前	2	2	玉川大学 教職課程支援室 客員教授(非常勤) (平30.4)	
171	兼任	講師	フジイ サユリ 藤井 さゆり ＜令和3年4月＞		修士(工学)		上演基礎実習※	1後	3.2	1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平30.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
172	兼任	講師	フシタ マヨリ 藤田 真頼 <令和3年4月>		高校卒		音楽専門実技I 音楽専門実技II 器楽基礎A 器楽基礎B 音楽専門実技III 音楽専門実技IV 器楽基礎C 器楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1前 1後 1・2前 1・2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	昭和音楽大学 准教授	
173	兼任	講師	フシムラ タカヤ 藤村 拓也 <令和4年4月>		修士(文学)※ 修士(教育学)		博物館展示論	2・3前	2	1	町田市立国際版画美術館 主事(学芸員) (平24.10)	
174	兼任	講師	フタミ ヒデユキ 二見 英幸 <令和3年4月>		専門学校卒		舞台技術基礎演習※ 上演基礎実習※	1前・後 1後	1.3 3.2	2 1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平23.4)	
175	兼任	講師	マエダ サトシ 前田 悟志 <令和6年4月>		博士(社会学)		Issues in Japanese Studies B	4後	2	1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平31.4)	
176	兼任	講師	マスマト ナオフミ 舩本 直文 <令和3年4月>		博士(体育科学)		オリンピック文化論	1・2・3・4前・後	4	2	東京都立大学 客員教授 (昭56.4)	
177	兼任	講師	ミツハシ ケイスケ 三橋 圭介 <令和5年4月>		芸術修士		現代音楽史	3・4前	2	1	玉川大学 芸術学部 パフォーマンス・アーツ学科 非常勤講師 (平18.4)	
178	兼任	講師	ミヤザワ ヨシオミ 宮澤 義臣 <令和3年4月>		文学修士		ドイツ語 101 ドイツ語 102	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	4 2	2 1	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平4.4)	
179	兼任	講師	ミヤナガ ノゾミ 宮永 望 <令和3年4月>		修士(理学)※		数学入門 解析学入門 代数学入門	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	4 4 4	2 2 2	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 非常勤講師 (平17.4)	
180	兼任	講師	ミウカ ミチコ 若荷 美知子 <令和3年4月>		商学士		情報科学入門 データ処理	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	4 4	2 2	玉川大学 工学部 ソフトウェアサイエンス学科 非常勤講師 (平15.4)	
181	兼任	講師	メグロ ユリエ 目黒 ゆりえ <令和3年4月>		修士(フランス文学)		比較文化論 外国文学 フランス語 101 フランス語 102	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	4 4 4 2	2 2 2 1	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平7.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職 位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年 齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
182	兼任	講師	モテギ テルヲ 茂木 輝順 <令和4年4月>		博士(保健学)		生命と性の教育	2・3・4後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平30.4)	
183	兼任	講師	モリナガ ミホ 森永 美穂子 <令和3年4月>		修士(音楽)		音楽基礎A 音楽基礎B 鍵盤楽器基礎 音楽基礎C 音楽基礎D 演奏・創作I 演奏・創作II 器楽I 器楽II 器楽III 器楽IV 演奏・創作III 卒業演奏・卒業創作	1・2前 1・2後 1前 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 非常勤講師 (平29.4)	
184	兼任	講師	ヤカサキ トモキ 矢ヶ崎 朋樹 <令和3年4月>		博士(環境学)		環境教育ワークショップI 環境教育ワークショップII	1・2・3・4後 2・3・4前	2 2	1 1	公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センター 主任研究員 (平19.4)	
185	兼任	講師	ヤマシナ ナオコ 山科 直子 <令和4年4月>		Doctor in Philosophy (英国)		科学史 科学技術社会論	2・3・4後 2・3・4後	2 2	1 1	筑波大学広報室 教授	
186	兼任	講師	ヤマダ トモコ 山田 朋子 <令和3年4月>		修士(教育学)※		教育の制度と経営	1・2前・後	4	2	女子美術大学 短期大学部 教授 (平12.4)	
187	兼任	講師	ヤマモト ヒロシ 山本 浩史 <令和3年4月>		修士(言語学)		スペイン語 101 スペイン語 102	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後	4 2	2 1	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平31.4)	
188	兼任	講師	ヨコヤマ キヨタカ 横山 清崇 <令和3年4月>		学士(文学)		アンサンブルI アンサンブルII アンサンブルIII アンサンブルIV ミュージカル表現I ミュージカル表現II アンサンブルV アンサンブルVI 上演実習A 上演実習B アンサンブルVII アンサンブルVIII 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B	1前 1後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 4 4 2 2 4 4 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	滋慶学園 東京放送芸術・映画俳優 専門学校 非常勤講師 (平25.4)	
189	兼任	講師	ヨシタケ ミツオ 吉武 光雄 <令和3年4月>		修士(哲学)※		倫理学	1・2・3・4後	2	1	玉川大学 学術研究所 非常勤講師 (平24.9)	
190	兼任	講師	ヨシミ エリ 吉見 江利 <令和3年4月>		修士(人文科学)		ボランティア概論 生涯学習支援論A	1・2・3・4後 2・3後	2 2	1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平31.4)	
191	兼任	講師	ラーソントリュー LARSON Drew <令和3年4月>		M.A. in Theatre Arts (米国)		ELF 401 ELF 402	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	8 8	2 2	玉川大学 ELFセンター 非常勤講師 (平30.4)	

調査 番号	専任等 区 分	職位	フリガナ 氏 名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり平 均日数
192	兼任	講師	リーケンショウ 李 原翔 <令和4年4月>		博士(教育学) 学士(理学)		異文化理解と教育	2・3・4前	2	1	東京大学 グローバル・キャンパス推進本部 国際化教育支援室 留学生支援室 特任専門職員	
193	兼任	講師	ワタナベ タエコ 渡辺 多恵子 <令和4年4月>		博士(看護科学)		生命と性の教育	2・3・4後	2	1	淑徳大学 教授 (平30.4)	

別記様式第3号（その3）

専任教員の年齢構成・学位保有状況 (芸術学部 音楽学科)										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	修 士	人	人	人	人	3 人	1 人	人	4 人	
	学 士	人	人	人	人	1 人	人	人	1 人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
准教授	博 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	修 士	人	人	人	1 人	1 人	人	人	2 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
合 計	博 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	修 士	0 人	0 人	0 人	1 人	4 人	1 人	0 人	6 人	
	学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	1 人	
	短期大 学 士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	その他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	